資料第三十三編

支那羊毛

南滿洲鐵道株式會社
臨時經濟調査委員會

凡例

一、本編は昭和三年二月より昭和四年五月に亙り、滿蒙主要市場及び天津張家口につき調査したる羊毛事情、竝に本年二月日本に於ける支那羊毛に關係ある毛織業につき調査せる報告書である。但し支那に於ける羊毛加工方面につきては編を別にして報告の積りである。

一、奥地に於ける羊毛其他の移動集散狀態調査の爲昭和三年四月以降、天津、張家口、錦州、奉天、鄭家屯、洮南、通遼、開魯、赤峰、林西、海拉爾、滿洲里等 主要關係諸地より毎月一回商況を徵す。之に對し援助を與へられたる張家口領事山崎誠一郎氏、天津の藏重任一氏、錦州の山西長間氏及び中山孫一氏、奉天の河内山寛二氏及び安藤豐一氏鄭家屯及び洮南の兩滿鐵公所長、殊に鄭家屯公所長は其關係奥地々方の商況蒐集に盡力せらる、以上諸氏に對して深く感謝す、尙人を得ざりし爲右調査を完成する事能はざりし市場ありしは實に遺憾である。

一、本調査に際し、天津茂記洋行の紀田寛作氏、天津三井洋行の齋藤藤作氏、東京華羊社の荒岡清氏等の指導垂示に負ふ處多し、其他調査に際し多大の援助を與へられたる内外の羊毛取引業者、毛織業者等の權威者各位に對し深厚なる敬意を表す。

一、今回現地調査をなすことを得ざりし地方に就きては既存の諸資料による。

一、通貨は主として現大洋による、現大洋一元は金一圓とす。

一、本調査に際し參考に供したる資料は、井島重保氏著 羊毛の研究と本邦羊毛工業、岸武八氏調査 本邦毛紡織業の近況、青島守備軍司令部調査 綿羊及山羊、久重福三郎著 支那の羊毛に就て、露亞經濟調査叢書 外蒙共和國、蒙

臨時經濟調査委員會刊行資料目錄

第一編　滿蒙に於ける荷馬車
第二編　滿鐵各箇所使役華工調査（其一）
秘　第二編　同　上　（其二）
第三編　丸粕試驗輸出報告　歐洲に於ける滿洲大豆工業の現況
第四編　滿洲大豆品質等級に關する調査
第五編　經濟上より觀たる滿蒙の道路
秘　第六編　吉林省森林伐採に關する法律關係
秘　第七編　哈爾濱敦化間鐵道豫定線路踏査報告
第八編　大連と密接の貿易關係を有する各港灣諸掛便覽
第九編　在滿法人現狀調査要覽
第十編　吉敦沿線水田候補地調査報告
第十一編　帝國植民地課税一覽
秘　第十二編　滿鮮國境横斷鐵道と終端港
第十三編　吉林省に於ける土地整理に關する法律
第十四編　日本内地に於ける家畜飼料の需給
第十五編　滿洲に於ける鐵鋼需要調査
第十六編　支那毛皮
秘　第十七編　松花江の水運
第十八編　太子河の流勢と洪水記錄
秘　第十九編　沙河口工場に於ける日華兩工の能力比較
第二十編　本邦及朝鮮に於ける無煙炭の需給竝滿洲産無煙炭に關する調査
第二十一編　滿蒙に於ける燃料需要調査報告
第二十二編　高粱稈蒐集調査報告
秘　第二十三編　滿洲に於ける外商の勢力
第二十四編　滿蒙牛日本輸出に關する調査
第二十五編　黑龍江省植民に關する省單行土地法令
極秘　第二十六編
第二十七編　滿洲主要都市木材需給狀況
第二十八編　日本内地に於ける撫順炭及本邦炭に關する調査
第二十九編　撫順粉炭竝に微粉炭の利用法に就て
第三十編　混保大豆規格調査
第三十一編　大豆に關する調査報告
秘　第三十二編　田師付炭の販路考察竝に需要豫想
第三十三編　支那羊毛

支那羊毛

目次

緒言……一
第一章 羊……三
第一節 支那の羊種……三
第二節 羊の飼養管理……七
一 遊牧地帯に於ける牧羊……七
二 農耕地帯に於ける牧羊……八
第三節 支那に於ける羊の頭數……一〇
一 羊の飼養頭數……一〇
二 羊の飼養頭數の増減……一三
第四節 支那に於ける羊種改良事業……一四
一 支那政府の羊種改良事業……一五

古調査報告書(第一班)、同文會 支那省別全誌、公主嶺農事試驗場調査 南滿洲の牧羊、F. H. Bowman; The Structure of the Wool Fibre. Howard Preistman; Principles of Wool Combing. Aldred F. Barker; Woollen and Worsted Spinning. John Bruce Mcpherson; Annual Wool Review 1927. The World's Wool 1928 Wool Year Book 1929. 雜誌 The Wool Record and Textile World. 其他參考の資料は各引用の箇所に明記したり。

一、調査擔當者は職員三田了一なり。

臨時經濟調査委員會

昭和五年五月

一 產額……三三
二 收毛量……三八
第二節 剪毛時季及剪毛方法……三八
一 剪毛時季……三八
二 剪毛方法……三九
第三節 羊毛の種類……四〇
一 概說……四〇
二 套毛……四三
イ 西寧套毛……四四
ロ 沖西寧毛……四四
ハ 西路套毛……四四
ニ 楡林套毛……四六
ホ 錦州套毛……四六
ヘ 蒙古套毛……四七
ト 寒羊毛……四七
三 抓毛……四八

イ　中央政府……一五
ロ　奉天省……一六
ハ　陝西省……一六
ニ　山西省……一七
二　滿鐵の羊種改良事業……二一
イ　公主嶺農事試驗場に於ける緬羊改良試驗成績……二一
ロ　羊種改良事業現況……二七
三　其他……二八
イ　海拉爾英國食料品輸出會社の飼養成績……二八
ロ　滿洲里ガアニン商會の飼養成績……二九
ハ　仁記洋行の飼養成績……三〇
五　羊種改良事業の將來……三〇
イ　試驗の結果……三〇
ロ　改良羊種普及と牧羊業者との關係……三一
第二章　羊毛……三三
第一節　支那に於ける羊毛……三三

二　長　さ……五三
三　鱗と捲縮……五五
四　强度彈力及び伸度……五八
イ　强　度……五八
ロ　彈　力……五八
ハ　伸　度……五八
五　光澤色彩及び脂肪……五九
イ　光　澤……五九
ロ　色　彩……六〇
ハ　脂　肪……六〇
六　水　分……六一
七　粗毛及び死毛……六三
イ　粗　毛……六三
ロ　死　毛……六四
八　夾雜物……六五
第五節　羊毛の鑑定方法……六五

イ 豐字抓毛……四八
ロ 城字抓毛……四九
ハ 包字抓毛……四九
ニ 東口抓毛……四九
四 散抓毛……四九
イ 交城散抓毛……五〇
ロ 壽陽散抓毛……五〇
ハ 蔚州散抓毛……五〇
ニ 周村散抓毛……五〇
ホ 順德散抓毛……五一
五 秋毛……五一
第四節 羊毛の品質……五一
一 羊毛の構造……五一
イ 憐狀部……五二
ロ 楕圓形細胞部……五三
ハ 小纖維部……五三

Skin wool
Ball wool

ロ　一九二八年……七六
ハ　一九二九年……七七
三　地方市場に於ける羊毛相場……七九
イ　出廻季による變動……八〇
ロ　地方に於ける需給關係による變動……八〇
ハ　運賃諸掛の增減による變動……八〇
第三章　羊毛の運輸及び集散事情……八三
第一節　集散地及び集散徑路……八三
第二節　奥地に於ける運輸機關……八四
一　牛　車……八四
二　駝　車……八五
三　大　車……八五
四　駄　子……八六
イ　駱駄子……八六
ロ　騾駄子……八七
ハ　驢駄子……八七

第六節　支那羊毛の缺點……六七
一　ソーチング缺如及び格付の不備……六七
二　輸出數量の不定……六八
三　步留りの不定……六八
四　粗毛及死毛多きこと……六八
第七節　支那羊毛の用途……六九
一　メルトン……六九
二　スコッチ……七〇
三　ホームスパン……七一
四　毛布……七一
五　絨通……七一
第八節　支那羊毛の相場竝に其變動事情……七二
一　概説……七二
二　天津市場に於ける相場……七三
イ　一九二七年……七五

第五節　東部蒙古に於ける羊毛移動狀態……一〇一
第六節　西部支那に於ける羊毛運輸事情……一〇三
一　概　説……一〇三
二　寧夏及び其背後地……一〇四
三　石嘴子の隆昌と寧夏……一〇五
四　黄河に於ける羊毛運送……一〇六
イ　皮　筏……一〇六
ロ　皮筏の構造……一〇七
ハ　民　船……一〇八
ニ　小蒸汽船……一〇九
ホ　航行日數と運賃……一〇九
第七節　鐵道輸送と轉運業……一一一
一　鐵道輸送……一一一
二　轉　運　棧……一一一
イ　貨物引受積込……一一二
ロ　運　送……一一三

ニ　牛、犁牛馱子……八七
第三節　羊毛荷造方法……八八
第四節　滿洲及び蒙古方面に於ける羊毛運送事情……九〇
一　蒙古に於ける運賃の變動事情……九〇
イ　距離の遠近……九一
ロ　道路の狀態……九一
ハ　車馬の需給狀態……九二
ニ　治安狀態……九二
ホ　物價の騰落貨幣相場の如何……九三
ヘ　荷物の種類……九三
ト　返荷の有無……九三
二　運賃諸掛……九四
三　諸稅……九八
イ　東部蒙古方面……九九
ロ　京綏線方面……一〇〇
ハ　東支線方面……一〇〇

一 取扱商……一二四
イ 外莊……一二四
ロ 歇家……一二四
ハ 毛販子……一二四
ニ 跑合兒……一二五
ホ 毛棧……一二五
二 取引方法……一二五
三 代金決濟方法……一二六
第三節 天津に於ける羊毛取引事情……一二七
一 取扱商……一二七
イ 外客……一二七
ロ 買辦……一二八
ハ 外莊……一三一
ニ 跑合兒……一三一
ホ 貨棧……一三三
A 概記……一三三

ハ 荷物の到著、運賃の支拂ひ……一一三
第八節 三聯單……一一四
第九節 羊毛出廻狀態……一一六
一 概說……一一六
二 出廻季……一一八
三 出廻り數量……一一九
第四章 羊毛取引事情……一二〇
第一節 原產地に於ける羊毛取引事情……一二〇
一 出撥子……一二〇
二 幹毬的……一二一
三 毛販子……一二二
イ 現金にて買付をなす場合……一二二
ロ 契約により買付をなす場合……一二三
ハ 票により買付をなす場合……一二三
第二節 地方集散市場に於ける羊毛取引事情……一二三

一八 代金の決濟……一四五
第五章　羊毛輸出事情……一四七
第一節　羊毛輸出沿革……一四七
第二節　羊毛輸出商……一四九
第三節　主要輸出商の羊毛取扱數量……一五四
第四節　羊毛輸出施設……一五八
一　梱包……一五八
イ　天津の梱包業者其設備及び其設備……一五八
ロ　料金……一六〇
ハ　梱包方法……一六二
二　洗滌……一六三
イ　洗毛の施設及び其方法……一六四
ロ　設備……一六五
ハ　羊毛洗滌をなす利害得失……一六七
三　去塵……一六九

B 營業……一三四
(1) 外客の宿泊……一三四
(2) 倉庫……一三五
(3) 金融……一三五
(4) 買賣の仲介……一三五
C 資本金……一三六
D 從事員……一三六
E 利益配當……一三八
F 收支情況……一三九
G 滿洲に於ける貨棧の慣習……一四〇
H 新式貨棧……一四一
I 邦商貨棧經營成績……一四二
ヘ 棧房……一四二
ト 客棧……一四三
ニ 羊毛取引方法及び商慣習……一四三
イ 見本の提示……一四四
ロ 受渡し……一四四

二　羊毛出廻り數量……一八五
三　羊毛取扱商……一八五
イ　毛　棧……一八五
ロ　毛　販　子……一八六
四　金融及び度量衡……一八六
イ　度　量　衡……一八六
ロ　票　期……一八七
第二節　歸　化　城……一八八
一　沿　革……一八八
二　羊毛出廻狀態……一八八
三　羊毛取扱商取引慣習……一八八
第三節　包　頭……一八九
一　沿　革……一八九
二　羊毛出廻狀態……一八九
三　羊毛取扱商取引慣習……一九〇
第四節　錦　州……一九二

イ去塵機……一六九
ロ　去塵機と手篩による去塵との利害得失……一六九
ハ土篩料金……一七〇
附毛皮、皮革壓搾捆包に就て……一七〇
第六節　支那羊毛輸出……一七一
一輸出數量……一七一
二羊毛輸出港……一七三
三羊毛仕向國……一七六
第七節　輸出方法及び採算……一七九
一引合方法……一七九
二檢定方法……一七九
三輸出採算……一八〇
第六章　地方の羊毛集散市場……一八四
第一節　張家口……一八四
一概說……一八四

二　羊毛取扱商及び取引慣習……二〇二
三　羊毛加工業……二〇三
第八節　通遼……二〇四
一　羊毛集散狀態……二〇四
二　羊毛取扱商……二〇五
三　羊毛加工業……二〇七
第九節　洮南……二〇八
一　羊毛集散狀態……二〇八
二　羊毛取扱商……二〇九
三　羊毛加工業……二一一
第十節　海拉爾……二一二
一　羊毛集散狀態……二一二
二　羊毛取扱商……二一三
三　羊毛加工業……二一六
第十一節　其他……二一七

一　羊毛出廻狀態……一九二
二　羊毛取扱商及商取引慣習……一九三
第五節　赤峰……一九四
一　沿革……一九四
二　羊毛出廻狀態……一九五
三　羊毛取引商及び取引慣習……一九五
四　諸稅金……一九六
五　通貨……一九六
六　度量衡……一九七
第六節　奉天……一九七
一　羊毛集散狀態……一九七
二　羊毛取扱商及び取引慣習……一九八
三　羊毛加工業……一九九
第七節　鄭家屯……二〇一
一　羊毛集散狀態……二〇一

ホ　波　斯……二三三
ヘ　南米諸國……二三三
ト　露西亞……二三四
チ　英國……二三四
リ　歐洲諸國……二三五
總括……二三五
第八章　日本に於ける毛織工業と支那羊毛……二三六
第一節　概說……二三六
第二節　羊毛輸入狀態と支那羊毛……二三九
第三節　毛絲紡績業……二四二
一　梳毛紡績……二四三
二　紡毛紡績……二四四
第四節　毛織物業……二四六
一　羅紗……二四九
二　毛布其他……二四九

一　交城……二一七
二　順德……二一七
三　河南省……二一八
四　山東省……二二〇
五　上海……二二〇
六　四川省……二二一
第七章　外國市場に於ける支那羊毛……二二二
第一節　世界の羊毛產額から見た支那羊毛の地位……二二二
第二節　米國に於ける支那羊毛……二二三
第三節　カーペット工業事情……二二七
第四節　世界に於けるカーペットウール……二二九
イ　印度……二三〇
ロ　亞細亞土耳古……二三一
ハ　イラク……二三二
ニ　アフガニスタン……二三二

五　緞通製織……二五九
イ　方　法……二五九
ロ　採　算……二五九
六　緞通の輸出入狀態……二六〇
七　總　括……二六二
第六節　毛織物の輸入狀態……二六三
一　毛織物輸入數量……二六三
二　輸入毛織物の品種……二六五
三　毛織物の輸出狀態……二六六
四　總　括……二六八
附　尾西地方に於ける毛織業……二六八
尾西毛織業發達の由來……二七〇
イ　分業的小工業組織……二七一
ロ　尾西同業組合の活動……二七一
ハ　製織組織及び採算……二七二
結　語……二七五

第五節　緞通業……二五〇
一　緞通の種類……二五一
イ　絹緞通、人絹緞通……二五一
ロ　毛緞通……二五一
ハ　綿緞通……二五二
ニ　混綿緞通……二五二
ホ　麻緞通……二五二
ヘ　緞通の大さによる種類……二五三
二　緞通の品質……二五三
三　緞通の産額……二五四
四　緞通製造關係業者及び其相互間の關係……二五五
イ　毛絲紡績業者……二五六
ロ　問屋……二五六
ハ　染色業者……二五七
ニ　緞通製織業者……二五七
ホ　職工……二五八

支那羊毛

緒言

支那羊毛の產地は內外蒙古、新疆、靑海、甘肅及び黃河流域の諸省、竝に西藏及び之に接壤する川邊を主とし、其他長江流域及び南方諸省にも多少の產あるも見るべきものなし。

支那に於ける羊毛の產額は約六千萬斤にして、其內約四割を國內に於て消費し殘餘は之を輸出す、其年額は平均三千六百萬斤である。

凡そ支那の羊は數千年來肉を喰ひ皮を着る爲に飼養せるものにして、羊毛採取を主目的とせざるを以て、一頭當りの採毛量は極めて僅少なるのみならず、品質は極めて粗惡にして死毛粗毛多く、其上多量の夾雜物を含み、カーペットウールとして僅に世界的に存在を認めらるゝのみである。

方今世界に於ける羊毛の需要は年々增加しつゝあり、此上は支那の如き未開の富源の開拓を待たざれば、それが供給を完ふすることは出來ぬ有樣である。然して支那の在來の羊に他の優良なる羊を交配して雜種をつくれば、品質可良なる羊毛を生產し又採毛量を增加するに至ることは、公主嶺農事試驗場竝に山西省模範牧場等に於て旣に實證せられたる處である、然も斯の如き羊種の改良によつて邊域の住民の向上に資し又支那を利する處は甚大なるものがあろう。

飜つて我羊毛工業界を見るに年々顯著なる進步をなしつゝあり、羊毛消費量も累年增加して昭和三年には八千萬斤其

第一章　羊

第一節　支那の羊種

羊は普通緬羊とも稱す、支那に於ける羊種は脂尾羊種並に是の多少進化せるものである。凡そ世界に於ける羊の原種に就て學者の言ふ處によれば、

（イ）　Ovis Ammon or Algali　　中央亞細亞の高地に居る野羊。
（ロ）　Ovis Musmon or Moufflon　　歐洲南部並に北亞弗利加に居る羊種。
（ハ）　Ovis Aries or Domestic　　歐洲特に英國に居る羊種。

右の三つに分たれ（イ）の Ovis Ammon が Fat tailed と Fat rumped との二種の羊に進化せりとなす。支那の羊は卽ち之である。

今日世界の羊種は改良に改良が加へられて數十種の多きに及び極めて優良のものもあるが、支那に於ては在來種の儘で未だ何等改良の施されたるものなし、支那の羊につきては從來組織的に調査せられたるものなきも、各地方に於ける氣候風土飼養管理方法の如何等により、體軀の形狀、毛質等地方每に多少の相違が出來て居る、現に支那人も地方別に見て夏羊、吳羊、蒙羊、蕃羊等と稱す、然し何れの地方のものも尾推骨を包圍して偏平なる脂肪瘤がある點に於て軌を一にし、甚しきに至りては其重量五斤乃至六斤餘に及ぶものあり、所謂脂尾羊種（Hat tailed sheep）である。

今參考の爲支那の羊につき從來調査せられたものを左に表記しよう、各調査の間には互に連絡がないが之により支那

價格一億萬圓を算するに及びしも、隣邦支那の羊毛資源には殆んど一顧を與へるものさへなく全然外人の跋扈に委して置き、遠く濠洲や南米にのみ原料羊毛を仰いで居る狀態である。曩に大戰中英國政府の羊毛管制により我斯業は至大なる脅威を感ぜし貴き經驗を忘れて、斯る狀態にて推移するは實に寒心の至りである。

宜しく支那官民の覺醒と相俟つて優良羊種の普及を策すると共に、現下の問題としては羊毛の取引竝に輸出の便を計り其利用途の開拓をなす等、識者の一顧を要する緊要事である。

	して垂下せざるものあり又稀には僅に突起せるのみにして耳朶を有せざるが如く見ゆるものあり。			
角	牡の角は北方産に比し稍々細く其同轉の程度も少く一同轉に達ぜざるもの多し、牝は普通角を有せず、遼西地方では牝も角を有せざるが普通である又滿洲には時に四本乃至六本の角を有するものあり。	牡は普通角を有し牝は有しない。	牝牡共に殆んど有角にして無角は百頭中二、三頭を見るに過ぎず。牡は長短雜多であるが牝は長さ五寸に達するもの少し。	牡は極めて大なる角を有す。
尾部	尾は特種の形狀を呈し北方産のものに比し長くして其下端は飛端に達し尾根部よりも寧ろ其下方に於て多量の脂肪を沈著して膨大せるが爲下部は前方に屈曲し歩行に際し前後左右に動搖す。	尾は特種の形狀をなし長からざるも廣く、多量の脂肪を沈積し圓形を呈し體の後方を蔽ふ。	大なる脂肪尾を有す。尾推骨を包圍し偏平なる一塊の脂肪瘤左右にあり、牝牡其大さを異にし、牡は尾根に於て十一—十五糎、最も大なるものにて二十五糎の周圍を有し、尾根より尾端迄の長さ四十糎に達するものあり。	尾は大くして牡は約十斤を有し牝は五斤の重量を有す。

の羊の大體を知ることが出來る。

	香村岱二氏調査	坪井清氏調査	吉田博士調査	マイスキー氏調査
調査地方	南満洲	呼倫貝爾	山東省	外蒙古
體軀	一般に幅廣く、胸深く、臀部廣く、筋肉發達し、四肢細くして强健である鐵嶺以北に産するものは體格大にして牡は十五六貫、牝は十三四貫に達するものあり、奉天附近以南の地方に産するものは體格稍小である。	一般に幅廣く、胸深く、筋肉よく發達し四肢細くして强健である。	牡　牝（單位糎） 體高　六三・七　五四・九 體長　六四・二　五六・一 前軀幅　一八・二　一五・五 後軀幅　一九・四　一七・八 生體重牡羊四五—五二瓩牝羊四五瓩内外羯羊五五瓩内外のもの最も多數を占む、頸部は比較的細く前胸部は後軀に比し稍小なり、往々にして甚だしく斜尻のものを見る。	大型に屬し體軀稍々大にして軀幹整ふ脚は筋張りて高し。
頭部	比較的小さく、長さに比し幅狹し、鼻梁は前方に灣曲し、兩眼稍々突隆し耳大にして側方に垂下するを普通とし、稍小形に	比較的小さく、幅狹くして長い鼻梁は前方に灣曲し、兩眼稍々突隆し、耳大にして側方に垂下す	鼻梁凸出し殊に牡羊に於て甚し、頭部は小にして顏面部は比較的長し、耳殼は大にして垂下す。	

及び體の側面の下方は粗毛を混ずること多く、背及腰の部分には緬毛を生ずることが多い。

尚ボウマン氏によれば南部支那には英國種に似たる小形の羊種ありと云ふ。

第二節　羊の飼養管理

支那に於ける牧羊は之を專業とするものと副業とするものとの二となし得べく、而して專業的牧羊は蒙古、青海、西藏地方の遊牧民が生業として行ひ、副業的のものは農民により農耕の傍ら行はるゝものである。

然して彼等の牧羊は數千年來の實地の經驗によりて、今日に至るものなるを以て飼養方法粗放なれど大過なきものゝ如く、羊も亦よく天然の脅威粗放なる管理に堪へ不都合ないものゝ樣である。

一　遊牧地帶に於ける牧羊

遊牧地帶に於ては家畜を以て唯一の財產となし、それによつて生命をつないで居る、しかして其飼養法は極めて幼稚にして常に水草を追ひつゝ所屬旗の地域內を夏は河川湖沼の邊りにて草の繁茂し、水の便宜しき低地に放牧し、冬は雪少くして北方に丘陵を負ふて南面し枯草の多き地方を求めて移轉す。

羊は群集性に乏しく離散し易きを以て放牧には常に監視者がついて居てよく之を導く、一群は數十頭乃至百頭內外に

			又牝に於ては最大部二十糎内外の周圍にて、尾根より尾端迄二十五糎の長さを有し飛節の下方に達し、尾端より尾長の約三分の一の部に於て屈曲し尾端上向するもの多し。	
毛	全體の白色のもの半以上を占め、其の他黒斑及褐斑のものあれども、主として頭部又は四肢の一部に限らる。	一般に白色であるが頭及び四肢に黒色毛又は褐色毛を有するもの多し、頭部及四肢は絨毛を有せず短かくして硬き光澤ある普通の毛にして、其の他の部分はすべて細くして長く柔かき絨毛で蔽はるるが之に二種あり。一は長く太く波狀を呈するこさ少き粗毛で外表に現はし、一は短くして細く彈力に富む、緬毛で體の表面に近い部分を占める、此二者は混合して體の總ての部分に存するが、頸	白色のもの最も多く黒白白黒斑之に次ぎ、又黒色のものもあり。濟南及び主要各地に於て調査せる處によれば白色毛のもの七乃至八割を占む、牧羊者も白色羊の選擇に留意するも、純白色の牝牡交配より往々斑色毛を有する仔羊を生ず、其斑が普通耳殼鼻端及び四肢の先端に顯出するこさ多く、背部騾線の左右に於て顯はるることは稀なり。	白色にて頭首胴等に黒斑點を有す、純白、純黒のものは稀である。

三十頭位の羊群を監視せしむるが普通である、共同放牧の場合には農耕地の狀態又は放牧地の地形等により、一群の頭數百頭二百頭を超ゆることあり。

牧夫の給料は一箇年何程と銀元を以て定むるものと、季節に羊體より刈取る羊毛を取得せしむる契約の下に雇傭するもの等あり、各地方により一定せず。

羊舍は主として嚴冬風雪を避く爲めに設けられ、其構造は地方により趣きを異にす。

或る地方に於ては石又は高粱稈等を以て作りたる柵内に收容し、冬季はそれに粗造なる屋根を架し防寒に備ふ、或は住宅又は物置に續ける一部を仕切り其儘使用し、又或る地方の如きは山側を削りて洞穴を作り羊舍に當つるものあり。

舍飼期間は普通冬期三・四箇月にして、此間と雖も日中溫暖の時期を見計ひ二・三時間庭內又は家屋の附近に放牧することあるも、降雨の日は屋外に放牧しない。

羊は比較的小食にして且つ粗食に耐へ、牛馬の喰はざる短小矮草にて生育するを以て、荒蕪地と雖も猶放牧し得、冬期は主として乾草穀類を與ふ、其種類は地方により一定せざるも普通枯草、甘藷蔓、落花生殼、豆皮、小麥、燕麥、麩及各種豆類等である、給水は夏期は一月二回冬期は一回にして、河川の淸水最も良く冷熱のものを忌む。

又此外に月一回若くは二回食鹽又は稀薄なる鹽水を與へる、羊の營養狀態及天候の如何により其給與量を異にするも普通百頭に對し一箇月約十斤內外とされて居る。

之を要するに牧羊の方法は極めて粗放である、支那の羊及び羊毛の改良には先づ其牧羊方法の改善が先決問題にして識者の注意しなければならぬ點である。

して、多きは五六百頭に及び千頭に達するものあり。一群中牝牡の割合は牝羊十頭乃至二十五頭に對し牡羊一頭、羯牡羊(去勢せる羊)五頭の割合である。(坪井氏の調査によれば呼倫貝爾では牝四五%、羯羊二五%、仔羊三〇%にして、マイスキーの外蒙調査によれば二歳以上の牝羊四四%、牡羊一五、二歳の仔羊一六%、一歳の仔羊二五%なり。)而して各群大抵山羊を混ず、其混合率は地方により異り一定しないが、普通羊と山羊は七、三或は六、四にして外蒙方面では山羊は羊群中一・二割の割合である。

元來羊は性質怯懦にして自ら牧草を逐ひ自由に移轉すること能はざるを以て、比較的性剛毅なる山羊をして嚮導せしめ群を纒むるに便し且つ行動を輕快ならしむ。

羊群の放牧及び其夜間の監視及び警戒には蒙古犬がよく放牧人を助けて重要なる務に任ず。斯の如き狀態にて殆んど自然のまゝに委し、分娩等の際多少の保護を加ふるに過ぎず、夏秋の候は青草を飽食することを得てよく肥滿するも、一と度び冱寒積雪原野を埋むるに至れば、足を以て自ら雪を排除して枯草を求むるのみにして、積雪多き年は枯草を掘出すに力足らず、老衰幼弱の羊は寒氣と饑餓の爲めに往々にして斃死することは珍くない。

二　農耕地帶に於ける牧羊

北支那地方に於ける農民は多く副業的に羊の飼養をなす、春季小麥の充分成長せぬ頃竝びに秋の作物收穫後は畑地に放牧することあるも、夏季は丘嶽地帶河畔等の農耕地なき場所に放牧し、冬季の三・四箇月間は舍飼す。

放牧に際しては羊管兒と稱して牧夫を雇傭して之に當らしむ、牧夫は多くの場合年少者にして牛馬羊を一團として監視せしめ、或は一部落にて一・二人の牧夫を雇ひて名戶の羊を一團として共同放牧すること多し。一人の牧夫に對して

計	四〇、七七六

即ち支那の羊の頭數は約四千萬頭にして、其内蒙古其他遊牧地帶に飼養せらるゝものは、二千四百萬頭にて過半を占め、殘餘が支那本部其他の農耕地帶に於て飼養せらる。又氣候寒冷にして地味瘠せたる北部及び西部地方に於て八割を占め、比較的氣候温暖なる黄河下流地方には僅に一割餘である。

備考

（イ）大正七年東洋拓殖會社高橋深藏氏調査

區別	頭數（千頭）	區別	頭數（千頭）
支那本部	二二、一八六	東三省	一、〇〇一
東部内蒙古	二、六二一	西部内蒙古	二、〇〇〇
外蒙古	一〇、〇〇〇	青海	八、〇〇〇
計	四五、七〇八		

（ロ）大正七年農商務省小平權一氏調査　四二、三三四、〇〇〇頭

（ハ）Chinese Year Book

最少二五、〇〇〇、〇〇〇頭、最大四五、〇〇〇、〇〇〇頭の採算をなすものあり。

（ニ）Annual Wool Review (National Association of Wool Manufacturer)　四五、〇〇〇、〇〇〇頭

（ホ）滿洲及び東部内蒙古の羊頭數

東部蒙古誌	一、七二九、〇〇〇頭	蒙古地誌	二、二〇〇、〇〇〇頭
滿蒙全書	二、一五六、〇〇〇		

（ヘ）呼倫貝爾の羊頭數

呼倫貝爾誌略	一、四一〇、〇〇〇頭	蒙古政廳調査	一、五〇〇、〇〇〇頭
メシチエルスキー氏調査	一、〇五〇、〇〇〇	坪井清氏調査	一、六〇〇、〇〇〇
齋藤氏調査	一、一〇〇、〇〇〇		

第三節 支那に於ける羊の頭數

支那に於ける牧羊は遊牧地帶に於けると農耕地方に於けるとを問はず、主として肉及皮の採取を目的として飼養するものにして、羊毛の採取は從たる地位にあり、羊毛の外國の輸出が年々盛んとなり價額も騰貴するに從ひ、近時羊毛を得ることも牧羊上に益々重要なる地位を得つゝあり。

一 羊の飼養頭數

羊の飼養數に付ては正確なる數字を得ることは極めて困難である、支那官憲の調査したもの及び當業者の調査せるものゝ、總て區々にして信を置くに足るものなし、玆に於て過去數年間の海關統計にあらはれたる羊毛輸出數量を基礎とし鐵道輸送統計竝に當業者につき調査したる出廻狀態に依り推算すれば大要左の如し。

滿洲	一、〇七〇千頭	呼倫貝爾	一、〇〇〇千頭
東部內蒙古	三、〇五〇	外蒙古	七、六〇〇
內蒙古	三、九三三	新疆	四、三〇〇
青海	四、七六六	甘肅	五、三六〇
陝西	一、〇〇〇	山西	一、七〇〇
直隷	一、〇八八	山東	九〇〇
河南	一、〇〇〇	其他	四、〇〇〇

浙江	三六八,〇四一	三七五,八四七	七四三,八八八
湖北	三九八,八二八	四七五,八八八	八七四,七一六
湖南	三六,四九〇	三三,九一一	七〇,四〇一
四川	一,二四〇,四九三	一,二四〇,四九四	二,四八〇,九八七
廣東	四〇三,八七二	三〇八,三〇一	七一二,一七三
廣西	一五〇,一三八	一三〇,九六六	二八一,一〇四
雲南	六〇〇,九五六	四〇六,一八四	一,〇〇七,一四〇
貴州	三,九七一	四,八六九	八,八四〇
計	一五,五一〇,〇七二	一二,八二三,〇九七	二八,三三三,一六九

湖南以下貴州に至る六省は七年度統計なきにより民國三年度統計による。

二　羊の飼養頭數の增減

羊の年々生產による增加と屠殺斃死による減少の事情を知ることは至難である。羊の飼養管理方法粗放にして、且つ衞生上の智識全く缺如し居り、之が爲め常に疾病其の他により斃死するもの尠くない。之に對する羊の免疫性は强きが如きも時に多數の緬羊を殪すことあり。

又興安嶺山脈地方及其北方に於ては冬期の寒氣酷烈積雪深くして、饑餓と寒氣の爲めに斃死率が甚だ高い、呼倫貝爾地方に於ても略五年目每に一回の割合を以て此天災を蒙ると云ふ。

緬羊增減率につき坪井氏が蒙古羊につき調査せる處によれば、其の生產率の割合は平均受胎羊中、早產に困る死羊及死產二〇%、生後成熟期迄に死亡或は屠殺されるもの一五%にして、殘りの六五%が純生產となり。又成羊の屠殺病死

（ト）民國七年農商部調査

支那各省緬羊頭數

省別	牡	牝	計
京兆	二九,八五三	二六,四八二	五六,三三五
直隷	五三八,八九七	四九三,九〇三	一,〇三二,八〇〇
奉天	三四七,四六四	二六四,二一〇	六一一,六七四
吉林	一〇九,九五七	一〇九,八八二	二一九,八三九
黒龍江	一一五,一六三	一二〇,七二一	二三五,八八四
山東	四一二,五二七	三七五,九六六	七八八,四九三
河南	六〇六,九三二	四〇九,三二九	一,〇一六,二六一
山西	一,八九九,九一九	一,八九九,九一九	三,七九九,八三八
陝西	五三五,八四八	四六六,五四一	一,〇〇二,三八九
甘粛	三,二二六,八五八	二,〇〇八,二〇七	五,二三五,〇六五
新疆	二,三六九,八七五	一,九五四,九四三	四,三二四,八一八
熱河	二七一,〇五七	二九一,五八九	五六二,六四六
綏遠	二九八,七〇六	二〇〇,〇八〇	四九八,七八六
察哈爾	三〇五,四三九	二四六,六八六	五五二,一二五
江蘇	五一四,三八二	三五一,一五〇	八六五,五三二
安徽	四七六,五七四	四一二,二一五	八八八,七八九
江西	四九,〇六八	四五,六八七	九四,七五五
福建	一九八,七六四	一六九,一二七	三六七,八九一

一　支那政府の羊種改良事業

イ　中央政府

支那政府は民國三年四月羊種改良につき左の獎勵條令の發布をなす。

一、羊種の改良をはからんとする者に對し、羊每百頭に就き獎勵銀三十元を、夫々定めの改良方法の實行を條件とし民國で支給す。

二、種畜試驗場を直隷省に二箇所、安徽省に一箇所設け、外國より良種を輸入し改良を計る。

斯くの如く種々なる方法を設けて、之が改良の便を計りしも、牧羊者は概ね無智なるものにして、實施には多額の資本を要する爲、實行を見ること少く、偶々之が實施を計畫せし者あるも概ね失敗に終れり。

左に獎勵條令による種畜試驗場に就きて略記せん。

第一種畜試驗場	民國三年四月	察哈爾東牛群哈達圖克及石門溝。
第二種畜試驗場	民國四年六月	北京西山來遠齊。
第三種畜試驗場	民國四年五月	安徽鳳凰右門山。

第一種畜試驗場は民國元年設立の察哈爾模範墾牧場を改稱せるものにして、張家口を去る北方約百九十支里の地にあり、事務所を張家口上堡に設く。

（イ）土地面積三百七十六畝、運動場二十畝、放牧地二十五畝、肥料場二畝。

（ロ）メリノー種を以て良好なる土産種の蕃殖及牧草の試作。

其他による減少率は、全頭數に對する二〇%内外に當ると。又マイスキー氏の外蒙古に於ける研究によれば、增加率は全羊頭數の三九%、屠殺病死等による減少率二二%である。

支那人の牧羊の場合に於ける增減に就て研究せるものなきも、管理が蒙古人のそれに比し稍行届いて居り、且つ寒氣饑餓による斃死なき爲彼と稍事情を異にするも、毛皮を採る爲に胎兒幼兒を屠殺すること多きを以て、蒙古に於ける增減割合と大體近似せるものと思惟せらる。

斯の如く毛皮を採る爲に屠殺する外、牡羊は種羊を殘して生後一箇月乃至三箇月の間に去勢し、生後一箇年内外に肉用として屠殺し、牝羊は六・七歳前後迄繁殖用に供し順次食用として屠殺す。

之を要するに支那に於ける羊の飼養頭數の增加は種々の原因によりて阻害せらるゝ事情あり、又時に天災等の爲に不時の減少をなすことあるも、永年に亙つて之を見る時は大なる增減なしと云ふも過言ではない。

第四節 支那に於ける羊種改良事業

支那の羊種改良に就ては夙に識者の留意せる處なるが、愈々之が研究に著手したるは日露戰爭後のことにして、支那の當局及び邦人側、外人側に於ても行はれたり、然して其方法としては外國の優良羊種を輸入し、支那在來種に交配して改良の實を擧ぐることにつとめたる點に於て軌を一にす。

斯て優良雜種を得ることに就ては科學的に成功したるが、之を普及する點に就ては何れに於ても未だ見るべき成果なく、尚今後幾多研究すべき問題を殘す。

今過去に於ける羊種改良事業の經過竝に成績を明にして將來の參考に資することにしよう。

二　山西省

A　概説

山西省は高原地帶にして省內山岳重疊し、帶狀をなせる太原、平陽、大同の平地あるのみ。而して斯く地形の變化に富むが爲めに、夏季は淸涼なる山地帶を冬季は風を避くるに便なる窪地を有することは、牧羊地として絕好の地と云ふべし。

從つて、處々の勾配緩緩なる地域には多數の緬羊を飼養せるを見る。山西省に於ける羊は壽陽、寄嵐、潞安種の地域的三つの名稱に分つを得。其の飼養頭數は凡そ百七十萬頭と稱せらる。山西省に於ける羊種改良事業は稍見るべきものあるを以て、今滿鐵農務課の調査により其大要を記述せん。

B　沿革

山西省に於ける緬羊改良事業は民國六年に著手し、當時牧場を太原、靜樂、五臺、安澤の四箇所に設け、米國よりメリノー種若干を輸入し之に配給せしも、其後之れを太原に集め、山西省桑蠶局をして牧羊改良事業の管理を統轄せしめ、一部の羊を種羊として各縣農會に分讓せり。

然れども太原桑蠶局にて飼養せる以外のものは、監理宜しきを得ざりし爲め殆んど斃死したるにより、更に計畫を改め民國九年に至りて、山西省模範牧場を設置し、米國よりメリノー種羊牝牡各五百頭を購入するに及び、米人技師二名を雇用して之が管理改良を擔任せしむ。

然るに民國十年飼養其の宜しきを得ずして、六七百頭斃死せるが爲め、遂に米人技師を解雇し、日本留學の支那獸醫

第二種畜試驗場は土地面積二百畝、運動場六畝、放牧地二百畝、肥料場十畝。
第三種畜試驗場は土地面積本場六百五十畝、運動場四十畝、牧草地二十畝、肥料場十畝。

ロ　奉天省

宣統元年羊種改良を計畫し、省直轄の農業試驗場に於て主としてメリノー種を購入し、蒙古在來種と交配して改良を策し、千七百四十四兩を投じて左の牧舍を建築せり。

牝羊舍	四十四間	牡羊舍	十間	
分娩舍	五間	交配舍	三間	

開設當時日本より技師を聘せしも、後米人之に代りて場長となるに及び、更に米國よりメリノー種百頭を購入し、

宣統二年	產羔千二百頭	宣統三年	產羔千二百頭
同　四年	同　二千五百頭	同　五年	同　三千四百頭

民國以後外人を解雇して支那人のみにて經營せしも、其後何等見るべき成果なくして終熄の模樣である。

ハ　陝西省

光緒年間高祖憲及鄭尙眞等の發起の下に、省內牧畜振興の目的を以て、資本金二十萬元の牧羊會社を設立し、北部陝西、楡林及延安一帶の地に牧場を設置し、陝西第一牧場と稱せしも、事業の進行不良にして小數の緬羊を飼養せしに過ぎず見るべき成果なし。

第二回雜種	一、九〇〇	—	一、九〇〇	第四回雜種	四〇〇	二〇〇	六〇〇
第三回雜種	一、五〇〇	—	一、五〇〇	計	七、〇二四	一、一〇〇	八、一二四

E　改良羊毛產毛量

山西省模範牧場に於ける剪毛試驗の結果左の如し。（民國十三年度）

種別	剪毛回數			毛量		
	春	秋	計	最大	最小	平均
メリノー種牡	一	—	一	二二・〇斤	一一・五斤	一五・〇斤
メリノー種牝	一	—	一	一七・〇	九・〇	一二・〇
三回雜種	一	—	一	一二・〇	六・〇	九・〇
二回雜種	一	—	一	八・〇	二・五	五・五
一回雜種	一	—	二	五・五	三・〇	三・五
在來種	一	—	二	二・五	二・〇	二・〇

本年度太原模範牧場本場より生產する羊毛は、メリノー羊約二萬斤、雜種約一萬斤にして、前者は毎斤六角、後者は毎斤四角五分を以て、太原地元に於て販賣せしも、昨年度兩者合せて約四萬斤の羊毛を天津に輸送の上販賣せり。

F　主なる改良機關

山西省に於ける主要なる羊毛改良機關は桑蠶局と模範牧場の二つにして、支那政府は民國六年に輸入したるメリノー種を桑蠶局に、同九年に輸入せしものは模範牧場をして管理せしめ、其の改良に備へしも、桑蠶局の成績は見るべきも

を以て之に代へて主任技師たらしめ、次いで放牧場を靜樂縣に設置す。

山西省模範牧場の目的は、メリノー種を山西の風土に馴化試驗以外に在來種と交配し、固定種を創定するにあり。而してメリノー第五回雜種を以て固定種羊となし、之を一般農民に配布して在來種を改良するの計畫にて、一九二九年十一、十二月に至り第五回雜種の生產を見る豫定なり。

C　改良供用在來種

山西省に於ける在來羊中潞安種は、體軀並に毛が細長にして最も優るも、模範牧場に於ては主として毛の捲縮性に重きを置きて、最も捲縮性に富む壽陽種を以て改良に供用せり。

D　改良せられたる緬羊の頭數

一頭の牡羊は牝五十頭に交配し得るの能力あるが故に、之を以つて民國九年以來の蕃殖頭數を算する時は、莫大なる數字に上る可きも模範牧場に於ては經費の關係上、第一―三回雜種牡羊の分娩を見る時は、適宜に之れを整理し、又牝羊も第一、二回雜種にありては收支關係上每年處分を行ひつゝあり。

殊に民國十四年戰爭發生以來は、經費節減の見地より蕃殖頭數を極度に制限せり。民國十八年北伐を了るや、省政府は模範牧場分場を朔、交城、方山の三縣に設け、太原模範牧場より羊を分讓し飼養す、今四箇所の模範牧場に於ける羊頭數大約左の如し。

種類	牝羊	牡羊	計	種類	牝羊	牡羊	計
メリノー種	一、五二四	九〇〇	二、四二四	第一回雜種	一、七〇〇	—	一、七〇〇

計　百七名

本牧場所屬の羊頭數は總計五、五二四頭にして次表の如し。

種別	牝頭	牡頭	計	種別	牝頭	牡頭	計
メリノー種	一、四二四	八〇〇	二、二二四	第三同雜種	六〇〇	―	六〇〇
第一同雜種	一、〇〇〇	―	一、〇〇〇	第四同雜種	二〇〇	二〇〇	四〇〇
第二同雜種	一、二〇〇	―	一、二〇〇	合計	四、四二四	一、一〇〇	五、五二四

(2) 湖縣分場　技師、技術員、助手各一名牧夫二十名にして、管理羊頭數はメリノー種千頭改良種千二百頭計二千二百頭なり。

(3) 交城縣分場　技師、技術員、助手各一名、牧夫十二名にして、管理羊頭數はメリノー種五十頭改良種六百頭計六百五十頭なり。

(4) 方山縣分場　技師、技術員、助手各一名牧夫十二名にして、管理羊頭數はメリノー種五十頭改良種六百頭計六百五十頭なり。

二　滿鐵の羊種改良事業

イ　公主嶺農事試驗場に於ける緬羊改良試驗成績

滿蒙の農牧業の改良增殖を圖らんが爲めに、滿鐵會社に於て、公主嶺附屬地内に農事試驗場設立さるゝに及び、大正

のなし。大正十四年に於ける其の管理頭數は、メリノー羊竝に改良羊を併せて、二千五六百頭と稱せられ、一説に依れば同管理のものは、全部處理を了り一頭も現存せずと云はるゝも、其詳細は不明である。以上の二箇所の外省農事試驗場に於ても少數のメリノー種を飼養し居ると云ふ。而れども改良事業に對する模範牧場の地位は、殆んど唯一的の存在なり。以下各牧場の組織に就き其概況を説明せん。

(1) **太原本場** 太原西門外に約一千頭を收容するに足るの羊舍と事務所を設け、羊舍の前方に約千畝内外の放牧場を有す。本牧場は開設當時のものにして、其の後靜樂縣に分舍を設置せり。

太原牧場は以前主として、米國より輸入したる馴化上困難なる、メリノー羊の冬季飼養に使用せられしも、改良種は勿論現在のメリノー種に於ては、全部山西にて生育したるものなるを以て、冬季と雖も殆んど太原に避寒の要なく、終年靜樂縣にて飼養せるを以て、現在にては太原本場の牧羊事務は、大部分靜樂に移轉し居るの有樣なり。

本牧場の經營費は一箇年二萬六千圓とし、別に牧場より生ずる收入卽ち毛、仔羊、成羊の販賣による、現在收入は約二萬圓にして、經營上の總財源は四萬圓見當なり。

本牧場の職員其の他總人員百七名にして次の如し。

技師	二名	(農科大學卒業)
技術員	二名	(農業專門學業卒業)
技手	五名	(中等農業學校卒業)
助手	五名	(牧夫中經驗豐富なるものゝ中より拔擢す)
放牧夫	九三名	(牧夫一人にてメリノー羊五十頭、雜種羊は百頭を管理すと云ふ)

型の比率を見るに左の如し。

種別	大正五年	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年	計	生産比率
メリノー蒙古在來二回雜種（メリノー型毛質）	五	一六	一五	一六	二五	二七	一〇四	四六・〇
右同同（雜種型毛質）	四	九	一二	一九	三二	三八	一二三	五四・〇
計	九	二五	二六	三五	五七	六五	二二七	一〇〇・〇

（表頭：各年度生産頭數）

而して、第二回雜種中メリノー型羊毛を有するものは、試驗の結果に依れば遺傳上全く固定せられたるものにして、此の雜種同志を交配するに、純メリノー型羊毛を有する羊のみを生じ、雜種型羊毛又は蒙古型羊毛を有する羊を生ずることなく、更にこの固定雜種を蒙古在來種に交配せるに、メリノー種を交配せると同一結果を示し、其の固定の確實なることを示せり。サウスダウン種及シュロップシャ種を用ひて雜種を作れる場合にありても、亦同樣の遺傳をなし、第二回雜種に於て、各父畜型の羊毛を有する個體と、雜種型羊毛を有する個體とを生ぜり。

而してメリノー蒙古在來一回雜種、サウスダウン蒙古在來一回雜種及シュロップシア蒙古在來一回雜種の三種の毛質を比較するに、粗緬毛混在の程度緬毛の太さ、捲縮度等に於て、常にメリノー蒙古在來一回雜種はサウスダウン蒙古在來一回雜種に優りサウスダウン蒙古在來一回雜種はシュロップシア蒙古在來一回雜種に優れり。各二回雜種の雜種型羊毛も亦、一回雜種の如き優劣の順序を示せり。

C 雜種の毛量

各雜種の毛量は之を蒙古在來種の夫れと比較するに、何れもその量を增加し殊にメリノー蒙古在來雜種にありては、其の增量

三年種羊及蒙古在來種二百八十六頭を購入し、緬羊に關する試驗を開始せり。大正四年には種羊として、ライブイエ・メリノー種牡八頭、牝二十五頭、サウスダウン種牡一頭、牝一頭ヲ北米合衆國より輸入す、大正十年に至る迄の蒙古在來種緬羊改良試驗成績を示せば左の如し。

A 雜種の形態

外國種牡を蒙古在來種牝に交配せる場合、雜種の形態中顯著なる變化は、頭部中軀及尾部に顯はれ、一般に體軀は其の太さを增し、殊に蒙古在來種に特有なる脂肪尾は、一回雜種に於ては變じて中間形を顯はし、二回雜種にありては更に外國種の尾に近似せり。總て毛叢は著しく密となり、殊に雜種回數の進むと共に、頭部、腹部及脚部に緬毛の密生し來たるは變化の著しきものなり。

又サウスダウン蒙古在來雜種及シュロップシァ蒙古在來雜種にありては、父畜の顏面及脚部の色を明かに遺傳せるを認め得べく、メリノー蒙古在來一回雜種に於ては、蒙古在來種の斑毛色は優性なる結果を示せり。

B 雜種の毛質

毛質はメリノー蒙古在來一回雜種にありては、父畜(メリノー種)及母畜(蒙古在來種)の毛質と異なれる雜種型を生ぜり。之れを蒙古在來種羊毛に比するに、粗緬毛を減失し、緬毛の量を增加し、毛叢は密となり、毛纖維は太さ、捲縮度強さ、柔軟度、均整度、鱗片の形狀及數等に於て著しき進化を示せり。更に二回雜種に至りては、毛質に於て純粹メリノー型羊毛を有するものとの二種を生じ、此の雜種型羊毛とは、一回雜種羊毛と同型にして、メリノー型羊毛は毛叢、毛纖維の形狀、性質全くメリノー種羊毛の特徴を示せり。且つ此の二型の羊毛が二回雜種中に顯はるゝ比は、一對一にして、メンデル氏遺傳法則中の遺傳因子一個に依り決定せらるゝ場合の現象に全然同じ。今大正五年度以降の生産羊につき、二

し、次年度更に舍內外の入替をなし、其の影響を調査せるところ、舍外飼養をなせる場合多少生體量大なるも、其の差僅少にして、特に舍の內外飼養による影響を認められず。其の毛量に於ては、舍外飼養をなせる場合は、約一七%の毛量を增加し、斷言とまでは行かぬが舍外飼により、毛質に大なる惡變を來さゞるを認め得たり。又その繁殖成績は、受胎率生產率共に舍內を以て良とす。

F 繁殖率

母羊種別	供試頭數	平均一頭交配回數	受胎率	分娩率	生產率	死產率	流產率	生產仔羊牝牡別	
								牝歩合	牡歩合
メリノー種	二四〇	一・七	八七・五%	八五・八%	一二四・二%	一・三%	〇・四%	四六・七%	五三・三%
サウスダウン種	四一	二・〇	九二・七	八七・八	九七・七	二・五	―	五七・五	四二・五
シュロップシャ種	三三	二・三	七七・三	七二・七	九〇・九	四・五	―	四〇・〇	六〇・〇
蒙古在來種	一、一一三	一・七	九一・七	九〇・一	九〇・七	〇・五	〇・四	四八・四	五一・六
メリノー蒙古在來一回雜種	四二三	一・五	九六・一	九五・六	九六・八	〇・五	―	四七・四	五二・六
メリノー蒙古在來二回雜種	四六	一・八	九一・三	八九・一	八九・一	―	二・二	六八・三	三一・七
サウスダウン蒙古在來一回雜種	一〇三	一・三	九八・一	八九、二	九九・〇	―	―	五五・九	四四・一
サウスダウン蒙古在來二回雜種	一九	一・二	一〇〇・〇	九四・七	九四・七	五・三	―	七二・二	二七・八
シュロップシャ蒙古在來一回雜種	一〇六	一・六	九三・四	八九・六	九一・五	一・九	〇・九	四四・三	五五・七
シュロップシャ蒙古在來二回雜種	一九	一・七	八九・五	八四・二	九〇・九	―	―	二九・四	七〇・六
計平均	二、一二二	一・六	九二・四	九〇・九	九五・一	〇・七	〇・三	四八・七	五一・三

の著しきものあるを示せり。之を約述するに、雜種中メリノー蒙古在來雜種は他の雜種に比し最も多く毛量を增加し、一回雜種にありては牡牝共蒙古在來種の約二倍、二回雜種にありては牝牡共に約二倍四分の毛を生產せり。又蒙古在來種に比し其の生體量を增加せるを認め得べし。

D　雜種の肉量及肉質

(1)　**肉量**　供試畜は生年月は殆んど同一にして、營養狀態を同じくせる個畜を選定組分し、同一飼養管理のもとに成羊となるを俟て、各種類の肉量生產率に關する研究を爲せしところ、屠體步合にありてはメリノー種最も劣り、サウスダウン蒙古在來一回雜種最も良好にして、蒙古在來種は又良好なる成績を示せり。而して、メリノー蒙古在來一回雜種の屠體步合はメリノー種と蒙古在來種の夫の中間にあり、メリノー蒙古在來二回雜種の屠體步合は更にメリノー種に近似するを示せり。正肉步合にありては、サウスダウン蒙古在來二回雜種最も良好にして、メリノー蒙古在來一回雜種は蒙古在來種に劣るの成績を示せり。蓋し蒙古在來種の骨付量及脂肪量多くして、正肉量の少きに依るを知るべし。

(2)　**肉質**　肉質は條件を等しくせる各種緬羊を同一料理法を以てし、日本人及外國人の試食批評を乞ひ、味香軟度の三點につき比較採點し、更に味五香二軟度三の比を以て計算し、試食を同じくせるもの每に、五箇年を通じ比較せるに批評區々として、判斷に苦しむものあるも、大體に於てシュロップシァ蒙古在來一回雜種、メリノー蒙古在來一回雜種を最良とし、サウスダウン蒙古在來二回雜種、サウスダウン蒙古在來二回雜種之れに次ぎ、蒙古在來種及メリノー種最も劣るの結果を示せり。

E　飼養管理試驗

蒙古在來種を舍飼せる場合、生體量毛質及繁殖上に及ぼす影響の如何を知らんとするものにして、體格、毛、量、毛質等、略均等なる蒙古在來種四十六頭を選拔し、甲乙二組に均分し一つは舍外(雨除の設備あり)に飼養

ロ 羊種改良事業の現況

前項の羊種改良試驗成績に基き左の如く各地に種養場を設置し改良種の養殖普及につとめつゝあり。

A 種羊場

公主嶺農事試驗場　大正二年設立　黑山屯種羊場　大正十年設立

公主嶺假種羊場　同十三年設立　沙里種羊場　昭和四年設立

B 種羊購入頭數

	種類	牝	牡	計	購入地
大正十三年	メリノー種	一三〇	六	一三六	北米
昭和二年	同	二四〇	一〇	二五〇	同
同　四年	同	三〇〇	一〇	三一〇	同
計		六七〇	二六	六九六	

C 種養場飼養頭數

	メリノー種	改良種	メリノー雜種	其他	計
黑山屯種養場	三三三	四五五	四八〇	—	一、二六八
公主嶺假種羊場	二七〇	二	—	—	二七二
沙里種養場	三一八	一四	一八九	—	五二一

G　斃死率

種別	成羊斃死率 全飼養頭數	成羊斃死率 全斃死頭數	成羊斃死率 全斃死率	仔羊斃死率（滿一才迄） 全飼養頭數	仔羊斃死率（滿一才迄） 全斃死頭數	仔羊斃死率（滿一才迄） 全斃死率
メリノー種	四二二・一	三六	八・七%	二〇四・〇	六六	三二・三%
サウスダウン種	七九・五	七	八・八	三〇・〇	六	二〇・〇
シュロップシャ種	四六・九	六	一二・八	一五・〇	四	二六・七
蒙古在來種	一,四〇八・六	一九三	一三・七	二一六・二	五三	二四・五
メリノー 蒙古在來 一回雜種	七〇二・〇	四六	六・六	四二四・〇	七五	一七・七
メリノー 蒙古在來 二回雜種	九七・九	七	七・二	一六四・〇	三六	二二・〇
サウスダウン 蒙古在來 一回雜種	一九九・〇	二	九・五	二一七・〇	一四	二二・〇
サウスダウン 蒙古在來 二回雜種	三一・九	—	—	五五・〇	一三	二三・六
シュロップシャ 蒙古在來 一回雜種	一六三・六	一二	七・三	一〇八・〇	二〇	一八・五
シュロップシャ 蒙古在來 二回雜種	三五・九	六	一六・七	六五・〇	一五	二三・一
計平均	三,一七七・四	三二四	一〇・二	一,三九八・二	三〇二	二一・六

以上により毛質改良其の他の點を綜合するに、其の毛質優良にして豐富なるメリノー種によるを最良とす。然れどもメリノー種は蒙古在來種に比し、身體虛弱にして其の他氣候風土の關係上、往々斃死の憂あるも、前表F、Gに見る如く其の雜種にありては、其の斃死率在來種に劣れるを認めず。

目下同牧場は蒙古羊約六百、雜種羊七百以上計千三百餘頭を有すると云ひ、海拉爾の出張所内にはログニマアシュ種牡四頭、(内一頭は二十五年牛の角につかれて斃死)二十五年生產雜種牡二頭、蒙古牡羊二頭を飼養して居る。ログニマアシュ種牡羊は交配期に牧場に送り、交配終了するに及び海拉爾に返送飼養を爲す。出張所主任の談によれば、雜種の發育頗る良好にして、產毛量も割合多く二十六年春期剪毛成績によれば、二十五年度生產滿一歲雜種羊の產毛量、一頭當り四・七斤であつたと。然るときは滿二歲以後は優に六・七斤の產毛量を望むことが出來、尙ログニマアシュ種一頭の產毛量は十五・五斤なる由にて、海拉爾出張所内のログニマアシュ種及其の雜種羊を見るに、非常に頑健である(中村撰一氏調査)

ロ 滿洲里ガアニン商會の飼養成績

同商會が後貝加爾地方より、メリノー種(大部分牡羊)を購入せしは一九一七年にして、革命前メリノー種は西比利にても飼養されて居り、斯くの如き細毛種飼養は年と共に增加の傾向があつた。

ガアニン商會は羊毛羊皮及羊を買出して居た關係上、蒙古在來羊の毛質改良に注意せしは當然なる事にして、二十頭のメリノー種を手に入れるや、呼倫湖の西方の自家牧場に送り、蒙古在來羊との雜種作成を試みたるに、メリノー種に對して特に丁寧なる管理をせざりし爲め漸減し、目下牡羊四頭を殘すのみ。但し蒙古在來種との雜種には成功し、目下雜種羊一千頭を有する由なるも、嚴密なる管理をなし居らざる爲め、雜種一回、二回或ひは三回となり、明かに區別するを得ずと云ふ。この外ガアニンは、海拉爾の英國食料品輸出會社より寄贈されたる、ログニマアシュ蒙古一回牡羊二頭(一九二五年生產)を同所に飼養して居り。

公主嶺農事試驗場	二三	五九	五五	三〇九	五一五
計	九四四	五三〇	七二四	三〇九	二,五七六

然して改良緬羊にして今日迄に滿鐵、東支、京奉沿線及び東部蒙古等の社外に配布したるものを加算せば、現在數五千三十二頭にして、本年の生產見込數三千五百頭なるを以て都合八千五百三十二頭である。

斯の如く數に於ては未だ見るべきものなきも改良緬羊飼養の效果は著々一般に認められつゝあり、追々普及の實を擧ぐるであらう。然し其改良事業の完成迄には、前途尙幾多の困難が橫つて居ることを豫期しなければならぬ。

三　其　他

イ　海拉爾英國食料品輸出會社の飼養成績

同出張所主任が蒙古在來羊の雜種試驗を思ひ立ち、一九二四年四月濠洲より、ログニマアシュ種牡羊五頭を輸入したのが著手の第一步である。因みに輸入に關する費用は、一頭當り現地價格七百元輸送費三百元計千元を要せりと。然して同年秋迄は海拉爾の出張所內空地にて、種牡羊を飼養して居たが、海拉爾の北方約四十五粁海拉爾河に沿ひたる地を選定し、蒙古在來牝羊四百頭を集め、愈々試驗に著手し二十四年十一月五頭の牡を以て、四百頭の牝羊に交配し二十五年春四百頭の一回雜種仔羊を得、二十六年春は三百九十一頭の一回雜種仔羊を得るに至つた。然して仔羊の發育は頗る良好にして、海拉爾に於ける二十五年生產羊の如きは見事なる體格を有して居る。但し雜種仔羊の死亡數は不明である雜種牡羊の現在頭數は二十五年度生產十七頭二十六年生產五十三頭で、殘部牡羊は去勢せし由なり。

メリノー種牝	一	二一・二五	一五・〇〇	三一・〇三	一三・二七
在來種	二	四・四〇	二・五〇	五・〇四	三・二四
一同雑種	二	六・九〇	四・四〇	一一・七五	六・二三
二同雑種	一	一〇・〇〇	六・九〇	一六・二五	七・四〇

卽ち兩者何れの場合に於ても改良種は在來種に比して倍以上の收毛量の增加を示す。故に改良種が支那全域に普及して羊毛產額が今日に比し倍加するとすれば、其產額は百八十萬擔にして輸出可能數量は百十六萬擔に及び、今日の輸出羊毛三十六萬擔に對して約三倍する譯である。然も其品位は向上して用途は今日のものよりも廣くなるを以て此點數量の增加以上に重要なり。

ロ　改良羊種普及と牧羊者との關係

支那に於ける牧羊は元來肉及び皮を得るが目的である、改良羊種は肉に於ては在來種に劣らざるも、皮は到底衣料とすることは出來ぬ、此點は單に收毛量が增加し並に其相場が昂騰すると云ふのみでは、一般牧羊者の間に普及し得るものではない。況んや彼等は甚だしく保守的にして又前記の諸關係も、蒙古人の牧羊と支那人の牧羊との間に夫々程度を異にするを以て更に復雜である。

蒙古人其他遊牧民族の牧羊方法は極めて粗放にして、其天然の諸條件も不良なるを以て改良種がよくそれに堪へ得るや否未だ硏究の餘地あるものと思惟せらる。

支那人の牧羊者に對しては改良種が採算に有利なることをよく納得せしむれば、蒙古人の場合に比し其普及は容易で

以上の外、海拉爾より額爾古納河附近にかけて在住する避難露民中に、メリノー種を有して蒙古羊との雜種を作りつつありと聞くも成績に關しては詳細ならず。（中村撰一氏調査）

ハ 仁記洋行

仁記洋行がメリノー種を購入して、秦皇島附近に於て牧畜せるも其數多からず。僅かに附近村莊に對して、多少の同種を配布せるに過ぎざるもの〻如し。

其他邦人にして個人的に錦州附近にて羊種改良を試みたるものあるも見るべきものなし。

五 羊種改良事業の將來

イ 試驗の結果

之を要するに支那在來羊種の改良はメリノー種を交配することに因つて成功せり、公主嶺農事試驗場及び山西省當局の試驗の結果は左の如く在來種に比して收毛量を增加す。

メリノー種、雜種、在來種の年產毛量比較表（單位封度）

種類	年剪毛回數	山西省模範牧場		公主嶺農事試驗場	
		最大	平均	最大	平均
メリノー種牡	一	二七・五	一八・七五	四一・三三	一七・一八

第二章　羊毛

支那の羊は極めて不良なる天然の要素の内に極めて粗放に飼養せられ、乳は搾つて飲み又屠つて肉を食し其毛皮は衣として用ひられ住民の生活上に重きをなしたるも、毛は西藏の如き織物に造る地方あるが一般にはフェルトして僅に自家用の毛子を造り或は絨毯の製織等に供するのみなるを以て、牧羊上に重きをなさず從つて羊毛の品質竝に收毛量の如きは何等顧らるゝ處なかつたものである。

然るに曩に外人が支那羊毛の利用に著目して以來、累年輸出數量は增加し今日では羊毛は支那に於ける重要なる商品であるが、牧羊者竝に其牧羊事情には何等の變化なく、從つて羊毛の品質改良の加へらるゝことなく死毛及び粗毛多く加之輸出品として商人の手に取扱はるゝことゝなつて以來支那の奸商は、取引に際し重量を加へて不當の利得を得る爲有ゆる奸策を弄し、挾雜物を混入するもの多く、甚だしく支那羊毛の品質を害し、且つ支那國内の動亂の爲輸出數量には年々顯著なる增減あり、工業原料として價値を倍々低下しつゝあり。斯の如き狀態にて支那羊毛は品質上、利用途は限られ又極めて取扱ひ難き商品として遇せらる。

第一節　支那に於ける羊毛

一　產額

支那の羊毛產額を前項の羊の頭數より見る時は、大約六千萬斤即ち六十萬擔にして、之を主要產地別に示せば左の如

あるが、然し其採算が收毛量の增加のみによりて一概に有利であるとは云ふことが出來ぬ、即ち今日一頭當り二斤の收毛量に對して八角の收入ありしものが、改良種を飼養により該收入が倍加して一元六角としても、彼等の從來收得して居る毛皮よりの收入に比し必ずしも有利ではない、却ち一例を仔羊皮たる羔子皮、羔叉皮の場合に就て見るに、その表面にあらはれるカールの狀態にて一枚の相場よく五元乃至十一元を唱へ、其不良品でも一枚の相場七角乃至一元五角である。（資料第十六、支那毛皮編第二章毛皮各說（三〇）、及び第三章支那毛皮の品位及び相場）之に依つて觀れば每年一牝毛より一頭出生する仔羊皮により右の如き巨大なる收得を期する方が、例へそれが稀にあることであつても、斯る毛皮を取得する望みがない改良種により幾割かの收毛量の增加を期得するよりも、蒙支人の氣質として前者を選ぶが普通である。

是等の關係が優良なる改良種をして、未だ模範牧場や試驗場の外に多く出でしめざる所以である。

斯の如く優良種を一般に普及するには前途幾多至難とする問題が橫つて居る、然し羊皮及び前記の如き羔子皮の年產額約二千萬元內外であるが、改良種が普及せる曉羊毛の輸出增加額は假に現在の羊頭數竝に羊毛相場で推算するも八千萬元餘の增收である。改良種は速に試驗場を出で積極的に普及せらるゝことを要す、此點につき當事者の努力は實に多とするも、未だ見るべきものなきは如何であり、支蒙人の各地方獨特の牧羊事情にシックリ適合した方法により優良羊種が普及して支那羊毛の面目が一新する日は遠くはないであろう。

支那羊毛產額に關する諸調査を左に列記せん。

（イ）東洋拓殖會社高橋深藏氏調査（大正七年）

支那本部	三三二、七九〇擔	東三省	一一五、〇二〇擔
東部內蒙古	三九、三二〇	西部內蒙古	三〇、〇〇〇
外蒙古	一五〇、〇〇〇	青海	一二〇、〇〇〇
計	六八七、一三〇		

（ロ）農商務省小平權一氏調査（大正七年）

南滿洲新疆京兆外本部十八省	二四二、八四八擔	東部內蒙古	二九、四八六擔
西部內蒙古	一五、〇〇〇	外蒙古	七五、〇〇〇
青海	六〇、〇〇〇	計	四二二、三三四

（ハ）東亞同文會調査

地方別	套毛	散抓毛	玉毛	秋毛	計
甘肅青海	二四六,〇〇〇擔	—擔	—擔	—擔	二四六,〇〇〇擔
阿拉善蒙古	九,〇〇〇	—	—	—	九,〇〇〇
陝西	五,〇〇〇	—	—	—	五,〇〇〇
綏遠察哈爾	二六,〇〇〇	二,〇〇〇	三三,八〇〇	三,〇〇〇	六四,八〇〇
山西	—	一八,〇〇〇	—	—	一八,〇〇〇
直隸	—	二八,五〇〇	八,三〇〇	四,〇〇〇	四〇,八〇〇
山東	—	一五,〇〇〇	—	五,〇〇〇	二〇,〇〇〇
外蒙古	五二,〇〇〇	—	—	—	五二,〇〇〇
四川	三三,〇〇〇	—	—	—	三三,〇〇〇
河南	四,〇〇〇	—	—	—	四,〇〇〇

し。

地方別	產額	千分比
滿洲	一六、〇〇〇擔	二七
呼倫貝爾	一五、〇〇〇擔	二五
東部內蒙古	四五、七五〇擔	七六
外蒙古	一一四、〇〇〇擔	一九一
內蒙古	五七、二〇〇擔	九五
青海	七一、五〇〇擔	一一九
新疆、甘肅、陝西	一六〇、二六〇擔	二六六
直隸、山東、山西	五五、三二〇擔	九二
其他	六五、〇〇〇擔	一〇八
計	六〇一、八八〇擔	一〇〇〇

此內毛子絨毯等の原料として地方で消費せらるゝものは少くない、就中毛子は蒙古包の被覆として遊牧民の住居の保溫風雨雪を防ぐの用をなし、又蒙支人の敷物、帽子、足袋、靴等寒地に於ける住民の防寒上必要缺ぐべからざるものである。尙羊毛を以て造りたる是等製品に就ては別に詳記の積りであるからこゝに省略す。

斯の如くして地方で消費せらるゝものは約四割にして殘餘の羊毛は海外に輸出せられ其數量每年三十六萬擔を算す。

備考

張家口

庫倫	二五、〇〇〇擔	内蒙古	一〇、〇〇〇擔
玉毛	五、〇〇〇	秋毛	五、〇〇〇
皮抓毛	一、五〇〇	計	四六、五〇〇

赤峰

赤峰	一五、〇〇〇	直隷	五、〇〇〇
山東	五―七、〇〇〇	四川	三三、〇〇〇
計	六〇、〇〇〇		

抓毛

豐鎭	一二、〇〇〇擔	西口	一〇、〇〇〇擔
包頭	八、〇〇〇	東口	五、〇〇〇
計	三五、〇〇〇		

散抓毛

交城	五、〇〇〇擔	壽陽	五、〇〇〇擔
蔚州	四、〇〇〇	順德	二三、〇〇〇
周村	三、〇〇〇	計	四〇、〇〇〇

秋毛

交城	一、〇〇〇擔	壽陽	一、〇〇〇擔
包頭	二、〇〇〇	蔚州	一、〇〇〇
順德	二、〇〇〇	錦州	二、〇〇〇
其他	一、〇〇〇	計	一〇、〇〇〇

總計 四〇四、五〇〇

（く）Annual Wool Review (the National Association of Wool Manufacturers)

支那羊毛産額 四五、〇〇〇、〇〇〇擔（六千萬封度）

其他	—	—	—	—	—
合計	三九六、〇〇〇	六三、五〇〇	四三、一〇〇	一六、三〇〇	五四七、六〇〇

（ニ）日本殖産研究會調査（大正十一年）

本部十八省	三三〇、〇〇〇擔	東三省	一五、〇〇〇擔
東部内蒙古	四〇、〇〇〇	西部一帶	三〇、〇〇〇
外蒙古	一五〇、〇〇〇	青海	一二〇、〇〇〇
計	六八五、〇〇〇		

右の内二割の山羊を含むを以て羊毛總量は五四八、〇〇〇擔なり。

（ホ）久重福三氏調査

西寧套毛

丹噶爾	二七、〇〇〇擔	魯州爾	八、〇〇〇擔
貴德	一五、〇〇〇	上五莊	六、〇〇〇
永安	六、〇〇〇	拉卜楞	六、〇〇〇
計	六八、〇〇〇		

西寧套毛

平番	七、〇〇〇擔	中衞	七、〇〇〇擔
寧夏	二〇、〇〇〇	涼州	一〇、〇〇〇
甘州	一〇、〇〇〇	河州	八、〇〇〇
磴口	五、〇〇〇	王爺府	一五、〇〇〇
公家	一〇、〇〇〇	後套	一〇、〇〇〇
陝西	三、〇〇〇	計	一〇五、〇〇〇

歸化城

新疆科布多烏里雅蘇臺	四〇、〇〇〇擔

羊毛は春秋二回之を剪毛するを普通とすれど北部蒙古の如き氣候寒冷なる地方に於ては晩春(五六月頃)一回剪毛し秋季は之を行はず。春期の剪毛時季は各地方により又其の年の氣候により遲速あるも、普通清明節(陽曆四月上旬)より始め穀雨節(陽曆四月下旬)頃迄に終る。幼少なる緬羊は絨毛少く且つ春期に於て剪毛する時は夜間の冷氣を感ずること甚だしく、且つ雨露の爲めに羊體の發育を害し、時に發病斃死する恐れあるを以て、春は剪毛を行はず僅かに抓子にて、絨毛を搔き採り夏期に於て剪毛することあり。

秋毛は一般に白露秋分(陽曆九月)の頃より剪毛を開始す、又滿洲地方に在りては多く立秋(陽曆八月上旬)より處暑(陽曆八月下旬)の期間に剪毛される。

北部蒙古卽ち外蒙呼倫貝爾竝に察哈爾等の北部以北の地方に於ては一般に秋毛は採取することは稀にして、唯成熟せる羯羊に限り春秋二度の剪毛をなすことあり。

二　剪毛方法

羊毛を採取するに二つの方法がある、一は我花鋏の如き形狀を爲せる布切鋏を用ひて剪毛し、他は鐵製熊手樣の抓子を用ひて生體より絨毛を搔き取るのである。

剪毛を爲すは多く溫暖の日を選び、埃塵少き場所又は農家の前庭收穫物干場を淸掃し、豫め羊體を洗滌することなく汚穢したる儘緬羊を橫臥せしめ、膝にて羊の頭を抑へ左手を以て前左胸側部を攫み、右手に鋏を取り頸部より背部及腹部等に沿ひて順次剪毛したる後、反對の側に橫臥せしめ前記と同一方法を繰り返し、剪毛を終れば羊は何等手當を施す

二 收毛量

一頭の羊より剪取する羊毛の重量は、地方により又羊體の大小により固より一定して居ないが、一頭當り平均約一斤半である。

從來羊の收毛量に就て調査せるものは左の如し。

調査	地方	收毛量	
坪井清氏	呼倫貝爾	牡羊 三・一〇斤	牝羊 一・八六斤
マイスキー氏	外蒙古	牡羊 四・五〇	牝羊 二・〇〇
公主嶺農事試驗場	蒙古在來種	最大 三・七八	平均 二・四〇
山西模範牧場	山西在來種	最大 一・八七	平均 一・五〇
吉田新七郎氏	山東	大 三・〇〇	小 二・〇〇—一・五〇

「一般に成羊一頭當りの收毛量は三斤乃至二斤の見當にして、又牝羊の收毛量は牡羊のそれに比し半斤乃至一斤内外小なるが常である。然して牡羊は數に於て少く又採毛の出來ぬ仔羊が全羊の二割五分内外を占むるを以て、一頭當り平均採毛量は前記の如く一斤半と見て大過はあるまい。」

第二節 剪毛時季及剪毛方法

一 剪毛時季

は殆んど自然のまゝに委せらるゝ狀態では、前掲の實例は全然反對の結果を齎す譯で、羊毛は寒さの爲に自然に厚くなるけれど、長さが極めて不揃ひで、フリースの各部の差異も甚だしく、一般に短毛多く、又纖維の直徑も不同となるのである。又北部支那及び中部支那に於ては、牧羊は稍之と趣を異にし、氣溫は前記の地方に比し暖にして、管理も稍行屆き普通の注意を施すを以て、羊毛の品質は自然稍可良である。斯の如く氣候飼糧牧畜方法等の諸環境が、永年間に亙り羊に作用して、遂に今日の如く各地方每に、大體固定せる品質の羊毛を產する樣になつたものである。玆に於て支那商は羊毛の產地により或は採毛の季節により、或は採毛の方法及び形狀等により、極めて仔細に類別し、其稱呼によりて大體の品質を知りて取引をなす所以である。即ち採毛の季節により、春毛、秋毛、伏毛又は熱毛等、採毛の方法形狀により套毛又は大片兒、抓毛、散抓毛、挽子毛等之を更に產地又は主要集散地により、例へば套毛の場合に於ては西寧套毛、西路套毛等に分ち、又更に該地方の主要產地或は集散地により數種に分類す今之を圖示すれば。

- 套毛
  - 西寧套毛
  - 沖西寧毛
  - 西路套毛
  - 楡林套毛
  - 錦州套毛
    - 肅字套毛
    - 寧字套毛
    - 花字套毛
    - 中字套毛
    - 平番套毛
    - 甘字涼字永昌套毛
    - 鎭番套毛
    - 包字套毛
  - 蒙古套毛
    - 庫字套毛
    - 烏字套毛
    - 鶯字套毛
    - 海拉爾套毛
  - 寒羊毛

ことなく其の儘放牧す、熟練せる者に在りては一日五十頭内外の剪毛を爲すと謂ふ。

斯くして剪毛したる羊毛は一枚づゝ連ねて繩狀に撚り、又は其一頭分づゝを鄭重に折り疊み、五、六頭分を麻繩にて結束し、更に古麻袋に入れて保存するを常とす。

又抓子を以て採毛する方法あり、羊を横臥せしめ繩を以て前肢と後肢とを縛し、右手に抓子を取り毛竝みに從つて毛を掻き取るものにして抓毛、撒抓毛と稱するのが卽ち之である。

第三節　羊毛の種類

一　概　説

曩に記する如く支那に於ける羊毛の産地は廣域に亙りて、各地の牧羊上の諸要件は夫々甚だしく相違し、それに隨つて羊毛の品質も甚だしく變化せり。

現に毛質の悪い羊種でも飼粮を潤澤に給し管理に注意する時は、次第に品質が向上して、初め四十六番手のものも、三、四年の後には五十八番手乃至六十六番手の羊毛を採取することが出來るに至るものである。卽ち英國の高地種の羊を低地に飼養する時は、粗毛は漸次減少し、纖維の長さ及び直徑が平均し、光澤及び捲縮性が増大し、鱗は數を加へて顯著となり、羊の外觀迄も變つて來るは事實である。蓋し管理が行屆いて、羊は飼糧を得る爲に高地に在る時の如く體を勞すること少きが爲である。

之に依つて觀れば内外蒙古及び西部支那の如き冬季沍寒の地方で、牧草は稀薄なる上に管理は極めて粗放にして牧羊

類するか如き之れである外商の輸出羊毛の分類は彼等の永年間の研究に基き、需要者側の要求をも斟酌して、それ〴〵獨特の方法によるも大體

Hsiru Rope Wool 西路套毛

Hsining Rope Wool 西寧套毛

Ball Wool 抓毛

Open Ball Wool 散抓毛

Lamb Wool 寒羊毛

等支那市場に於て用ひらるゝ名稱を其儘用ひ、同一又は近似の品質のものは右の内の何れかに入れて輸出す。

又或ものは支那商の分類方法其儘を用ひ仔細に分類し、それによりて更に等級を付す、例へば庫字套毛一等品二等品と分つが如きは之である。

二 套毛

冬季嚴寒の候羊の體を保護せし長くして密生したる羊毛は、陽春の季節に至り脱落せんとするを以て、之に先立ち剪毛せるものにして、形狀が羊の體の形に從つて一枚になつてをるから支那人は之を套毛と云ふ、即ち Fleece Wool である。

套毛は輸送中の拔荷及び脱落を防止する爲普通梱子と稱して一枚づゝ連續して繩狀に撚り出市するを以て、外商は之を Rope Wool と稱して居る。又繩狀に撚らずして套毛を其儘一枚々々積み重ね荷造りを爲し市場に搬出する事も少く

- 支那羊毛
  - 春毛
    - 抓毛
      - 豊字抓毛
      - 城字抓毛
      - 包字抓毛
      - 東口抓毛
    - 撒抓毛
      - 壽陽撒抓毛
      - 順徳撒抓毛
      - 交城撒抓毛
      - 周村撒抓毛
      - 蔚州撒抓毛
  - 秋毛
    - 交城秋毛
    - 封陽秋毛
    - 蔚州秋毛
    - 西路秋毛
    - 順徳秋毛
    - 錦州秋毛

此外に羊皮を鞣す前後に羊皮より抓子を以て搔き取りたる羊毛に皮抓毛(水抓毛)あり、又毛皮の切屑より鋏にて剪去したるものを刮肢毛と云ひ、又仔羊の毛を採取したるものを羔羊毛と云ひ、抓毛を採取したる後に残りたる粗毛を、鋏にて剪取せるものを荏子毛と稱する等あるも、是等は數量も大ならず輸出商品として價値なきを以てこゝに省略す。

又羊體より刈取つたまゝの羊毛にして故更に土砂を混入せざるもの、及び挾雜物を篩いて除出したる羊毛を淨貨と稱し取引上特に區別す。

以上は支那羊毛分類方法の概要であるが、各地方市場では其地方の獨特の實狀に應じて、又夫々特種の分類を有す、例へば南滿洲地方に於ては單に春毛秋毛の二種に分ち、又錦州に於ては春粗羊毛、春細羊毛、秋粗羊毛、秋細羊毛等と分

西路套毛は綏遠及甘肅に產し包頭市場に出廻る套毛にして、包頭附近所產のものを除けば概して、纖維細く强力あり品質は支那羊毛中優良の部に屬し、從來本邦に輸入せらるゝものは主として此種の羊毛である。

A 肅字套毛

甘肅省肅州附近の產にして、肅州を以て集散地となすにより此名あり、纖維細くして强力あり本邦毛織業者の需要に最も適合せり。

B 寗字套毛

甘肅省寧夏附近の產毛にして寧夏に集散するものである、品質略前者と同等なれど脂肪の附著多くして步留り良好ならず。

C 花字套毛

陝西省花馬池附近の產毛にして品質寗字套毛に類似するも稍粗なり。

D 中字套毛

甘肅省中衞附近の產毛にして、品質花字套毛と同等なり。

E 平蕃套毛

甘肅省平蕃附近の產毛にして、上記四種の套毛に比すれば纖維粗く製絨用として品質劣れども、冲西寧毛としての價値は上位にあり。

F 甘字、涼字、永昌套毛

甘肅省甘州、涼州、永昌附近の產にして、品質平蕃毛に類似するも稍下位にあり。

ない、之を大片兒と謂ひ、產地名を冠し例へば甘州產のものを甘字大片兒と稱するが如し。

但し大片兒は荷造不便にして運送中拔荷の危險も多きを以て概ね地方輸送の場合にのみ行はる、套毛は產地或は集散地名を冠して取引上大體の品質を知るに便す、尙其上に等級を呼ぶことあり、例へば西寧頭等と云へば西寧套毛の一等品の意にして中字二片と云へば中字大片兒の二等品を指すが如きである。

イ 西寧套毛

西寧套毛は甘肅省西寧附近及青海一帶の高原に產し、西寧市場に集散するもので、包頭に於ては山毛と云ふ、蓋し青海山地產の意であろう。

西寧套毛は支那羊毛中纖維最も粗長にして張力あり、且つ光澤に富み、カーペット・ウールとしての特牲をより具備せるを以て、套毛中の上位に在りて、產額各種羊毛中第一にして、其取引は重要視せられ、價格最も高く天津羊毛相場の標準となつて居る。

ロ 冲西寧毛

冲西寧毛と稱するは西寧套毛に類似のものゝ意にして、西寧套毛以外の羊毛にして毛質之に近きものを云ひ、西寧套毛が右の如き地位を占むる關係上、それに亞ぐ羊毛として取引上の利益を享受せんとするものである。

ハ 西路套毛

へ 蒙古套毛

內外蒙古は地域廣汎にして地方により多少氣候風土の差異あるも、氣候の寒冷なること、羊の飼養管理の粗放なること等に於て地方的の差異なし、隨つて羊毛の品質は大同小異と云ふべく、毛質は一般に粗硬にして長短不揃ひで粗毛及び死毛多し。

A 庫字套毛

庫倫を集散地とせるものにして纖維粗硬にして死毛多し。

B 烏字套毛

烏里雅蘇臺に集散するものにして、纖維庫字套毛に比し稍細柔、死毛あれども蒙古羊毛中品質最も優良なりとす、從來我毛布製織原料として使用せられしものである。

C 營字套毛

西部蒙古所產にして主として、科布多に集散するものを云ひ、品質庫字套毛と大差なし。

D 海拉爾套毛

海拉爾毛は呼倫貝爾及び東部外蒙古產の羊毛にして、毛質粗硬で死毛多く彈力に乏しく、挾雜物を混入し且つ色毛多く品質は不良である、加之露西亞式に洗滌せらるゝ爲商取引上特種の地位を占む。

ト 寒羊毛

G　鎭蕃套毛

甘粛省鎭蕃附近及び蒙古産のものにして此地に集散するものにして、纖維細長く脂肪少くして白色を呈すれども强力少し、土砂の混入甚だしくして土篩の步留り惡きも、水洗の成績は良好にして本邦向としては從來不適當なりとせらる。

H　包頭套毛

包頭附近の産毛にして品質槪して粗惡なり、價格は他の西路套毛に比し低廉なるにより、此地に於て改裝する際之を混合して價格を低下するに用ふ、故に包頭に於て改裝せる西路套毛は、各原産地名を冠すれども實際は品質相違し著しく劣等なるものとす。

ニ　楡林套毛

陝西省楡林を集散地とする鄂爾多斯高原の産毛にして、纖維短くして粗剛、脂肪死毛多く特種の品質なり。

ホ　錦州套毛

錦州に集散する套毛の總稱にして産地により品質不同なれど一般に粗毛である、殊に赤峰を經由して來集するものは東部蒙古産の羊毛にして纖維粗硬にして死毛多く、品質庫字套毛、營字套毛と大差なきも之より稍良好なるものゝ如し、錦州附近所産のものは品質比質的優良にして、錦州に於ける標準羊毛とす、脂肪多く纖維は稍太くして强力あり、本邦では從來主として毛布製織の原料として使用せり。

（A）後山抓毛は豐鎭附近後山に産し形が大にして、脂肪の附著少く、毛色稍々帶黑色なるも品質は佳良である。
（B）明安抓毛は察哈爾の明安産にして、玉が小さく纎維細く、毛色白きも時として脂肪を多く含むことがある。
（C）大市玉毛は品位の名稱にして、此玉毛は前二者の中間に位す。
（D）家生毛抓は家飼羊より採取せる抓毛の意にして品質は上等である。
（E）大廠抓毛は官設の牧場羊に産する抓毛の意にして品質は家生抓毛に及ばない。

ロ　城字散抓毛

城字抓毛は西口抓毛とも稱し綏遠歸化城一帶に産し、品質は豐字抓毛に次ぐ。

ハ　包子散抓毛

包字抓毛は綏遠包頭一帶に産し、毛質粗にして品質は西口抓毛に次ぐ。

ニ　東口抓毛

東口抓毛は東部察哈爾及直隷省北部一帶に産し、張家口に集散するものにして、死毛及土砂の混入多きを常とし、品質は抓毛中最下位にあり。

四　散抓毛

直隷河南山東省に產する特種の套毛にして、外商は之を Lamb Wool と稱す、纖維細くして捲縮性に富み光澤あり挾雜物も少く支那羊毛中品質第一位に居る。直隷省辛集鎭、順德は其有名なる集散地である。山東省東昌府の產毛は品質最も優良なりと云ふ、直隷省御河沿岸に產するものを御河寒羊毛と稱し、泊頭を經由して天津に出廻る、品質寒羊毛に比し稍異り、纖維西路套毛に類似し脂肪多し。

從來邦商により小量づゝ我國に輸入す。

三　抓毛

抓毛は山西直の隷北部及び包頭附近に產し、清明節前後抓子又は鉤子と稱する鐵製熊手樣のものを用ひ、羊體より毛を掻き取りたるものにして、抓毛單兒又は毛且兒とも稱し、採取後球狀に束ね居る爲外商は Ball Wool（玉毛）と云ふ。

抓毛の採取は右手に抓子を使用し左手に毛を受け、粗毛死毛挾雜物の多き部分は縒りを加へて繩狀となし卷き込み、其外面を絨毛多くして挾雜物を含まざる部分を以て包み、一個の大きさは直徑三、四寸重量は普通二十匁內外なり。

玉毛の外部を包む上等品のみを集めて取引することあり、之を市場では頭路貨又は挽子毛と稱し、內部の繩狀をなす部分は長さ一尺內外にして前者に比し品質甚だしく遜色あり之を二路貨と稱す。

イ　豐字抓毛

豐字抓毛は豐鎭一帶に產し、品質概して上等で、就中後山及び明安抓毛を最上とし、其他大市抓毛、家產抓毛、大廠抓毛等有名なり。

ホ　順徳散抓毛

順徳散抓毛は直隷省西南部、河南省北部、山西省東部地方の產毛にして、順德に集散するものにして品質概して粗惡なる上に脂肪及土砂の混入多く買付極めて困難とす。

五　秋毛

秋毛は絨毛なく毛足短きも長さが一定し脂肪少く叉挾雜物も少くして春毛と全く趣を異にす。斯る特種の品質を有する關係上、秋毛は絨毯及び毡子の原料として好んで使用せられ、海外に輸出せらるゝことは極めて稀である。

秋毛は前表に示す如く集散地名を冠して產地により區分して取引せらる。

第四節　支那羊毛の品質

一　羊毛の構造

羊毛の品質は纖維の長さ及び直徑の大小、重量、鱗及び捲縮の多少、水分脂肪分の多少、强力、伸度及び彈力の大小色澤、軟硬等により定まる。

羊毛について知る爲には先づ其構造を明にして置かなければならぬ、羊毛は皮の中層にある毛根より發生せるコロイ

散抓毛は直隷山西山東に產し、採毛時期は清明節前後こにて、抓毛と同じく抓子を以て羊體より搔き取るも、其抓毛と異る點は採取の方法及形狀にして、纖維は細粗良否の別なく混交し彼の樣に玉狀をなさず、外商は之れを Open Ball と稱してゐる。

イ　交城散抓毛

交城散抓毛は山西省、西北部陝西省東部の產毛にして交城を集散地となす、品質は順德散抓毛より良好にして、稍套毛に近き性質を帶び脂肪多く死毛も亦少からざるも、毛布用として使用出來るものゝ如し。

ロ　壽陽散抓毛

壽陽散抓毛は山西省壽陽一帶の產にして、纖維細くして强靱、品質散抓毛中第一位にして順德に集散す。

ハ　蔚州散抓毛

蔚州散抓毛は直隷省蔚州一帶に產して品質壽陽散抓毛に次ぐ。

ニ　周村散抓毛

周村散抓毛は山東省周村一帶の產にして、同地では挫毛と稱す、脂肪多く且つ產地の土色を帶び外見不良。

ロ　楕圓形細胞部

楕圓形細胞の群集せる細胞層にして、羊毛組織の主要部分を形成し之を Cortec と稱し、主として羊毛に强さと彈力性とを付與するものである、纎維が細い時は此部分の發育が均一なるを得ず、多少一側に偏する傾向あり爲に纎維を一側に捲縮して波狀の外觀を呈せしめ、フエルチングを助くる作用をなす。

ハ　小纎維部

羊毛の中心を構成する圓形細胞の集合せる小纎維層よりなり、Medulla又は Fibrillae と云ふ。

此中心組織の直徑は一定せず、時には毛徑の四分の一乃至三分の一を占め、又時には全く之を缺ぐことあり。

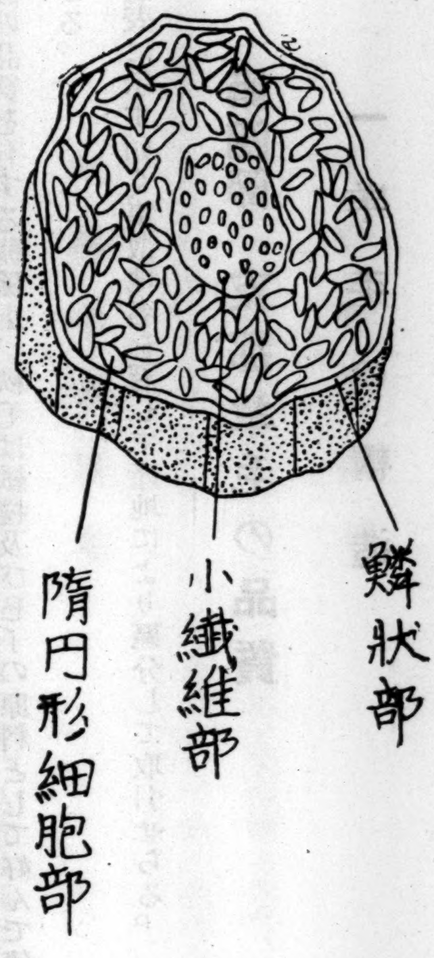
抑々此小纎維組織は毛の發育中是によりて毛根より液汁を供給し其發育を促し、又纎維に多孔性を付與し毛細管作用を遂げて、染料其他の溶液を吸取して漸次中層へも普及せしむるにあり、尤も鱗の間にも溶液は吸收保有せらるゝは勿論である。

之を要するに以上の羊毛を構成する三つの部分は、化學的物理的にそれ〴〵異つた作用を呈するを以て、其處理に際し此組織の如何は重要なる關係を有することを知る。

二　長　さ

羊毛の重量一封度の中には約百萬本の纎維あり、然も各纎維の長さ及び直徑には著しき差異を有す、然れども其内よ

ド物質の一種にして、之を形態上より見る時は圖の如く三つの部分よりなる、即ち鱗狀部、楕圓形細胞部及び小纖維部之である。



イ　鱗狀部

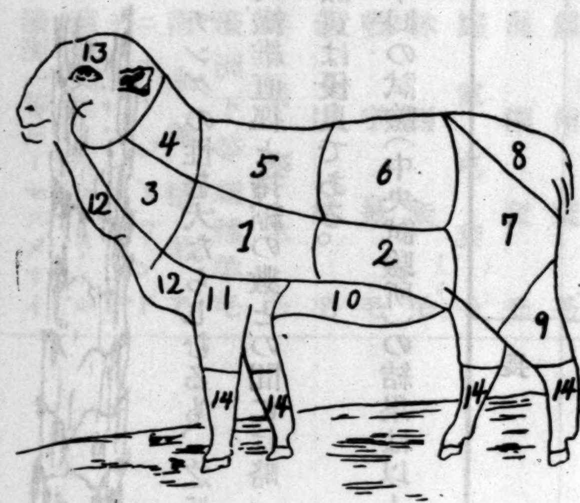
外部を構成する角質鱗狀の物質にして之を鱗 Scale と呼び、其鱗が纖維の外部を包み、鱗の端は鋸齒狀の切斷面を呈し羊毛の硬度竝にフエルチングの性能を助く。鱗が纖維に附著せる狀態は一樣ならず、一枚の鱗にて之を圍繞するものあり、又二枚以上の鱗が之を圍繞することもある、又外國の優良羊毛の鱗は其尖端が三分の一位纖維より離れてをるも、支那羊毛は其尖端が恰も纖維に癒著せる觀を呈す。尙本項に就ては後段に詳記することにしよう。

(11) 短かけれども細き毛を生ず。

(12) 短くして且つ磨滅せるもの多く、特に死毛を混ずること最も著しき部分なり。

(13) 短く加ふるに太くして性粗硬なり。

(14) 最も劣等の毛を生ずる部分である。



三　鱗と捲縮

羊毛を顯微鏡下に見る時は、其表面は無數の銀の如く光る鱗を以て覆れ極めて美觀を呈す、其鱗の性狀及び數の多少は、直に羊毛の品質に重大なる關係を有し、鱗の數の多きものは之に從つて捲縮も多く、纎維の直徑は細くして品質可良であるが、之に反するものは品質劣る實に鱗の狀態で羊毛の品質の分類が出來る位のものである即ち

(イ)　鱗が質堅くして其尖端が纎維に密著して居るものは、粗毛の程度に近く光澤に富み下等の羊毛である。

(ロ)　鱗の數が前者よりも多く其素質は柔で尖端が稍纎維より分離せるものは、品質前者に優るものである。

(ハ)　鱗が美麗で數が多く軟で其尖端の三分の一位遊離せるものは纎維が美し、メリノー種及び其雜種羊毛は之で最も品質可良のものである。

支那羊毛は大概ね(イ)に屬し、鱗の數は少くして象牙の樣な緻密な肌理をして質堅く、且つ其尖端は纎維に密著せる

り比較的外形の整つたものをとりて試驗する時は、其處に羊毛の品質と長さ及び直徑との關係を知るべき、大體の平均數を得ることが出來る。

支那羊毛の如き粗羊毛は殊に均一を缺ぐを以て、斯る試驗が直に毛織工業原料としての價値を明にするものではないが、之により科學的に大體の傾向なり多少の變化なりを知ることは無意義ではない。蓋し是等の研究を徹底する時は他種のフリースの內から、同一品種のものを集むることも强ち不可能でない、之により大量生產の毛織物原料としての支那羊毛の價値を向上せしむる等のことも考へらるゝからである、現に天津の有力なる外商は此點に著目し、永年に亙り組織的に研究を續けて居る事實あるに見て明である、羊體各部分に於ける毛の長さの關係を知る參考に資する爲め左にメリノー種の場合に於ける例を示さんに、

(1) は羊の肩部に當り其毛長く且つ細く加之長さ凡そ一定せり。
(2) 前者よりも强く細長き毛を生ず。
(3) 頸部にして(1)よりは短きも甚だ細き纖維なり。
(4) (5) 稍品質劣り長さ亦一定せず。
(6) 太くして短き毛を生ず。
(7) 長くして强き毛を生じ普通房狀に群生す。
(8) 最も太く且つ强き毛を生ずる部分にして死毛を混ず。
(9) は(7)に類する强き毛を生ず。
(10) 短く且つ不潔物の附著せるもの多し。

庫倫套毛	一〇・九	四二〇	〇・〇四六	五・一	稍粗硬
薊字套毛	一五・五	—	〇・〇四六	四・九	稍軟
錦州套毛	九・八	三五五	〇・〇四二	五・六	稍粗硬
洮南套毛	一一・七	四二五	〇・〇四六	五・七	稍硬
鄭家屯套毛	六・八	三五〇	〇・〇四八	五・六	同
林西套毛	一一・九	四四五	〇・〇四七	五・五	同
豊字抓毛	一〇・一	—	〇・〇四一	五・三	同
包字抓毛	九・八	四六〇	〇・〇四二	六・七	同
辛集寒羊毛	一一・九	四三〇	〇・〇三六	八・三	柔軟
濠洲下等雜種羊毛	一〇・六	三四〇	〇・〇四八	四・九	稍粗硬
南米雜種羊毛	一二・六	五八七	〇・〇三八	九・六	稍硬
ニュージーランドクラッチング	二四・九	五四〇	〇・〇四八	四・五	同
蘇蘭土カーペットウール	一二・三	五四〇	〇・〇四四	七・七	粗硬
濠洲一等ピーセスメリイ	一四・一	六六〇	〇・〇五一	一三・四	柔軟

備考

（イ）長さは糎を單位とし三十回平均價とす。

（ロ）鱗は一糎間の數にして十回の平均價とす。

（ハ）直徑は粍を單位とし十回の平均價とす。

（ニ）捲縮ハ二・五糎間の數にして三十回の平均價とす。

右は供試羊毛が完全でなかつた爲め充分と云ふことは出來ぬが、鱗及び纖維の直徑と捲縮との間の大體の相互關係を知ることが出來る、又蒙古方面に産する羊毛は、纖維は太く捲縮數は少く且つ稍粗硬なる傾向を有することを知る。

か又は極めて僅かに離れて居る。

錦州羊毛



濠洲メリノー種



圖は其大體の傾向を示す爲めメリノー種の鱗と錦州羊毛のそれとを比較したものでがる、卽ち支那羊毛の表面が平滑にして優良羊毛の鱗が不規則にして凹凸多く、表面粗鬆にして光線を吸收する面多きに比し甚だしく趣きを異にする所以である、捲縮性は羊毛の最も有用なる特性で、品質の相違によりて其數が增減してをるは注意すべき現象にして、概して粗羊毛は捲縮少く優良羊毛は之の多きを常とす。

然も羊毛の捲縮性は鱗の性狀に影響せらるゝこと多く、若し鱗が輕く重り合ひ其尖端が遊離して居れば、纖維に捲縮性を齎らし柔軟にしてフエルチングの性を大ならしむるも、之に反する時は質堅硬にして撚れ難く又縮絨し難し、支那羊毛は卽ち後者に屬す。

又纖維直徑と捲縮の數との間には略一定せる關係あることは既に廣く認めらるゝ處にして、纖維の細き程捲縮數は多く品質は優良である。

今回の試驗(中央試驗所)の結果は以上三者の關係を左の如く如實に示して居る。

	長さ	鱗	直徑	捲縮	硬軟
西寧套毛	一一・九	四八〇	〇・〇四三	五・二	稍硬
西路套毛	九・八	四〇〇	〇・〇四〇	六・四	同

庫倫套毛	一五・九	一七・五	包字抓毛	一六・三	一七・七
肅字套毛	一五・九	一九・九	辛集寒羊毛	一一・五	一六・四
錦州套毛	一八・六	一六・五	濠洲下等雜種羊毛	二四・九	一六・九
洮南套毛	一六・四	一六・三	南米雜種羊毛	二三・八	一六・四
鄭家屯套毛	一六・三	一九・五	ニュジランドクラッチング	二六・八	二一・一
林西套・毛	一二・三	九・二	蘇蘭土カーペットウール	二二・五	一九・五
豐字抓毛	八・一	九・四	濠洲一等ビーセスメリイ	一二・九	一九・七

備考

イ　强度單位瓦。

ロ　伸度單位粍。

ハ　長さ五糎にして溫度は攝氏の二〇・四度、關係濕度七二・五％の室内にて試驗せり。

蒙古地帶に産する羊毛は强度伸度共に支那の他の地方に産するものに比し優るも、外國の相當品に較ぶる時は特に强力に於て支那羊毛が著しく遜色あるは注意すべき現象である。

五　光澤色彩及び脂肪

イ　光　澤

羊毛の光澤は羊の飼養法と羊毛の性質とによりて一定せず、主として鱗の狀態及び纖維の透明度に關係する處多し、鱗が粗硬にして纖維に密著しをる爲め光澤に富むものは、庫倫套毛、洮南套毛等北部蒙古の極寒の地方に産するものに

四 强度彈力及び伸度

イ 强 度

羊毛の强度は其直徑とは比例して居ない、蓋し先に記するが如く、羊毛の强度は楕圓形細胞部の掌る處なればなり。

附表に見るが如く支那羊毛の强力が、概して劣つて居るは其利用上注意すべき點である。

ロ 彈 力

羊毛を緊張して一端を放つ時忽ち原形に捲縮するは羊毛の彈力性である、一般に羊毛の彈性は染色に關係するもの〻如く、彈性乏しきものは染色力少き傾向あり。

普通羊毛の彈性は纖維の全長の〇・三乃至〇・五%に當り、之以上に及ぶ時は其力を弱くし物理的に其構成を破るに至る。

ハ 伸 度

羊毛の伸度はそれが含む濕度の大小に關係する處多く、濕氣を含むこと多きものは伸度の値は大となる傾向あり。

	强度	伸度
西寧套毛	九・二	九・四
西路套毛	九・六	一六・一

錦州套毛	一•八八	同上
鄭家屯套毛	二•一二	白色にして光澤に乏し淡黄色の粗毛を混ず。
林西套毛	二•二一	白色にして光澤に乏し黄色及黒色の粗毛を混ず。
豐字抓毛	一•一三	淡黄色にして光澤あり。
包字抓毛	二•八七	同上
辛集寒羊毛	一•四一	白色にして光澤あれども毛端褐色の部分あり。
濠洲下等雜種羊毛	一•八六	淡黄色にして光澤あり。
南米雜種羊毛	二•五二	同上
ニュジランドクラッチング	三•九三	帶黄白色にして光澤に富む。
蘇蘭土カーペットウール	一•六一	淡黄色にして光澤に乏し。
濠洲一等ピーセスメリノー	三•九二	白色にして光澤あり。

六 水分

羊毛は甚だ吸水性に富みて常に水分を含有し、之に熱を加ふれば乾燥するを以て減量すれど、此乾燥毛を大氣中に曝露すれば漸次再び吸水して、初めの含水量に復歸するが常である。從つて乾燥せる日には例へば一二%の水分を含むのも、濕潤せる天候には二〇%乃至三〇%を含有することあり、然も各種類によりて其吸水量は相違す、支那の奸商は羊毛の此特性を惡用して、賣買に際し重量を增加する爲め時に故意に過分の水分を含ますことさへあり、羊毛の含水量はそれが賣買上竝に毛織工業上に極めて重要たる關係を有す。

支那の代表的羊毛に對する試驗の結果は次の通りである。

多くして、寒羊毛は透明度の關係より光澤を呈す、其他の地方産のものは概ね光澤に乏し。

ロ　色

羊毛の色は羊が飼養せらるゝ土地の狀態に依つて變化す、草の繁茂する地方に育てられたるものは概ね白色を呈し、砂地及黃土の地に飼はれたるものは概ね帶黃色である、庫倫套毛、西路套毛、西寧套毛、鄭家屯套毛、林西套毛、等蒙古産のもの及び農耕地帶に産する寒羊毛は白色で、毛端のみが淡黃或は淡褐色を呈するが特徵である、肅字套毛、錦州套毛、豐字抓毛、包字抓毛等は淡黃色である、尙地方により黑色或は褐色の斑を有する羊が居り、殊に海拉爾地方には黑色のもの多く、それが白色毛の内に混じて市場に出廻り、商品としての價値を殺滅すること尠からず。

ハ　脂肪

羊毛の發育を保護し且つフェルチングをなさゞらしむる爲め、羊毛には脂肪を含有す、支那羊毛は概して脂肪少きも寒地産のものは稍多き傾向あり。

	粗脂肪	色澤
西寧套毛	一・五八	白色にして光澤に乏し黃褐色の纖維を混ず。
西路套毛	一・八一	白色にして光澤に乏し淡黃色の粗毛を混ず。
庫倫套毛	二・八五	白色にして光澤あり毛端淡黃色を呈す。
肅字套毛	〇・八八	淡黃色にして光澤に乏し。

七　粗毛及び死毛

イ　粗　毛

粗毛卽ちヘヤーの多少は羊毛の品質に重大なる關係を有す、凡そ羊は其の飼養管理の如何並に氣候風土の如何により て絨毛卽ちウールも粗毛に變化するものである。

絨毛と粗毛は種類と云ふよりも寧ろ程度の相違にして、科學的に此兩者を區別することは至難である、卽ち兩者の組織は全然同一にして、唯粗毛は捲縮がなく又鱗全體が纎維の表面に密著して居て、絨毛のそれの如く鱗の上端の一部が纎維より離れて、外側に向ひびら〳〵して居るに比し異るのみである、故に實際に於ては或種の粗毛は絨毛に酷似し、又或種の絨毛は粗毛に近似し見分けが困難なるものあり。

支那に於ては羊の飼養管理方法が、極めて粗放にして且つ概して寒氣峻烈なるを以て、粗毛を多く生ずるは止を得ざる次第である、蒙古地帶に產する羊毛に於て粗毛を含有すること殊に多くして、三〇％內外より五〇％を越ゆるものあり、少きも一五％乃至二五％內外を算す。

寒羊毛の如きは比較的暖地に產し、管理も行屆ひて居るので、之と非常に事情を異にして、粗毛が僅かに四％位であることも首肯せらるゝ處である、然し之等粗毛の少い羊毛は、全數量から見れば僅少のものであるから、支那羊毛全體とすれば所詮粗毛の含有量多くして、濠洲南米產の雜種羊毛さへ粗毛を含有せざるに比し、其品質に影響する處至大なるものあり。

西寧套毛	一一・一二%	西路套毛	九・二一%
庫倫套毛	一〇・三〇%	肅字套毛	一〇・四一%
錦州套毛	八・八九%	洮南套毛	一〇・七五%
鄭家屯套毛	一二・四四%	林西套毛	一一・〇一%
豐字大套毛	九・九六%	包字套毛	一〇・一四%
辛集寒羊毛	一〇・九六%	濠洲下等雜種羊毛	一二・一〇%
南米雜種羊毛	七・三九%	ニュジーランドクラッチング	一三・二五%
蘇蘭土カーペットウール	一二・七九%	濠洲メリノーウール	一一・六五%

但し温度は攝氏二〇・四度濕度七二・五%の室内にて試驗す。

斯の如く羊毛の水分は各種類により一定せざるを以て、賣買に當つて往々紛議を醸すことあり、玆に於て氣候濕度を斟酌して夫々一定の公認水量を定め取引の圓滑を期するを常とす、日本に於ては支那羊毛の公認水分を普通一六%とす因にブラッドフォードに於ける公認水量左表の如し。

品種	公認水量率	品種	公認水量率
洗上羊毛	一六・〇〇%	脂付トップ	一九・〇〇%
ノイル	一四・〇〇%	乾燥トップ	一八・二五%
毛絲(乾燥又は脂付共)	一八・二五%	毛織物	一六・〇〇%

八　夾雜物

支那羊毛自體の品質に就ては以上記する處によりて大體之を盡したるが、支那羊毛の品質を考慮するにつき特に重要なるは夾雜物の點である、羊毛は羊體にある間に既に糞尿に汚れ土砂塵埃等を混入し、殊に剪毛季竝に之が市場に搬出する季節は、所謂蒙古風の吹く頃で烈風は連日砂塵を卷き上げ、刈り取つた羊毛も更に土砂を混入せらるゝのである、斯の如く自然に附著する夾雜物は已を得ざるとするも、支那商は利を計るに急なる爲重量を增加する目的を以て荷造の際故意に混入することあり、其の方法は數十年來の經驗と研究とにより極めて巧妙である、例へば白色の羊毛には白砂黃色を帶ぶるものには黃砂を混入して、一見識別を困難ならしめ、或は羊毛に水を注ぎ土砂を散布し、之を羊毛に固著せしめて、其混入多からざるが如く裝ひ、篩に掛るも容易に落ざるものあり。或ひは土砂を綯り込める繩を包裝に用ひ斤量を增加するが如き枚擧に遑あらず。錦州の如きは天津に移出する羊毛の荷造をなす場合、必ず二割以上の砂を更に混入するを以て習慣とせるが如き、只一時を糊塗し斤量を瞞著すれば足れりとなし、其爲に羊毛の品質を害するが如きことは素より介意する所ではない。

土砂の混入程度は品物により異り、或は對成貨と云ひ、四六貨と云ひ、三七貨と云ふ。即ち夾雜物五割、四割、三割を含む羊毛の意である。之によつて羊毛鑑定の如何に困難なるかを知るべく、如何なる經驗努力によるも、斤量上の誤差を免るゝことを得ず。若し夫れ其の差大ならんか不測の損失を蒙ることゝなるのである。

第五節　支那羊毛の鑑定方法

ロ 死 毛

死毛はケンプと稱せられ、其成分は普通羊毛と異る處なし、單に物理的組織の變化せるものにして、それが纖維の內部から來て居るものと、單に外部のみの變化に起因するものとあり、後者は鱗がなくして纖維の表面が角質のものを以て一面に被覆せられ居るも、內部の楕圓形細胞部及び小纖維部は變化せず、顯微鏡下に見る時は內部の狀態を明確に認めることが出來る、此程度のものをフレートケンプと稱し、注意して取扱ふときは染色することが出來る、蓋し色素が細胞部を毛細管作用によつて浸入して行くが爲めである。

前者は內部の組織から全部破壞せられたるものにして、纖維は短き傾向あるも直徑は大で鱗は完全に存在せず、不透明にして白色を呈し彈力性なり、脆弱にして捲縮なく、其の上に最も困つたことには吸收性を持たぬ爲に染色不可能にして、毛織物に仕上げた際此死毛だけは著色せずして殘り、その外觀を損すること甚だしく、死毛の存在は毛織物業者の最も嫌忌する處である。

良種の羊には先に記するが如く、死毛は長毛から短毛に移る、頭部、脚部等の或限定せられたる一部分に固つて稀に見るのみであるが、支那の如く管理が粗放なる上に氣候寒冷にして飼料の豐富でない地方に於ては、死毛が全體に散在し或部分では殆んど死毛のみを以て覆はるゝ箇所さへあるのである。

東部蒙古及び北部蒙古に產する羊毛は特に死毛多く、粗毛の場合に記する處と大體同一の傾向あり、寒羊毛に至つては稀に存在するのみである。

斯の如き鑑定方法によれば必ずしも取引が安全であると云ふことは出來ぬ、何となれば觸覺視覺なるものは絶對的のものでなく、鑑定人の其時々々の氣分により一定せず且つ支那商の羊毛に對する奸策は前述の如く計るべからざるものあり、然も羊毛は賣渡先の工場に於て洗上げられたる步留りを輸出商に於て保證する慣習あり、即ち需要者は羊毛を水洗の上脂肪夾雜物を除去し乾燥せる純毛の量により受渡し、然も之れが買付に際しては見本俵の外は解裝することなく土砂の混入せる包裝のまゝ賣買が行はるゝものなれば、毛質必ずしも見本と一致せず。且つ包裝中に混入せる土砂の分量如何、土砂を篩ひ落したる汚毛の水洗步留に對する見込等、他の商品が單に品質の鑑定或ひは銘柄のみによりて賣買行はるゝに比すれば、二重三重の危險を負擔するが爲め、其の取扱は簡單に行はるべきに非ず。相當の經驗を積むものと雖も、尙時に過失あるを免れず。其鑑定には極めて愼重を要するものとす。

第六節　支那羊毛の缺點

凡そ支那羊毛が輸出商品として取扱はるゝことになつて以來、既に數十年の歷史を有するに拘らず、以上述ぶるが如き品質上の缺點は何等改めらるゝ處なく、羊種改良の唱へられざるに非ざるも未だ實績の見るべきものなし、殊に近年の如く國內の動亂打續きては、永年に亙つて築かれた取引組織は破壞せられ、出廻りは阻碍せられ、何れの方面に於ても退步こそあれ見るべき進步はない、今改めて支那羊毛の缺點を列擧すれば、

一　ソーチング缺如及び格付の不備

支那羊毛は品質により分類せらるゝことなく、細粗强弱長短一定せず又死毛が其間に錯離混交して品質一定せず、自

支那羊毛の品質につきては科學的に研究せられたるものなく、隨つて其取引に際しては永年の經驗に基き單に視覺觸覺に訴へ品質の決定をなすのみである、其場合標準となるべき事項は各用途により一定しないが大體、

纖維の細粗

纖維の長短

纖維の硬軟

彈力の有無　　彈力あるものをよしとす。

捲縮性の多少　　捲縮の多きをよしとす。

强力の多少　　最も重要なる點にして病疾等の爲に纖維の一部に脆弱なる處あるは不良である。

色　澤　　雪白にして光澤あるをよしとす、黄色の浸潤深きものは不可なり。

死　毛　　少きを可とす。

夾雜物、脂肪、色毛、水分　　少きを可とす。

套毛の多少　　套毛多ければ選毛上に利ありよしとす。

右の諸項に從ひ小樣子即ち見本俵に就きて愼重に鑑定をなしたる上取引せらる。

（イ）套毛大片兒の場合は小樣子を改裝し繩狀なるは之を解き、土篩ひして步留り色毛の割合を驗し、觸覺視覺により品質を鑑定す。

（ロ）抓毛は小見本の各俵より數個を取り出し、一々解きて頭路貨と二路貨に分ち、又散抓毛、秋毛等は小樣子を全部解裝し套毛の場合と同樣の方法により品質の鑑定をなす。

就ては次項に詳記することにしよう。

第七節　支那羊毛の用途

支那羊毛の絨毛はよい性質を具備し五十八番手位の絲は優に紡ぐことを得れど、粗毛と死毛が多く混交して纖維が不揃ひである、爲に纖維が平行し互に鱗各纖維密著して、一定量の纖維から出來得るだけ長い絲を紡ぐ事を要する梳毛絲の原料には不適當である、玆に於て纖維が平行せず不規則に絡み合つて、一定重量に對してなるべく直徑が大なることが必要である。紡毛絲に用ひらるゝこと多し。紡毛絲の表面は微毛を以て蔽はれ此絲の最も貴重なる特徴を呈し、之を以て織りたる紡毛絨は表面に毛羽を有するを常とす。

紡毛絨はメルトン、スコツチ、ホームスパン、バンノクバーン、ドースキン、バツクスキン、ビーバー、アマゾン及び是等に類する織物で所謂羅紗である。今是等毛織物の内支那羊毛を原料とするに適するものにつき左に記することにしよう。

然し支那羊毛は質が粗硬なるを以て其製品は觸感荒きを缺點とし、又死毛を多く混ずるを以て織物の外觀を甚だしく損ずる嫌ひあり、但し或種の羅紗にありては死毛が染色せずして殘る特性を利用して模様を織出し、有效なる結果を齎し却つて珍重せらるゝ場合あり。左の如き厚地毛織物及び其類似品は支那羊毛を原料として用ひ得るものである。

一　メルトン

平織又は斜文組織の地厚紡毛絲織物であつて、縮絨せしめた後表面を起毛し長き毛を生ぜしめ或は短毛にて蔽ふ樣に

己の欲する品質の羊毛のみを買入るゝこと能はず、自然不要の部分も購入せざるべからざる如き不便あり。

輸出に際しては支那商の羊毛の分類方法に基き、各戸思ひ〳〵に羊毛の分類をなし、然も各口毎に千差萬別にして標準となる格付なく、賣買に際しては一々見本により契約し、受渡しは手觸り肉眼鑑定に俟つ外なきを以て紛争を惹起すること多く、取引上使用上の不便は至大なり。

二 輸出數量の不定

羊毛の産額に毎年豐凶あるは免れざる處なるが、支那に於ては更に政狀の不安運送機關の亂脈等の爲に、近年羊毛出廻りは殊に不定にして、輸出額は年々甚だしき增減ありて、製造計畫等はたてられず、此點が工業原料としての支那羊毛の價値を減ずること僅少でない。

三 步留りの不定

夾雜物は羊毛の品質を損傷するは云ふまでもないが、羊毛の賣買に際し洗滌後の步留りを賣方が保證する商慣習の爲に賣方は至大の危險を負はさる、即ち步留り鑑定は全く經驗に俟つ外なく然しこれは如何程經驗を積んでも正確を期するは至難のことである。

四 粗毛及死毛多きこと

粗毛及び死毛が多く且つ强力なく纖維が不揃ひであることは、著しく支那羊毛の用途を少くすることになる、此點に

三 ホームスパン

之は手紡の毛絲又は之を模して造つた粗質の紡毛絲を以て疎く織つた雅致ある平織物である。

支那羊毛を原料とする製品としては最も適當し、現に我國に於ては贅澤な服地又は帽絨(鳥打帽地)として可成の消費あるも、概ね輸入品に俟つ狀態である。

四 毛布

經緯共に紡毛絲を使用し組織は平織又は斜織にして、縮絨起毛して後剪毛工程を施したるもので經に綿絲を使用することもある。

現今我民間の毛織工業の內、毛布は支那羊毛の最も多く利用し得るものである。然し近年原料高の爲支那羊毛は此方面にも殆んど用途は鎖されたり。

北海道奧羽地方竝に北陸及び中國にて消費せらるゝ赤毛布は普通赤反と稱せられ、支那羊毛及び其相當品を原料として製造せられたるものである。

最近の消費年額十萬碼見當にして近年減少の傾向あり。

五 緞通

此外足袋底布製造にも支那羊毛を多少使用するも是等はさして重要ではない。

仕上げ、それを一方の方向に揃へず自然のまゝにしたもので、經絲は紡毛絲十番より五番までを多く用ひ、一吋八羽乃至九羽、緯絲は紡毛絲の七番手乃至十番手單絲を同樣の密度に打込み仕上げに於て強く縮絨す。

染色は多く撒毛の際染上ぐ普通黑又は紺色である。

支那羊毛の內寒羊毛、挽子毛の如き死毛を多く混ぜざるものは此原料として好適し、我國に於て使用せらるゝも他は仕上げた際染色せられざる死毛が浮出る爲、著しく外觀を損し品質を害すること甚しく一般に歡迎せられない。

現に支那羊毛を使用し居る某所の成績によれば、死毛多くして甚しく外觀を損するのみならず、質粗硬にして彈力を缺ぎ、摩損し易くして直に組織を現し、强力薄弱にして保存上良好ならずと云ふ、此實績に見てもメルトン原料としては缺けたる處あるを知るべし。

二　スコッチ

スコッチは種類多し其一例を擧ぐれば前項のメルトンと同樣の組織のものあり、又經絲は紡毛絲八番單絲を用ひ一吋間九枚の筬に一羽三本入り、榏絲は六番單絲を一吋間二十八本打込み、組織は四枚正斜紋とし仕上はメルトンと異り縮絨又は起毛を施さない。

織下し五十五碼、碼當り重量百三十八匁、之をスコッチ仕上げして幅五十六吋重量百二十五匁とす。

我國に於ては未だ此種の製品なきも、支那羊毛を以て之を製造して有望なる將來を開始する可能性多し、唯觸感稍硬きが其缺點とする處であらう。

年別＼種別	西寧套毛	西路套毛	抓毛	散抓毛
一九〇一年	一五兩	一二兩	一三兩	八兩
一九〇四年	二八	二五	二五	二三
一九一〇年	二二	二二	二〇	一六
一九一四年	二〇	一八	二〇	一五
一九一五年	四二	三八	四〇	三〇
一九二一年	二二	一八	二五	一二
一九二七年	四〇	三八	三八	三〇

斯くの如く永年間に亙つて觀る時は、羊毛相場の騰落が如何に甚しきかゞ明らかである、然しこは大體世界的の羊毛相場に平行せる現象で、支那羊毛にのみ特異のものではない。

即ち羊毛の世界的主產地である濠洲の旱魃、歐洲大戰勃發並に戰後の恐慌來、米國の景氣殊に其羊毛資源確保策としての關稅政策等々、支那羊毛相場に顯著なる影響を及ぼして居る、是等の諸點に就ての詳細なる考察は他の項に讓り、こゝでは最近の支那市場に於ける羊毛相場につき仔細に觀察することにしよう。

支那の羊毛相場は斯る世界的の關係の外に、地方により種類により季節による需給關係で時々刻々に變動するものであるから、一概に之を論ずることは出來ない、玆に於て相場變動の傾向により、羊毛の輸出中心市場たる天津の羊毛相場と、地方集散市場に於けるそれとの二者に分つて記すを便とす。

二　天津市場に於ける相場

堺の緞通原料は主として綿を用ひ羊毛の消費年額は僅少にして殆んど問題ではない。然し近年我國に於ける羊毛を原料とするカーペット、ブラッシュ(椅子張地)ダマスク(窓掛地)等の需要は頓に增加しつゝあり、我某社の如き、其製造原料たるカーペットヤーンを英國から輸入して居る現狀に見る時は、此方面に對する支那羊毛の前途は多望であること、を知る。倘支那羊毛は今日殆んど此種の用途に供せらる、我國並に諸外國に於ける是等關係毛織物工業に就きては、章を別に詳記する積りである。

第八節　支那羊毛の相場並に其變動事情

一　概　説

元來羊毛は世界的の商品であるから、支那の羊毛相場のみが單獨に變動して居るものではない、殊に支那羊毛の總輸出額の九割を占むる米國筋に最も多く影響せらるゝは多言を要しない。其他支那の特別の事情殊に品質が一定しないこと、政狀不安にして運送出廻が安定せざること、又地方に於ける消費狀態、銀塊相場の騰落等極めて複雜に羊毛相場を動かすものである。凡そ支那の羊毛は品位が不定なるを以て、其相場を知ることは至難で、相場は安くとも土砂等の夾雜物が多ければ却て高價となるを以て、支那商の賤貨不賤(安物安からず)と云ふも無理ではない。

斯くて羊毛の公定相場なるものはないが、大手筋の賣買により自ら標準となる相場が出來る譯である。天津の羊毛相場は百斤に付き行平兩建にして、最近十數年間に亙る天津羊毛相場の變動狀態を見るに。

西路套毛	八月	十二月	十二月	八月
庫倫毛	十二月	十一月	十二月	八月
錦州套毛	十一月	二月	十二月	八月
抓毛	十二月	三月	十二月	八月
秋毛	十二月	三月	十二月	十一月

羊毛相場は不斷に騰落して居るが、一年中を通じて見る時は羊毛の最高及び最低の相場は殆んど十一月、十二月、一月、三月、八月の數箇月に限らる。卽ち豫定の買付時季に於ける買付計畫に對し出廻りが少き時は相場は昂騰し、之に反する時は相場は下落するを以て斯の如き顯著なる現象を呈するものと思惟せらる。更に最近の趨勢に就て仔細に觀察して相場の騰落の眞相を極むることにしよう。

元來羊毛相場は一擔に付幾兩と建値するも、本章では各地の相場比較の便に供する爲一封度につき現大洋建とす。

最近數年間に亙り北京、天津及び京綏沿線に於ては內亂の絕へることなく、一九二〇年の安直戰、一九二二年の第一奉直戰、一九二四年の第二奉直戰、一九二五年より二六年に亙る奉國戰、一九二八年の奉天軍の京津及び京綏沿線徹退迄、羊毛の出廻り及び其取引は不斷の脅威を受けて、附表に見る如く羊毛相場は異常の騰落を示したのである。

イ　一九二七年

前々年末天津を占領した馮玉祥軍は翌年三月天津を徹退して奉天軍之に代り、八月には南口を陥れて北進し、奉天軍が京綏全線に亙り平定する迄の其運輸は殆んど杜絕の狀態なりしが、一九二七年に至り稍運輸狀態を恢復して奥地に於ける滯貨が出廻りを始め、一月には三萬七千擔の輸出を見、舊正月に減少したるも其後每月三萬擔內外の輸出をなし、

支那に於ける羊毛の相場は其中心市場たる天津の相場に據つて動いて居る、而して天津の羊毛相場は國際的、國內的諸原因によりて定まる。

凡そ支那羊毛の最大需要國たる米國は、支那の羊毛をカーペツトウールとして消費す、米國のカーペツト工業の羊毛消費年額を最近數年に亙る統計に見るに一億一千八百萬封度乃至一億四千四百萬封度にして、一九二四年の如き其五〇%を支那に仰ぎ、二五年度は四〇%、二六年及び二七年度は各二六%なるを以て、米國市場に於て如何に重要なる地位を占むるかを知る、然もこは米國斯業の七割作業に對する羊毛需要であるから、彼の支那羊毛に期待する處が如何に大なるかは推測に餘りあり。詳細は外國市場に於ける支那羊毛參照。

茲に於て米國は高い關税の障壁を設けて其カーペツト工業を保護し、斯業の爲に世界の羊毛原料吸引につとめつゝあり、隨つて米國市場の需要に對する支那市場の供給、卽ち奧地よりの出廻り狀態如何により、支那商と輸出商の駈引が主となり之に地方消費が影響して羊毛相場が定まるものである。

天津に於ける羊毛の出廻りは五、六月の寒羊毛に始り續いて散抓毛、抓毛等が出廻り十一月、十二月前後に蒙古、青海、甘肅等の主産地の羊毛が最も大量に入荷するを常とし、輸出商は之によつて其年の特異の事情を斟酌して買付計畫を樹つるものなるを以て、自然其期間は取引最も活潑で相場の騰落も顯著である。

	一九一三年		一九一四年	
	最高	最低	最高	最低
西寧套毛	一月	十二月	八月	十二月

八月には著增して一躍七萬九千擔を算し、相場も之に從つて落ちた、即ち一九二六年一月西寧羊毛每斤當四角八分を唱へたるものが二月四角、四月四角六分と小往來して輸出季を過ぎて五月四角四分、六月四角三分と安含みなりしが、出廻り增加に輸出筋買急ぎたる爲、八月四角四分に小戻し、其後下滑り三角八分と近年の最安値を呈し平年額の三十六萬擔を輸出して越年した。

斯くて數年間に亙る奧地の滯貨は過重なる負擔にも拘らず、堤を決する勢で出廻つて相場は一時下落したのである。

ロ 一九二八年

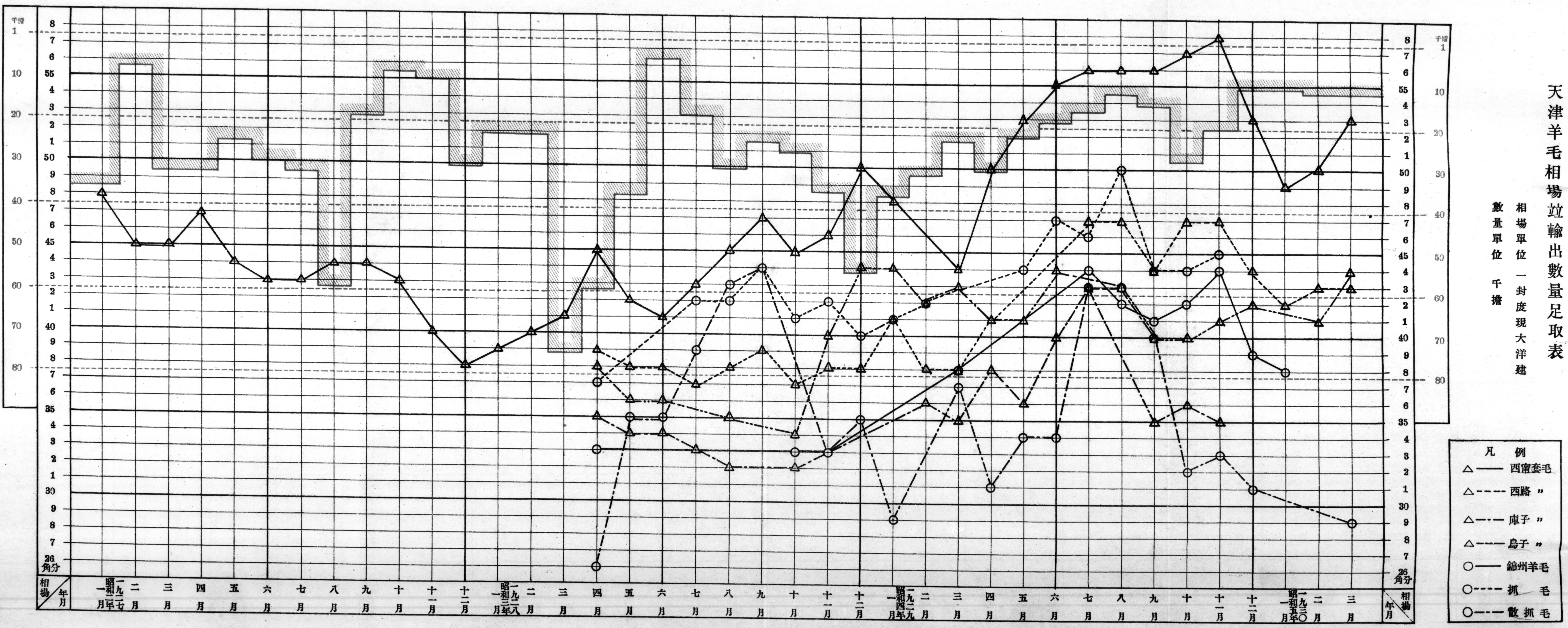
京綏線の運輸狀態は舊年末より稍恢復して羊毛も多少の入荷ありしが、手持筋は搬出に多額の經費を拂ひたる荷物なれば賣澁り、在荷ある割合に頭重く輸出振はず、一月三角九分三月四角一分に上伸びしが、時局懸念竝に入荷順調と爲替好轉にて商談出來、三月七萬四千擔、四月五萬九千擔を輸出し相場は四月に入り四角五分に上放れた。

五月には豫想の如く又々山西奉天兩軍の間に開戰して、京綏沿線は戰場と化し入荷は杜絶するに至つた、且つ奉天軍は徹退に際し貨車を其勢力圏內の地方に持ち去りし爲輸送力は極度に殺減せられ、漸く七月より一般荷主の爲に僅に貨車の配給を見ること丶なつたが、京綏線に於て每十噸二十弗(十月廢止)、又豐臺天津間の京奉線に每噸五弗の貨車配給運動費を必要とする始末で、加之苛税は山西軍が代つて後も更に輕減せられざるばかりか、鐵道運賃の一割に相當する包頭綏遠地方難民救濟税、五分の鐵道附加税、三割五分の軍事税等を增徵せられ、包頭綏遠方面の荷主は鐵道によらず駄子、牛車等により蒙古地帶を迂回して張家口に出し、同地より鐵道で發送するもの多く、こんな狀態が本年の二月迄繼續し、運輸は亂脈を極めて何時になつて順調なる入荷を見るか豫測し難く、强含み保合の商狀を呈したが、本年度の

天津羊毛相場竝輸出數量足取表

相場單位　一封度現大洋建

數量單位　千擔



總輸出額は四十一萬擔に及びたり。

八　一九二九年

三月頃からは京綏線の貨車の配給は稍恢復したるが、支那商の手持筋は先高を見越して賣り惜しみ、相場は奔騰して三月の四角四分より四月五角、五月五角三分、六月五角五分、七月五角六分を唱へ、外國羊毛相場が昨年に比し三割乃至四、五割方暴落したるに比し、奇現象を呈してゐる。

尤も此場合銀相場の下落をも考へなければならぬ、今當時の米支相場を以て換算せば實際は四月以降大體保合である支那羊毛の相場と輸出狀態が右の如くなるを以て、米國のカーペット工業家は之に代るものとして世界の各市場に手配しアルゼンチン及びウルグアイ兩國のみについて最近の羊毛輸入統計を見ても、

	自一九二八年十月 至一九二九年八月	自一九二七年十月 至一九二八年八月
アルゼンチン	三七、五八九俵	二一、九〇三俵
ウルグアイ	二一、〇三八	七、三八七

斯の如くして米國の當業者が各國に其原料を求め、支那市場で買ひ急る要なきに至れば、支那の羊毛相場は落ちざるを得ない、現に十二月から本年一月にかけて多少の低落を見たるが、元來支那商の手持せる羊毛は過重なる搬出費を負擔して原價高なる爲下濫りの狀態にて見るべき商談なし。

五月	四四・〇〇	四四・九〇	三〇・二五	三四・二五	—	二八・五〇	三七・〇〇
六月	四五・五〇	三五・五〇	三三・〇〇	三六・五〇	—	二八・〇〇	三九・〇〇
七月	四六・五〇	三九・五〇	三五・五〇	—	三六・五〇	三六・〇〇	三八・五〇
八月	四六・四〇	三九・〇〇	—	三六・〇〇	三五・〇〇	三六・〇〇	四二・〇〇
九月	四六・八〇	三七・〇〇	二九・〇〇	三三・八〇	三五・〇〇	三三・七五	三七・五〇
十月	四七・九〇	三九・〇〇	三〇・二〇	三三・一五	三五・二五	二七・二五	三七・〇〇
十一月	四八・五〇	四九・二五	二八・七五	三四・五〇	三七・二〇	二七・五〇	三八・〇〇
十二月	四五・〇〇	三六・五〇	—	三五・〇〇	三二・五〇	二六・〇〇	—
一九三〇年一月	四一・五〇	三五・六〇	—	—	三二・〇〇	—	—
二月	四二・五〇	三六・二五	—	三五、二五	—	—	—
三月	四四・五〇	三六・二五	—	三七、七五	—	二四・五〇	—

三　地方市場に於ける羊毛相場

地方の集散市場に於ける羊毛の相場は、大體天津のそれが中心となり、それに地方の各特異の事情が加つて變動するものである。然し今回主要市場につき調査したる處によれば、其間に相場變動の原因につき共通した幾多の點があるを觀取することが出來る。

出廻季による變動

地方に於ける需要の有無による變動

原産地方面よりの運賃及び税金の如何による變動

等が其最も主なるものである。

以上羊毛相場の變動狀態を、主として支那羊毛の標準たる西寧套毛に就てのみ見たるが、其他各種の羊毛相場も附表に見るが如く、大體之を基準として同樣の步調を辿つて居る。

唯散抓毛の如き數量が比較的少なき羊毛で、出廻りが短期間に限らるゝものは、出廻期間を過ぐれば輸出取引行はれざるを以て、昨年十一月以降本年六月迄の散抓毛相場は地方的相場である。

天津主要羊毛相場（單位兩）

月別	西寧套毛	西路套毛	庫子套毛	烏子套毛	錦州毛	散抓毛	抓毛
一九二八年三月	三七・七五	三三・〇〇	三三・〇〇	三三・五〇	二九・五〇	三三・五〇	三三・〇〇
四月	四一・一〇	三五・二五	三一・〇〇	三四・五〇	二九・五〇	二四・〇〇	三三・〇〇
五月	三八・〇〇	三三・五〇	三〇・五〇	三一・五〇	—	三一・八〇	—
六月	三七・二五	三三・五〇	三〇・五〇	三一・五〇	—	三一・五〇	—
七月	三九・〇〇	三三・〇〇	二九・二五	三三・〇〇	—	三五・二五	三七・五〇
八月	四〇・七五	三四・七五	二九・〇〇	三一・五〇	—	三九・〇〇	三七・五〇
九月	四二・二五	三五・〇〇	—	—	—	四〇・〇〇	三九・七五
十月	四一・〇〇	三三・〇〇	三八・二五	三〇・五〇	—	—	三七・五〇
十一月	四一・五〇	三四・七五	—	三五・五〇	二九・五〇	二九・五〇	三八・〇〇
十二月	四一・六〇	三一・五〇	—	三五・五〇	—	二九・五〇	三三・五〇
一九二九年一月	四一・二五	三四・五〇	二九・〇〇	三七・〇〇	—	二四・七五	三四・二五
二月	—	三二・〇〇	三一・一〇	三六・七五	—	—	三七・〇〇
三月	三八・五〇	三四・五〇	三一・〇〇	三七・五〇	三三・〇〇	三二・二五	—
四月	四二・二五	三四・六〇	三一・〇〇	三三・七五	—	二五・五〇	—

である、殊に羊毛を生産する地方に於ける交通運輸は、不安にして出水等による自然的の脅威、或は土匪の横行等による人爲的の脅威に不斷に曝されて居る、羊毛原産地關係地帶に於ては殊に然りであるが、之を實際に就て見るに其騰落が羊毛相場に正比例的に影響を及ぼしたるを認め得ざるは、面白い點である、今錦州と通遼に於ける例に見るに、

通遼に於ける相場と林西よりの運賃諸掛との關係比較（單位百斤に付き現大洋建）

年別／月別	一九二八年		一九二九年	
	春毛相場	運賃諸掛	春毛相場	運賃諸掛
五月	—元	—元	三七元	一一・四〇元
六月	三四	八・四〇	—	—
七月	三三	九・四〇	三六	一二・四〇
八月	—	一〇・六〇	四二	一二・二〇
九月	三四	一〇・四〇	四四	—
十月	三五	—	—	—
十一月	—	—	—	—
十二月	三四	—	—	—

錦州に於ける相場と林西よりの運賃諸掛との關係比較（單位百斤現大洋建）

年別／月別	一九二八年		一九二九年	
	春毛相場	運賃諸掛	春毛相場	運賃諸掛
五月	四二元	二〇・八五元	四四元	二四・一五元

イ　出廻季による變動

羊毛の出廻りの盛んなる季節には相場が刎上る傾向あり、蓋し其節は天津方面からの大手筋が、是等の市場で直接間接に買進み、更に彼等は奥地原産地方面迄も手を廻し、買付の爲には有ゆる手段を盡すを以て、出廻る羊毛は既に概ね取引の筋が定つて居るのである、加之地方消費方面よりの需要も殺到する爲に、元來市場が天津に比し小さく入荷も少いのであるから、立に相場は昂騰し其期間は大集散市場に對して逆鞘を呈するが普通である。然して右出廻り期を過ぐれば相場は次項に記する如く地方的需給狀態によりて變動し、概ね天津とは關係なき騰落をなすを常とす。

ロ　地方に於ける需給關係による變動

支那に於ける羊毛消費につきては別に詳細に亙り報告の積りであるが、北部地方一帶では羊毛は防寒用として必需品で、此方面に對する需要は少くない、隨つて是等地方消費に對する需要の如何は、地方市場に於ける相場の變動上の一大要素である、殊に秋毛は概ね支那人の地方消費に振當てらるゝ爲、其相場は天津相場又は春毛と關係なき獨自の騰落をなす。

ハ　運賃諸掛の增減による變動

原産地方面より地方市場に來集するに要する運賃諸掛は、相場に最も多く影響する理である、殊に近年の如く奥地々方官憲の徵稅酷となり、運賃諸掛のみにて羊毛相場の數割を占むるが如き場合に於ては、其影響が更に甚大なるは當然

六月			四二	一七・四一
七月	—	—	四〇	一七・八一
八月	—	—	四二	—
九月	三七	二四・六〇	四四	—
十月	三五	二三・七〇	—	—
十一月	—	二三・六〇	—	—
十二月	四〇	—	—	—

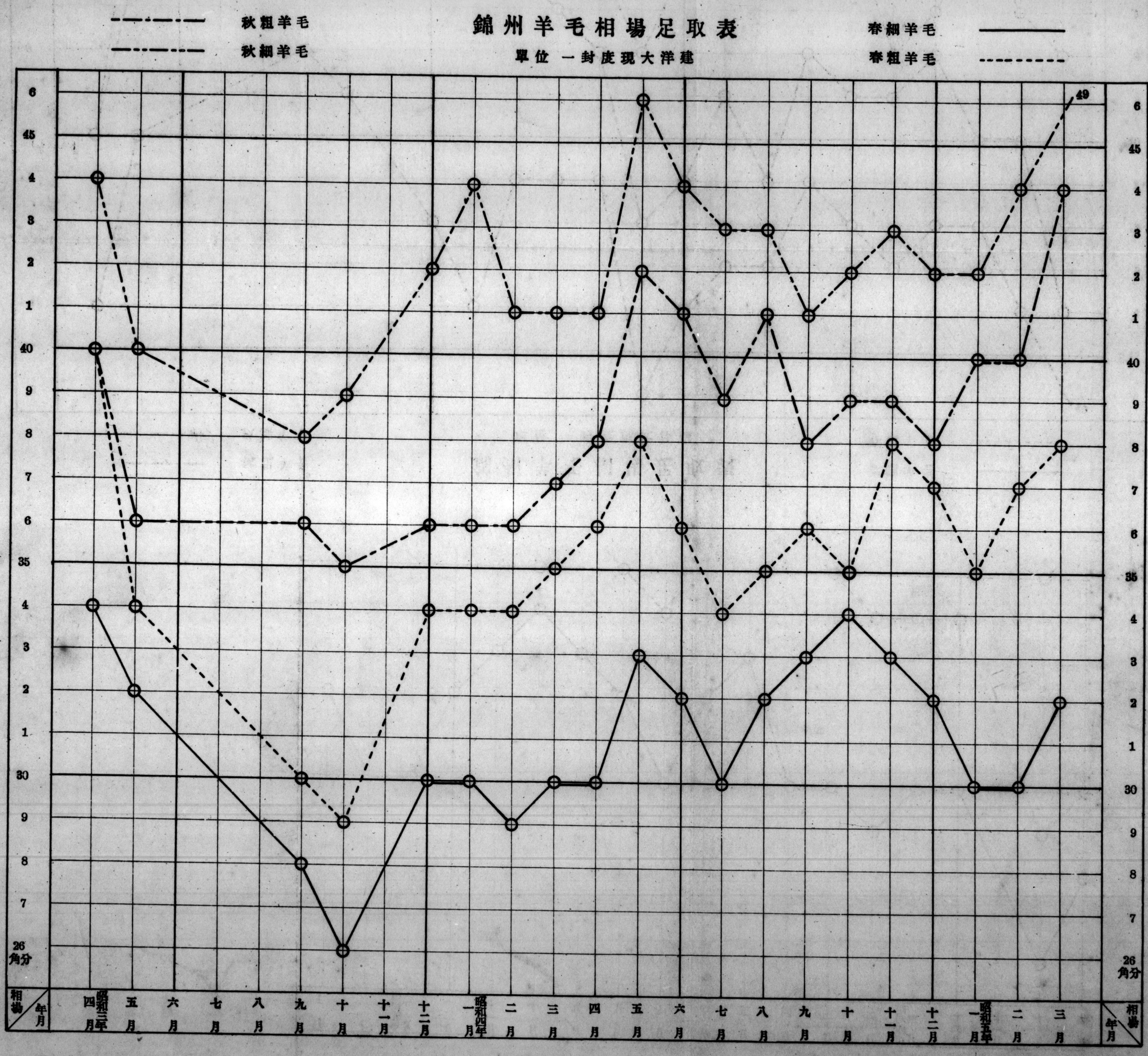
右運賃諸掛は公稱の數字をそのまゝとりたるものであるが、實際上には諸稅の負擔は支那の常として之を幾分免れ得る途あり、殊に錦州の場合の如く徵稅苛酷なる場合は、其餘地は更に大なるべきは推知するに難くないが、大體に於て地方市場に於ける羊毛の相場は、搬出に要する運賃諸掛りの多少よりも、天津市場の相場並に地方に於ける需要狀態如何がより有力に影響して居ることを知る。

各地市場の羊毛相場の騰落につき一々說明する時は、是等の關係は更に判明すべきも、到底煩に耐へざるを以て附表を添附し之を省略す。

之を要するに羊毛相場は米國の支那羊毛に對する需要に對して、支那よりの供給狀態如何卽ち支那の羊毛輸出能力たる一九二二年の最高五十一萬七千擔、一九二六年の二十一萬二千擔を最近の最底として上下し、平均三十六萬擔の輸出數量が、年々の特異の事情で如何に變化するかによりて大勢定まり、之に支那國內其他の需要狀態如何が加味されて支那の羊毛相場が出來るものであることを知る。

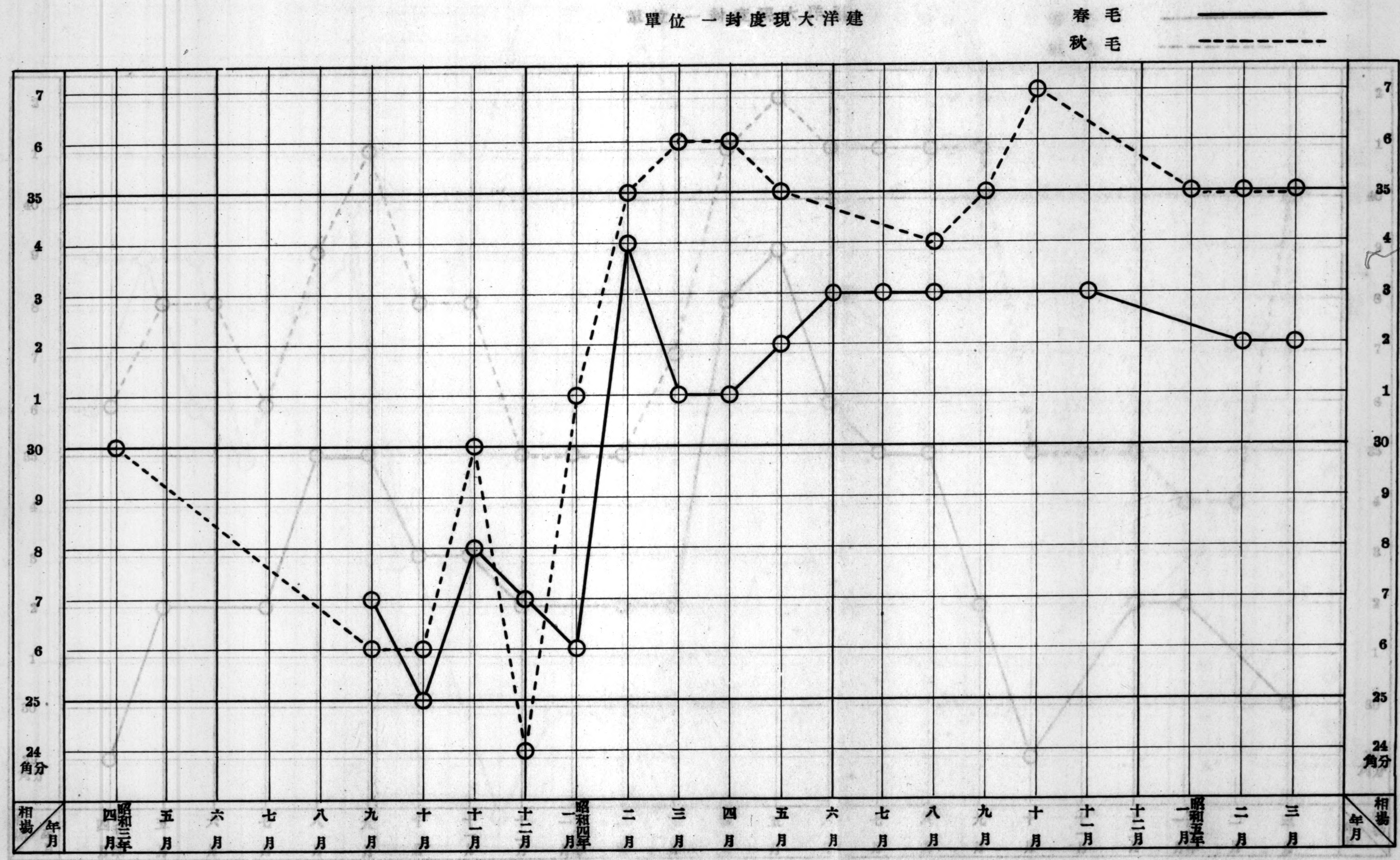
錦州羊毛相場足取表

單位 一封度現大洋建

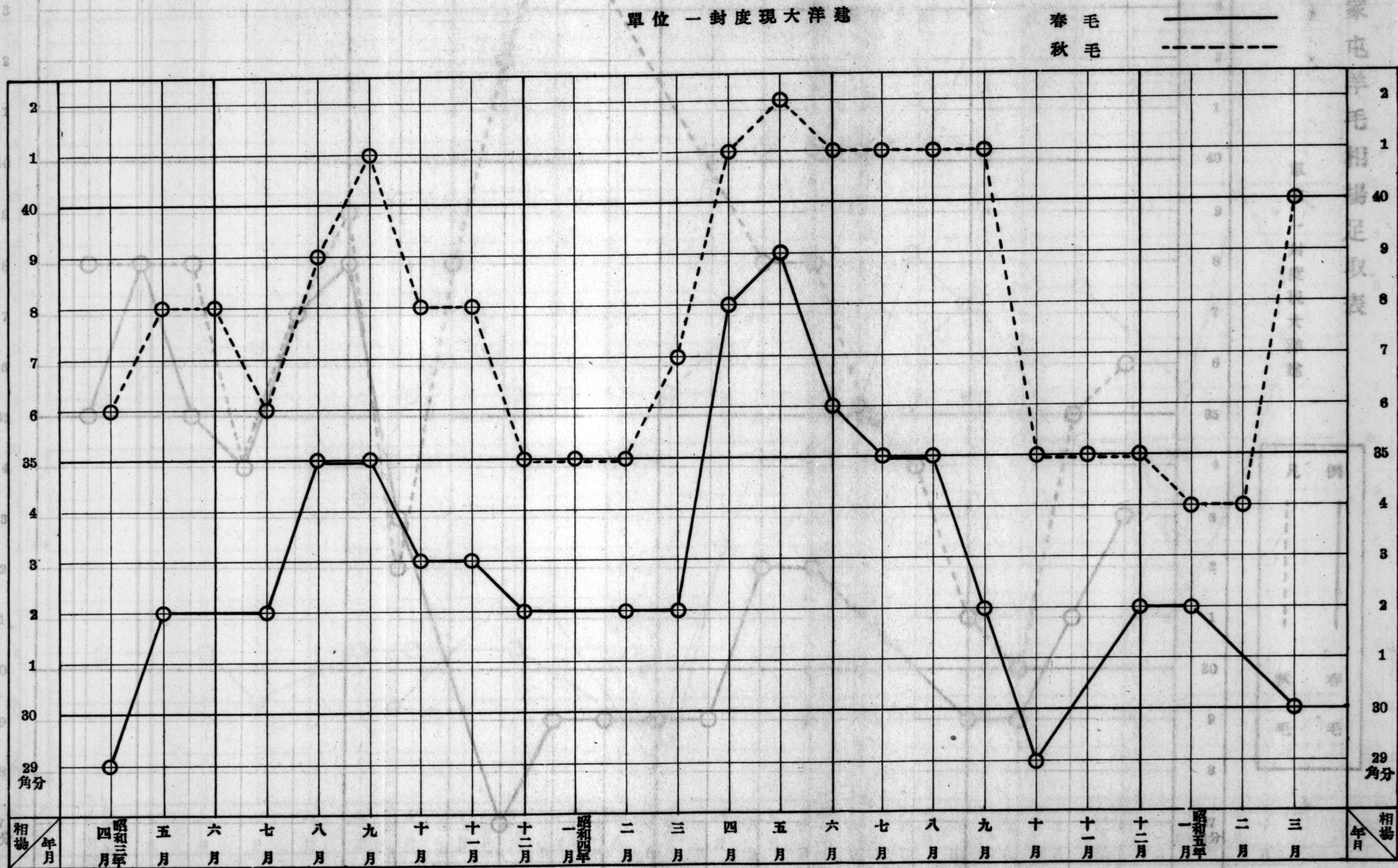


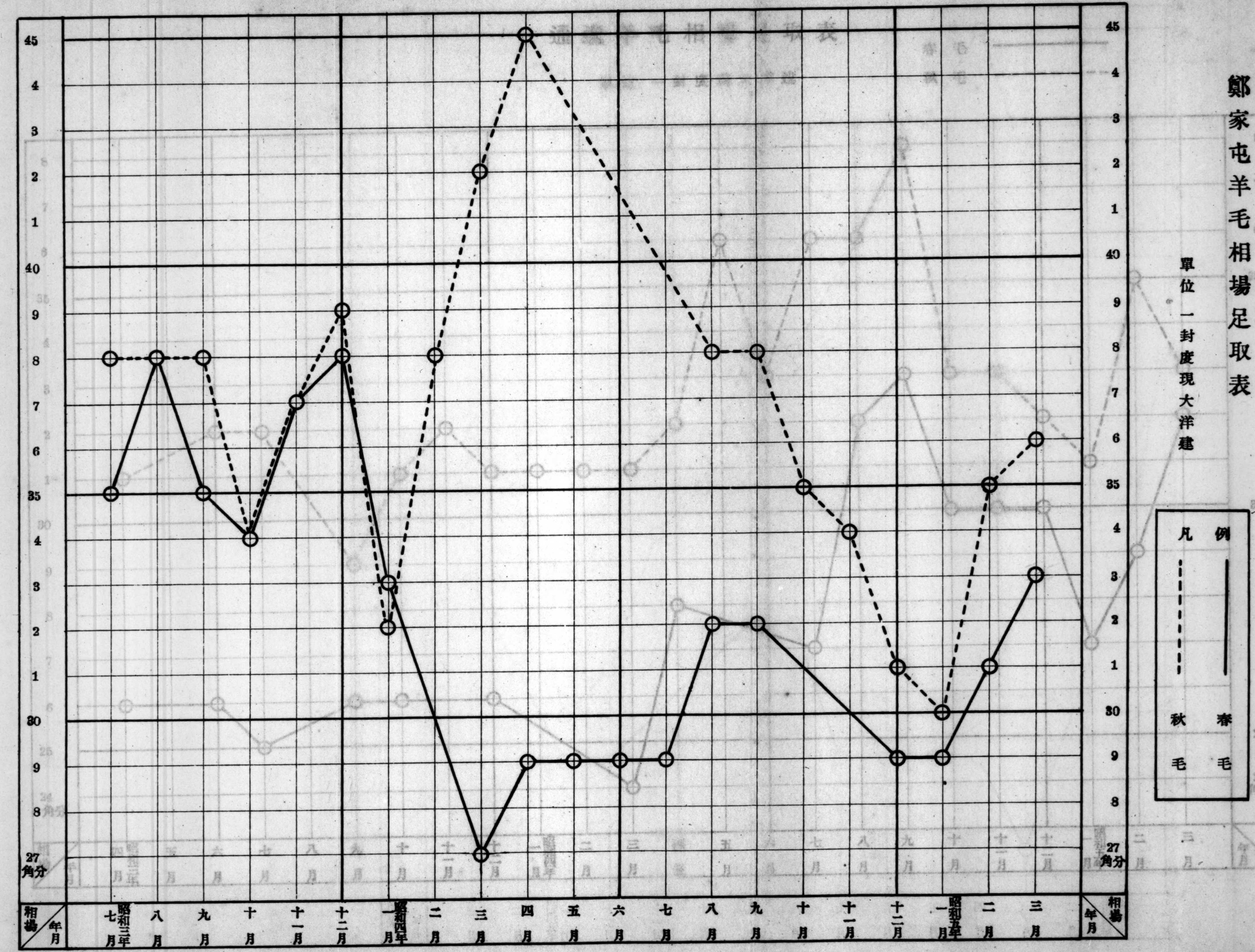
赤峰羊毛相場足取表

單位 一封度現大洋建



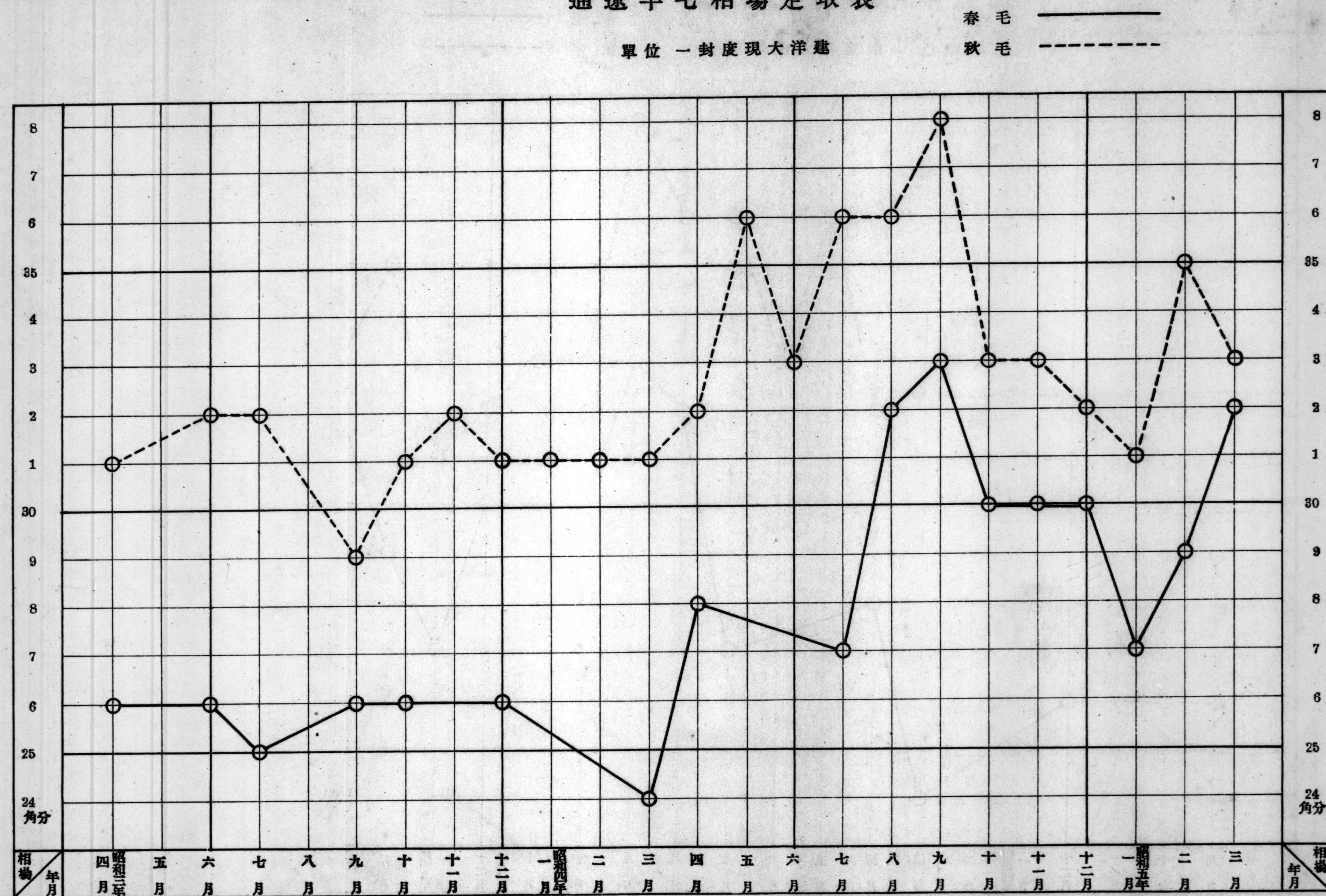
奉天羊毛相場足取表


單位 一封度現大洋建
春毛
秋毛
2
1
40
9
8
7
6
35
4
3
2
1
30
29
角分
相場
年月
昭和三年 四月
五月
六月
七月
八月
九月
十月
十一月
十二月
昭和四年 一月
二月
三月
四月
五月
六月
七月
八月
九月
十月
十一月
十二月
昭和五年 一月
二月
三月


鄭家屯羊毛相場足取表
單位一封度現大洋建
凡例
春毛
秋毛
相場
年月
昭和三年七月
八月
九月
十月
十一月
十二月
昭和四年一月
二月
三月
四月
五月
六月
七月
八月
九月
十月
十一月
十二月
昭和五年一月
二月
三月
45
40
35
30
27
角分

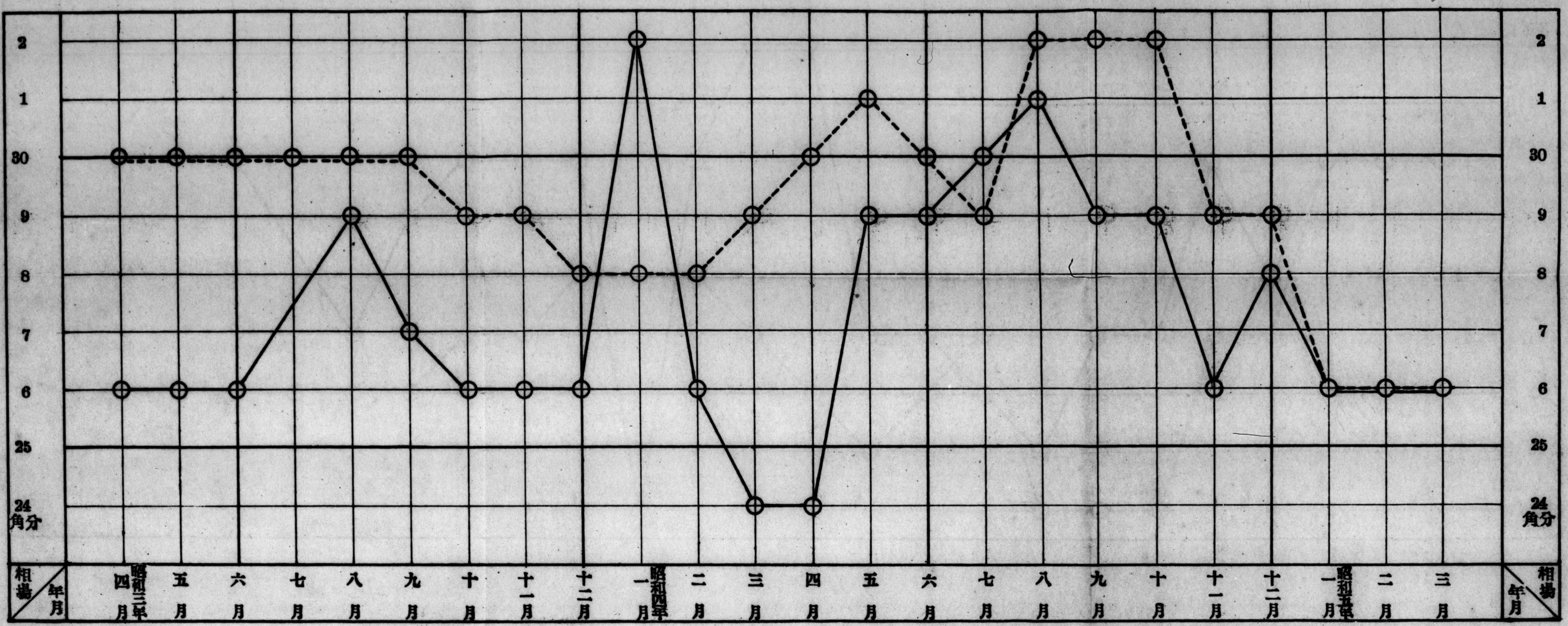
通遼羊毛相場足取表

單位 一封度現大洋建



開魯羊毛相場足取表

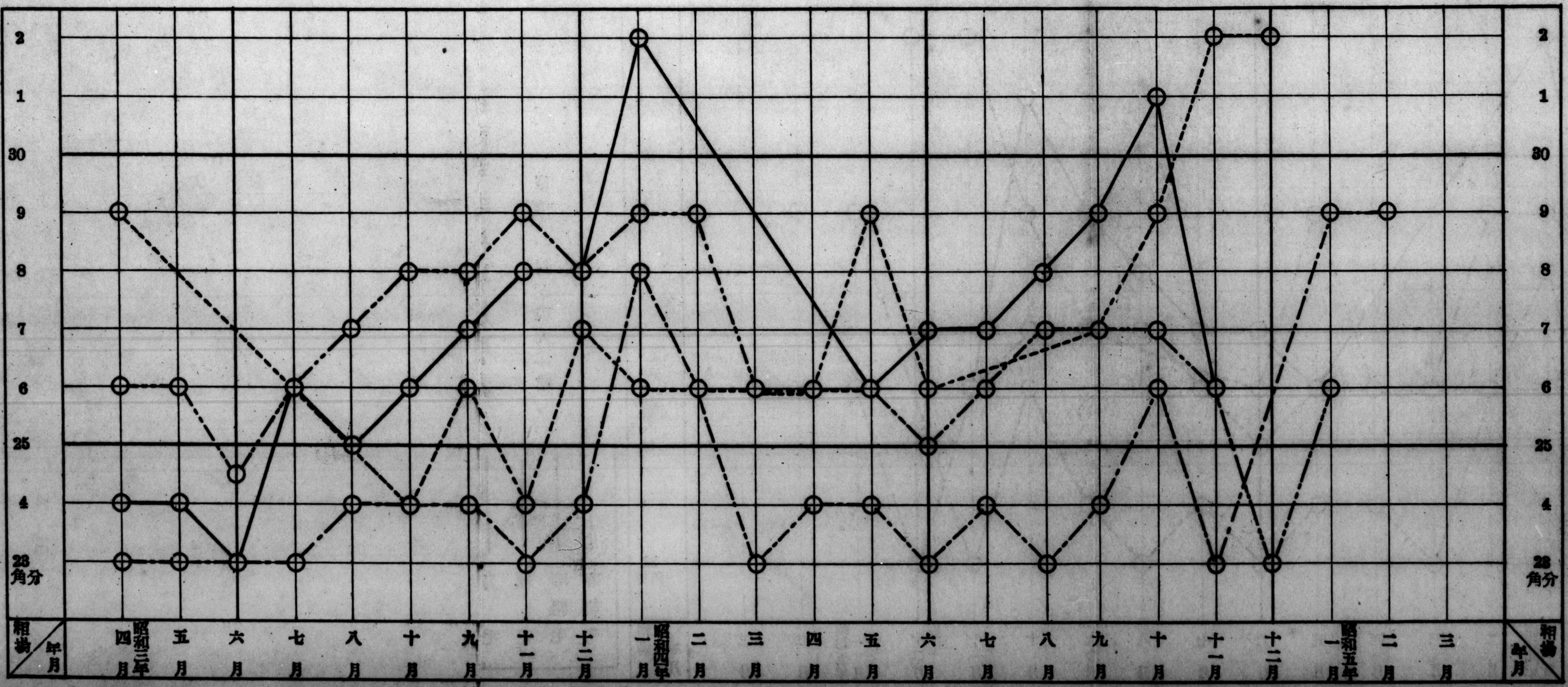
單位　一封度現大洋建



凡例
----- 秋毛
—— 春毛

洮南羊毛相場足取表

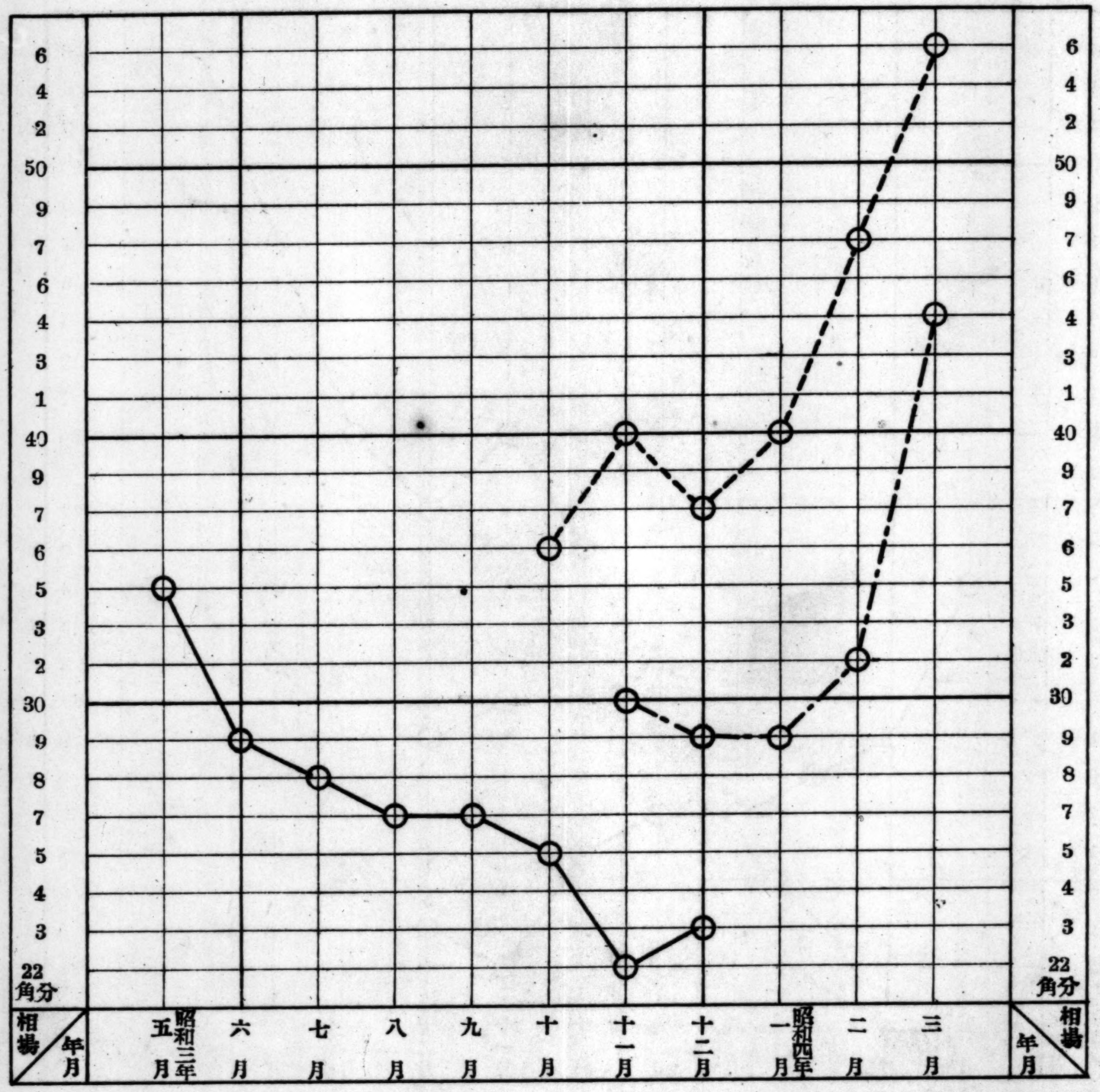
單位　一封度現大洋建



凡例
—— 春毛
----- 秋毛
—·— 春粗毛
—··— 春細毛

満洲里羊毛相場足取表

單位一封度現大洋建



凡例

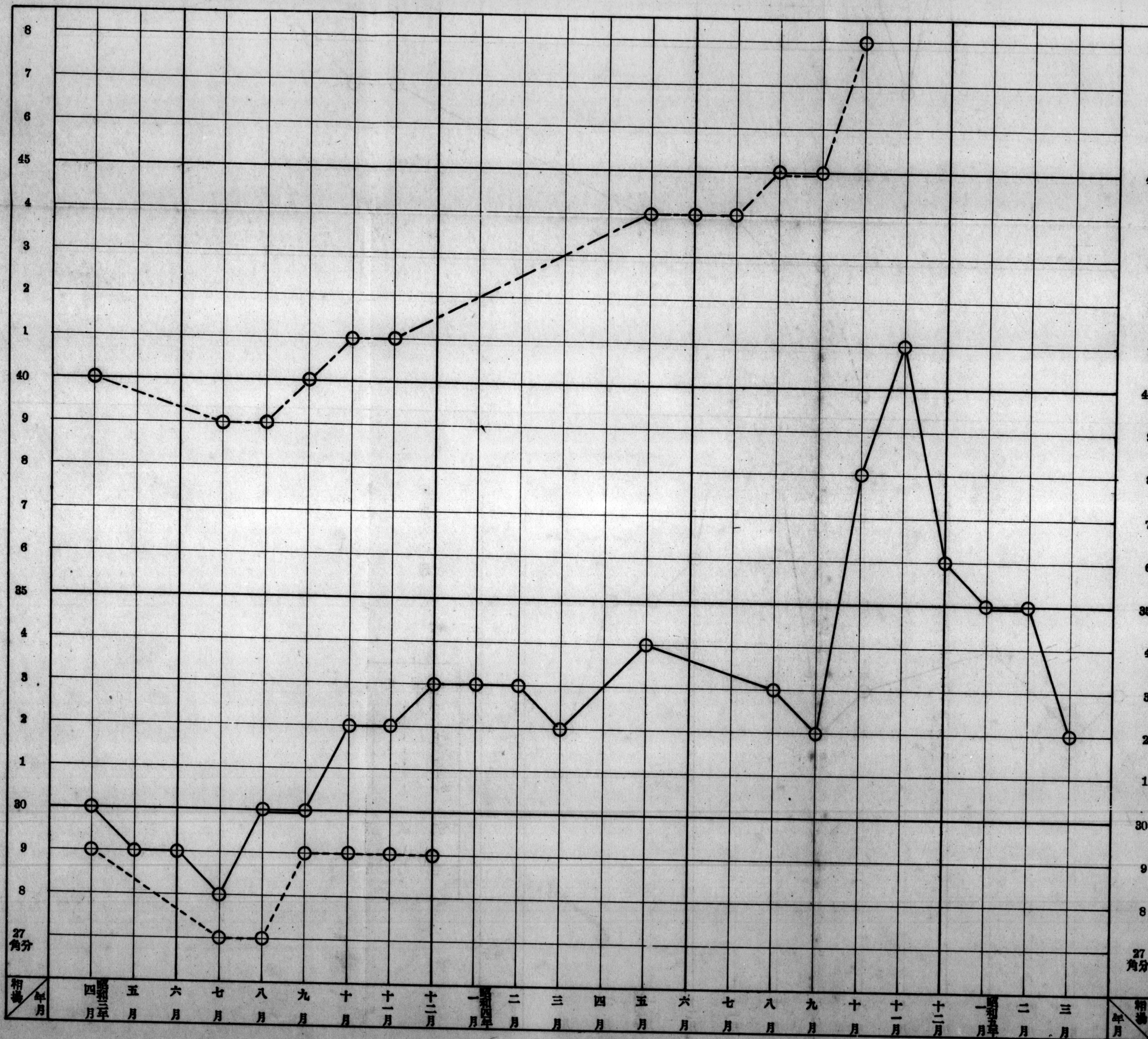
春毛 ———

秋毛 - - - -

羔子毛 —·—·—

張家口羊毛相場足取表

單位一封度現大洋建



第三章　羊毛の運輸及び集散事情

羊毛が原産地から海港に出廻る迄には、砂漠を渡り山を越へ、或は車輛により或は駄子と稱して家畜の背に駄載し、水路あり又鐵路ある等地方により場合に應じ有ゆる方法で輸送せらるゝものなるを以て、一々之を明にすることは不可能である、故にこゝでは主なる地方につき運輸の實情を記し基本的諸事情を明にすることにしよう。

第一節　集散地及び集散經路

羊毛は原産地附近の市場に集り、更に鐵道沿線にある地方集散市場に搬出せられ、それより鐵道により天津に出廻る。

卽ち蒙古方面の羊毛で南方に出廻るものは京綏線、京奉線により天津に、又東方に出廻るものは錦州を經て京奉線により天津に、又は通遼、洮南等に集り四洮線、滿鐵線により大連、營口を經て天津に、又北方では東支線により浦鹽を經て上海方面に仕向けらる。

青海、甘肅方面のものは寧夏又は石嘴子より黄河を下りて包頭に出でそれより京綏線により天津に搬出せらる。

尙天津附近では順德、鄭州方面に出廻ものは京漢、京奉線により、交城方面のものは楡次を經由して正太、京漢、京奉線により、又周村方面のものは山東津浦線により天津に來集す。

附圖は、右の集散市場及び徑路の狀態を更に明にするであらう。

第二節　奥地に於ける運輸機關

羊毛産地々方に於ける輸送機關は極めて幼稚なるものにして、牛車、駱駝車、馬車等の諸車及び牛、駱駝、馬、騾、驢、犂牛等の駄載による。

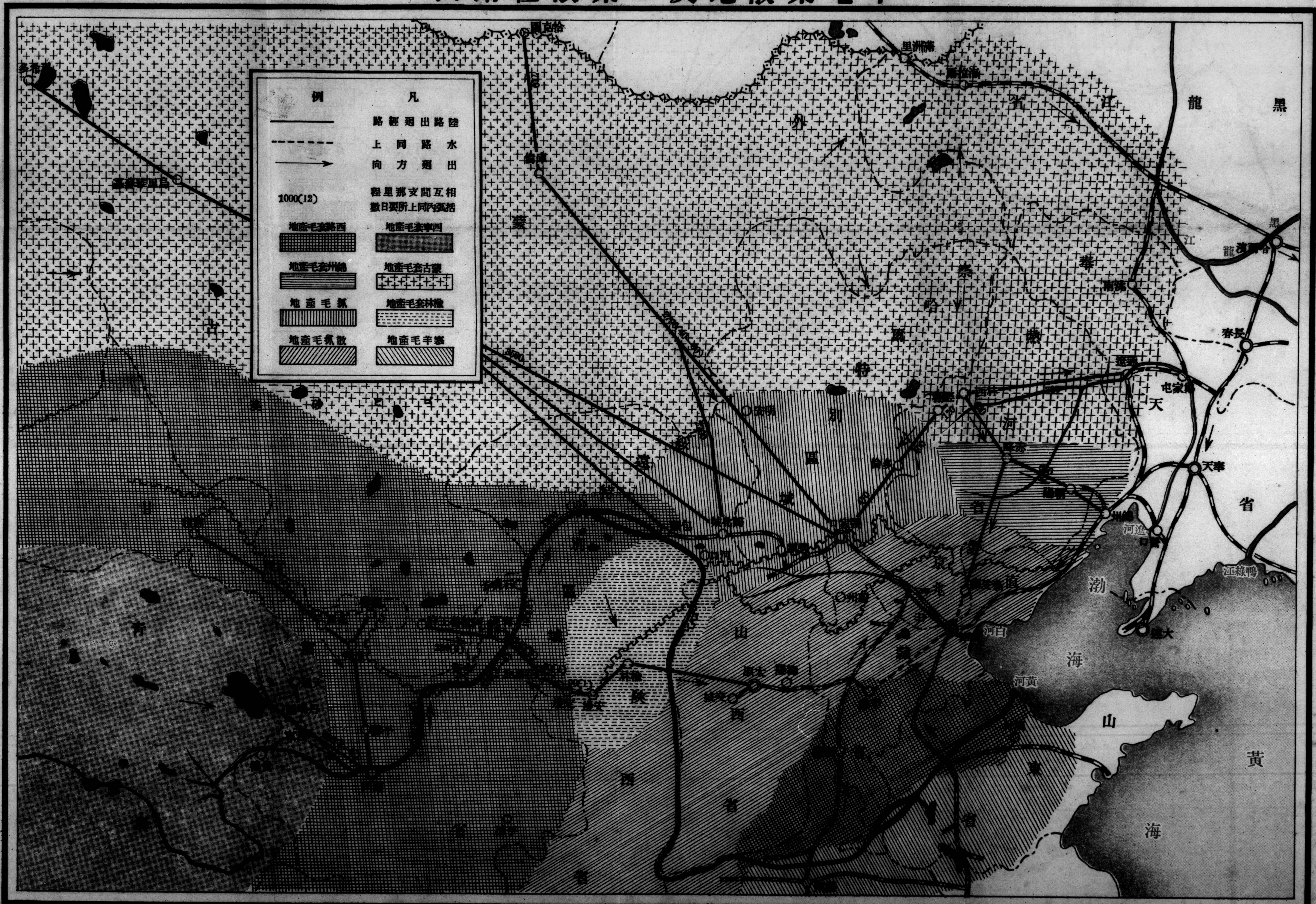
是等各種輸送機關の能力は、

種別＼能力	積載量	一日行程 路良	一日行程 路不良
牛車	二〇〇—四〇〇斤	五〇—六〇支里	五〇支里
駝車	二〇〇—四〇〇斤	七〇—八〇支里	七〇支里
一頭大車	二〇〇〇—四〇〇〇斤	七〇—八〇支里	五〇支里
二大車	一〇〇〇—二五〇〇斤	七〇—八〇支里	五〇支里
駱駄子	二五〇—三〇〇斤	七〇—九〇支里	七〇支里
馬駄子	一五〇—二〇〇斤	七〇—一〇〇支里	七〇支里
騾駄子	一五〇—二〇〇斤	七〇—一〇〇支里	七〇支里
驢駄子	一二〇—一五〇斤	六〇—七〇支里	六〇支里
犂牛	二〇〇斤	五〇—六〇支里	五〇支里

積載量及び行程は輸送區間の距離並に道路及び家畜の狀態等を顧慮して適宜斟酌し一定して居ない。

一　牛車

羊毛集散地及ビ集散經路圖



牛車、駱駝車は蒙古人の遊牧生活上所有物品の運搬上なくてはならぬもので各戸之を有せざるなく、又商業上物資の運搬に最も重要なる役割をつとめ、遊牧地帶に於ける最重要なる交通機關である。

牛車は蒙古人自身又は支那木匠の手になりたるものにして、附近に產する樺又は松材等を以てし、普通鐵を用ひないが稀に轂の一部に鐵材を嵌めたるものあり、車輪は丸太を曲げて造るものにして凹凸を有し、轅も殆んど丸太に等しく車臺は樹枝を組みて板に代へ、極めて粗雜なる構造である。然し、車體輕く車輪の直徑大にして沙漠を行き水を渡るに便にして、此地方に最も好適せる交通具である。車輛の構造により白色車と軨轤車の二種に區別され、又地方により大小あり、大型のものは稍頑丈に造られ八百斤内外を積載することを得。

一輛毎に牛一頭を以て曳かしめ、一人の馭者がよく五、六輛乃至十數輛を馭す。

二　駝　車

駝車卽ち駱駝車は多く外蒙古方面に使用せられ、車體は其地方、地形、地質によりて多少異るも、普通四輪にして構造は牛車より稍精巧である。又地方によりては前項の牛車と全然同樣の構造で唯轅のみ長きものあり、駝車は多く短距離の輸送に用ひられ遠隔の地に行くことは稀である、進行方法は牛車の場合に同じ。

三　大　車

大車は馬車を云ふ、普通二輪車にして、車體の大小輓馬の頭數により名稱を異にす、蒙古地方では輓馬六、七頭以上のものを頭大車夫れ以下のものを二大車と稱し、地方によりては套車と稱し、輓馬の頭數を附して六頭曳なれば六套車

一箇百四十斤前後のものを左右に擔はしめ一駄二百八十斤が最も普通である。

駱駝の鼻孔を貫ける索繩により普通五、六頭を連繫し、先頭及び最後の駱駝に鈴を附し離散を防ぎ、一人の駝夫之を監視す、遠距離の運搬には一隊二百頭以上を連ね、駝夫二十名、三十名が之を馭し、隊を列ねて行進し壯觀を呈す。普通三、四十頭乃至五、六十頭位の隊を組織すること多く、之に宰領者一、駝夫三、四名乃至五、六名附添ふ、途中に宿泊すべき家なく、且つ食料を得る能はざる場合は、天幕及び食料品を携帯するを常とす。

ロ 騾、駄子

騾は普通一人にて三、四頭乃至六頭を馭す、其口に杜嘴を嵌めて道草を喰はしめずよく馭者の信號に從ひ從順に進行す。

ハ 驢駄子

驢は體軀小にして駄載力少く一駄百二十斤餘である、先頭と最後のものに鈴を附して離散を防ぐは何れの場合も同じである。一馭者よく十數頭を馭す

ニ 牛、犁牛駄子

牛は速力遲鈍なれども重要なる輸送機關として使用する地方あり、青海、西藏地方にありては犁牛を使用す、進行には二十頭乃至三十頭を一群とし數名の馭者が騎馬し犬を伴れて之を馭す。之を要するに車輛は主として平原地方に使用

八頭曳なれば八套車と稱する處もあり、構造堅牢にして自重五百斤乃至千斤より、積載量は一輓馬當り四、五百斤にして、主として平原地方の大集散都市附近に使用されて居る、道路險惡なる地方に於ては積載量を減ず。西北部支那の地方は蒙古に比し平原道路尠く、車輛の形狀稍小にして輓馬の如きも最大五、六頭普通二、三頭曳にして積載重量七、八百斤乃至千斤内外である。

四　駄子

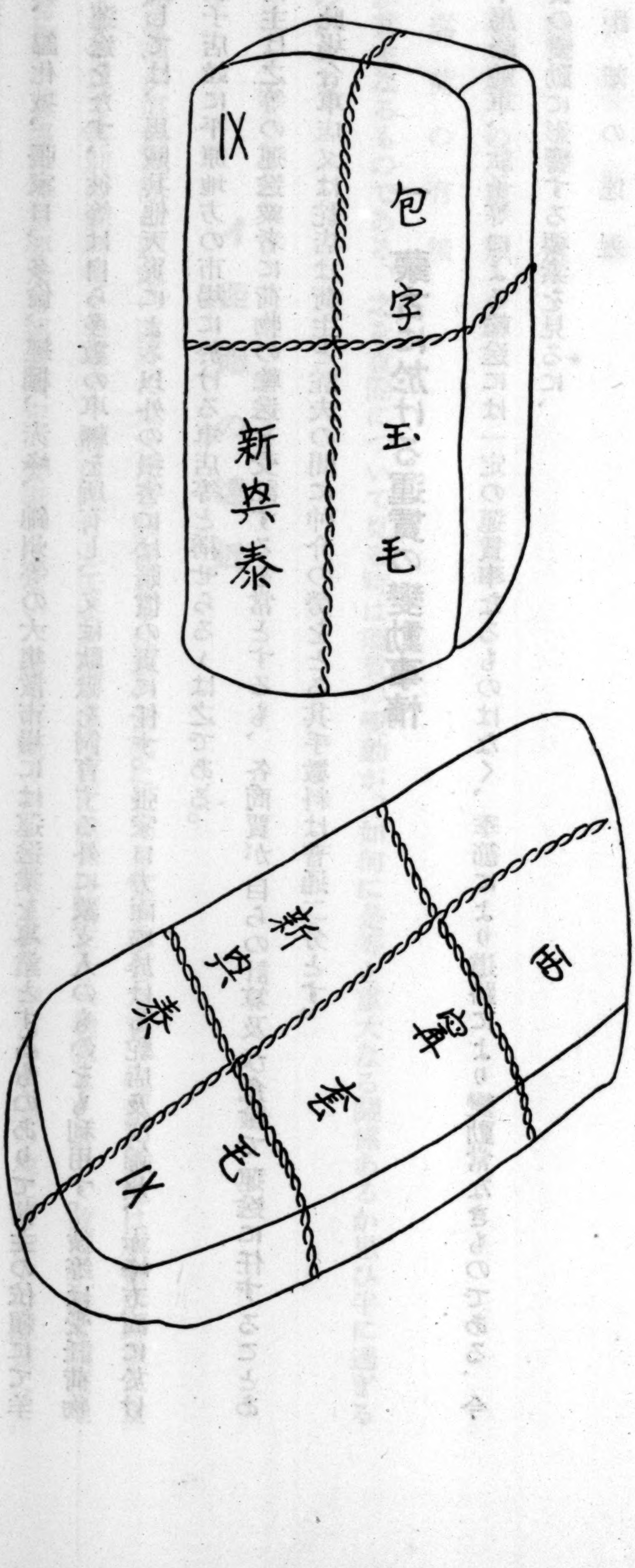
駄子とは家畜に貨物を駄載して運搬するものを云ひ、羊毛原産地々方では牛車、駝車と共に重要なる運送機關で、駱駝、犂牛、騾馬、驢馬等による、後の二者は山地々帶に多く見るものである。

イ　駱駝子

駱駝は性質溫順にして使役に容易であるが、甚だ怯懦にして電光、雷鳴に驚くは勿論屢々些事に吃驚して狂奔することあり、酷寒には堪ゆるも炎暑に弱く、且つ險阻なる道路には不適當である等の缺點あるも、粗惡なる飼料に堪へ又永く饑渴を忍び、一週間内外飮食せずして尚勞役使用することが出來る爲、沙漠地方野草乏しくして水稀なる處の運輸機關としては唯一のものである。

駱駝は他の家畜に比し壽命甚だ永く、三、四十年生存し、五、六歲頃より使役に堪へ、八、九歲頃より使ひ頃とし斃死するまで使役することが出來るは特徵である。

運送には夏季は炎暑の間は放牧休養せしめ涼しき間使役す、春季及び秋季奥地では駱駝運輸の最も盛なる時である。



右の荷造りに要する經費は各地方により一定し難きも、古麻袋二枚麻繩約五斤其價格は一角乃至一元、選毛荷造に要する人夫賃二角乃至二角五分にして、一箇の梱包費は一元乃至一元二角五分である。

石嘴子、包頭等には買辦の外莊にして手押の壓搾機を有するものあり、彼等は繩狀に綯ひたる羊毛を解裝し、土篩して諸夾雜物を除き、日光に乾燥したる上、前記の機械にて壓搾梱包し、運送の利便を計るにつとむ。

せられ、駄子は車輛の往來不能なる山岳及び沙漠地帶に用ひらる。尙水運の運送機關に就ては別に之を記す。

第三節　羊毛荷造方法

羊毛輸送中に於ける散亂を防ぎ、拔荷を防止する爲、奥地に於て買取られたる羊毛は發送に先立ち其場で荷造りせらる、荷造には麻袋、綿袋、毯子袋に入れ麻繩、毛繩にて堅縛することあるも、多くはフリースを連ねて撚を加へ直徑三寸位に長く繩狀に綯ひ、之を堅く捲き付けて一箇の重量大梱包は百二十斤乃至百四十斤、小梱包は八十斤內外とし、其のまゝ車輛に積み又は家畜に駄載す。

家畜駄載の場合には駄鞍を裝し大梱包は左右均等に積み、小梱包は左右に各一箇、又其上に一箇都合三箇を積み、麻繩又は毛繩を以て巧みに堅牢に著荷す。

是等原產地から搬出せられた羊毛が鐵道沿線の市場、例へば包頭、歸化城、張家口、又は奥地の地方集散市場例へば西寗、石嘴子、多倫等に於ける支那商人の手に入る時は之を麻袋に詰め換へらる。

此麻袋は普通の古麻袋二枚分を繼合せたる大袋にして、其梱包には五尺內外の高さに木枠を造り、之に麻袋を吊し羊毛を投込み人が其上に乘つて踏付け、適當の量に達した時口縫し枠より取り出し、締繩をかけ其兩端を五、六尺の棒を用ひ槓桿の理により堅く締め、縱に一條橫に一條又は二條をかけ、左圖の如く仕上げ品名、商號、番號等を記入せるもので、天津市場に出るものは大概ね斯る荷造を施せるものである。

運送具の需給狀態

治安狀態

物價

荷物の種類

返荷の有無

等が其主なるものである、之を實際について見る時は運賃の變動が、如何に是等と重大なる關係あるか思ひ半に過ぎるものがある。

イ　距離の遠近

運賃額が運送區間の距離の遠近に重大なる關係あるは理の當然にして多言を要しない、唯蒙古草地は家畜が野草を食とするを以て特別の飼料費を要せず、故に時としてよき草を得る爲に態々迂路をさへ選ぶことあり、故に距離は開拓地地方に於ける場合程重要なる運賃決定の要素ではない、卽ち草地々帶を行くものは非常の遠隔の地にも割安の運賃にて輸送に堪ふ、現に外蒙車臣汗地方の物資が數十里の距離にある東支鐵道方面に搬出すると共に、遠く二千支里を車行して張家口方面に出廻るものある事實に見ても明かである。

ロ　道路の狀態

地形及び地質による道路の狀態、又は出水其他の原因により往來を阻害する等の有無によりて、運賃に至大なる影響

直隷、山西、山東地方では羊毛は原地に於て布袋又は菰捲きとし、麻繩にて縦二條横三條を堅く縛す、此場合包裝不完全なる時は地方市場にて改装することあるも多くは其儘天津に出廻るものとす。

第四節　滿洲及び蒙古方面に於ける羊毛運送事情

出撥子又は毛販子により原産者の手から買取られた羊毛は、其所有の牛車其他により地方の集散市場に搬出せらる、包頭、歸化城、張家口、多倫、經棚、赤峰、錦州等の大集散市場には運送業を専業とするものありて荷主の依頼にて羊毛の運送をなす、彼等は自ら多數の車輛を所有し、又は駄獸を飼育する外に蒙支人のものをも利用す。彼等は受託荷物に對しては、馬賊其他天災による以外の損害には賠償の責に任ず。張家口方面に於ける駝店及び錦州、赤峰方面に於ける駄子店竝に平原地方の市場に於ける車店等と稱せらるゝは之である。

荷主は之等の運送業者に荷物の輸送を受託するを常とするも、各商賈が自らの計算及び危險で運送に任ずることあり、此場合車店又は駝店は荷主と駝夫の間に仲介の勞をとる其手數料は普通二分とす。

一　蒙古に於ける運賃の變動事情

牛馬騾駝車、駄子等による輸送には一定の運賃率なるものはなく、季節により道路により變動常なきものである、今運賃の變動に影響する要素を見るに、

距離の遠近

道路の狀態

ホ　物價の騰落貨幣相場の如何

物價の騰落特に家畜飼料として必要なる農産物の相場の騰落は運賃に影響する處大である、旱魃等の被害多く穀物相場の變動常なき蒙古では運賃がそれによりて影響せらるゝは免れられぬ。現に昨年赤峰地方は前年の作柄不良の爲運賃率が前年に比し數割の騰貴をなしたるは其邊の事情を説明するものである。

ヘ　荷物の種類

羊毛其他畜産物に對しては荷物の種類による運賃率の差異は少し、唯毛皮、皮革等積載に不便なるものは僅かに高率である。

ト　返荷の有無

返荷の有無が羊毛の搬出運賃に影響することは概して少し、返荷を考へるは開放地に於ける駄子營業の如き特別の場合に限らるゝものゝ樣である。

之を要するに以上の諸項が錯雜に相影響して運賃を變動す、特に道路の狀態竝に治安狀態等の如何が影響する處は最も顯著である。

左に各地方毎に實際について仔細に其實情を究むることにしよう。

を及ぼす。

蒙古は概して砂土質なるを以て滿洲地方に見るが如く泥濘の爲往來を困難ならしむることなきも、縱橫に流るゝ河川には殆んど橋梁の架せらるゝものなきを以て、一朝出水の際は渡川不能に陷り、車馬は減水する迄立往生する外なきを以て出水時には運賃の暴騰を見るが如き、他の地方では想像の出來ざる現象である。

之を要するに蒙古の道路は殆んど人工の加へられたるものなきを以て、交通の難易は全然天然の事情に左右せられそれが運賃の變動に影響する處尠からず。

ハ　車馬の需給狀態

蒙古に於ては季節的に物資が移動する爲牛馬車、駄子の需要は一時季に偏し、叉駱駝の如く使役し得る期間が或特定の時期に限らるゝ等の關係上物資の出廻期は運賃の上騰する理であるが、事實は運送具の供給力も大にして且つ廣汎の地域に亙りて需供を調節することを得るを以て、出廻季に際し運賃の騰貴すること少し。

ニ　治安狀態

治安狀態の如何は運賃の變動に影響すること大である、殊に蒙支接壤地方は匪賊の危險多きを以て治安の保持せられざる地方に行くことを極力回避し、一度び匪賊が出沒すること傳へらるゝや其地方を通ずるものゝ運賃は直に暴騰するを常とす。

一九二八年十一月	三・〇〇 ｜	｜ ｜	｜ ｜	三・〇〇 ｜	瓦利洋行羊毛三車を發送。
同　十二月	二・四〇 ｜	四・〇〇 ｜	二・四〇 ｜	四・〇〇 ｜	
一九二九年一月	二・八〇 ｜	三・五〇 ｜	二・五〇 ｜	｜ ｜	
同　二月	三・二〇 ｜	四・〇〇 ｜	｜ ｜	｜ ｜	
同　三月	三・〇〇 ｜	｜ ｜	｜ ｜	｜ ｜	
同　四月	四・〇〇 ｜	｜ ｜	｜ ｜	｜ ｜	

蒙古より通遼に至る道路は、シラムリン河の流域を通ずるを以て、此河の出水は最も運賃に影響す、七月の運賃騰貴は卽ち之である、十月より平常に復し十月、十一月は最も往來が頻繁であつた。

平年此地方に於ては六、七、八月が最も交通盛んで翌年一月頃迄往來あり、此地方の物資の出廻期間たる七月前後が恰も降雨季であることは、此地方に羊毛を搬出する上に極めて不利不便とする處である。

錦州に來集する羊毛運賃諸掛月別一覽表（單位百斤當り現大洋建 右側運賃、左側諸掛）

仕出地／月別	赤峰	林西	烏丹城	經棚	多倫	備考
一九二八年三月	三・〇〇 一〇・二五	六・〇〇 一〇・二五	｜ ｜	七・〇〇 一〇・二五	八・〇〇 一一・五〇	
同　四月	三・〇〇 一〇・二五	六・〇〇 一〇・二五	｜ ｜	｜ ｜	｜ ｜	

二　運賃諸掛

主要集散市場間に於ける羊毛運賃諸掛りにつき研究すれば、奥地に於ける運賃變動事情を更に明かにし、物資の移動狀態荷主の採算關係も知ることが出來る。此見地に於て先づ通遼を中心とする關係地帶につき、其實情を記することにしよう。

通遼に來集する羊毛運賃諸掛月別一覽表（單位百斤當り現大洋建）（右側運賃、左側諸掛）

月別＼仕出地	林西 運賃	林西 諸掛	赤峰 運賃	赤峰 諸掛	林東 運賃	林東 諸掛	烏丹城 運賃	烏丹城 諸掛	備考
一九二八年三月	三・〇〇	三・〇〇	—	—	—	—	—	—	
同　四月	三・〇〇	三・〇〇	四・〇〇	三・〇〇	三・〇〇	三・〇〇	—	—	
同　五月	三・〇〇	三・〇〇	四・〇〇	三・〇〇	三・〇〇	三・〇〇	—	—	
同　六月	四・〇〇	三・〇〇	—	—	四・〇〇	三・〇〇	八・〇〇	—	
同　七月	五・〇〇	三・〇〇	—	—	五・〇〇	三・〇〇	—	—	
同　八月	六・二〇	—	三・三〇	—	—	—	三・五〇	—	
同　九月	六・〇〇	—	—	—	四・〇〇	—	—	—	九月十七日以降ペスト病流行の爲鐵道運行停止。
同　十月	四・〇〇	—	—	—	三・〇〇	—	—	—	ペスト終息して二十日より打通線、二十二日より四洮線運行開始、瓦利洋行羊毛三車を發送。

昭和三年度は此地方の出廻り季たる六月より三、四箇月の間、張作霖の失脚によりて奉天軍が當地及び其關係奥地市場に澎湃として引揚て來た爲、地方の人心は動搖し其間に乘じて小賊跋扈して交通を阻害すること不尠、且つ前年度の旱魃により穀物相場の騰貴は、駄子の負擔を大ならしめ、自然運賃に迄影響することゝなつた。

特に注意すべきは諸税の負擔が過重であつたことである、然し之も本年六月一日以降改訂税率實施せられて税額は約半減せり。

張家口集散羊毛運賃諸掛月別一覽表（單位百斤當り現大洋建 右側運賃、左側諸税）

月別＼仕出地別	吉慶王（運賃）	吉慶王（諸税）	庫倫（運賃）	庫倫（諸税）	廂黄旗（運賃）	廂黄旗（諸税）	多倫（運賃）	多倫（諸税）	宿泥子（運賃）	宿泥子（諸税）	豊鎭（運賃）	豊鎭（諸税）	備考
一九二九年四月	七·三〇	六·五〇	一四·六〇	六·五〇	四·四〇	〇·五〇	—	—	—	—	—	—	外蒙方面より來る物資は國境に於て外蒙の輸出税を課せらる。山西、奉天軍開戰土匪跋扈す、包頭よりの物資は馬車にて蒙古地帶を迂廻す、蓋し鐵道による時は途中課税の負擔に堪へざる爲なり。
同五月	七·三〇	六·五〇	—	—	四·五〇	—	二·八〇	—	—	—	—	—	
同六月	—	—	—	—	—	—	二·八〇	—	二·七〇	—	—	—	貨車配給なく天津向け發送中絕へず、綏遠より牛馬車駄子により入市あり。
同七月	七·三〇	六·八〇	—	—	四·四〇	—	二·八〇	—	二·七〇	—	—	—	貨車配給不自由ながら天津行發送あり。
同八月	七·三〇	—	—	—	四·四〇	—	二·六〇	—	二·八〇	—	二·六〇	—	例年抓毛の出廻季なるも土匪横行の爲出貨なし。
同九月	七·〇〇	六·八〇	—	—	—	—	二·五〇	—	二·六〇	—	二·〇〇	—	時局平穩と共に出廻り漸增。
同十月	六·五〇	—	—	—	—	—	二·五〇	—	二·六〇	—	二·五〇	—	

一九二八年五月	三・五〇 / —	— / —	— / —	— / —	— / —	駄子飼料高の爲前年より運賃高、羊毛原産地市場には出廻りたるも未だ當地には來ぬ
同　六月	— / —	— / —	— / —	— / —	— / —	奉天軍關内より引揚政狀不安に陷り邦人も錦州より引揚ぐ。
同　七月	— / —	— / —	— / —	— / —	— / —	
同　八月	— / —	— / —	— / —	— / —	— / —	
同　九月	— / —	— / —	六・二〇 / 一三・〇〇	— / —	— / —	當地方政狀稍安定したるも熱河方面未だ動搖。
同　十月	五・〇〇 / 一三・四〇	六・二〇 / —	五・五〇 / —	— / —	— / —	降雨の爲道路惡く運賃上騰。
同　十一月	四・五〇 / 一三・四〇	五・八〇 / —	— / —	— / —	七・五〇 / —	土匪橫行する地方あり。
同　十二月	四・五〇 / 一三・四〇	五・七〇 / —	— / —	— / —	七・八〇 / —	路上土匪の危險あり小駄子は休み大駄子のみ往來す。
一九二九年一月	四・四〇 / 一三・四〇	— / —	— / —	— / —	— / —	土匪征伐せられ安靜。
同　二月	四・二〇 / 一三・五五	六・〇〇 / —	五・七〇 / —	— / —	— / —	
同　三月	四・二〇 / 一三・五五	六・〇〇 / —	五・七〇 / —	七・二〇 / —	七・八〇 / —	
同　四月	四・四〇 / 一三・五五	— / —	五・七〇 / —	七・四〇 / —	七・九〇 / —	
同　五月	四・五〇 / 一三・五五	六・二〇 / —	五・八〇 / —	七・五〇 / —	八・〇〇 / —	
同　六月	五・〇〇 / 六・四〇	六・〇〇 / —	五・八〇 / —	七・五〇 / —	八・四〇 / —	一日以降稅率改訂。

課せらるゝことあり。

税制は各地方毎に異り鐵道沿線を離れたる地方に於ては複雜にして税額は多額に上るを常とす、他方荷主に於ても正規の通り税金を納入すること稀にして、税局と通じてよく其幾部の上納を免るゝを得るを以て、實際上果して幾程の税金を收むればよいのであるかは判然しない譯である。之は徵税が請負制度によるに胚胎する點もあるであろうが羊毛の搬出上困つた問題である。今規定の税率を左に列擧すれば、

イ 東部蒙古方面

此地方は最近數年間政狀安定せず直隷系、奉天系、馮玉祥系、奉天系、山西系等入り代り立ち代り盤踞し、其度び毎に酷税を制定し絞れるだけは絞つて其財源を賑さんとしたるを以て、税制は紊亂し商民の苦しみは言語に絕し、一般商取引上に及したる影響は甚大なるものであつた。羊毛百斤を鐵道沿線に搬出するにつき徵せらるゝ税金は、

熱河省税	六分	〇・五〇元
通過税	三分	〇・七五
出境税	每百斤	〇・八〇

之が奉天省に這入て來ると、

出產税	三分	一・二〇元
銷場税	四分	一・六〇

右の外に地方税を課せらる、それが又各地方毎に異つて居る、例へば錦州に於ては起運税として羊毛百斤につき二元

一九二八年十一月	五・八〇	六・八〇	—	—	四・〇〇	—	二・二〇	—	二・六〇	—	二・五〇	—	道路結氷の爲駄子運賃漸增。
同　十二月	六・五〇	六・五〇	烏里雅蘇臺 一八・〇〇	六・五〇	—	—	二・五〇	—	二・六〇	—	二・五〇	—	
一九二九年一月	六・五〇	六・五〇	庫倫 一〇・五〇	六・五〇	—	—	二・二〇	—	二・六〇	—	二・五〇	—	
同　二月	六・五〇	—	—	—	—	—	二・二〇	—	—	—	二・五〇	一・〇〇	
同　三月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二・五〇	—	
同　四月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
同　五月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二・八〇	—	解氷後道路不良且つ農繁季に入り運賃上騰。

張家口はこゝ數年間屢々戰亂に惱され、昭和三年度に於ても奉天軍撤退して山西軍之に代り、其際市街は幸にして兵火の難は免れたるも地方に於ける土匪の跳梁甚だしく、交通を阻害したること尠くない、又京綏線の貨車が奉天軍の爲に抑留せられて輸送難に陷り、且つ鐵路上不當の課稅を徵せらるゝ爲、豐鎭包頭方面の物資は蒙古地帶を迂回して牛馬車又は駄子によりて張家口に搬出せられたるが如き平年は見られぬ現象である。是等特異の點を除きては、運賃は他の地方に於けると同じ原則によりて變動しつゝあるを知る。

三　諸　稅

輸送中に課せらるゝ稅金は羊毛取引上に於ける重要なる部分を占む、前揭の表に見るが如く運賃額に數倍する稅金を

落地税　一割一分

附加税　八分

東支鐵道により發送するに際し

徴收局税　一割二分

布度税　毎布度　〇・一〇元

獸醫檢查の料　同　〇・〇八

滿洲里より發送せらるゝものは右の外に海關税を要す。

第五節　東部蒙古に於ける羊毛移動狀態

今東部蒙古で代表的地位にあり物資移動上の一分岐點に立つ林西の場合をとつて、關係海港に至る運賃諸掛りを摘出比較すれば。

林西大連間			林西錦州天津間			林西赤峰天津間		
林西通遼	運賃	四・〇〇	林西錦州	運賃	六・〇〇	林西赤峰天津	運賃	一一・〇〇
	諸掛	三・〇〇		諸掛	六・四一		諸掛	四・六〇
通遼大連	運賃諸掛	一・四四	錦州天津	運賃諸掛	一・四三			
計		八・四四			一三・八四			一五・六〇

之に依つて見れば東部蒙古の物資は通遼の方面に發送するを最も利とするのであるが、事實は之に反し、態々遠路を選

八角を、又通遼に於ては公捐として六厘六毛を徴する如きである。

ロ　京綏線方面

曩に奉天軍が京綏線に據る頃迄は包頭より天津に至る間羊毛百斤に對し

塞北關	〇・三三元
殺虎關	〇・六六

合計九十九仙の税捐を納入すれば足りしも今日では、

塞北關	〇・六六元
殺虎關	〇・六六
綏遠統捐	〇・七四八
鐵路貨捐	〇・六三
粮貨統捐	〇・五〇
大右統捐	一・七五

合計四元九角四分八厘即ち約五倍に増加し、其他にも種々の名目を以て幾多の諸掛りを要す。是等の關係が先に記する如く包頭豐鎭等より、張家口迄鐵道によらず蒙古地帶を牛馬車駄子にて輸送せしめたる所以である。

ハ　東支線方面

奥地の羊毛が沿線に到著したる時

入つたものであるが、今日でも其年額は一萬擔位の見當に過ぎぬ、各徑路による運賃を比較するに、（百斤當り現大洋建）

徑路	運賃
天津、赤峰、林西、間	一一・〇〇元
營口、錦州、赤峰、林西間	九・四五
營口、通遼、林西間	六・〇〇
奉天、通遼、林西間	七・〇〇

卽ち通遼經由で輸入するを最も利とするのであるが、未だ錦州、天津方面より移入せらるゝものも少くない。然も物品によつて徑路が大體定つて居るは注意すべき點で、

錦州方面より　石油、マッチ、棉花、洋線、打連布、紅白糖、氷糖、鐵器

天津方面より　大布、席子、市布、染料、磁器、各種靴、茶

市布、席子等の地方特産品が天津方面より直接移入せらるゝは自然であるが、外國輸入品が最も運賃の高い天津路をとるは面白い現象で、結局移出貿易金融關係及び古來の慣習等が左樣させて居るものであろう。

之を要するに東部蒙古の物資は南北に向つて移動し、東西には未だ多く動いて居ないが、近年通遼に出廻るものが次第に增加する傾向あるは注意すべき現象である。

第六節　西部支那に於ける羊毛運輸事情

一　概說

び多大の負擔を忌んで錦州、天津方面に出廻るもの多し、東部蒙古に於ける羊毛移動狀態を概數を以て示せば次の如し。

海拉爾方面に出廻るもの	二二、〇〇〇擔
四洮線方面同	一五、〇〇〇擔
錦　州方面同	一五、〇〇〇擔
天　津方面同	五、〇〇〇擔
張家口方面同	三〇、〇〇〇擔

斯の如く地理的經濟的の實情を無視して通遼方面に出廻らざる所以は(イ)古來の商取引關係に因ること多く金融、運輸及び取引上の諸慣習が容易に變革出來ざること、(ロ)大連に羊毛輸出港としての施設なきこと、(ハ)大連方面に有力なる輸出商が居らぬこと等は其主なるものである。

清朝が北京に都を奠め蒙古懷柔を策してより、北京が蒙古の經濟上、政治上の中心地となり、蒙古の物資は總て北京方面に流れたものである。

天津が開港せられ蒙古の資源が世界的に地位を築きて後は、蒙古物資の南北に向つての移動は更に確定的となり、滿鐵が敷設せられ四洮線が出來ても、所謂蒙古とは何等の關係を開くこと能はず、物資は滿鐵を眼前に見て依然として南北に移動して東に出ようとするものはなかつた。然るに第二奉直線の頃南方に出る道が閉された爲、物資は止を得ず出路を東に求め、一九二五年通遼に出る樣になつたのが嚆矢で、漸次東に向つて流るゝ傾向が出來て居るが、年額は二萬擔内外にして八萬擔餘のものは當然滿鐵線方面に出廻を利とするに拘らず、南に流れて天津方面に出廻つて居る。

因に移入方面では新しき商品と新しき取扱商人とが居た爲、石油、マッチ等は比較的古くより滿鐵線方面より多少這

至花馬地	東三九〇支里	甘肅省
至惠安堡	東二八〇支里	
至金積堡	南一二〇支里	
至安邊	東五四〇支里	陝西省
至定邊	東四五〇支里	
至阿拉喜羅王府	西二一〇支里	蒙古

而して寧夏の黃河碼頭たる紅城は寧夏市街を去る三十支里を隔る黃河の左岸にあるを以て其の距離遠きに過ぐる上、雨季に際しては屢水災を蒙るを以て、碼頭としては極めて不便である。

三　石嘴子の隆昌と寧夏

石嘴子は寧夏の北方百九十支里黃河左岸に位置し、包頭迄舟行一千二百支里陸路亦一千二百支里となす。

西方は賀蘭山を通じて蒙古阿拉善に至るべく、黃河の水運により寧夏、中衞、西寧と連絡す、水運交通の要害に當れるを以て、此方面に產する羊毛の大部分は此の地に於て轉送せらる、當地の黃河碼頭は市街より約半里の近距離にあるを以て、寧夏の碼頭紅城に比すれば、貨物の轉送地としては好適地と云ふべく、寧夏は漸衰し石嘴子之れに代りて旺盛に趣きつゝあるもの如し、故に買辦の多くは之の地に外莊を置き、半プレッス機を据附け、改裝轉運に要する諸施設をなし、此方面に於ける羊毛中繼地として重要なる地位を占む。

西寧羊毛及び西路羊毛の産地である、青海地方、甘肅地方、阿拉善地方及び鄂爾多斯地方の羊毛は地方の小集散市場を經て、西寧、寧夏、石嘴子等の碼頭に集りそれより、水路又は陸路により、包頭を經由して鐵路天津に出廻るものとす。

今西寧、寧夏、石嘴子と包頭間に於ける水陸運搬の利害を比較するに、

運賃は水運、陸運よりも低廉なり。

運搬日數は陸運、水運に比し長日時を要す。

陸運に盜難の患あり、水運に水濡の憂あり。

陸運は水運に比し輸送力少し。

土匪内亂より生ずる危險は、水陸殆んど同程度なれども陸運の方稍々危險多し。

以上の如き關係にて多少水濡の恐ありと雖も、陸運によるよりも寧ろ水運を選ぶが有利にて、各原産地より搬出せる羊毛は水陸運輸の要衝たる寧夏又は石嘴子より水路包頭に搬出せらる。

二　寧夏及び其背後地

寧夏は黃河と賀蘭山との間なる、所謂黃河沃野の中央左岸に位す、黃漢唐泰淸の五大運河を鑿ちて黃河の水を通じ、溝渠縱橫して灌漑の利に富み、稻米を産するを以て黃河沿岸に於ける江南の名あり、西は、拉善蒙古に接し、北方遙に才壁に連り、東黃河を隔てゝ鄂爾特斯蒙古に臨み、北方百九十支里にして石嘴子に達す、而して寧夏より附近羊毛集散地への距離を示せば、

三尋に達し處々沙洲ありて船航を阻む、故に石嘴子より下航する民船は、盜賊の防衛及船の河底に膠著せる場合相互扶助の必要より、二、三隻相前後して發程し途中の行動を共にするが常である。

ロ　皮筏の構造

皮筏は俗に之を混飩と稱し、羊皮筏、牛皮筏の二種あり、其の構造は牛、羊の頭脚尾部を切斷し頸部より體內の骨肉內臟を摘去して圓筒狀の皮袋となし、脚尾の切斷口は繩を以て堅縛して水の浸入を防ぐ、而して頸部より羊毛を詰め込み、更に糯を以て空氣を注入して膨張せしめ、然る後之を緊縛し水及空氣の浸入竝に漏出を防ぐのである。

牛皮筏に用ゆる牛皮は主として價格低廉なる犂牛又は犏牛（犂牛と黃牛の雜種）の皮にして、右の如く包裝の出來た皮袋五、六箇を一列とし棒を以て之を連結し、其十數列を以て一筏とし、筏上にも更に貨物を積載す、此筏の皮袋數は河流の情況によりて一定せざれども、普通西寧蘭州間は一列十五、六袋のものを二列とし、三十箇內外を一筏となすも、盾化より蘭州に下るものは七、八十袋を二列に連ねて一筏と爲す、蘭州より下流は概ね四列とし各列三十箇、即ち百二十皮袋を以て一筏とす。

皮筏一箇に塡充し得る羊毛は百三十斤乃至百五十斤にして、筏上に積載する量を合計するときは蘭州上流の小筏は五六十擔、蘭州下流の大筏は三百擔を搭載し得ると云ふ、目的地に到達したる皮筏は內部の荷物を取り出して乾燥したる上、皮袋は馬又は駝背により更に原地に積み戾される、一箇年に往復五、六回の輸送に堪ゆと云ふ、輸送貨物は羊毛の外雜穀をも積載す、而して一箇年間に湟河を下る皮筏は西寧地方にありて五百を下らず、下流のものを合計するときは一千隻以上に及ぶと云はれて居る。

四　黄河による羊毛運送

黄河の舟揖は上流西寧附近より始まり、包頭の下流三百支里なる河口に至る約二千七百支里の間にして、此間皮筏及び民船の運航盛んである。河口より下流山西省西南部に於ける黄河の灣曲點迄は、激流の爲め航行不可能なり。

イ　皮筏

西寧附近を流るゝ湟河は河中岩石多く水量少き爲め、降雨後增水を待つて一時に二、三十臺の牛皮筏を下航す、筏は河幅狹きと急流なるを以て皮袋の臀部と臀部とを接して連結し之れを二列として造る、舟子は前後部各一人擢を取りて筏を操り西寧、蘭州間四百八十支里を三日乃至五日にして下航す、蘭州に到著する皮筏は二臺又は三臺を解體して、皮袋約百二、三十の大筏一臺に改造し、三列又は四列とし之を丸太に一個宛堅縛し、其の上に座を組み更に羊毛を積載し、前後各三挺の擢を備へ六人にて之を操り、石嘴子に至る千二百八十支里を二十日、包頭迄二千四百八十支里を三十日にして下航す。

蘭州の下流百支里は峽灘頗る多く六人の舟子にては操縱困難なるを以て、蘭州に於て別に四人の舟子を雇傭す、其の內一人は水先案內人として筏の前端に立ちて號令し舟行の針路を示す、此行程一日、險處を通過し終れば雇傭の舟子は上陸し蘭州に歸るのである。

民船は主として五佛寺、靖遠、中衞より下流に航行す、黄河は兩岸の土砂崩壞して屢河道を變じ、只波浪の狀態により て淺瀨を識り之を回避するのみ、石嘴子より下流は河幅廣きは五、六丁、狹きは三、四丁、水深淺きは二、三尺深きは二、

蘭州より上流は民船の航行することは極めて稀である。

包頭の上流は水流急速にして一時間三〇支里に及ぶ處あり、船は屢々坐洲する事あるも、船底を傷け或は顚覆する事なく、船夫は河水に入り深所に引出す、若し膠著して動かざる事あれば、船夫は只水流にまかせ自然に離洲を待つ。若し一船坐洲せば、他船は適當の場所に停止して、離洲を待ちて再び航行を開始す。

夜間は假泊し、未明より日沒迄水流にまかせ櫓を操りて下航す、隨て一日の行程を豫想する事を得ない、水量豐富にして船夫熟練せる時は石嘴子、包頭間を早くて七日普通十日內外を要す。

溯江には小量の貨物及船夫の食糧を積みて帆を張り一船夫が是を操り、其他の船夫は陸上を岸に沿ふて繩を以て曳船するのである、包頭、石嘴子間普通二十五日を要し、請遠迄は四十五日乃至五十日を要し、一年間三、四回往復するのみである。

ニ　小　蒸　汽　船

大正六年黃河輪船公司なるもの設立せられ、小蒸汽船三隻を購入し、包頭上流に泛べしも、河道の變遷常なく航行極めて危險にして餘り使用されない。

ホ　航行日數と運賃

筏及び民船の航行は河水漲大せる雪解の三月末より、雨期增水後の八、九月頃を以て運輸旺盛の期間となし、立冬(舊十月十五日)以後は流氷あり十一月末乃至十二月初には河面結氷して航行杜絕するに至る。

羊皮筏は皮質が薄弱にして、途上破損し易き爲め、主として近距離の輸送、渡河其他小用を辨ずる程度の場所に使用される、之等は何れも羊袋六箇以上を連結したるものにして、急端激流多き上流に於て巖石に衝突し其の幾分を破壞するも、全部の浮泛力には些の關係なし。

之等の皮筏を操縱する船子は殆んど回々敎徒であると云ふ。

筏の下航は每年解氷季より開始す。西寧、蘭州等の地方より下航するものは寧夏、石嘴子以下に行くことなし。

八　民船

民船は型に大小ありて名稱を異にし高帮子、尖頭船、五棧船、六棧船、七棧船等の別あるも、其構造は大體類似し吃水淺く船底扁平なる箱型にして、用材は柳樹の厚さ二、三寸の板を以て粗雜に造られ極めて堅牢である。よく三、四年間は使用に堪へ、大修理を要するに至れば木材として賣却す。

名稱	長さ	幅	深	積載量	備考
高帮子	三六—三八尺	三—一五尺	三尺	七、〇〇〇—一五、〇〇〇斤	石嘴子より上流に使用 上 ｝二百五十隻
尖頭船	—	—	—	一五、〇〇〇	同上
五棧船（五倉艙、五站子）	三—四〇	三—一八	三—四	二〇、〇〇〇—三〇、〇〇〇	內部は三區に仕切らる、中衞、寧夏より下流に使用 ｝六百隻
六棧船	三七	一八	四—五	三〇、〇〇〇	同上
七棧船	四〇	一九	五	三〇、〇〇〇—四〇、〇〇〇	同上

此外滑子と稱し極めて小型のものあり積載量三千斤內外にして、近鄕間の運送及渡船用に使用す。

第七節　鐵道輸送と轉運業

一　鐵道輸送

蒙古の南部を東西に通じ包頭より北京に至る京綏線は蒙古及び西部支那の羊毛產地を其背後に控へ、天津に出廻る羊毛の七・八割は此線路によつて搬出せらるゝものである、北方及び東方を繞る東支、四洮、滿鐵、打通、京奉、京漢、津浦等の諸線は其輸送數量に於て到底京綏線の比でない。

二　轉運棧

鐵道輸送の運送取扱業は轉運棧或は貨棧と稱せらる、後者は後に記する普通の貨棧と區別する爲運貨棧と云ふことあり。

由來支那の鐵道は輸送貨物の紛失毀損等に對しては、其責に任ぜざるを以て、鐵道で積出す時は運送店である轉運棧に、荷物の積込發送等の一切の手續き竝に目的地に到著迄の荷物の監視を託し、之に對し一定の報酬を支拂ふ。轉運棧は純全たる運送店たることは少くして、多くは或商人の手先として其商人の取扱貨物の運送を取扱ひ、旁他の荷主の依賴に應じ、運送店の業務を營むものである、從つて其取扱貨物が或特定の品種に局限せらるゝこと少くない、轉運棧の營業は極めて自由にして時としては顧客に對し賣買の仲介をなし、又自己の計算を以て貨物の賣買をなすことさへあり。

轉運棧は好得意先の出張員に對しては、店內に事務所を貸與し無料にて宿泊を爲さしめ相當の待遇をなす等貨棧の營

航行日數及運賃は河水の狀態其他の關係によりて變動し、一定したものがある譯ではない、今普通の場合に就て見れば、

自西寧至蘭州	四八〇支里	三、五日
自蘭州至中衛	七四〇支里	三、四日
自中衛至寧夏	三五〇支里	三、四日
自寧夏至石嘴子	一九〇支里	二日
自石嘴子至磴口	二〇〇支里	二日
自磴口至包頭	一、〇〇〇支里	七、十日
合計	二、九六〇支里	二〇、二七日

即西寧、包頭間二千九百六十支里を早ければ二十日にて下航するのである。運賃は大約次の如し。

自西寧至包頭	一擔	六兩乃至九兩
自西寧至石嘴子	同	四兩乃至六兩
自寧夏至包頭		
民船借切積載量三萬斤		四月七十兩乃至八十兩、八月百兩乃至百五十兩
自寧夏至磧頭紅城三十支里馬車賃	一擔	三百文
自石嘴子至包頭		
民船借切積載量三萬斤		四月七十兩乃至八十兩、八月百兩乃至百二十兩

ロ　運　送

貨　車　乘　り

轉運棧は積荷監視の爲一列車に約六名の貨車乘りの外、運行中の事務を取扱ふ一人の店員を附す、上乘りに對しては食費として一日に付五角、外に天津迄の三等賃金を支給す、宰領の店員に對しては別途勘定を以て計算すること多し。

夜　　警

運行途中夜に入り停車したる時は貨車乘りは他に宿泊するを以つて、其の間夜警を附す之れを看車と稱し、多くは其驛にある專門家に託すれば、貨車一輛に付一夜五角の費用を要す、天津迄看車を要するは一、二箇所にて足る。

運送中に要する經費は右の定つたものゝ外看貫を爲す場合は驛長以下係員に對する心付、又列車運行中護衞兵に對する謝禮金、車掌以下の乘務員に對し幾何かの心付を要す。

貨車乘りが食事其他の用事にて貨物の監視をなし能はざる時は、該地の運送店に依賴せしめ報站と稱し、謝禮金を支拂ふ。

列車が天津に到著せば轉運棧は引込線費として一車につき一元五角、又運送店費として一車に就き三元を費す、之等運送中に要する諸經費は總て轉運棧の負擔である。

輸送途中の驛で徵稅せらるゝ場合荷主に代辦す。

ハ　荷物の到著運賃の支拂ひ

貨物が驛に到著すれば貨車の宰領者は積荷明細書を作製し、到著地の取扱運送店に提示し、六時間以内に通關手續を

業に類似す。又一時的の顧客に對しては宿料を申受く。

京綏沿線には大小約數十戸の運送店あり、それ〳〵主要驛に支店又は取引店を有す、近來彼等の營業は概して不振の狀態なるも、新泰公、平和公、慶隆棧、合順公、日新棧等の如き稍盛んである。

イ　貨物引受積み込

轉運棧は常に市中に外交員を派し市況並に貨物の集散狀態に留意し、荷主を勸誘し蒐貨に努む。

商人の買付たる羊毛は直ちに轉運棧に託して、荷造りをなさしめ驛に持込ましむることあるも、多くは驛迄の持込は荷主自身之を爲す、此場合貨物の量の大小、貨車の配給の如何により轉運棧の院子内に一時持込むことあり、其際は轉運棧はそれ等の保管の責に任ず、是より先轉運棧は荷主の申込により或は見込により貨車を手配し置き、配給と同時に專屬の積込苦力頭に命じ貨車積を爲す、積込賃は鐵道貨物運賃規程に準じて一噸に付約一元五角を徵し、此外に積込材料費は運送店の負擔となる、之に要する材料及費用左の如し。

イ、蓆子	一車に付	約三十枚	一枚一元四角
ロ、麻繩	同	同二十斤	一斤三角五分

全部の積込を了れば、運轉機は稅局に報じ檢査を受け、此時に該檢査人に對し酒錢として一列車に付約五、六十元贈與を爲す慣例あり。

稅金の支出及び納付は貨主自身之を爲し、運送店は一切干與しないことになつて居るが、荷主の依賴あらば代辦するは勿論である。

拂ふことにより、內地各種の徵税を免るゝものとす。

內國品を輸出港に輸送せんとする外商は、領事館を通じ海關監督より、三聯單の發給を受くるものとす。天津にありては三聯單上には、內地買付品名五種を限り記載することを得、隨時其內の一種又は數種の買付輸送に使用することを得。

買付外商又は其代理人は、三聯單を以て內地に趣き貨物を買ひ出したる後、其品名數量買入地輸出港名等を記入し之れを貨物通過の最初の税局に提出す。而して税局は檢査の後三聯單と引替に運照(Conveyance Certificate)を發給するものとす。又運照を發行する代りに、三聯單の一片を與ふる税局あり。而して第二片は自局に止め、第三片は發行の海關に返送するものとす。運照の貨物は中途販賣を許されず。商人は各税局を經過する每に運照を呈示して貨物の檢査を受け、最後の税局、即ち輸出港最近の税局に到著したる時は、之を海關に屆出づ、海關の運照記載の貨物に對し子口半税を徵收したる後、其の輸出港に入るを許可するを普通とすれども、天津にありては便宜上、税關にて運照記載の貨物を檢査したる後、隨意入庫することを許し、檢査後一週間以內に税金を納入するものとす。

子口半税を納めたる貨物は一定期間內に、外國に輸出せらるゝを要するものなれども、天津に於ては殆ど實行せらるることなし。何んとなれば多くの外商は、自己名義の三聯單を發行し、專ら買辦をして自由に使用せしめ單に手數料を徵するのみであるから、外商は三聯單にあり撤出されし商品が果して輸送せらるゝや否やは殆んど關知しないのである。

天津に於ける三聯單の有效期間は甘肅、新疆、烏里稚蘇臺は三年、山東、山西、河南、陝西、奉天、黑龍江、吉林、庫倫、恰克圖、內蒙古は二年、直隸は一箇年とす。但し不可抗力に因る場合には、地方官憲に於て特別に延期を許すものとす。

了し、各荷受人に對し引取方を通知するのである

運送店は諸種の便宜上通關代辦をもなす、荷主が引取りを爲さゞる場合は、荷主の經費を以て轉運棧の倉庫に之を保管す。

轉運棧の受託貨物取扱料金は鐵道運賃及び運送中に要する諸經費を、出來得る限り多額の利潤を見積りて採算し、一擔に付幾何として定め、發送地に於て受託の際引受運賃の約半額乃至三割內外卽ち鐵道運賃相當額を貨主より申受け、其の殘額は荷物の引渡しと同時に決濟するものである。

第八節　三聯單

羊毛を天津に搬出するにつき輸送途中に於ける諸税を免る爲三聯單を用ふ、三聯單は國民政府となつて以來用をなさざる爲多く用ひられて居らぬが、從來羊毛取引上に最も重要なる關係を有したものであるから左に之を記す。通商港と內地市場との間に輸送せらるゝ、外國貿易、輸出入品に對して課せられべき、各種の內地關税を免ぜらるゝ爲め、通商港の海關に於て課する特別の關税を、子ロ税又は子ロ半税と云ひ、淸の咸豐八年英支天津條約に其の端を發し、一八九六年日淸通商航海條約に於ては抵代税と稱し、其の第十二條に『淸國ニアル日本臣民ガ、淸國開港外ノ地ニ於テ買入レタル、一切ノ淸國生産物及物品ニシテ輸出セラレントスルモノハ、前條ニ記載シタル税率（輸入税ノ二分ノ一）ニヨリ、輸入税ノ代リニ輸出税ヲ基礎トシテ算出シタル低代税ヲ拂ヒタル上、其輸出ニ際シ單ニ輸出税ヲ拂フ外ハ、淸國各地ニ於テ各種ノ税金賦課金手數料厘金ヲ免ゼラルベシ。但シ右ハ前記ノ生産物及物品ニシテ、通過税支拂ノ日ヨリ十二箇月ノ期限內ニ限リ外國ニ輸出セラレタル場合ニ限ル』とあり、卽ち外國に輸出する內國品に對し、輸出税率半額を支

月別＼年別	一九二七年	一九二八年	一九二九年	一九一七年	一九一八年
一月	一六、三二八	二三、二六一	三七、七六二	四三、五四七	二八、二三九
二月	一六、六七四	四六、七六六	三三、二六六	一四、四四三	三、二六六
三月	三一、四〇一	二三、五二〇	二三、五二〇	三一、四七七	五〇、二二六
四月	一九、七四一	五二、六五三	五九、三三一	一四、二三五	三八、五八二
五月	一六、三〇一	三六、四五七	九二、一三八	一三、九三三	二九、七三二
六月	一三、五五九	五、四五六	五、九六一	三三、五五九	三五、八九〇
七月	二七、一三五	二六、七九九	二六、九一六	四五、五六二	四八、七九二
八月	三五、三二六	二三、二五〇	一三、六三〇	一七、〇〇四	三一、五三三
九月	三三、一〇四	一七、五五六	一四、一二四	二四、三六五	三六、六六九
十月	三六、〇五〇	二七、三五一	二八、七五三	二三、一四〇	二五、五六〇
十一月	二四、三四一	三六、九六九	三六、八九一	五五、八五五	二九、二四二
十二月	二七、一三五	五五、一二九	二〇、七二三	四二、一九六	四五、〇四六

備考　一九一七年及び一八年は常關統計による天津月別出廻り數量を示す

右の表により明なる如く、毎年多少の變化は免れず、殊に一九二八年度の如き特異の現象を呈するも、大體に於て六七月に出廻增加をなし、更に十一月に顯著なる增加を見、翌年の一月迄其傾向を持續す。此事實は天津に於ける羊毛出廻り事情を最も有力に說明するものである。

即ち六月には辛集、順德及び交城方面の散抓毛が先づ出廻りを始め、七月、八月には蔚州、周村、楡林地方よりも出

護照　護照は三聯單により搬出する貨物を、支那人を使用し、支那内地に於て買付せしむる場合に用ゆる一種の證明書にして、其の内容は某外商は支那人に銀若干を持たせ、某地に派遣し某貨を購買せしむる旨記載せるものにして、三聯單にて貨物を發送する場合之を買付地の税局に呈出するものとす。西路一帶に於ては護照を要せざるも、關外地方は之れを必要とす。

第九節　羊毛出廻り狀態

一　概　說

羊毛は剪毛後直ちに出廻りを始むるも天津へ出て來る時期は、原產地との距離の遠近により又交通運輸狀態並に羊毛相場の如何により遲速あるは免れず。

一時に多量の羊毛が出廻る時は必ず相場下落の誘因たるべく、且つ天津に於ては倉敷料、保險料等の諸掛り多くを要するを以て、原產地商人は買付後直ちに其全部を天津に搬出するを常とするものにあらず、運搬に便利ある奥地に手持して居て、天津市場の氣配に應じ臨機搬入するもの多し、故に羊毛の出廻りは剪毛期後數箇月にして尙盡きず、一年中を通じて多少の出廻りあり、然し剪毛季に應じ大體出廻季は一定し、主なる原產地羊毛の入荷する季節は自然出廻り數量の增加を來す。

左表は天津海關統計による羊毛の月別輸出數量表である。（單位擔）

寒羊毛は順德 六月―七月　辛集 五月―七月
泊頭 五月―六月　大營 五月―六月

三　出廻數量

天津の羊毛出廻り數量は年々增減あるも、左記は大勢を示すものである。

西寧套毛	七〇、〇〇〇擔	西路套毛	一六〇、〇〇〇擔
庫倫套毛	七〇、〇〇〇擔	錦州套毛	一二五、〇〇〇擔
抓毛	三五、〇〇〇擔	散抓毛	四〇、〇〇〇擔
秋毛	一〇、〇〇〇擔	計	四一〇、〇〇〇擔

尙稍古き調査であるが參考の爲天津の我有力者の推定せるものを左に表示せん。

種別	三井	大倉	武齋	天津商業會議所	吉田博士
西寧套毛	一〇〇,〇〇〇	三五,〇〇〇	一七〇,〇〇〇（西寧套毛―錦州套毛）	三五,〇〇〇	二三〇,〇〇〇（西寧套毛―錦州套毛）
西路套毛	一七〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇		一五〇,〇〇〇	
庫倫套毛	七〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇		三〇,〇〇〇	
錦州套毛	四〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇		一〇,〇〇〇	
玉毛	五〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	二六,〇〇〇	三〇,〇〇〇	二五,〇〇〇

種別	三井	大倉	武齋	天津商業會議所	吉田博士
散抓毛	四〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	三三,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三五,〇〇〇
秋毛	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一,八〇〇	一〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇
寒羊毛	五,〇〇〇	五,〇〇〇	七〇,〇〇〇	五,〇〇〇	四,〇〇〇
其他	―	―	―	一〇,〇〇〇	―
計	四八五,〇〇〇	三三〇,〇〇〇	二九〇,八〇〇	三三〇,〇〇〇	三四四,〇〇〇

廻りあり、其他七、八月は抓毛も上市し來り前表の如き出廻り數を見る譯である。

十一月、十二月には外蒙、青海、甘肅等邊域産の套毛が多量に到著する爲、出廻りは著大なる増加をなし、一月迄で大體出廻り終了す。

二　出廻季節

主なる羊毛につき出廻り季節を左に表示しよう。

套毛	西寧套毛	十一月―六月	西路套毛	十月―五、六月
	楡林套毛	九月―十月	錦州套毛	八月―十月
	庫倫套毛	十月―三月		
抓子毛	豐字抓毛	六月―九月	西口抓毛	七月―十月
	包子抓毛	七月―十月	東口抓毛	六月―八月
散抓毛	交城散抓毛	六月―十月	封陽散抓毛	六月―九月
	蔚州散抓毛	七月―八月	周村散抓毛	七月―九月
	順德散抓毛	六月―十月		
秋毛	交域秋毛	十月―十二月	封陽秋毛	十月―二月
	蔚州秋毛	十月―十一月	西路秋毛	十一月―二月
	順德秋毛	十月―十一月	錦州秋毛	十月―二月

人の餘剩品にして生畜あり、皮革あり獸毛あり一定して居ない。從つて出撥子により多量の羊毛のみを蒐集せんとするは不可能であるが、出撥子は生産者より羊毛を買出す上に相當の地位を占む。

彼等の取引は三年決濟にて連續的に行はるゝを以て、其間の危險利息等は總て出撥子の負ふ處にして、彼等は蒙古人の無智に乘じて徹頭徹尾欺瞞を以て取引の信條とし、彼等の販賣する商品に不當の利得をなすのみならず、受取る畜産品の値段も非常に格安に見積り、又は蒙古人の數の觀念が貧弱なるに乘じて數量を誤魔化す位のことは尋常茶飯事である。從つて彼等は割安に羊毛を仕入れることを得るのであるが數量の纒らぬのが其缺點である。

二 幹 毡 的

幹毡的は毡子製造の爲蒙古奥地に數名組をなし出稼する者の稱にして、其一組は普通四人乃至十二人を以て編成され四月頃より毎年得意先とする地方に出張し轉々して、蒙古人の註文に應じて毡子の製造をなす。

幹毡的を利用して羊毛買付をなす場合は斯る組を數十組派遣す、其場合は大要次の如き方法による。

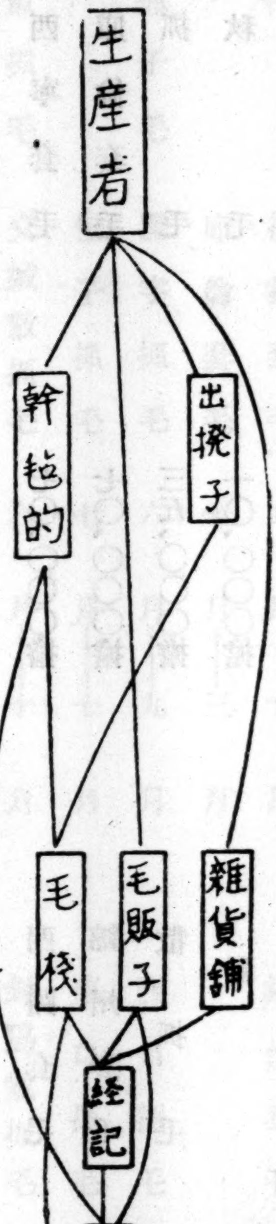
羊毛出廻季に先立ち幹毡的が巡業期間中に要する器具、牛車、食料及び天幕の用意の爲に必要なる資金を前貸す、其程度は職長に對し百元乃至二百元、職人一人に付き四十元乃至五十元の見當で、之により彼等は必要品を購入し牛車を連ねて奥地に入るのである。

元來毡子は羊毛を以て造るフエルトにして、蒙古包の覆に用ひ又は敷物として蒙古人の居住上必要なるものである、近年彼等は他の市場で製品となつたものを買ふ傾向が多くなつたが、未だ巡回して來る幹毡的をして製造せしむること多し。

第四章　羊毛取引事情

第一節　原産地に於ける羊毛取引事情

羊毛の買出方法は地方又は場合により一様でないが、支那羊毛の大部を産する遊牧地帯に於けるそれは何處でも小異あるのみにして大體に於て同一である、即ち原産者より買出に從事するものは奥地に行商する出撥子、毛販子、幹毡的等にして、地方集散市場にて羊毛取引に重きをなすものは皮毛棧、雜貨舗、經記等である。其關係を圖示すれば、



一　出撥子

水草を追ふて轉々極りなき蒙古人の後を追ひて交易に從事する行商人を出撥子、或は地方により外館とも云ふ、彼等の携行する商品は日用雜貨、布帛、雜穀其他彼等の需要する食料品等である、對價として出撥子の取得するものは蒙古

持參し得る額には限度あるを以て、多量に買付をなすことは不可能である。隨つて此方法の行はるゝは販子が蒙古人に信用を有せざる場合、又は呼倫貝爾外蒙古地方の如き蒙古人の間に紙幣の流通する場合に限らる。

ロ　契約により買付をなす場合

毛販子は蒙古奧地に入り羊毛の買付契約をなし、場合により代金の一部を前渡し、蒙古人は之れを販子の指定せる市場に搬出して販子に交付し、現金又は彼等の要求する日用品を以て決濟し、殘金は販子に於て預り翌年の取引に振り當て、又不足あらば掛貸と爲す。

ハ　票により買付をなす場合

販子は羊毛を買ひ取り、之に對して長さ五・六寸幅二寸位の紙片即ち「票」に品名、取引數量、價額、取引月日、屋號竝に代金支拂期日たる票期等を記入して原産者に交付し、羊毛は直に引取りて市場に搬出す、而して蒙古人は期日に其票を携へて販子の本據に行き、現金又は日用品を以て決濟を受く。

毛販子は羊毛の買出上に最も勢力を有し、大部分の羊毛は彼等の手によりて搬出せらる。彼等は大概市場に宏壯なる店舖を構へ、季節には各方面に店員を派して買付をなし、他方店内に天津方面の商人を宿泊せしめて販賣の方にも緊密なる連絡を有す。

第二節　地方集散市場に於ける羊毛取引事情

蒙古人は原料毛を提供し毡子製造料金として、金錢の代りに羊毛を以て支拂ふ慣習である。

巴爾虎地方に於ける一例を示せば、蒙古人百頭分の羊毛を提供する時は、毡子の重量が一枚凡そ十五・六斤（幅四尺長八尺もの）なるを以て、それで六枚位の毡子を造つて依頼者に與へ、殘りの羊毛は總て報酬として幹毡的の所得となすのである。

綿羊百頭分の羊毛は大略百五十斤であるから、毡子六枚に要する羊毛は其約百斤にして、殘餘が製造料として幹毡的に歸する譯である。斯て一隊の蒐集羊毛量は八十擔乃至百擔餘に及ぶことは困難でないと謂ふ、彼等の收得した羊毛は中途より海拉爾に送ることあるも、九月頃幹毡的が海拉爾に引揚げる際に持ち歸るのが常である。

搬出せられたる羊毛は先に契約したる買辦の外莊其他の羊毛商に引渡し、前借金の決濟に充て、殘餘は幹毡的の收得として交付せらる。

三　毛販子

毛販子は蒙古奧地に入り込み羊毛の買出しをなすを事業とするものにして、幹毡的から發達したるもので彼等の前身は大概幹毡的で、京綏沿線方面及び西部地方の集散地の羊毛取引に勢力を有す。

毛販子の羊毛買付方法は現金による場合票による場合等あり。

イ　現金にて買付をなす場合

毛販子が蒙古奧地に現銀を持參し羊毛の買付を爲すは稀である、卽ち現銀を携帯する時は匪賊の危險を伴ひ、且つ其

ニ　跑合兒

經記は跑合兒とも云ひ仲介商にして自ら店舖を構へず、關係商人の間を往來して賣買の仲介をなし、一定の手數料を徵するものにして、各市場に十數人乃至數十人あり。

ホ　毛棧

毛棧は毛店、或は皮毛棧又は皮毛店とも稱せられ、所謂貨棧の如く旅籠屋と問屋とを兼ね營み、又時に自己の計算を以て羊毛の買付をもなす。

卽ち毛棧は幹毡的毛販子等を宿泊せしめ、倉庫の設備を有して彼等の搬出したる羊毛を保管し、保管荷物に對しては其信用の程度によりて、在庫の羊毛を擔保として金融をなすことあり。又賣買の仲介の勞をとる、此場合毛棧の收得する手數料は地方により異るも二分乃至二分五六厘が普通である、其他に荷主より宿泊料、倉敷料をとることは稀にして食費の實費を徵す。

二　取引方法

羊毛取引が開始せらるゝを開盤と云ふ、開盤に先立ち買手は各問屋の倉庫に就きて羊毛の品質夾雜物等を檢査し、賣手は之を出來るだけ高價に賣らんとし、買手は極力安價に買付んとし、兩者の間に種々の懸引が行はれ相互の商況を採り、其間毛棧は仲介の勞を取り商談の進行につとむ、斯て開盤に至るは大概羊毛が過半市場に出廻つた頃である。開盤

第二　取　引　商

地方市場に於て羊毛取引に從事する商人は、買辦の出張所たる外莊、歇家、毛棧、毛販子、經紀等である。

イ　外　莊

外莊は毛販子、幹毛的等奥地に買付に入る商人に、買付資金の前貸をなし蒐貨につとめたるものであるが、貸金の回收不可能にして概ね失敗に歸し今日では全然前貸は行はれない。

ロ　歇　家

歇家は雜貨舗にして奥地に出撥子を出し、又羊毛其他の物資を携帶して入市せる蒙古人を、自己の店内に導き入れ無料に宿泊せしめ、其販賣を受託し、他方蒙古人の需要物資は之を供給し、斯て雙方の決濟に餘剰あらば未決の儘次年度に繰越し、斯て彼等は夫々勢力範圍を有し永年に亙つて得意先との取引をなす、近年地方集散市場一帶が開墾せられ、且つ徵税が複雜苛酷となりし爲、蒙古人は物資の搬出に不利と不安を伴ひ、出市するもの漸減の傾向あり。

ハ　毛　販　子

毛販子は元來前項に記する如く奥地より羊毛を買出すを業とするものであるが、外莊を自己の店内に宿泊せしめ其羊毛蒐貨に仲介の勞をとり、地方市場に於ける取引上重要なる地位を占む。

相手方は之れを支拂地に送附し、之れと引換へに代金の支拂を受くるものとす。左端は發行者が之れを羊毛到著地の支拂人に送り、支拂人は受取人より滙票の呈示ありたる場合、兩者を引合せ相違なきを確めたる上、一覽拂なる時は直に之れを支拂ひ、一覽後期日拂なる時は、滙票の上へ支拂期日を書入れ、捺印して持參者に返還す。これを打期と稱す。支拂期日に至り、先方の要求あり次第支拂をなす。而して滙票代金の受取は、受領者の取引ある銀號が代理として領收するを普通とし、滙票の裏面に代理銀號の商號を捺印するものとす。滙票支拂期日は、發行者の信用資金の需要情況により一定せざれども、普通一覽後二日乃至十日迄なるもの丶如し。

第三節　天津に於ける羊毛取引事情

一　取扱商

イ　外客

外客とは奥地の商人の出張員を云ふ。

即ち外莊が買付の爲に奥地に入り込むとは全然反對の立場にあるもので、外莊と外客との仕事は大體相似た點があるから、こ丶で外客の羊毛取引上に於ける地位關係及び其取引方法等につきて少しく記することにしよう。

外客は天津の客棧或は貨棧に宿泊し、常に其市況に注意して時々の商況を奥地の本店に通報するは勿論、天津取引先に對して注意を拂ひ、信用程度商賣振等に亙り仔細に調査し、取引に際し代金の決濟物品の受渡し等に支障なからしむる爲豫め用意をなす。

に際し賣手に立つものは其市場に於ける相當の有力者である、斯して出來た相場は非常なる買付競争あるか又は市況に大變化あらざる限り、「隨行市」と稱して其季節に於ける標準相場となる。

惡辣なる賣方は賣買約定をなしたる後賣約羊毛に土砂を混じ、或は水分を加へ或は掛繩を重量あるものと變更することあり。此場合看貫前に之を發見せば買約を取消し又は條件を變更せしむることを得るも、一旦看貫をなしたる後之を發見し抗議をなすも、容易に肯んぜず故に買手は此點充分注意することを要す。

三　代金の決濟

貸付羊毛に對する代金の決濟は地方の慣習により年三回又は四回の決濟期に行はる、外莊の買付は現金拂ひを原則とし概ね滙票を利用す。

滙票は一種の逆爲替にして、奥地市場で羊毛を買付け資金を必要とする場合、買主は滙票を發行して之を賣手に交付し或は之を賣却して、資金を入手して決濟をなす、他方滙票を買入れたるものは之を支拂地に送り振宛人より代金を取るものとす。

例へば包頭に於て羊毛を購入せる場合、買付代金が包頭銀錪建なれば、之れを天津包頭間の當時の相場により、天津行平兩に換算して滙票を發行す。其滙票は包頭の錢舖又は商人にして、天津に於て資金を需要するものに賣却して、資金を入手し買入代金の決濟に充つ。此場合滙水卽ち爲替相場は市場に於ける爲替の出合、竝に資金の需給關係によりて定まるも、現送點に及ぶことあるも、概して天津向滙票取組は有利なるを普通とす。

滙票はミシンを入れたる三つの部分よりなり、右端を存根と稱し振出したる滙票の控となし、中央を相手方に交附す。

二、外商は買辦に其所有倉庫の使用を許容す。

三、外商は買辦の爲に自己名義の三聯單を發給して自由に使用せしめ、紛争の起れる場合外商の名によつて之を保護す。

四、買辦は時に外商より買付資金の融通を受くることあり。

五、買辦の手により賣買の成立したる場合、外商は之に對し二分の手數料を與ふ。

六、買辦は三聯單を使用し自己の計算にて買入れたる羊毛に對し、先づ所屬外商に商談する義務を負ふ、若し該外商不要の場合始めて市中にて賣却することを得。

七、買辦は外商に對して相當の保證金を收め、確實なる保證人を立つることを要す。

八、買辦は其商行爲に對しては一切の責に任ず。

斯る條件を足場として買辦は羊毛取引上に拔くべからざる地位を築き居たるが、彼等の此勢力は外商及び買辦が幾多の犧牲を拂ひ、多年に亙る慘憺たる苦心の結果によるものにして、或は前貸又は現金買付をなし前貸金に對しては未回收のものを生じ、順次翌年度に繰越つゝ回收するの已を得ざるに至り、中には遂に貸倒れの厄に陷るもの等も尠からず、斯て逐年買辦は奧地商人の間に信用を博し有利なる地歩を築いて居たものである。

然るに國民政府樹立前後の頃より三聯單の利用は不能となり、奧地に於ける取引の危險は加りたるを以て、買辦は奧地から引揚げ、今日では買辦と共所屬洋行との關係は稍昔日と事情が異り、羊毛取引は天津市場內だけのものとなりたる爲、洋行の前渡金に對する保證の要なく、從つて保證金も積立る必要なく、現在では保證人を立て證書を入れ買辦たる契約をなすのみである、其他の點については變化はない。

斯て奥地の本店が羊毛を發送したる場合、それに對して滙票を發行して金融するを以て、天津の派出員たる外客はそれを有利に賣却するにつとむるは勿論、滙票の支拂期日(最初の取定めにより「票期」又は一箇月拂十五日拂等)に支拂ひ準備をなさなければならぬ、即ち羊毛が賣却出來た時は其受取代金を其決濟に振當て、若し未だ賣捌かない時は外客はそれを擔保として資金の融通を得て決濟するのである、若し此決濟に遲るゝ時は「停票」と稱して金融業者間に取引停止に遭ひ、其後の營業上に尠からざる不便を負ふことになる。

斯の如く外客は奥地商人の營業上には樞要の機關であり、羊毛を天津に搬出する上に重要なる役割を演じて居る、殊に近年外莊の活動が不振に陷て以來、其羊毛取引上に於ける地位は逐年重要の度を加へつゝあり。

ロ　買　辦　商

洋行卽ち外商が支那で商賣せんとするに當り、言語に通ぜず複雜なる度量衡、金融狀態其他の商慣習を知らず、相手の信用狀態も不明につき、彼等に代つて賣買折衝をなさしむる爲、有爲にして信用ある支那人を專屬して之に當らしむることゝなつた、それが卽ち買辦である。買辦は奥地に於ける買付より海港に搬出して、外商の手に移る迄の取扱ひをなすものなるを以て、支那に於ける取引の大部分は買辦の干與する處である。買辦は其所屬の洋行内に賬房と稱して自ら別個の機關を造り、自己の計算を以て使用人を雇傭し有力なるものにありては、厖大なる規模を有し外商の別動機關として其援助の下に必要に應じ機敏なる活動をなし、外商の支那に於ける事業を容易ならしめたものである。

今天津の羊毛取引上に於ける外商と買辦との關係を記せば、

一、外商は買辦賬房の經費として毎月一定額を支給す。

の倶樂部たる觀あり。

近年洋行の事情は概して不振なるに拘はらず買辦の實力は益々充實し、買辦の內には所屬洋行の取引に資金を融通し或は外商と共同にて營業するものも出來、或は洋行の商號を買收して自ら營業するものもあらはれ、支那商が外國貿易に乘出す先驅とならんとする傾向があるは注意すべき現象である。

ハ 外　莊

外莊とは買出しの爲に奧地市場に派遣せらるゝものを云ふ。

有力外莊は買辦の經營にかゝり、奧地に於ける買辦の支店又は出張所とも云ふべきものにして、仁記（仁記洋行買辦の經營以下同じ）天聚德（新泰興洋行）、聚立（聚立洋行）、福興公（高林洋行）、益昌（隆昌洋行）、成記（成記洋行）、廣德興（廣德興洋行）等は其尤なるものであつた。

外莊は概ね其開設地の有力者に託すること多く、買付に關しては買辦の指揮を受くるも、買辦竝に自己の信用を利用し一切の責任を負ひて臨機の處置をなす。

外莊は永年巨額の取引をなし其信用厚く、地方の金融業者は喜んで資金を融通し有利に營業をなす。

外商買辦との關係が近時變化したるに拘らず、是等の外莊の內には獨立して營業を繼續しつゝあるものあり。

二 跑 合 兒

跑合兒とは天津市場に於ける仲介人である、彼等は輸出商と外客との間に立ちて仲介の勞をとり、賣買を成立せしめ

買辦制度の出來た當初は支那人一般に之を外奴と稱して輕侮したものであるが、買辦の利益莫大にして漸次財を積み社會的地位を得るもの多きに見て、買辦たることを希望するものあるに至り、之に隨つて南方人のみに占められて居た買辦は、今日では天津、山西省人の買辦も出來る樣になつた。

現に平和洋行の買辦杜克臣の如き、天津人にして今日二百萬元に餘る財を有し、信用聲望高く裕津銀行重役商務總會議員として、天津の財界を牛耳つて居るが如きものも居る。

今天津に於ける有力なる買辦を列擧すれば、

洋行名	買辦名	鄕里	資産	洋行名	買辦名	鄕里	資産
仁記洋行	季吉祥	天津	萬元 二〇〇	禪臣洋行	周伯英	寗波	萬元
新泰興洋行	靳少卿	同		順發洋行	陳鶴州	天津	
平和洋行	杜克臣	同	二〇〇	德義洋行	章以吳	廣東	
高林洋行	趙仲三	同	一〇	華泰洋行	余桂生	寗波	五
隆茂洋行	楊小泉	山西	四〇	隆昌洋行	劉品卿	天津	三〇
怡和洋行	陳祝齡	廣東	五	聚立洋行	寗彩幹	同	
美豐洋行	李正卿	寗波	一〇	隆興洋行	高少洲		
愼昌洋行	陳怡庭	廣東		信記洋行	李組才	寗波	三〇
立興洋行	高星橋	天津		永興洋行	業興海	天津	

民國三年頃荷渡苦情解決其他の取引に關する相互の利益を計る見地より、各洋行買辦が申合せて買辦行商公所なる會議所を設立せしも、其實買辦が結束して自己の利益擁護の爲外商に對抗する意味より起れるものゝ如く、今日では一種

王乃臣　新泰興
褚少林　協隆

楊貴一　仁記　寳豐

陳陰堂　順發　平和　隆昌　仁記

梁少峰　三井　仁記　怡和　平和　新泰興
　　　　聚立　隆茂

賈雲橋　永豐　新泰興

李少波　仁記　怡和

張潤田　仁記　怡和

ホ　貨棧

A　概記

貨棧は宿屋業、倉庫業並に在庫品に對する金融、賣買の仲介並に是等に附隨する業務を營むもので、天津及び地方市場に於ける羊毛取引上重要なる地位を占む。

貨棧には各々得意とする方面あり、即ち或貨棧は專ら張家口方面に勢力を有して、其地方の有力なる荷主を主たる得意とし、又或貨棧は歸化城包頭方面に主として得意を有するが如き之である。又取扱ふ商品の種類により細皮を主とするもの、粗皮を主とする羊毛其後獸毛を主として取扱ふもの等に分る、後者を毛棧と稱することあり。

報酬として手數料を收得するを業とす。

跑合兒は常に外客及び貨棧に出入し、外客より賣値及び見本を得たる時は各洋行筋に奔走して賣談を進む。若し數名の跑合兒が同一の取引に鉢合せする時は互に妥協するを常とす。

彼等は所謂ブローカーに見る如く賣買相方の間に立ちて不當の利得をなし、或は賣買一方の當事者と馴合ひ、或相場より安く買ひたる時は買手より、又或相場より高く賣りたる時は賣手より、何程かの心付を得る等のことなきにしもあらず、最も油斷のならぬ商人であるが、天津に於ける羊毛取引にはなくてならぬものである。

跑合兒の仲買口錢は賣上代金の一分とす、若し賣買兩者の間に値段折合はざる場合、自己の口錢を犧牲として取引を成立せしむることあり之を包行市と云ふ。

今主なる跑合兒と其主として出入する外商名を示せば、

何藎臣 何雲舫	新泰興	利濟	平和	高林	聚立	隆昌	
劉同甫	美豐	新泰興	仁記	平和	永豐	利濟	
袁炳乾	順發	新泰興	美聚時	隆昌	隆茂		
劉紹曾	平和	新泰興	仁記	隆昌	益昌		
邵品三	新泰興	隆昌	益昌				
公鼎臣	高林	隆昌	仁記	聚立	隆茂		

(2) **倉　庫**　外客の貨物が到著した時は通關運搬を代辦し其所有の倉庫に庫入れし、之に對しては棧租と稱して倉敷料を徴す、其料金は一定したるものなく相手方により場合に應じて異る、羊毛一俵一箇月間の倉敷料は普通兩の二分五、三分五乃至四分餘である。

(3) **金　融**　客の求めに應じ貨棧は其在庫の物資を擔保として資金の融通「押款」をなす、貨棧は此場合自己の護本を用ふるも、市中の錢舗又は洋行筋の資金による場合はあり、其系統は一定せざるも

錢舗 → 貨棧 → 荷主

外國銀行
買辦 → 洋行買辦 → 貨棧 → 荷主

右の如きは最も普通に行はるゝ處である。貸付額は事情により異るも寄託物資の時價の七割即ち「七十扣」が普通の限度である。

貸付利子は各場合によりて異るも普通一割五分乃至二割の見當である。

貨棧が錢舗の資金を借入るゝ時は目下四錢見當の金利であり、又外國銀行筋より洋行買辦に對する貸付の金利は年八分乃至一割見當であるから、前記の荷主に對する貸付利子との間の差額は、其時の市況により洋行の買辦と貨棧に利得せらるゝ譯である。

(4) **賣買の仲介**　貨棧は賣買に對し仲介の勞を取り、受渡決濟をも荷主に代りて之をなし、手數料一分即ち「一分用」

天津に於ける羊毛を取扱ふ貨棧の内有力なるものは左の如し、下記の地名は主なる得意先の所在地を示し、東口は張家口、西口は歸化城の意である。

美豐新棧（趙春和）西口　美豐東棧（劉壽蘭）東口
聚義棧　東西口　全合棧
互會棧　灑源棧（于相亭）東口
大義棧（宋濟嵐）東口　慶源棧
灑吉通　順昌棧
慶興公　山西　恒德棧（高致廷）東西口
同和興　東口

美豐の如く美豐洋行の屋號を冠するものあるも、該洋行と直接資金關係を有するものにあらず、協隆西棧、美豐棧、魯鱗東棧、隆昌西棧、平和東西棧の如く該洋行の所屬の買辦の經營にかゝるもの、或は永年間の洋行の取引先たる商人の經營するもの等なり。

B　營　業

(1)　**外客の宿泊**　外客を店內に宿泊せしむる設備あり、設備と云ふも一室の壁に沿ふて數箇の寢臺が連續して並べられ、其一つを一人の客に提供するに過ぎず、故に一室に數人の客が同時に泊つて居るので、中央部に机と椅子が置かれ湯茶が備へてあるのみである。普通は一室を一の外客が占め入口に其看板を掲げ宿所兼事務所として營業するもの多し。客よりは室代を徵することとなし、然し食事は貨棧に於て給し、其實費として月十二元を客より申受く。

正　賬　的　一　人　會計係にして金錢の出納を掌る。
貼　賬　的　五　人　會計係の助手にして各地との通信竝に一切の事務を取扱ふ。
交　貨　的　四　人　貨物の受渡し看貫の立會其他通關手續等の雜役に從事す。
茶　房　四　人　管棧的とも稱し客付のボーイにして客の一切の雜用を辨ず。
學　生　意　的　五　人　見習にして雜役に從事す。
管　院　子　的　五　人　庫番夜番。
苦　力　頭　一　人　苦力の指揮監督に任ず。
大　師　夫　一　人　賄　方。
二　師　夫　一　人　賄方助手。
奥　地　出　張　員　十　人

貨棧の主腦者たる經理は資本主の信任により一切の責任を負ふて業務を執行する人物にして、斯界に廣く知られ閲歴信用あるもので、其動く處に客がついて行くと云ふ位でなければならぬ。故に其人選は最も愼重を要することである。或貨棧の經理が非常に敏腕にして少し儲け過ぎたと云ふので、其貨棧の資本主及び他の掌櫃が恐れをなし、利益が大なる時があるだけ損を蒙る時も大なるべきであるとして、其掌櫃が店に居ることを危險とし解雇せしに、其店の客は多數其經理に從つて去り、其貨棧は全然客筋が變り、其經理が經營する新貨棧が旭日の勢で繁昌するに拘らず、其貨棧はさ程振はなかつたと云ふ事實は、よく其邊の事情を說明するものである。

貨棧經營上經理の手腕の如何は最も重要なるものゝ一つである。

を收得す。

之を要するに貨棧の營業は賣買の手數料、在庫物資に對する融資の利鞘、並に倉敷料が其收入の根幹をなし、其他にも火災保險の代理取扱ひ等の收益も尠くない。貨棧は右の如く本來自ら取引をなさゞるも、時に思惑をなし不覺の損失を蒙ること少くない。

C　資本金

貨棧の資本には他の企業に於けると同じく錢股身股の二種あり。

錢股とは資本主の現銀出資にして普通一萬兩内外にして、創立費並に一切の經費支辨に充當し、身股とは勞務出資にして、利益ある場合共持株に應じて配當を受くるものとす。

貨棧の營業上其入庫貨物に對する融資は巨額に達するを以て、到底前記の如き少額の資金のみでは支持することは不可能である、此場合他の金融業者を利用するは勿論であるが、資本主は別に護本と稱する準備金を置き、其範圍内に於て貨棧の要求に應じ貸與するものとす、護本は普通五萬兩乃至二十萬兩である。

D　從事員

貨棧の內部組織を一流處の貨棧に就いて見れば、

經　理　一　人

副經理　一　人

掌櫃的　二　人　經理を輔佐し事務の進捗を圓滑ならしむ。

嚷客的　四　人　客引にして客棧に出入し外客を自己貨棧に誘引する外交員なり。

若し不幸にして缺損を生じたる場合にありては、資本主は缺損を補充の上改めて營業を開始し、身股所持者は俸給のみに甘んじ、次期決算に於て利益の配當を受くべく協力一致經營に盡力するものとす。

F 收支情況

貨棧に於ける使用人は經理以下店員悉く店內に起居し、之れが食費車馬賃入浴費理髮費より小僧の仕着せに至るまで一切店費負擔とし、時々交際費をも支出することあり。

今天津に於ける資本及び護本二十萬圓を有する貨棧の收支計算の一例を示せば、

收入之部

一銀九萬四千二百三元七十四仙也

內譯

取扱品名	取扱銀額	口錢收入 一分と見て	倉敷料收入一箇月在庫と見て	利子
羊毛	二、二五〇、〇〇〇元	二二、五〇〇元	一、五六九・三七元	元
其他獸毛	七五〇、〇〇〇	七、五〇〇	七〇三・一二	
細皮	一、五〇〇、〇〇〇	一五、〇〇〇	一、五〇〇・〇〇	
粗皮	七五〇、〇〇〇	七、五〇〇	二八一・二五	
其他畜產物	一五〇、〇〇〇	一、五〇〇	一五〇・〇〇	
計	五、四〇〇、〇〇〇	五四、〇〇〇	四、二〇三・七四	三六〇、〇〇〇

支出之部

一銀四萬四百四十元也

其他貨棧で就中重要なる特異のものは奥地出張員と外交員とである、奥地出張員は原產地の集散市場に客の勸誘の爲に派遣せらるゝもので、奥地商人の信用狀態を調べ或は出廻狀態を天津に通報する等、貨棧の經營を有利ならしむる爲に重要なる役割を演じて居る。

嘹客的は「走街」とも稱し買手たる外商筋其他を巡回して刻々の市況を貨棧に報告し、寄託せられたる品物の買手を見つけ賣買の成立に盡力するものである。

E 利益配當

護本は一種の借入金として整理し、之に對しては利益の有無に拘らず、相當の利子を支拂ひ資本金として計上せず。

貨棧の決濟は二年乃至三年に一回年末に於て之を行ひ、利益ある場合錢股身股に對し持株の割合に應じて配當をなす。錢股七身股三の割合の場合三七份子と云ひ、錢股六身股四の割合の場合は之を四六份子と稱す、即ち前者は資金出資者が利益の七分を、勞力出資者が其殘りの三分の配當をなす場合を云ひ、後者は資本出資者が利益の六分勞務出資者が四分の配當を受くる意である。

三七份子の場合勞務出資者が受くる處の配當割合の一例を示せば、

經理	一人	一分五厘	（一箇半と稱す）
副經理	四人	五厘	（半箇と稱す）
掌櫃的	八人	三厘	
財神		七厘	

財神は利益を財神に供するの意なれども、こは身股なき一切の使用人に分配せらるべき賞與である。

處あるは免れられぬ、又今奉天市場の畜産物を取扱ふ貨棧につきて見るに、

（イ） 貨棧の手數料は賣買の當事者相方より二分宛徵する慣習である、然し實際は買方側よりは一分とつて居るのみである、又賣買に際し外商が買手に立ち通譯（支那人）を使ひたる時は、其通譯に對し別に一分を賣手の負擔に加算することあり、但し此場合は豫め賣手の諒解を得るを常とす。

（ロ） 倉敷料はとらず又保管品の手入れ整理等に對しても原則として無料であるが、特別に出費を要する場合豫め寄託者に諒解を得て實費を徵す。

（ハ） 老客兒（外客）の宿泊は天津と同じく無料である、食費は實費をとることになつて居るが一日大洋六七角である。

H 新式貨棧

天津に於て貨棧と稱せらるゝものゝ內に前述の如き貨棧の外に今日の所謂倉庫業を業とするものあり、此種の貨棧の發達は玆一兩年來のことである。

由來天津の外國貿易は外商の獨占する處で、外商は各自廣大なる倉庫設備を有し營業して來たものであるが、近年彼等は等く營業不振に陷り、之に反して別に詳記せる如く、天津と支那奧地市場竝に天津と外國市場との間に於ける取引上に支那商人が擡頭し、新式貨棧の發達を促進したものである。

此種貨棧の經營者は多く支那の新式銀行業者で、大陸銀行貨棧、中國銀行貨棧等が英租界、佛租界等の目拔の場所に周圍を壓して建てられたのは最近の現象である。

新式の貨棧は普通の倉庫業に準じて營業す、即ち寄託貨物に對して倉荷證券「棧單」を發行して取扱ひを便にす、唯貨棧は多く銀行の經營する處であるから、該證券を擔保とする金融には當該銀行に於て、優先的の立場を保留して居るだ

内　譯

家賃（稅金を含む）		一二、〇〇〇元	接客費	二、四〇〇元
給料	日人	四、二〇〇	給料　支人	七、七四〇
食費	支人五十人	七、三〇〇	旅費	二、〇〇〇
雜費		四、八〇〇		

給料内容

經理	一人	月五〇元	副經理	一人	月四〇元
掌櫃的	二人	同三〇	嘍客	四人	同二〇
正賬的	一人	同一五	貼賬的	五人	同一二
交貨的	四人	同一六	管院子的	五人	同一〇
茶房		六	苦力頭	一人	七
學生意的	五人	無給	大師夫	一人	六
二師夫		四			

雜費内容

電燈水道	月二〇〇元	消耗品	月一〇〇元
豫備費	同一〇〇		

差引利益金

一銀五萬三千七百六十三元七十四錢也

之を要するに貨棧は安全にして有利なる企業にして、羊毛取引上最も有效に利用すべき機關である。

G　滿洲に於ける貨棧の慣習

貨棧の經營狀態は規模の大小により多少の變化あるも其骨子に於ては異る處はない、唯地方により諸慣習に相違する

棧房は客を店内に宿泊せしめないことが貨棧と異る點である、故に在來の貨棧と所謂新式の貨棧との中間を行くもので、前掲の貨棧と區別する爲存貨棧とも稱す天津に於ける有力なる棧房は左の如し。

平和西棧（杜克臣）　平和東棧

輔盛棧（徐輔亭）　和記棧（于仲三）

華豐棧（李筱坡）　聚合公

信和公

ト　客棧

客棧は普通の旅店なるが賣買の仲介をなすことあり。

復立棧　興隆西棧　福慶棧　恒太棧

雙隆棧　華成公

等は有力なるものである。

二　羊毛取引方法及び商慣習

近年外商は羊毛の買付を總て天津市場にてなす爲、買付競爭は激甚となり、他方外客は天津に於て奥地よりも有利に金融の途を得る爲、容易に手持品を離さず、取引は近時困難となつて來た觀がある。

けが異る點である。

此種の貨棧は在來のものに比し資金豐富なる上に、經營上に特に有利なる地位にあり、倉敷料等も彼に比し一般に低率なる傾向あり、殊に蒐貨上に有利なるを以て其活動目醒ましきものあり。

I　邦商貨棧經營成績

凡そ貨棧は自ら資本を擁せずとも營業することを得、且つ集貨にも最も都合よき關係にあり、商取引上に於ける危險も少きを以て、誰しも貨棧の有利なることに氣付くのである、過去に於て邦人にして貨棧を經營したるものも少くないが、概ね成績不良で失敗の跡をのこしてをるのである、其原因とも目すべきものは、

資力薄弱。

取扱商品に對して充分なる智識を有せず。

經營の主腦者宜敷を得ずして經營に當を失して居たこと。

等が主なるもので、皆貨棧經營に對する不用意が原因である、卽ち資力が薄弱であつた爲充分なる取引上の連絡が設定せられず、經營上に有利なる基礎がなかつたのである。次に支那人のよい掌櫃的を置かず取扱商品に對する智識なきに乘ぜられたるは失敗の原因の大なるものである、現に邦人關係の貨棧で唯一つ殘つて居る某貨棧は、掌櫃的がよき爲に業績を擧げ、年々我資本主に利益配當をなしつゝある事實に見ても明である。

是等の前轍に鑑み十分備ふるに於ては邦人とても、貨棧を有利に經營することは不可能ではない。

へ　棧　房

し賣主の倉庫にて看貫せし場合は、買手指定の場所迄の運賃諸掛りは賣手の負擔とす。看貫の際品質相違せることを發見せば、看貫を取消すことを得るも看貫後は絶對に之を取消し得ざるものとす。看貫は風袋込みにて之を云ふ、風袋は梱包の方法によりて異るも普通五斤乃至七斤位である、秤量は封度秤によりて計り之を更に斤に換算して受渡しをなす。(百封度を七十五斤と換算す)尙風袋は羊毛一梱包百五十斤入りなると百斤入りなるとにより、風袋六斤とするも前者は百斤當り四斤後者は六斤となり、採算上差異を生ずるを以て注意を要す。

八　代金の決濟

代金の支拂ひは貨物と引替へに即時拂を普通とするも、賣買兩者間の從來の取引關係竝に信用狀態等により一定したるものはない。外商の羊毛買付に際しては買辦を通じて居るが、其場合賣主は二分の行用(口錢)を買辦に支拂ふものとす。若し買辦を使はずして直接取引したる場合に於ても、呼値より二分を引去りたるものを決濟値段とする習慣あり、之を「九八扣」と云ふ。

之に依つて觀るに外客が羊毛を賣却したる場合其正味手取り金は、

買辦行用　二分

跑合兒夥用　一分

買手の倉庫迄の運賃諸掛實費

を差引きたる殘額である。

以上は今日天津に於て現に行はれつゝある羊毛の商取引方法であるが、外商が奥地買付をなしたる頃は先物契約によ



外客は其搬出したる羊毛を貨棧、毛棧に寄託し、跑合兒を介して買辦を通じ又は直接輸出商と賣買をなす。

イ　見本の提示

輸出商が外國よりの註文により羊毛買付をなさんとする時は、出入りの跑合兒に所要の條項を指示す、然る時は跑合兒は常に手持筋に出入して在荷を知悉せるを以て、貨棧の手を通じて所要の羊毛に對して小樣子（小見本）として原料一、二俵を買手の店に持參す。

買手は之により品質步留りの檢査をなして買値を定む、斯て跑合兒は賣買相方の間に立ちて取引成立すれば、更に大樣子と稱して五、六俵乃至二十俵の見本を徵し再檢査を行ふ、此場合最初の見本と相違し、成績良好ならざる時は賣約の取消しをなすことを得、斯て賣賣成立すれば跑合兒は夥用（手數料）として賣主より賣買金額の二分を申受く。尤も此夥用は實際上には賣買價格中に加算せらる。

ロ　受渡し

羊毛は買主の倉庫に持込み買手の計量器により看貫受渡しをなす、それ迄に要する運賃諸掛りは賣主の負擔とす、若

第五章　羊毛輸出事情

第一節　羊毛輸出沿革

天津は一八六〇年に開港せられ、一八七〇年には英人老鐘(仁記洋行)と云ふもの天津の茶店口に店舗を設け、支那人を歸化城に派し駱駝毛の買付をなし、又一八七二年山西人馬永昇なるもの甘粛省より羊毛及び駱駝毛の見本を天津に帯來し、英商新泰興洋行に示し、同洋行は其見本を本國に送付し研究の結果、一八八〇年買辦馬永昇を帯同して甘粛省にて羊毛買付をなしたり、當時の値段は天津著百斤に付行平銀二兩前後なりしと云ふ。

支那羊毛の輸出は實に前記新泰興、仁記兩洋行の創始したるものにして、爾來兩洋行は共に其經營宜しきを得て、天津羊毛界に於ける大手筋として今日も尙斯界を牛耳つて居る。

一八八一年には天津、上海間の電信開通し、又香港上海銀行も支店を設け、商業都市としての面目も整ひ、他方羊毛の取引の有利なることが漸次知られ、其取扱業者は逐年増加し、最初張家口を中心とせし奥地買付は、一八八三年には包頭に移り一八八五年には寧夏に達し、更に西寧に進出するに至れり、更に一九〇〇年の團匪事件以後には羊毛の輸出は旺盛に向ひ、一九〇六年次の如き取扱業者、竝に其取扱數量を示して居る。

仁記洋行	六〇、〇〇〇擔	瑞記洋行	五、〇〇〇擔
新泰興洋行	一五、〇〇〇擔	高林洋行	一〇、〇〇〇擔
乾泰洋行	七〇〇擔	平和洋行	二〇、〇〇〇擔

る取引行はれ、又買辦も外莊を設け取引の樣式は今日とは異つて居た、今其概況を記して置う。

先物契約の場合に土塵機（Willowing maching）にかけて何割留り、所謂過輪兒淨貨の相場何程と云ふ條件の下に契約をなす、即ち淨貨四十兩の場合、去塵機にかけ六〇％留りとすれば二十四兩と評價するが如し。外商は三聯單を使用して原產地より天津に至る間に於ける輸送貨物に對する地方諸税の負擔を免るを得るものであるが、買辦は其所屬の何々洋行名の下に外莊を奧地集散市場に置き、三聯單を使用して地方税負擔を免れて居たるのである。

斯くして天津に搬出せられたる羊毛は先づ所屬の洋行に提示する義務を有し、其相場品質等が彼の所要に適合せざる時、始めて他の洋行其他に賣談を試みることが出來ると云ふ慣習である。

近年三聯單の使用が事實上に於て行はれざることゝなり、自然買辦の奧地に於ける外莊が、天津に引上げなければならぬに立至りし重大なる原因となつて居る。

辦は三聯單利用の途を封鎖せられて以來、遂に彼等は奥地より全然手を引くの止むなきに至れり

元來羊毛取引には集貨に多大の日子を要し、且つ羊毛を精選する爲に廣き地積を要す、現に百人の苦力が一日間に僅に五、六百擔の羊毛を精選し得るに過ぎず、尙羊毛の取引のみをなすものなく之に附隨して他の土產品をも同時に取扱ふ、是等の事情の下に羊毛の取扱ひをなす、外商は天津に廣大なる倉庫荷造り設備等を有す。

第二節 羊毛輸出商

今日天津に於ける羊毛輸出商は實に四十戸を算し、其主なるもの丶投資額を合すれば約八、九百萬兩に及ぶものあらん。

彼等の天津に於ける今日の施設は永年の間に完成せられたものであるから、投資其他に就て知ることは至難である、曩に某銀行が調査したる處を基礎とし之に今回調査にかゝる施設其他を參酌して左に表示せん。

仁記洋行 William Forbes & Co., (英)

投資額	百五十萬兩	
事務所	二階建	百二十坪（延坪なり以下同じ）
倉庫	四階建	五百七十坪
工場	三階建	百八十坪
	二階建	百二十坪
機械	新式壓搾梱包機	二臺

怡和洋行	一三、〇〇〇擔	德泰洋行	二〇、二〇〇擔
德隆洋行	一〇〇擔	隆茂洋行	二、〇〇〇擔
興隆洋行	九、〇〇〇擔	順慶洋行	二、〇〇〇擔
明義洋行	二、〇〇〇擔	立興洋行	――
世昌洋行	一三、〇〇〇擔	德義洋行	六、〇〇〇擔
聚立洋行	一三、〇〇〇擔	永興洋行	六〇〇擔
信遠洋行	――	合計	一七一、六〇〇擔

是等の外商は總て買辦を利用し、奥地に於ける買付の競爭を惹起して漸次薄利となるのみならず、遂に前貸をなさゞれば買付不可能とも云ふべき狀態となり、前貸の回收は澁滯するを常とし長期に亙りて資金は固定し、遂に貸倒となるもの瀕出するに至れり。

玆に於て各買辦は買付價格を協定せしも、支那羊毛の需要旺盛にして各々多量の買付を爲さんとして協定を破棄せしより、又々原產地商人の乘ずる處となりしが偶歐洲大戰によりて外商は資金の融通圓滑ならず、米國は支那羊毛の輸入を禁止し、且つ內亂土匪等の爲に輸送途中の危險多きを以て買辦の買付も漸次緊縮の方針となり、一方奥地商人は原產地より羊毛を天津に搬出して貨棧の手を經て販賣するもの漸次增加し、又買辦の使用人にて羊毛取引に曉通するものにして毛莊を開業するものあり、羊毛の取引組織に一大變化を來したのである。

然し數十年間に亙つて築きたる外商及び其買辦の奥地に於ける勢力は容易に動くものにあらず、平和の克復と共に捲土重來して其活動目醒しく昔日の勢を偲ぶものありしが、近年天津背後地に於ける打續く內亂、竝に先に記する如く買

倉　　庫　　三階建　　九百坪
機　　械　　壓搾梱包機　　一臺

禪臣洋行 Sinssen & Co.,

投資額　　十萬兩
倉　　庫　　三階建　　三百坪
機　　械　　壓搾梱包機　　二臺

隆茂洋行 Mackenzie & Co.,（英）

投資額　　不明
倉　　庫　　四階建　　五百四十坪
工　　場　　三階建　　六百坪
機　　械　　新式壓搾梱包機　　二臺
　　　　　　舊式同上　　三臺
　　　　　　去塵機　　二臺
　　　　　　洗滌機　　二臺

怡和洋行 Jardine Watheson & Co.,（英）

投資額　　八十萬兩
倉　　庫　　三階建　　千二百坪

新泰興洋行 Willson & Co.,（英）

投資額	百萬兩	
事務所	二階建	百二十坪
倉庫	三階建	七百八十坪
工場	二階建	二百四十坪
機械	舊式壓搾機	二臺
	去塵機	五臺
	洗滌機	二臺

平和洋行 Liddell Bros. & Co.,（英）

投資額	百萬兩	
事務所	四階建	三百八十坪
倉庫	四階建	千六百坪
工場	倉庫の一部を之に充つ	
機械	新式壓搾機	一臺
	去塵機	三臺

高林洋行 Collins & Co.,（英）

投資額	三十萬兩	

投　資　　六十萬兩
倉　庫　　一千坪

順發洋行　Faust & Co.（獨）
投　資　　二十萬兩
倉　庫　　八百坪

益昌洋行　Chandlers & Co.（英）

協成洋行　China Hide & Produce & Co.（英）

業施　Jess & Co.

北記洋行　The Fur & Wool Trading Co.（米）

德泰洋行　China Java Export Co.
投　資　　二十萬兩
倉　庫　　五百坪

華順洋行　North China Produce Co.
投　資　　二十萬兩
倉　庫　　六百坪

美最時洋行　Merchers & Co.

等は主なるものである。

機械　　壓搾梱包機　　二臺
　　　　去塵機　　二臺

永豐洋行 Fair Child & Co.（英）

信記洋行 Eastern Trading Co.（米）

倉庫　　五百坪

安利洋行 Arnhold Bros. & Co.（英）

愼昌洋行 Anderson Weyer & Co.（米）

投資　　十萬兩

倉庫　　五百坪

聚立洋行 Hatch Carter & Co.（米）

投資　　三十萬兩

倉庫　　千二百坪

去塵機　　三臺

美豐洋行 China American Trading Co.,（米）

投資　　十萬兩

倉庫　　三百坪

禮和洋行 Carlowitz & Co,（獨）

	福中	—	—	—	—	五〇三
	The Fur &Wool Co.	—	—	一、四四六	—	—
支	興隆洋行	一五、三四四	一七、四五〇	二、九三四	一五、〇八六	一五、〇一一
	永利洋行	八、九四一	—	八〇四	—	四、六六九
米	聚立洋行	一九、四二一	二九、一五四	一、三五六	五、六〇〇	一四、五五〇
英	怡和洋行	四〇、三三一	一四、三一九	九、〇二四	一〇、六八九	一九、九九四
	業施洋行	—	—	二一〇	三四八	二〇六
米	克福洋行	二一、四二九	一三、三五三	—	—	—
英	平和洋行	二六、三八七	一四、三一一	四、四九七	二五、三一一	一五、一九六
英	隆茂洋行	四、四一九	一五、二四三	四、六三〇	二、二八七	六、八一九
獨	美最時洋行	五、一九〇	一、七五五	一、三〇九	—	六、八二七
獨	華爭洋行	—	—	—	—	一七、四六六
	協濟洋行	三一、四八三	三二、九七七	四、二八一	七、八七六	八、四七九
英	禪臣洋行	—	—	三九一	—	—
	西密得洋行	—	—	—	—	二、五八八
英	新泰興洋行	四六、七二〇	七五、八〇二	一三、三五二	四〇、二二八	八七、五一三
英	仁記洋行	二四、六四九	二三、二一五	五、〇二七	一〇、三六三	二二、七一〇
	其他	一四、七八五	八、二四九	八、一七四	六、六四二	—
	計	三九七、八七六	三五四、五一三	一二四、六三五	二六八、一九七	三一三、九七二

右取扱を國籍別に見る時は、

第三節　主要輸出商の取扱數量

景近の米國向羊毛輸出を商店別取扱ひ高に見るに。（單位擔）

國籍	店名	一九二四年度	一九二五年度	一九二六年度	一九二七年度	自一九二九年一月至一九三〇年二月
米	愼昌洋行	六、〇三三	九、四三九	四、〇〇四	一、四七九	—
英	安利洋行	三三、三〇七	三三、五六一	一〇、二五四	九、三七四	一六、三九〇
露	Adrian Kopoostien & C,	三、八七六	二、五三四	—	—	—
英	高林洋行	六、一九一	一、三五二	一、三五八	二、六六六	一三、六八〇
英	益昌洋行	二三、七七八	一八、一七五	一〇、二二八	四、一四三	三四
英	協成洋行	二九、四三九	四、八三三	—	—	—
米	義豐洋行	一、一七九	八、三三九	二、〇〇五	一九、六六八	三、八四四
支	利濟洋行	四一、九六八	二五、八五五	一三、一三三	四〇、八六七	一九、三六二
獨	禮和洋行	二、〇九七	一、三九〇	四、〇三七	三、九七三	九、八四三
	義徳洋行	—	—	—	—	一三、六九九
米	信記洋行	六、三四八	五、二六四	四九七	九一五	一五九
	海京	—	—	—	—	—
獨	順發洋行	八、八一九	六、五七〇	六、一六四	三〇、〇七九	—
英	Fearon Daniel & Co,	一、一四三	九四六	—	—	—
英	永豐洋行	二、二五八	一、六五八	三、五六九	一五、五九五	一七、四四〇
米	北記洋行	—	—	二、九六一	五、〇九八	—

には外商よりも有利なる地位にあり、唯外國貿易に曉通せざる爲今日迄輸出を取扱ふを得ざりしが、久しく洋行の買辦として財を成すと共に外國貿易のこつを覺えたるものにして獨立するものあり。或は外國へ留學したる士が外國貿易をなさんとするものあり。彼等の外國貿易の創業方法につき特に面白き現象は、外國人の地盤を有效に利用することに留意して居る點である、卽ち洋行の事業に幾分かの出資をして共同經營とするもの、或は外商が買辦を使つたと同じ要領で外國貿易に對し外人を雇傭して之を營むが如き、今日彼等が過渡策としてとりつゝある方法である。

興隆洋行に支那人數人が一萬元を出資して合辦の企業としたるは前者の場合の例で、利達公司が有能なる外商を入れて外國貿易を開始せるは後者の場合の一例である。

支那人に次いで顯著なるは獨逸商のそれである、彼等の發展は全く組織と努力の賜で支那の實情より見て、今後の發展見るべきものあるべしと思惟せられる。

米商に就て支那人は次の如き觀察を下して居るが極めて面白い點もあるからこゝに附記して置こう、米商は石油自動車等特種輸入品の場合は別として、對等の條件では他の外商の間に伍して勝を占むることは到底不可能である。彼等は營業費を多額に要す從つて他の外商は五分の利益を見るに過ぎざるも米人は一割を見なければならぬ、又米商は電報が來ても營業時間外は決して之に觸れない(獨商日商は營業時間内外に限らるゝことなし)と云ふのである、現に支那羊毛が殆んど總て米國に仕向けらるゝに不拘、米人の取扱ひは前表に見るが如く特に增加のあとなき事實に見て、首肯するに足るものあり。

國別　年度	一九二四年 數量	一九二四年 百分率	一九二七年 數量	一九二七年 百分率
米商	三三、六二三	八・五	二六、四六七	一〇
英商	二五七、九三一	六六	一二五、七五六	四六
支商	五七、三一二	一四	六六、三〇一	二五
獨商	一六、二〇六	四	三七、〇五二	一四
其他	三二、九〇四	七・五	一二、六二一	五
計	三九七、八七六	一〇〇	二六八、一九七	一〇〇

右の表によりて知らる丶如く、何と云つても英商は未た支那の羊毛輸出を牛耳つて居るが、最近衰微のあとが顯著である、現に一九二四年度に於て全輸出額の六六%が英商の取扱つたものであるが、翌二五年度は六三%、次いで二六年度は五七%、二七年度に至つて四六%と年々羊毛取扱上に於ける地位は低下し引續き斯の如き傾向を呈す。こは先にも記する如く久しきに亙る奥地の兵亂により取引上に危險加りたると、三聯單の效用なきに至り、彼等の買辦が天津に引揚ぐるの止むなきに至り、永年に亙り築き上げた地盤を失ひたると、彼等創業の有力者が衰へ今日では子又は孫の代になり實力經驗に於て缺げたる處あるとに起因するもの丶如し、故に彼等の昔日の盛を挽回するは至難のことであると信ぜらる。唯極最近に於ける新泰興洋行の活動目醒ましきは注意を要す。

英商の凋落に引代へ近年旭日昇天の勢を以て羊毛の輸出に頭角をあらはしたものは支那商及び獨逸商人である。

支那商が外國貿易に有利なる地歩を開拓して行きつ丶あるは極めて自然なる勢で、蓋し彼等は支那市場に於ける買付

て他の荷主の依頼に應じ一定の料金を徴して梱包をなす。

彼等の工場設備及び其經營狀態を知ることは至難であるが、左に概況を知る爲一例を示す。

設備費總額　十四萬九千八百四十兩

內　譯

一、敷地十二畝（一畝は一八三坪）　三〇、〇〇〇兩

一、建　物　四五、一四〇兩

倉　庫	九六坪	四階建鐵筋コンクリート、柱、床赤煉瓦	毎坪當り	六〇兩	二三、〇四〇兩
倉　庫	九四・五坪	黑煉瓦二階建	同	五〇兩	九、四五〇兩
梱包室	六四坪	赤煉瓦二階建、柱、床鐵筋コンクリート	同	六〇兩	七、六八〇兩
機械室	一三・五坪	赤煉瓦二階建	同	七〇兩	一、八九〇兩
汽罐室、小修理室	四二坪	黑煉瓦平屋建	同	四〇兩	一、六八〇兩
去塵室	三五坪	同	同	四〇兩	一、四〇〇兩

一、機　械　七四、七〇〇兩

羊毛及び棉花水壓梱包機	二臺	一臺作業能力、一時間につき二〇俵	二〇、〇〇〇兩
毛皮水壓梱包機	一臺	作業能力、一時間五俵	三、〇〇〇兩
皮革水壓梱包機	一臺	同	三、五〇〇兩
壓搾ポンプ直結蒸汽機關	一臺	五〇馬力	二四、〇〇〇兩
蒸汽機關	一臺	去塵機及工作機用	二、〇〇〇兩
去塵機	五臺	プラット式一九〇五年製	二〇、〇〇〇兩
小修理用工作機	二臺	ボール盤、旋盤、ダライ盤	六〇〇兩

第四節　羊毛輸出施設

一　梱　包

羊毛は普通の狀態では容積大なるを以て、保管に廣大なる地積を要し、又遠隔の地に運送するに際し莫大なる運賃を支拂はざるべからず、且つ途中減量等の危險もあり自然賣價を昂騰せしむることゝなる。支那羊毛の如き特種の品質と用途を有するものは到底斯る負擔に堪へ得るものにあらず、玆に於て壓搾梱包工場を設けて、先づ其容積を縮小して堅固なる荷造をなす必要あり、天津の有力なる外商は皆其設備を有す。

イ　天津の壓搾梱包業者及び其設備

一八九二年（光緒十八年）英商隆茂洋行が本國より、壓搾梱包機を輸入して、羊毛精選荷造工場を創立したるを以て嚆矢となす、今日では十工場其備附壓搾機十六臺に及ぶ。

新泰興洋行	二臺	仁記洋行	二臺
高林洋行	一臺	平和洋行	一臺
隆茂洋行	五臺	禪臣洋行	二臺
安利洋行	二臺	怡和洋行	一臺
天津打包公司	一臺	泰和洋行	一臺

にして高林洋行、新泰興洋行、仁記洋行の如き主として自家の商品のみを壓搾梱包するものあるも、多くは其餘力を以

天津の梱包工業は右に述ぶる如き狀態なるを以て、同業者は相互の利益を確保する爲、左の如く梱包料金を協定す。

壓搾梱包料金表

羊毛、棉花、麻	正味一擔に付	兩 〇・九〇
未鞣毛皮、皮革	同	〇・七〇
鞣毛皮、馬褂皮	毎俵に付	五・〇〇
毛皮敷物	一枚に付	〇・〇二
未鞣旱獺子皮、羔子皮、猾子皮及びそれと類似毛皮		
一俵二千枚以下	毎俵に付	五・〇〇
一俵三千枚以下	同	六・〇〇
一俵四千枚以下	同	六・五〇
一俵四千枚以上	同	七・〇〇
土篩——去塵機使用	精選正味一擔に付	〇・三〇
打毛機使用	同	〇・一五

船積——梱包品の佛蘭西、英國及び舊獨逸租界埠頭迄の搬出費は梱包料金中に包含す。

火災保險——梱包場に搬入せられたる物に對する火災の危險に對しては、梱包會社は左の通り責任を負ふ。

(イ) 羊毛、棉花、麻及び其他類似品で同一樣式に壓搾梱包せるもの、

一箇月間の保險料は無料とす、其經過後は荷主の負擔とす。

蒸汽汽罐　二臺　ランカシヤ經七尺　一九一六年製　一、六〇〇兩

右によれば敷地及倉庫が比較的小なるも、梱包工場を有する諸洋行は廣大なる倉庫を有す、蓋し砂篩の爲に廣大なる地積を要するが爲である。梱包機一臺作業能力は一時間につき最大三十五俵なるも、實際には二十俵内外にして一日十時間作業として約二百俵である。故に天津の現在の設備を以てすれば、一日優に三千俵を梱包することを得べく、即ち天津一箇年間の羊毛輸出總額を、僅々一箇月間に完全に梱包し終るだけの能力を有す。然し羊毛の出廻りは一箇年を通じて平均せるものにあらず、其作業に繁閑あるは當然であるが、天津より輸出せらるゝ棉花毛皮等壓搾梱包を要する商品を全部合せても、年中作業を繼續することは不可能である。況んや大宗たる羊毛棉花の出廻りが殆んど同時に行はるるを以て、梱包も一時に殺倒するを例とし、其期間を經過せば閑散となり作業は休止狀態となる。各洋行の毎年の取扱種數量は知る能はざるも概數を掲ぐれば、

隆茂洋行	羊毛棉花	七〇、〇〇〇梱	三一五、〇〇〇擔
	皮革	五、〇〇〇梱	五〇、〇〇〇擔
平和洋行	羊毛棉花	四〇、〇〇〇梱	一八〇、〇〇〇擔
	皮革	三、〇〇〇梱	三〇、〇〇〇擔
泰和洋行	羊毛棉花	四五、〇〇〇梱	一八〇、〇〇〇擔
	皮革	二、〇〇〇梱	二〇、〇〇〇擔

ロ　料金

梱包の形狀は使用の機械により異り、高林洋行の如き圓筒形に近きものあり、又新泰興洋行の如き長さ五呎內外に及ぶものあるも、多くは左記の如く長さ三呎內外の長方形である。

平和洋行	梱包	重量六〇〇封度	二・八呎・二・四呎	一・八呎	一二・二才
隆茂洋行	梱包	重量六〇三封度	三・一呎	一・八呎	一・七呎	九・五才
泰和洋行	梱包	重量五三〇封度	三・四呎	一・八呎	一・七呎	一〇・四才

大體一梱包の重量は六百封度、即ち四擔餘にして、風袋は普通十七封度であるが、十五封度乃至二十封度位迄上下することあり。

梱包工場は梱包せる羊毛に對する風袋及び正味量を記載したる、ウエイトメモを荷主に發給し、荷主は之によりて税關手續きをなす。

二 去塵及洗滌

支那羊毛は曩に記する如く夥しき土砂塵埃等の夾雜物を含むを以て、荷造りに際し之を除去することは、運賃諸掛りを節約する上に於ても、又外國市場で其販賣を容易ならしむる點から見ても輸出業者の最も重要視する處である。然して其方法としては手で羊毛を丁寧に篩ひ夾雜物を除去するものと、去塵機によるものと、之を更に水洗して完全に夾雜物を除去するものとあり、右は各々長短あり其得失を明にすることは至難であるが、左に各施設及び其利用狀態につき記し、羊毛加工上に於ける地位關係を明にし、利害得失を知ることにしよう。

（ロ）未鞣及鞣毛皮、皮革、敷物及び壓搾梱包せる毛皮、

壓搾梱包作業の間のみ梱包會社に於て責任を負ふ、其前後は荷主に於て保險を附することを要す。

倉敷料　一箇月間無料とす。

卽ち羊毛一擔當りの梱包料金は〇・九〇兩であるが、梱包に要する實費は、

一、十八號帶鐵、一梱につき六筋、其重量十四封度（帶鐵每噸百十圓）	〇・六九〇
一、麻布二碼半	〇・三八〇
一、動力費、苦力賃、倉敷料、保險料、營業費、償却費等	一・二九八
計	二・三六八

卽ち一擔につき僅々五十九錢二厘にして、彼の〇・九〇兩に比し四割餘に相當し、協定梱包料金なるものが如何に高率であるかを知る。

八　梱包方法

荷主は羊毛を梱包工場に持込み、梱包に先立ち先づ該工場備附けの去塵機、洗滌機等により夾雜物を除去する必要あり、然し次項に述ぶる如く、是等の機械による時は幾多の不利あるを以て、多くは之を利用せす、荷主は自己の苦力をして該工場内で其必要とする程度に砂篩して、それで取除くことを得るだけの夾雜物を除去し、梱包機迄荷主側で運ぶのである、そこで始めて梱包工場側の手に移り、工場の看貫手は計量し、三人の苦力が之を水壓機の羊毛受箱に投入し六百封度內外を一箇として壓搾し、二名の苦力が之を麻布に包み帶鐵をかくれば之で梱包作業は完了である。

ロ 設備

一、敷地 二〇、〇〇〇平方米

一、建物 倉庫（亞鉛板造）、撰毛場、洗毛場、壓搾梱包場、事務所、舍宅

一、壓搾機 水平式 一臺 電動機

A 作業能力 水平式 一晝夜 三十・三八噸

垂直式 同 十噸

B 投資總額 一〇四、〇〇〇留（土地を除く）

C 作業期間 自六月至九月 四箇月間

D 作業時間 自午前七時至午後七時 其の間休憩二時間

E 從業員 定員五名（内二名は番人）

其の他は日雇制による、其の人員は羊毛の出廻り狀態と天候により一定せざるも、一日二百乃至四百名にして、其の一箇年の延人員は約五千名である。

勞銀は一人一日一金留乃至一・五〇金留。

F 營業成績

	收入	支出
一九二四年	一一五、五〇〇留	一三三、〇〇〇留

（イ）洗毛の施設及び其方法

天津で羊毛輸出の爲の洗滌施設を有するは、新泰興洋行、隆茂洋行等にして、自店の羊毛を處理する傍ら他の荷主の依賴に應じ洗毛をなす。

元來羊毛の洗滌は其加工工程上に必要のものとせらる、殊に支那羊毛の如き夾雜物が多くして五〇％内外をも占むるものにありては、洗毛工程を經て完全に不純物を除去して、直に其次の工程に移り得る迄に羊毛を精選して輸出することは當然考へらるべき問題である。

洗毛の方法には種々あるも、天津で行はるゝものは概ね最も進みたる Leviathan System にして、機械の一端の挿入臺より羊毛を槽内に導き、フオークにより緩に進め第一槽を經て第二槽に推進せしむ、此間水は羊毛の進む方向に反流して、最も汚れたる羊毛と最も汚れたる水と相觸れしめ、漸次洗滌を完ふして、最後の槽の終りで絞りロールにかけて大部分の水分を除き、更に乾燥機に入り乾燥せられて此工程を終る。

洗毛に際し用ひらるゝ水の硬度、溫度、石鹼、其他使用藥物の濃度、槽中羊毛推進及び絞りロールの速度、乾燥機中の溫度竝に其中に於ける羊毛推進の速度等、一々羊毛の品質洗毛の採算上に、重要なる關係ある問題であるが、茲には之を省略す。

又海拉爾に於ては全然機械を用ひずして洗毛を行ふ。海拉爾の洗毛工場は東支鐵道の經營にかゝるものと、フオルブス、ウイドルマン、ブラウイ等民間のもの數戶あり。

前者は蒙古物資吸引策の一つとして、一九二三年創設せられたるものである。

八　羊毛洗滌をなす利害得失

支那羊毛を水洗して輸出せば、其缺點とする夥しき夾雜物も殆んど除去せられて、多大の輸送費を節減するのみならず、步留りも一定して安んじて取引せられ、又色が白くして外觀よき爲賣買が成立し易き等の利益あるも、其爲に羊毛の品質及び取引上に不利を齎すことも尠くない、卽ち洗滌せざるものは生體にある間に附著せる脂肪が纖維を保護する爲、輸送及び保管中に蒙る損傷、殊に黴を生ずる危險が比較的少きは注意すべきである。

尙洗滌の方法及び取扱いに缺陷ある爲に羊毛の持つてをる大切な性質が破壞せらるゝことは尠くない。卽ち水洗や乾燥に際し用ふる溫度が高きに過ぎ或は過度に洗滌する時は、色が變色し、其艷と軟柔性を失ひ、質を脆弱ならしめて耐久性を失し、鱗を損傷する結果は紡績上に必要なる羊毛の特性を喪失するのである。又用水硬質なる時は不溶解性にして粘質强き石灰又は苦土石鹼を生じ纖維に膠著する爲、染色に際し、染殘り斑點を生ずる憂あり。尙又洗毛の場合最も普通に起る缺點は、洗毛後の處理が不充分な爲、纖維が搦みついて、固形卽ちフエルトすることである。此現象は嶄新なる機械を用ひて洗滌せる場合にありても屢々起るのであるが、海拉爾洗毛の場合には特に甚しく、羊毛纖維は固つて塊狀をなし、品位を鑑定すること難く、且つ之を解絮する場合甚しく纖維を損傷し、羊毛は切斷せらるゝは免れられず、品位を低下するに至るのである。

是等の事情に鑑み支那羊毛輸出に際し、洗滌する可否如何は極めて重要なる問題である。今之を知るにつき忘れてならぬ點は、元來輸出せらるゝ羊毛は商品として市場で賣買せらるゝものであると云ふことである。卽ち羊毛の洗滌方法及び洗滌程度が、需要國に於ける買手の要求に叶ふものでなければならぬ、必要以上に洗滌せらるゝ要なく、又必要の

一九二五年	四三、〇〇〇留	四三、〇〇〇留
一九二六年	五五、〇〇〇留	五五、〇〇〇留

收入は全部洗毛及び荷造料金である。

G 作業方法

原産地より來集したる羊毛を簀の臺にて砂篩ひし、同時に色毛を除き、尙ほ死毛の多き部分を選出したる上之を洗毛場に移し、第一槽たる大桶に入れ水を注ぎつゝ之を男工が足踏して、砂泥は槽の底の網目の下に流し、羊毛は第二槽に移して更に同じ方法を繰り返して、砂土獸糞其の他の夾雜物を大體除去す。

之を更に河流に設けられたる長い箱（底には鐵網を張る）に移し、三十人の女工が其の兩側に居並びて羊毛を靜に上流に押しやり女工の手が恰も Leviathan System のフォークの作用を爲す、斯くして洗滌を完了したる羊毛は乾燥場に運ばれて、架空の針金線に掛け乾燥し、小片をなす羊毛は地上に廣げ乾燥す、（此場合數度裏返す）次いで看貫の上約十布度毎に壓搾して鐵帶にて梱包せらる。

H 料金

洗毛工賃	一布度につき	〇・五八留
梱包鐵帶	同	〇・五五留
壓搾料	同	〇・三三留
計		一・四六留

此洗毛方法は由來露西亞のドン河附近に行はれ居るのを露人が其儘海拉爾に移して採用したもので、他に多く其例を見ざる原始的の洗毛方法で、後に記するが如く至大なる缺陷ある方法である。

三　去塵

支那羊毛の夾難物を除去するに、去塵機(Willowing Maching)によるものと苦力の手先で取除く(Hand Cleaning)と二あり、天津に於ける有力なる外商は概ね去塵機を据附けてをる、新泰興洋行五臺、平和洋行三臺、隆茂洋行二臺、聚立洋行三臺及び怡和洋行二臺等が主なるものである。

イ　去塵機

去塵機には種々の様式あるも、羊毛を一方の口から機械の中に送り込み、瓣のあるロールが廻轉するに從つて羊毛は解絮せられて打飾はれ、纖維の間に挾まるゝ砂土塵埃等の固い雜物を分離し、更に扇風器の作用によりて格子を通じて除き、羊毛纖維のみが他の方から送り出さるゝのである。

ロ　去塵機と手飾による去塵との利害得失

機械により去塵する時は羊毛の纖維に無理に作用し、殊に長い纖維は打毛に際し切斷し、毛足が短くなる等の損傷を蒙ること多く、品質を害するを以て毛足が短い羊毛で機械にかけても切斷の爲に、特に品質を毀損する虞れなき場合に用ふ。

尚一つ去塵機を用ひて困ることはフリースが分解せられて各部が混交することである、支那羊毛が需要地の工場の手に入つた後、其所要の目的に叶ふ樣に更に選毛することあり。其場合羊毛がフリースの狀態にある時は選毛が容易である利益あり、故に需要者が選毛せず、其まゝ原料として使用する撒抓毛の如き場合のみ去塵機を用ふ。

程度に及ばざる時は再洗滌しなければならず。斯くては支那で洗滌した上輸出する意義はないことになる。然も米國に於ける支那羊毛の需要者は、夫々其製品の爲にしつくり適合した、洗滌設備と洗滌方法を有するを以て、强て洗滌せられたものを仕入れなければならぬ理由はない。

是に依つて見れば新泰興洋行の如き、外國の需要筋と特種の理解の下に洗滌して輸出するもの丶外は、需要普遍的である不洗滌の羊毛を輸出するもの多く、隆茂洋行其他の洗毛設備が近年利用せらる丶こと少き所以も首肯することが出來る。現に米國に輸出せらる丶羊毛の內、洗滌羊毛は總數の八％內外にして、他の九〇％餘は脂付の羊毛であることは、其邊の事情を有辯に物語つて居る、谷山隆男氏によれば、

米國に於ける支那羊毛の洗滌脂付別輸入數量比較表（單位封度）

年度	脂付羊毛	洗滌羊毛	百分率
一九二四年	六二、九九〇、一六五	四、七〇七、九二二	七・五
一九二五年	五八、五四三、一一七	五、二三七、八七八	八・三
一九二六年	二〇、四六六、三七四	二、四〇四、一一一	一一・八
一九二七年	四三、八六一、五九九	四、四一三、四三六	一〇・〇

然らば輸出商等は如何にして支那羊毛の夾雜物を除去し、運送其他取扱上に洗滌羊毛と同一の效果を收むるにつとめつ丶あるかと云ふことに就ては、次項に詳記することにしよう。

若し夫れ海拉爾の洗滌羊毛が運賃諸掛に於て利益する點と、其洗滌及び處理が宜しきを得ざる爲、品質の上に於て又賣買上に於て失ふ處と何れが大であるかは、更に研究を要する點で、蒙古羊毛の將來の爲注意すべき重要なる問題である。

一臺、天津打包公司二臺、實隆洋行一臺、泰和洋行二臺等は之である。

毛皮、皮革の梱包施設は、羊毛のそれに比し規模小にして機械も簡單である。羊毛が階下の受箱より階上迄壓縮するに對し、毛皮の場合は床と同じ、高さの處で受け之を上部に水壓にて壓縮し、苦力は臺の上に登り麻布を覆ひ縱横に數條の帶鐵をかけるのみである。

滿洲方面に於ても年々毛皮、皮革の莫大なる輸出あるも、從來此施設なく支那商は手廻螺旋式壓搾機を用ひ居たるも壓力小にして成績思はしからず不便を感じ居たるが、露商ブルムキン等四名相寄り昨年二月資本金約二萬圓の來興洋行(Manchurian Press Packing Co.)を創立し、奉天の滿洲製糖の工場の建物を利用して三月一日より作業を開始せり。使用の機械は米國製電力機にして十五馬力で、一日の作業能力は三十梱乃至四十梱である。

壓搾したる毛皮は麻布を以て包み帶鐵を毎梱縱横九本かけ、其梱包料金一箇につき八圓を徴し居れるが、機械が小に過ぎて奉天輸出毛皮の梱包に不適當なると、料金が高きに過ぎる等の關係にて未だ見るべき成績なく、聚義成の如きは自家用の爲に大規模なる人力の壓搾機を据附る有樣である。

滿洲方面にも完全なる毛皮梱包工場なきは、羊毛の場合に於けると同じく一般荷主の非常に不便とする處である。

第六節　支那羊毛の輸出

一　輸出數量

支那羊毛の輸出年額は平均三十六萬擔である。

即ち去塵機を使用するは(イ)選毛せず其まゝ原料として使用する場合(ロ)最初からフリースなく毛足の短きものに限られ、多くは苦力をして羊毛を手で打ち篩はせ、或は按子と稱する底部に六・七分目の金網を張りたる土篩にて、砂塵を除去し、同時に黒毛、死毛等を選別せしむ。

ハ　土篩料金

手篩の料金は普通選毛竝に手篩賃共込原俵一俵に對し何程と定めて、自家の使用苦力頭に請負はしむるものである。假に西寧羊毛原俵(普通平均百五十斤)を大洋五角にて請負はしむるとせば、篩ひ上り百斤當り料金は、

原俵篩ひ上り八〇%留りの場合

原俵一俵百十五斤　　五　角

百斤につき　　三角三分三

篩ひ上り百斤に對し $\frac{0.333}{80}$　　四角一分六

原料篩ひ上り九〇%留りの場合

篩ひ上り百斤に對し $\frac{0.333}{90}$　　三角七分

之に依つて見れば先に記したる機械による去塵に對する協定料金の銀三錢に比し、尙有利なる上に纖維を損傷する危險なく、且つ選毛をも合せ行ふことを得るより見て、輸出商が概ね手篩を利用しつゝある所以も首肯することが出來る。

附　毛皮、皮革壓搾梱包に就て

羊毛の梱包施設を有する諸洋行は概ね毛皮、皮革の壓搾梱包施設をも有す、平和洋行三臺、隆茂洋行二臺、怡和洋行

二　羊毛輸出港

天津は其背後地に内外蒙古、山西、陝西、甘肅、青海等の羊毛産地を控へ居るを以て、支那の最大の羊毛輸出港にして全輸出額の八五％内外を占め、大連、哈爾濱、上海、重慶、營口、漢口等之に次ぐ。

支那羊毛輸出港別累年比較表　單位（數量……擔／價格……兩）

年次	哈爾濱管内		大連		牛莊		安東		天津		膠州		重慶	
	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格
明治三十六年（一九〇三年）	—	—	—	—	六六六	六、六六二	—	—	二八、三〇六	一、八八九、四六七	六四三	九、六四九	二五、一六七	二五八、二二三
同三十七年（一九〇四年）	—	—	—	—	二	二九	—	—	一七、五四六	三、〇三八、七三六	一、四八六	二四、六〇一	三一、一五二	三二四、六二五
同三十八年（一九〇五年）	—	—	—	—	九三四	三、四八八	—	—	一六五、八〇二	二、九二二、八九九	七九四	一七、八七四	二六、六六一	四六五、五〇一
同三十九年（一九〇六年）	—	—	—	—	五六	六九四	—	—	二六九、一四四	五、四九〇、五三八	四七一	八、四八〇	二三、〇三五	三三七、六九三
同四十年（一九〇七年）	—	—	四	二四	七八八	八、四七二	—	—	一九九、三六四	二、九九〇、四六〇	九二八	一五、七七五	二〇、二二九	三二三、九〇八
同四十一年（一九〇八年）	三、四〇〇	五二、〇〇〇	四五	六七五	一、二三〇	一四、七八一	—	—	一八五、五七九	二、七八三、六八五	二、〇〇四	四五、五四七	一五、六八九	一七五、七一七
同四十二年（一九〇九年）	四五、三一〇	四九七、二五六	二六	三九〇	六二三	一三、四五六	—	—	二四五、七九二	四、九一五、八四〇	四、六二〇	一一九、五八二	二四、二五六	三三九、五八四
同四十三年（一九一〇年）	一〇、六五八	五四、七六〇	二五	二一五	五四	一、〇二三	—	—	一五六、五五二	三、三六五、八六八	二、〇六七	五五、二三〇	二四、一八〇	三三八、五二〇
同四十四年（一九一一年）	九、八八二	一〇八、一七三	一八	二七〇	五六九	一一、三七四	—	—	二六一、一二九	五、七三一、七八一	二、〇八二	九三、六九一	二三、九六五	三六七、四五〇
大正元年（一九一二年）	五、三二九	一〇〇、九五七	一、八九七	三四、八五六	三一三	七、六三一	—	—	二五二、五四五	五、五三九、四六六	三、四〇七	一一九、二四五	二二、〇一三	二一三、一一〇
同二年（一九一三年）	一〇、四七三	一五六、四四一	一〇四	一、二五八	八八六	一三、二三〇	—	—	二三、五一三	六、〇二〇、五二九	三、〇九九	七五、〇〇四	三一、九八五	六六七、五二七

凡そ支那羊毛の輸出數量は其年の生産狀態、政狀、運輸狀態及び相場の如何によりて著しく增減す、是等諸原因の中殊に政狀の如何は最も多く影響し、近年の如く內亂打續きては其度每に取引の安全は阻害せられ、又其間に土匪は橫行し運輸機關は破壞せられて、貨物は奧地に停滯して輸出數量は減少せざるを得ない、一九二六年の如きは最も顯著なるものにして奉國戰の爲に輸出は激減して僅に二十萬擔を算したるに過ぎず。

又近時の如く外國市場の羊毛相場が下落せるに拘らず、支那羊毛のそれが高調子では輸出が減ぜざるを得ない。現に昨年正月より三月末迄の羊毛輸出額九萬八千擔なりしに、本年の同期間の輸出額は三萬四千擔を算するに過ぎす、約三分の一に減少せしが如きは其邊の事實を語るものである。

之に反し輸出諸條件が順調なる時は輸出額は豫想出來ざる程に激增をなすのである。即ち一九二一年、二二年、二四年の如きは五十萬擔に及び又は之に垂んとする數量を示す、元來奧地に於ける羊毛消費量には大なる伸縮性あり、市況如何によりては消費を節して移出に振り向くることは極めて可能である。隨つて前年度よりの繰越品と合して斯の如き莫大なる輸出を見る。

斯の如く羊毛輸出額は支那獨特の事情によりて甚だしく增減し、然も其原產地は海港を遠く隔るを以て、奧地に於ける生產及び運輸狀態に就ての眞相は殆んど之を知ることを得ず、輸出額の增減は殆んど豫知することは不可能である。實に買付可能量の豫想並に買付價格の相定が出來ざるは、近代大量生產の工業原料としての重大要素に缺如する處ある譯で支那羊毛の最も不利とする處である。

支那羊毛の輸出額は斯の如く增減一定せざるも永年に亙つて見る時は、左の諸表に見る如く累次增加の傾向を辿りつゝあり、一九一四五年頃より稍固定的となりて平均三十六萬擔の輸出を見ることゝなつた。

明治三十七年（一九〇四年）	八五五	二三、三九八	七、八三二	一三七、五九二	六一四	六、七五二	—	—	四六、七四二	七四七、八七二	七四九	九、二五六	二六六、九七六	四、二九一、八六二
同三十八年（一九〇五年）	一、四四九	一九、八五一	六、六三〇	一〇八、二四二	五〇三	六、八三五	—	—	四三、六七七	七一三、三九六	五二四	五、七一一	二四五、九六三	四、三一〇、七九六
同三十九年（一九〇六年）	二、八八三	四一、八〇四	一〇、〇三九	一六〇、六三二	四二九	六、〇〇二	—	—	一、六五〇	三三、六六〇	五三五	五、四九六	三〇八、二四二	六、〇八四、九九八
同四十年（一九〇七年）	二、六四〇	三六、一六八	七、八七三	一三三、八二五	四〇一	五、六一三	—	—	—	—	三〇三	三、九八四	二三二、五一九	三、五一八、三二八
同四十一年（一九〇八年）	一、〇三三	一三、八七二	八、八九七	一四二、三五一	三五五	四、九七六	—	—	—	—	四二二	五、五二〇	二一八、六七四	三、二三七、一二四
同四十二年（一九〇九年）	一、四八二	一九、九三三	一四、四四二	二三一、〇五六	八〇〇	一一、二〇二	—	—	—	—	一、〇九一	一一、三四九	三三八、四四一	六、一五九、六四八
同四十三年（一九一〇年）	二、九九二	四〇、八七一	五、二五五	七三、五七三	四三六	六、一一〇	一二五	一、三九七	—	—	一八四	一、八七五	二〇三、五二八	三、九三九、四四一
同四十四年（一九一一年）	二、六六二	三三、五四二	九、七二五	一三六、一一六	六五二	九、二五九	—	—	—	—	三三	一四〇	三〇九、七一六	六、四九一、八二六
大正元年（一九一二年）	一、一三〇	二一、六一五	三、六九六	一七七、七四五	四五〇	五、四四八	一三三	一、五五三	—	—	二五〇	二、九三五	二九〇、一六三	六、二二四、五六一
同二年（一九一三年）	七五五	七、九五〇	一〇、五七〇	一四七、九七四	五七四	五、七三七	一九〇	二、五三三	—	—	六	九六	二八〇、一五五	七、〇九八、二七九
同三年（一九一四年）	九五五	八、八七二	九、九九三	一六四、八八九	四四三	四、四三五	二〇三	二、七〇一	—	—	六六	一、三三六	三〇七、五八六	六、八〇三、一七六
同四年（一九一五年）	七、八九二	七九、六三二	一六、三七〇	二六八、六三二	五七五	五、七五〇	一三五	一、八九〇	—	—	一八	三六九	四〇四、四五八	一一、一一三、三九四
同五年（一九一六年）	一三、五八三	一五三、四八八	一一、〇一〇	三〇九、六〇一	三九三	三、九三〇	一一七	二、〇六[illegible]	—	—	九六五	一一、六六七	三一八、一六九	一〇、〇〇三、七三三
同六年（一九一七年）	一六、四九三	二五九、六二二	一五、一一五	四二五、〇三三	八四三	一〇、一二三	九一	一、七三五	—	—	二九四	三、一五八	三三六、五六二	一〇、五五九、九二八
同七年（一九一八年）	一〇、三六五	一八二、四二四	九、八六三	二九四、〇一六	四八一	二、八八九	—	—	—	—	一、三〇九	一二、七一八	三三七、一四五	一〇、九五五、三七二
同八年（一九一九年）	一二、七九一	二二八、八四一	四、一九八	一〇四、九五〇	六六三	三、九七八	—	—	—	—	二四六	三、五三三	三五三、三九五	一一、一九九、五六九
同九年（一九二〇年）	一、五〇八	二七、八八三	三、七八三	九四、五七五	—	—	二六	五七二	—	—	三〇七	七、一一六	一一五、四一〇	三、三八六、六七五
同十年（一九二一年）	九八〇	一七、一九九	三〇、九七四	六八一、四二八	四三一	三、四四八	—	—	—	—	四八一	九、七四四	四四九、六〇八	一一、〇七三、九二七
同十一年（一九二二年）	一、一七六	二二、一六八	二四、三六一	六二二、二〇五	二、二三八	三〇、九五〇	四一	九九一	—	—	四六九	五、五四八	五一七、六五六	一二、七三三、〇八七

年次	漢口		上海		寧波		廣州		秦皇島		其他		合計	
	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格
大正三年(一九一四年)	一〇、三二四	一二三、五二六	三、〇二九	三六、六二一	一、一〇五	二六、七五二	―	―	二四六、八七九	五、八七三、二五一	―	―	三四、四八九	五七〇、七九三
同四年(一九一五年)	九、八五〇	一三六、四六六	二三、六六一	四七五、八八一	一、一三一	二五、二三三	五二七	二五、二一七	三〇一、六六一	九、〇〇三、九七三	五、四九七	一一〇、一〇六	三八、二六一	九八〇、二四七
同五年(一九一六年)	八五三	二二、二三六	四、二八七	一三〇、〇三六	一、一二三	二八、〇三六	三、九八六	一六八、二八五	二四六、五三四	八、〇七三、九八九	五、七九九	一四七、四三九	二九、四二九	九八二、九二九
同六年(一九一七年)	一、六六八	三、七九〇	一六、四三〇	五四三、一九〇	六四九	一四、八七五	三、七三六	一〇四、三七四	二四八、四九九	八、一七〇、六四七	八、六一八	二〇九、四一七	二四、一三六	八一四、九七六
同七年(一九一八年)	一、一〇七	一三、四六五	一三、五二六	三一三、一五〇	三、〇一〇	六九、五五一	一、八一	五九、二六六	二七六、九一二	九、三一七、二四〇	四、七八二	一三〇、五〇六	一四、九七〇	五七一、一〇六
同八年(一九一九年)	一、八六七	二〇、二七二	二六、〇七五	八四八、三三〇	四、三九五	一一〇、三二六	一、五三〇	四九、三一五	二七九、三七四	九、三五九、〇二八	一、七三〇	四三、五五四	二一、五二六	四三七、六二四
同九年(一九二〇年)	一、五三〇	四五、一五八	九、九七五	二一八、九五一	一二八	三、三一一	二五	一、五一四	八一、八〇二	二、六二七、四四七	三、四五二	八四、五七四	三、八七五	二七五、六五四
同十年(一九二一年)	一四二	一、七五一	五、二八五	一一六、二七〇	三三三	八、一五〇	二四	五一〇	四〇三、六四三	一〇、〇九一、〇一五	二、九九一	七七、七六六	四、三三五	六六、五八六
同十一年(一九二二年)	一八九	二、三四九	二三、二六三	三七二、二〇八	五、二五四	一三一、七八一	三四	一、三九二	四三三、八六三	一一、〇一三、五〇七	二、八九四	七〇、三三四	二四、八七四	四二一、六六四
同十二年(一九二三年)	四四〇	九、三三六	一九、一八六	三五六、八八〇	一、〇六九	二三、六五七	一	六	三二二、九五一	九、二三三、〇一五	一、八六四	四四、七三六	八、八一六	一九七、三〇三
同十三年(一九二四年)	五、九七七	一五九、三〇八	二八、七五六	五七五、一二〇	一、三三八	一一、一九六	四二	一、四七七	四一五、三九八	一二、四六一、九四〇	二、六七九	六六、九七五	八、〇三九	二〇二、五〇一
同十四年(一九二五年)	五、一三四	一〇九、三五四	二五、一二六	八七九、四一〇	七六一	一四、二四一	四	一〇三	三七四、一三二	一一、五〇四、三一一	二、一七二	六五、一六〇	二、四九八	七九、一一一
昭和元年(一九二六年)	一六、一六二	六二一、二四六	八、三三六	二九一、七六〇	三、四四二	七三、六九三	三四	三、九五五	一五三、八八六	五、〇七八、三三八	三、一六八	一一〇、八八〇	三、三一七	一二四、一〇四
同二年(一九二七年)	二三、七六九	八〇〇、三三〇	六、四六五	一九三、九五〇	六、三〇〇	一四〇、四九〇	三七	一、六〇二	二八七、七一九	一〇、〇七〇、五一五	二、五五三	一一四、八八五	八、八四四	二五一、四三四
同三年(一九二八年)	二三、六四四	五八六、一三五	六、五八六	一九七、五八〇	五、四四四	一三一、二五五	五	一五一	四〇五、九〇九	一三、三九四、九九七	七、九五七	三一八、二八〇	一五、八八〇	四五八、九三三
明治三十六年(一九〇三年)	四六八	五、五六九	九、〇〇九	一一三、六二四	四三三	三、六八四	―	―	二六、二九二	四〇七、六一六	一八二	二、九四三	一八一、一六四	二、六九六、四二五

同　三十八年（一九〇五年）	三二、三六九	五四七、〇〇五	一、七四七	三〇、三五九	五九五	一〇、三〇八	—	—
同　三十九年（一九〇六年）	二七、〇〇五	二九六、八八六	五、六四八	八四、九五九	三四	五〇二	—	—
同　四十年（一九〇七年）	一三、一一七	一七九、三〇八	七、五七二	一〇三、五一九	七五	一、〇一〇	—	—
同　四十一年（一九〇八年）	一三、八一三	二一〇、四九七	二九八	四、七八六	五一	八三〇	三、四〇〇	五一、〇〇〇
同　四十二年（一九〇九年）	六、八一三	一四四、三九〇	三七八	八、四五六	四四三	七、一一六	四五、三一〇	四九七、五六
同　四十三年（一九一〇年）	八、八三四	一九三、三一二	七三九	一五、六三三	三	三九	一〇、六五八	五四、七七〇
同　四十四年（一九一一年）	一一、七八七	二四六、四一二	一、七三二	三五、三三四	七八〇	一六、三三八	九、八八二	一〇八、一七三
大正元年（一九一二年）	四、一六六	八八、五七六	一、〇五〇	三三、五四二	二四四	七、三一九	五、三三九	一〇〇、九五七
同　二　年（一九一三年）	五、八六九	一〇九、八三〇	一、一〇五	三三、六九四	五〇七	一〇、〇二一	一〇、四七三	一五六、四四一
同　三　年（一九一四年）	三、一九九	七三、二一九	一〇二	二、三一一	一八	一、七六四	一〇、三三六	一一三、五三六
同　四　年（一九一五年）	五五四	一六、八七五	—	—	—	—	一、五〇七	一七、七二〇
同　五　年（一九一六年）	四〇一	一三、四八五	—	—	一七	五四四	六八〇	一六、九二八
同　六　年（一九一七年）	七一八	一二、五三一	—	—	—	—	一、六七八	四、一五〇
同　七　年（一九一八年）	二、七八一	八六、三三一	—	—	一、三七七	四四、五三三	一、二一一	一四、五五七
同　八　年（一九一九年）	五、九一一	一八一、五五七	一三一	四、一一一	三、〇一一	九四、四八五	一、八七〇	二〇、三六一
同　九　年（一九二〇年）	一、八七四	五三、三四七	三、八四六	一〇八、〇八八	三五一	一〇、〇三〇	二、二〇四	五六、九五九
同　十　年（一九二一年）	一、〇六一	二五、一三五	一三一	二、九〇六	—	—	四九	七〇三
同　十一年（一九二二年）	九二〇	二四、二六三	六四	一、七二三	六二一	一六、九五三	三一八	四、五六三
同　十二年（一九二三年）	九二八	二五、九〇〇	三四五	一〇、一四九	一三三	三、九〇一	四三五	九、〇九八
同　十三年（一九二四年）	三、七三四	一一一、〇四三	五九一	一七、五一七	一七七	五、五七六	五、九七七	一五九、三〇八
同　十四年（一九二五年）	一、九九一	六一、〇〇九	一四〇	四、〇九七	八四	三、〇八二	五、一三四	一〇九、三五四
昭和元年（一九二六年）	一、三九二	四四、七〇一	六五	二、〇五〇	—	—	一六、一六二	六一一、二四六
同　二　年（一九二七年）	二、八五三	九五、二二七	六四〇	二五、三七七	八	二四三	二三、七六九	八〇〇、三三〇

大正十二年(一九二三年)	一、四三四	二五、五五四	九、一三三	二三二、六三三	四一三	七、二九七	四五	一、一六六	—	—	九六	二、二〇五	三五五、四三七	一〇、一三二、七八六
同十三年(一九二四年)	一、三二九	二二、七三六	一六、一三八	四一九、五八八	四五三	九、二八七	三九	九六八	—	—	九一六	一六、八二一	四八一、〇〇四	一三、九四六、九〇八
同十四年(一九二五年)	一、七三三	三三、一三五	一三、三四六	三三九、六一六	三三八	七、一八三	一七	四八九	—	—	一三	三四七	四二四、二六三	一三、〇三二、三七〇
昭和元年(一九二六年)	二、一六〇	四九、二四八	一九、七八二	六〇一、三七二	四五〇	一一、七〇〇	二〇	五七六	—	—	一、三五八	二六、七八八	二二二、一一五	六、九七三、五六〇
同二年(一九二七年)	一、四六六	五二、八四八	一九、二八九	四八二、二三五	五三一	一一、一五一	—	—	—	—	六九九	一四、七〇三	三五六、六八四	一二、一三四、一三二
同三年(一九二八年)	七九七	二九、四八九	二〇、一六一	五〇四、〇二五	四九一	一〇、〇六六	五	一七五	—	—	四四〇	八、五二六	四八七、三一九	一五、六三九、六一一

備考　本表には再輸出を含む。

三　羊毛仕向國

支那より輸出せらるゝ羊毛の九〇%は米國に仕向けられ、日本三・四%、露西亞二%、英國一%獨逸等は之に次ぐ。日本向輸出の内には日本にて仲繼再輸出するものを含むを以て日本向純輸出額は僅少である、此點に就ては更に日本に於ける支那羊毛の章に詳記する積りである。

支那羊毛輸移出仕向地別累年比較表　單位｛數量……擔　價額……兩

年次	英國		獨逸		佛國		露西亞	
	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格
明治三十六年(一九〇三年)	八、八四四	一一〇、六八九	—	—	—	—	二、〇五四	二五、六八五
同三十七年(一九〇四年)	一〇、二七六	一八〇、五四五	—	—	—	—	一、四五七	二五、五九二

大正十一年（一九二二年）	四六八、九二九	一一、九二四、四三三	三六、二六九	九一四、九七六	四六六	五、六三三	五〇七、五九七	一二、八九二、五三四
同十二年（一九二三年）	三〇九、九四九	八、八六九、九六一	四〇、三〇九	一、一五九、五〇一	二二	五九二	三五二、一〇九	一〇、〇七九、一〇三
同十三年（一九二四年）	四四五、〇六四	一三、九一六、九〇七	二九、七一七	八二八、五五九	六〇	一、七六三	四八五、三三〇	一四、〇四〇、六七三
同十四年（一九二五年）	三七〇、七四六	一三、四三〇、九八〇	四七、二四五	一、四五四、〇三三	七八七	二四、〇一六	四二六、一二七	一四、〇七六、五五[illegible]
昭和元年（一九二六年）	一七七、三三一	五、八三九、〇三三	一三、四八九	四四五、六七八	四	一四四	二〇八、四三三	六、九四三、八三三
同二年（一九二七年）	二九四、八〇七	九、八六五、六七八	三八、八三八	一、三六六、一三六	二五四	八、三三〇	三六〇、一六九	一三、一六一、三一一
同三年（一九二八年）	三九二、八九三	一三、八九八、八七七	四六、六五三	一、五五一、八二七	二、七六七	八六、二八二	四八六、三四一	一五、八一三、二八三

第七節　輸出方法及び採算

一　引合方法

輸出商は需要國に於ける製造業者、又は輸入商に見本を送り、又は豫て兩者の間に定めたる標準見本によりて、天津積込渡し一封に付幾仙と相場を協定して賣買を取り定む、此契約に基き、輸出商の手に買取られた羊毛は包裝から出されて、色毛及び死毛の多き部分を撰別し、土篩された後壓搾梱包して船積せらる。

尙輸出商は船積羊毛の洗上後の歩留り率を保證するを常とす、故に需要地に到著後洗毛の結果若し歩留りに相違ある時は輸出商は共差額に對し補償の責に任ずるものとす。尤も此場合保證歩留り率の上下二%迄のアラウワンスあり。

二　檢定方法

需要工場に於ける羊毛受渡しに際し行ふ檢定方法の一例を示せば、

年次	米國 數量	米國 價格	日本 數量	日本 價格	其他 數量	其他 價格	合計 數量	合計 價格
昭和三年(一九二八年)	一四、一〇二	四六六、九一三	六、〇七四	二一七、五八九	二一〇	五、六六〇	二三、六四四	五八六、一三五
明治三十六年(一九〇三年)	一六四、三五五	二、〇七八、七八八	一三、八六六	一七三、五七四	一五八	一、九七六	一八九、二七七	二、三九〇、七二三
同　三十七年(一九〇四年)	一九六、四五二	三、四五一、六五五	五二、六九九	九四二、九二六	九二	一、六二六	二六〇、九七六	四、六〇二、三四四
同　三十八年(一九〇五年)	二八三、〇五二	四、九三二、六四四	二五、八六九	四五六、六八〇	五、四〇一	九三、二六一	三四八、〇三三	六、〇七〇、一五七
同　三十九年(一九〇六年)	二四七、五七三	三、六五四、九七八	三五、四九一	六九二、四九三	一、一四七	一七、一九七	三一六、八九八	四、八四七、〇一五
同　四十年(一九〇七年)	二〇五、四三三	二、八二九、二三八	三七、九〇七	五六七、五五三	二、七六九	三八、四七〇	二六六、八七二	三、七一九、〇九八
同　四十一年(一九〇八年)	一九三、九五四	三、一八二、九三三	一一、二五七	一六九、九六九	六九九	一一、六六七	二三三、四七一	三、六三一、六八二
同　四十二年(一九〇九年)	二七五、二六四	五、八三八、一三六	一一、〇九五	二三六、九六三	一一	三〇五	三三九、三一三	六、七三二、六二一
同　四十三年(一九一〇年)	一七一、一一六	三、七二五、九九四	六、〇一九	一三七、一五八	一六九	三、四二七	一九七、五二八	四、一三〇、三四二
同　四十四年(一九一一年)	二七八、二九〇	五、八三二、七九四	一三、六一三	三二一、九八九	一、四九七	二九、九六五	三一七、五六九	六、五八九、七八四
大正元年(一九一二年)	二四二、七二四	五、一九一、〇六八	一〇、九六九	二四六、九九七	二五一	五、四二六	二六四、七三三	五、六六二、八八五
同　二年(一九一三年)	二五一、〇三八	四、九〇六、六六〇	一〇、三三一	二六二、七二〇	九三九	一九、一七七	二八〇、二六二	五、四八七、五四三
同　三年(一九一四年)	二四二、七五一	五、四二〇、八九三	四四、六四九	一、〇五三、四五七	二五三	五、七三二	三〇一、三五八	六、六五八、九六二
同　四年(一九一五年)	二八六、八〇四	八、五一六、二七八	八八、四五三	二、五七一、二〇三	三九七	六、五七六	三七七、七一五	一一、一三八、六五二
同　五年(一九一六年)	二五〇、八二九	七、九八二、三三六	八二、六〇〇	二、六八六、一四四	九	二三四	三三四、五三六	一〇、六九八、六六一
同　六年(一九一七年)	二一八、五六二	六、六八四、四〇八	一一五、八四六	三、七四四、五七九	二、五五〇	七八、三三二	三三九、三五四	一〇、五三三、〇〇〇
同　七年(一九一八年)	一四六、五六四	四、六八二、四〇八	一五七、〇五四	五、一五九、九四〇	九、〇四九	二八九、〇一七	三一八、〇三六	一〇、二七六、七七二
同　八年(一九一九年)	二三八、八四一	七、五一六、一七七	一一五、五三六	三、七四六、七六三	五二六	一六、五二六	三六五、八二六	一一、六〇九、九七九
同　九年(一九二〇年)	五四、三一三	一、五八五、八五〇	三九、〇八〇	一、二二〇、三一九	二、〇四五	五六、四八八	一〇三、七一三	三、〇九一、〇八一
同　十年(一九二一年)	三九八、二三二	九、七〇八、四八四	六二、八二〇	一、五六六、二一七	六四三	一三、六六九	四六二、九三六	一一、三一七、一一四

羊毛輸出に際し要する土餙費、壓搾、梱包及び之に附隨する諸經費に就ては先に記したる處であるが、此外に尙次の如き諸掛りを要す。

輸出税	一擔に付	海關兩	〇・三五〇
輸出附加税	同	同	〇・一七五
白河修河税輸出本税の四分	同	同	〇・〇一四
架橋費輸出本税の二分	同	同	〇・〇〇七
碼頭税輸出本税の二分	同	同	〇・〇〇七
橋税輸出本税の八分	同	同	〇・〇二八
運賃 紐育向一噸に付九米弗(四十才一噸 約十五擔)	同	現大洋	一・一八
保險料	同	同	〇・〇五

金利 買付より船積の上爲替取組迄の期間に要する金利にして、年一割乃至一割二分と看做す。

今日本及び米國向羊毛輸出に對する送狀を一、二揭ぐることにしよう、蓋し羊毛輸出採算を知る好個の參考資料である。

送狀例 一

Invoice of One Hundred and Seventy Five Bales of Sheep's Wool, shipped per S/S "Chorei Waru" from Tientsin to Kobe . byOrder and for Account and Risk of Messrs. A. B. C. &. Co.

B/S. 175. Hsi-Lu Rope Wool. ... ...

(1) **汚毛重量**　試験すべき羊毛の約二〇%の梱包を抽出し總重量より風袋を差引き正味斤量を汚毛量とす。

(2) **洗毛重量**　上記の汚毛を悉く水洗機により洗滌の上、二十四時間放置し、普通の狀態に於て看貫をなし正味斤量を算出せるものなり。

(3) **水分**　洗上羊毛三十封度をとり之を約四封半宛に分ちて乾燥試驗を行ひ、乾燥前後の差を含有水分量とし、乾燥後の重量に比較して含有水分率を算出す。

(4) **夾雜物**　洗上羊毛約二百封度を打毛機にかけ、打毛前後の斤量の差を夾雜物の量とし、之を打毛前の斤量に比して含有夾雜物の率を算出す、但し本試驗の際飛散せる毛量は之を見積りて打毛後の斤量に加ふ。

(5) **步留算定方法**

a　**無水羊毛重量**　含有水分率に一を加へたるものを以て(2)の場合に於ける洗毛の正味斤量を除したる結果を無水羊毛の斤量とす。

b　**無水無夾雜の羊毛重量**　無水羊毛量に含有夾雜物率を一より差引きて得た率を乘じたるものを無水無夾雜の羊毛量とす。

c　**公定水分一六%を加算す**　無水無夾雜の羊毛量に對し一一六を乘じたるものを以て、公定水分を含有する羊毛重量とす。

此公定水分を有する洗上羊毛重量を(1)の正味汚毛の斤量を以て除したる結果を該受渡し羊毛の步留率となす。

三　輸出採算

Carpet Wool (Ball Assortment) not washed nor scoured, estimated yield 55%

No. 1. 48 B/S wg. nett 24,762 lbs.		
No. 2. 36 B/S wg. nett 15,659 lbs		
Total 86 B/S wg. nett 41,176 lbs.		
$ 0.35¼ per lbs.		$ 14,514.54
Charges not included in the above prices, ...		
Export duty	$ 176.12	
Sorting Coolies hire	„ 216.17	
Press Packing Fee	„ 314.84	
Freight (Tientsin to New York)	„ 266.31	
Marine Insurance prem.	„ 135.85	
Consulan Invoice Fee	„ 4.00	
Telegraph Fee	„ 22.80	
		$ 15,650.66

E. & O. E.

備考　庫平兩　一〇〇――行平兩 (H.P.Tls.)　一〇六•六

　　　海關兩 (H.K.Tls.)　一〇〇――同　上　一〇五•〇

Gross weight piculs 1,000. @Tls. 40			Tls. 40,000.00
Tare and Diminution 200.			
" Export Net " 800.			
B/S 150 First Grade 680.			
" 25 Second " 120.			
" 800.			
Charges :			
Packimg Charges for Pls. 800. @. Tls. .90		720.00	
Export Duty " " " H. K. Tls. 280.00			
River Due " " " ... " ... 11.20			
Bridge Tax " " " ... " ... 5.60			
Wharfage " " " ... " ... 5.60			
	302.40		
to H. P. Tls. @. 105		317.52	
Freight to Kobe $. 393.75 @. Tls. .69		271.69	
Marine Ins. for Tls. 5,000		100.00	
Commission, Telegrams, Petties.		1,200.00	
Collies Hire. (Sorting & c)		300.00	2,909.21
			Tls. 42,909.21
To Yen A/C. Exch. Rate 30 D/S on Japan @. Tls. 72.			Yen 59,596.13

E. & O. E.

送状例 二

地である。

二　羊毛出廻り數量

我領事館にて京綏鐵路當局に就き調査せる處によれば、張家口驛よりの發送羊毛數量は、

一九二七年　一二〇、九四五擔　　一九二八年　一〇三、三〇五擔

大體十萬擔内外なるも今日では十萬擔を越へることは少いであらう。

三　羊毛取扱商

張家口の羊毛取引に重要なる地位を占むるは、毛棧、毛販子竝に近時擡頭したる露商である。

イ　毛棧（皮毛棧）

毛棧は奥地より羊毛其他を搬出せる商人を宿泊せしめ物資は之を保管し、其賣買の仲介をなす、毛棧は賣買成立の場合手數料として賣買相方より各一分三厘を徴す。物資に對しては保管料を徴することなきも、宿泊せる商人より食費の實費として一日に付銀の二錢を徴す。當地に於ける主なる毛棧は、

興源棧　德祀永　公義棧　德玉恒
通興棧　慶和公　天巨永　裕興公
德泰公

第六章　地方の羊毛集散市場

第一節　張家口

一　概說

張家口は所謂カルガンにして歸化城を西口と稱するに對し東口とも云ひ、蒙古貿易の中心點たると共に、京綏線により歸化城及包頭に通じて、山西、陝西、甘肅及び青海、新疆方面の貿易に對しても、仲繼地として重要なる地位を占め天津に最も密接なる關係を有す。卽ち羊毛、駝毛、獸皮及び雜穀等是等地方の產出に係はるものは、同地を經て天津に集る。實に天津の輸出品中棉花を除きては、大部分張家口を經由せる物資なりと稱するも過言に非ざる狀態である。

張家口は天津を距ること鐵道四百粁直隸省の北部に在り、東、西、北の三面山岳を以つて圍繞せられ市街は東西僅かに五六町に過ぎざるも、南北里餘に亙り、全街を上堡、下堡及口外の三區に分つ上堡は蒙古人を顧客とせる雜貨舖等の商賈軒を連ね下堡には錢舖、票莊、茶商、布莊、毛皮商等あり。最も殷振なる街道にして下堡の西部には各手工業者あり、口外は蒙古人と交易を爲す處にして、皮毛棧、皮毛販子、皮莊等の蒙古貿易業者の住居するもの多し。

京綏線は此地を經て西に伸びたる爲其羊毛取引は稍さびれたるも、尙依然多倫諾爾庫倫方面に對する重要なる仲繼地にして、殊に庫倫に至るには歸化城よりするものと二路あり、張家口經由は彼に比し日數に於て二日の不利あるも運賃に於て大差なく、加之歸化城より張家口迄輸送する運賃を要するを以て、依然張家口は所謂東口として蒙古貿易の中心

九八秤百斤は　準秤九八斤　　　九五秤百斤は　準秤九五斤

若し九五秤にて物品を賣買するときは加一と稱し一斤を添加する取引習慣なり。

ロ平と行平の公定比價は、元來前者の一千兩に付後者の一千三十七兩四錢なるも、前年天津より移入せる多數の馬蹄銀が、其の品位良好にして千兩に付五錢の加色を見たるより、爾來其當時の相場を以つて公定比價とし、即ちロ平一千兩に付天津行平一千三十六兩九錢とするに至れり。

相場は市場の景況、貿易の狀態により、變動あるは勿論なるも、槪して票期前金融逼迫時期若くは物資集散し資金の需要を喚起するときは昇騰し、ロ平一千兩に付行平一千四十兩乃至一千六十兩に上ることあり、是に反し票期後又は市場閑散期にはロ平一千兩に付行平一千二十五兩時として一千二十兩に低下することもあり。

ロ　票　期

票期とは貸借の決算期にして、舊曆の四月、七月、十月、十二月の四期となすも、契約により兩票期或は三票期等とし、票期を二期又は三期經過せる後決濟期が到來するものとなすことあり。票期に決濟出來ざる場合は停票として各錢舖は取引を拒む。票期の始めに滿加と稱へ、一票期間の利子を發表す。普通一千兩に付三十兩とす。

元來票期は山西省票莊本店が、現銀授受を省略する目的を以て定めたる決算期にして各地其期一樣ならず、即ち甲地の過剩を以て乙地の不足を補ふが如く、小額の現銀を以て轉々流用せんと欲せしものなるも、因襲の久しき遂に一般商取引に此制度を採ること〻なれり。

因に錢舖自體の決算は每年一回之を行ひ、三年後に大決算を爲し、此の決算の時損益の精算をなし、純益の一半は資

等である。

ロ　毛販子

奥地原産者より直接羊毛買付を爲すものにして、當地には有力なるもの十戸あるも主なるものは左の如し。

商號	取扱數量	商號	取扱數量
永誠銘	二〇、〇〇〇擔	永成玉	三〇、〇〇〇擔
德瑞成	三、〇〇〇	元和豫	七、〇〇〇

買辦の外莊にして仁記、新泰興、聚立、隆昌、平和等旺んに活動せしも、今日は見るべき影なし、買辦に代り露商の活動顯著なるは注意すべき現象である。

四　金融及び度量衡

イ　度量衡

度量衡左の如し。

度　木京尺、京裁尺の各種

量　一斗は九大角、十八小角にて約我五升一合に當る。

衡　銀秤は口錢秤。（口秤とも云ふ）天津元寶銀に比すれば、口平壹千兩は元寶銀約壹千四拾參兩即ち四拾參兩多し。

銀以外の物品を衡るに準秤九八秤九五秤あり、準秤一斤は拾六兩我百五十三匁に當る。

當地に於ける主なる皮毛店を擧ぐれば左の如し。

萬聚和　集玉　辭萬恒行　隆和昌

萬義長　萬億昌

而して皮毛買付は是等の皮毛店と稱する問屋の手を經て行はる。買付ロ錢二分は買手持とす。此地主なる金融業者は中國銀行、交通銀行、大盛、大德通、裕源永、中興永、錦盛調にして、張家ロ錢平の百兩は城錢平の百兩七錢五分に相當すと云ふ。

第三節　包頭

一　沿革

包頭は綏遠特別區域の西方に位し、歸化城を去ること三百六十支里、歸化城の西方にあるを以て西包頭とも云ふ。一九二四年鐵道は此地迄開通して京綏鐵路の終端驛たり、黄河の水運により甘粛青海の羊毛産地に通じ、最大の羊毛仲繼市場である。驛は包頭城の東南にあり、黄河北岸の碼頭たる南海子は南方約十二支里にして達すべし。

二　羊毛出廻狀態

當地經由の羊毛にして、舟運によるものは南海子、皮筏によるものは王大漢に於て荷揚をなす。斯くの如く兩者碼頭を異にする所以は皮筏によるもの途中水濡れ多き爲め、王大漢の沙地は其の乾燥に便なるものゝ如し。然れども乾燥中

本主に、殘り一半を店員に分配す。支配人其他重要の地位にあるものに對しては資本主は特に手當金を給與す。

第二節　歸化城

一　沿革

歸化城は綏遠特別區域に屬し、西部蒙古に通ずる交通の要衝に當り西口とも稱せらる。古來綏遠將軍の居城として、西北内蒙古に於ける政治及商業上の中心地なり一九〇三年支那自ら開放せる商埠にして、一九二一年京綏線が開通し、一九二四年更に包頭迄延長せられたるも、此地は依然烏里雅蘇臺、科布多方面に對する市場である。

二　羊毛出廻狀態

外蒙古より搬出せらるゝ羊毛は、總て繩狀に撚り、裸のまゝ羊毛繩には緊縛せるものなるを以て、當地に於て選毛の上麻袋入麻繩掛に改裝す。

京綏鐵路局の調査によれば此地の羊毛發送數量は、

一九二七年	一六二、七五〇擔
一九二八年	一一六、七七五擔

なれど事實は三萬擔内外で、蒙古産一萬六千擔、歸化城附近四千擔、羊毛散抓毛一萬擔見當である。

三　羊毛取扱商取引慣習

ば左の如し。

廣恒西	廣恒公	廣成公	廣順店
義同厚	義順公	天成恒	

是等の商人は票期を利用し、大數量の取引をなすものなり。

當地にて荷造されたる羊毛は、改包と稱し原産地名を冠すれども、附近產出の羊毛を混入せる爲め品質一定せず買付最も注意を要するものとす。又包字と稱するは、包頭附近の產毛にして、其の品質劣等なり。

此の地の賣買は包頭秤百斤(邦斤九十九斤)包平(包頭銀錁)建にして、問屋ロ錢は賣買雙方より二分を徵し、買付代金の支拂は普通の信用あるものは、每月末に支拂ふことを許容せらる。即ち一日より三十日迄に買入れたるものゝ代金を三十日に支拂ふ。

又多年斯業に從事し信用厚きものにありては、鑣期を利用す鑣期とは一年を舊三月、六月、九月、十二月の四期に分ち、三箇月目每に決濟するものとす。

例へば一月に買付たる羊毛代金に對し、天津に於て舊三月に支拂ふ條件にて、錢舖より借入れたる場合三箇月間の利子を引去りたる差額を包平にて交付を受くるものとす。

而して平時なれば一箇月以內に於て、貨物は天津に到著すべく、其の後の二箇月間に之を賣却するとせば、鑣期の期限迄其の資金を流用し得べきを以て、之を惡用したる商人により、包頭錢舖が數十萬兩の損害を蒙りし事は未だ新しき事實なり。

代金の決濟は、總て滙票によりて行はる。今天津行平と包頭平とを比較するときは、成色(純分)包平千兩に對し行平

風の爲め吹き去られ、或ひは又盜難による目減のおそれ多き爲め、此方法は餘り歡迎されぬ有樣なり。

而して是等羊毛の天津に搬出せらるゝものは、碼頭より直に包頭驛に積送され、又包頭にて取引せらるゝものは、城內に搬入して各問屋の倉庫に保管せらる。當地に於て集散さるゝ羊毛は、包頭附近王爺府、鎭番竝に黃河上流なる陝西靑海地方、阿拉善蒙古地方の產出にして、主に西寧、蘭州、寧夏、石嘴子等より舟運によりて搬出せらるゝものとす。

而して包頭に於て賣買せらるゝ羊毛は、包頭原產地間の商人竝に包頭に於ける問屋の支店卽ち聯號により搬出せらるものにして、單に之の地を通過する羊毛は、天津に於ける外商買辦の經營する外莊、又は原產地天津間の羊毛賣買を主とする支那原產地商人によりて搬出せらるゝものなり。包頭よりの羊毛發送數量を京綏鐵路局の調査により見れば、

一九二七年	一一八、五七五擔	一九二八年	一〇一、九二七擔

なれど餘り少きに過ぐるものゝ如く、實際は西寧西路羊毛の發送數量十七萬擔乃至二十萬擔である。

包頭附近の羊毛出廻は七月末にして、黃河上流のものは八月に始り十二月黃河の結氷によりて終り翌年四月開氷の時期に至り又出廻りあり。

故に他の羊毛市場の取引が出廻時期のみに限られ、其の取引最も旺盛なるは出廻多量なる九十兩月なり。

三　羊毛取扱商取引慣習

當地の問屋は、單に羊毛皮革の如き輸出品のみならず、綿絲布、雜貨等の輸入品の取扱をもなし、其の大なるものは銀號を兼營して商取引の圓滑を計れるものあり。而して店內を羊毛、駝毛、皮革、綿絲布、雜貨、山貨等の各部に分ち其れ〳〵擔當者を置き總括するに大番頭を以つてする等使用店員百數十人より二百人に及べり。今重なる問屋名を記せ

碌碌科	二〇、〇〇〇	錦縣	一〇〇、〇〇〇
建平縣	四〇、〇〇〇	廣寧	三〇、〇〇〇
義縣	六〇、〇〇〇	小庫倫	四〇、〇〇〇
西宮營子	五〇、〇〇〇	八溝	三〇、〇〇〇
塔子	三〇、〇〇〇	黑水	二〇、〇〇〇
錦西	三〇、〇〇〇	羊山	五〇、〇〇〇
鬼・徳索	一五、〇〇〇	平房子	二〇、〇〇〇
合計	一、〇〇五、〇〇〇		

而して赤峯を經由して來集するものを加算せば毎年此地に集散する羊毛は一萬五千擔乃至二萬擔である。

二　羊毛取扱商及商取引慣習

當地に於ける重なる羊毛取扱商は次の如し。

萬徳店　永和店　益發店　文瑞成

就中萬徳店最も大にして店内買賣係、看貫係、奥地羊毛買付係、及皮類係等ありて店務に掌缺し、毎年清河門に於て羊毛約二十萬斤前後の買付をなす、又毛販子に對し買付資金を貸與し、又在庫羊毛等には相當融資を爲し、賣買の仲介をなす、此場合仲買口錢として賣買相方より二分を徴收す。

賣買せられたる羊毛は解裝して包裝を賣手に返還し、買手は新に荷造りの上看貫をなし、總重量より新包裝の斤量を

千二十八兩に相當す。然し爲替の出合情況現銀輸送の危險包頭に於ける金融事情等送金の時期によりて非常なる差異を生じ、普通の場合、行平一千兩は包平一千六十兩乃至一千百三十兩前後とす。

然るに奥地の仕入時期にして、天津にて資金を要する場合、兵亂により現銀輸送不可能なるか又は、移出全く杜絶して決濟困難なる時は行平一千兩に對し包平一千三百六十兩に達せしことあり。斯くの如く羊毛の買付に際して、内地の爲替相場に意を用ゐるは最も肝要事に屬す。

第四節　錦州

當地に就きては先に報告したる支那毛皮編さ重複する點は之を避け專ら羊毛關係事項に限り記す以下各項さも之に準ず。

一　羊毛出廻狀態

錦州は古來東方に於ける最大の羊毛集散市場として知られしが、近年關係奥地地方に動亂打續きたる爲、通遼方面に出廻るもの增加して自然多少の出廻り減少を見たるが近縣所産のものも尠からず、且つ赤峰經由にて集散するものあり依然此地は重要なる羊毛集散市場である。

近縣産の羊毛にして此地に來集するもの左の如し。

朝陽	一五〇、〇〇〇斤	淸河門	一二〇、〇〇〇斤
新立屯	五〇、〇〇〇	紅螺峴	二〇、〇〇〇
新民屯	三〇、〇〇〇	下窪子	一〇〇、〇〇〇

中心市場である。

二 羊毛出廻狀態

赤峰に集散する羊毛は林西、經棚、圍場及烏丹城方面より來集するものにして其數量の如き年により一定しないが、平常時に於て一箇年の集散高は大凡春毛百三十萬斤秋毛七十萬斤内外である。

春毛は舊五月より八月迄秋毛は九、十月の頃主に騾、驢の駄子により市場に搬入される、其三割乃至五割は喜峰口を經て天津に輸送され殘餘は錦州に仕向けらる。

三 羊毛取扱商及び取引慣習

羊毛は多く皮店で取引される主なる皮店を示せば次の如し。

興隆店	德泰店	永合店	德長發
德合店	寶豐店	德厚興	富成店
義亨店	復生店	中興店	德義店
德元店	義德店	義聚店	

尙天津に本店を有する瓦利洋行の活動見るべきものあり。

羊毛を當地皮店又は其他より仲買人の手を經て買付けたる場合は、其の價額に對し買主は三分の口錢を徵收される。

代金の支拂は現金拂による外。鏢期拂と節季拂との別あり、鏢期拂とは元現金輸送車の發著當日拂を意味したもので現

引去りたる正味斤量により取引せらる、相場は錦州十八兩秤(百斤は邦斤百三斤に當る)百斤に對する現大洋建なり、代金の支拂は各商人の信用により一定せざれども、天津方面へ搬出のものに滙票により天津にて支拂ひ、奉天方面に搬出するものに對しては奉天驛にて鐵道引替證と引替に代金支拂ひを爲すのである。

滙票は出合の關係上一口金額五千元以内にして普通數口に分ち振出す。

當地は久しく日本商人勢力範圍にして、邦商の買付終了する迄は、支那側買付人は買付困難を感ぜし程なりしも近年本邦に於て錦州毛の需要減少せし爲め邦商の買付中絶し、天津買辦の手先及び官商利達公司等が大手筋にして天津に搬出す、殘餘の羊毛は問屋の手を經て天津に輸送し主として美豐東棧又は實業貨棧に委託賣却するもの丶如し。

天津に移出する羊毛は荷造を爲すに當り、羊毛中へ必ず二割乃至三割の砂を混入する惡習慣あり、故に天津市場に於ける錦州羊毛は目減極めて多し。

當地より直接日本內地に積送する場合(奉天經由)半プレツスの荷造を爲す、荷造りは問屋の請負にして、材料問屋持にて一梱(約二百三十斤)一元六角乃至二元である。

第五節　赤　峰

一　沿　革

赤峰は康熙年間より滿漢人の來往するもの漸く瀕繁となり、招民開墾を奬めたる結果、乾隆、嘉慶年間に至り益々住民增加し、此頃より畜產品の取引も行はれ商業又殷盛に赴き治縣して赤峰と稱す、現に東部蒙古に於ける畜產品貿易の

六 度量衡

當地の度量衡を我國のものに比較すれば次の如し。

	支那		日本	
度	裁尺	一尺	曲尺	一尺一寸一分
	布尺	一尺	同	一尺六寸三分
	木尺	一尺	同	一尺八分
量	官斗	一斗		二斗七升
衡	一斤（十六兩）			百四十匁

但し羊毛、駱駝毛に限り八兩を以て一斤となす特殊の慣例あり。

第六節 奉天

一 羊毛集散狀態

奉天に集散する羊毛は滿鐵沿線のものは勿論、四洮、京奉竝に東支沿線により來集したもので、南滿に於ける集散地であると共に最大の消費地である。

出廻は舊五月より九月迄の間に最も多く、其の數量の如き年により一定せざるも、一箇年約百萬斤內外、其の六割は

在は現金輸送車の往復はないが、一の習慣となり今に行はる。

一年を分ちて六と鏢し卽ち正、三、五、七、九、十一の各月を月鏢と稱し當月二十五日より三十日に至る間に先拂をなし又、節季拂は五月節、八月節及年末の三節拂にして、取引の際支拂期を契約して期間利子を附す其の利息左の如し

一　鏢　期	一分四厘乃至一分六厘
一　節　季	一分三厘乃至一分六厘
一　箇　年	一分二厘

普通右の通りてあるが賣行良好なる貨物に對しては、一鏢期三分甚しきは四分の利息を附すること珍くない。

四　諸　稅　金

當地にて買付けたる羊毛に對し支那官憲に納付すべき稅金は、落地稅として買付原價の百分の五であるが、更に之を發送の場合は途中に於て過路稅として右落地稅の半額を徵收される。

又他省に移出するものに對しては關口に於て常關稅として從價百分の三を徵收せらる。

五　通　貨

通貨は熱河興業銀行發行の大小洋票にして硬貨は餘り見受けない而して該票は元銀行券なりしを近來滙票も發行し相場は暴落せり。先年奉天軍侵入以來奉天票も流通して居るが其額は僅少である。

奉天の羊毛取扱商は次の如し。

名稱	日商 所在地
安藤洋行支商	奉天小西邊門裡

名稱	所在地	名稱	所在地
豫德店	奉天小西門	慶元店	奉天小西門
恒順店	同　城裡	永慶店	同　小北門
恒順泰	同小北門裡	廣勝店	同　小西邊
永和店	同　城裡	裕順和	同　小北關
聚成興	同小西門裡		

是等の商人は所謂山貨店にして其營業方法は先に詳記したる貨棧に同じ。(第四章第三項一の(ホ)の(G)滿洲に於ける貨棧の慣習參照)

代金の決濟は通常月二回の決濟日に現金にて決濟するを普通とす。

三　羊毛加工業

奉天には由來獸毛を原料としたる家內工業に、地毯子、毡子、帽子、毡鞋及襪子等の製造工廠三十餘戸あり、之等製

大連、營口を經て天津へ仕向けらる。其他は當地に於て消費す。

昭和二年中の奉天驛著羊毛數量を示せば次の如し。

昭和二年奉天驛發著羊毛數量表（單位斤）

月次	發送	到著 社線	到著 四洮線	到著 吉長線	到著 東支線	到著 計
一月	一、八七六	二〇、四九二	一、六四二	—	—	二二、一三四
二月	四、七二三	四六五	一、〇〇〇	—	—	一、四六五
三月	五、〇一九	六、八四五	八、六二四	—	—	一五、四六九
四月	一七、七九八	—	一、四九七	—	—	一、四九七
五月	一三、四三〇	七、二九八	—	—	—	七、二九八
六月	一三、七〇三	一一、四七二	一三、一二〇	—	—	二四、五九二
七月	五三、〇四九	一七、三三七	二〇二、五八五	—	三、八四五	二二三、七六七
八月	三六、一六〇	六四、七三二	一五三、一三四	—	二、四六七	二二〇、三三三
九月	一九七、七八〇	一三、四七〇	一三五、八〇二	—	—	一三九、二七二
十月	一〇三、三四九	六、八〇四	二二、二八六	—	—	二九、〇九〇
十一月	二九、五五九	六、四〇五	一三、二九七	—	—	一九、七〇二
十二月	二四、二四一	—	三、五六一	—	九四二	四、五〇三
合計	五〇〇、六七七	一五五、三二九	五四六、五四八	—	七、二五四	七〇九、一三一

二　羊毛取扱商及び取引慣習

義成公	一〇	五	四平街皮行胡同	鄭國起	同
公順和	一二	一	小北關		毡子、毡鞋、帽子
福順東	一六	四	同		同
福順長	二六	四	同		同
洪盛源	一二	六	大北關	胡云九	同
同裕厚	四	二	同		毡子
萬棻長	八	二	同		同
三勝興	一八	二	同		同、帽子、襪子

第七節　鄭家屯

一　羊毛集散狀態

鄭家屯に出廻る羊毛は雙山、長嶺及康平等主なる生産地である、多くは舊五月より九月までの期間に於て、其の多きものは牛車一、二臺、少きは馬背に駄し或は自己の背に擔い直接市場に搬入し來る、從つて數量の如きも極めて僅少で一箇年約十五萬斤内外に過ぎず。

昭和二年鄭家屯獸毛發送數量表　（單位公斤）

月次	羊毛	駱駝毛	豚毛	馬尾	牛毛
一月	—	—	—	一、四六七	—

造品に消費される羊毛は一箇年約三十萬斤内外にして大要左の如し。

種別	消費數量	生産高
地毯子	四〇千斤	五、〇〇〇枚
毡子	一五〇	三〇、〇〇〇枚
毡鞋	二五	五、〇〇〇足
毡帽子	五四	一〇〇、〇〇〇個
毡襪子	二六	二〇〇、〇〇〇足
計	二九五	

猶主なる製造工廠を示せば次の如し。

字號	職工（職工）	職工（徒弟）	所在	經理者	主なる製品
榮華	一四	三〇	大西關	宋久田	地毯子、毡子
彩盛元	一〇	三	鼓樓南	王占元	毡子
義興公	八	二	小西關	李福順	同
義聚成	一〇	一	第一商場前	楊玉山	毯子
茂興盛	六	一	小西邊門外	馬德興	同
長發恒	七	六	鐘樓北	張明豐	同
內記毡子	二〇	六	中街銅行胡同	裴滿盈	毡子、襪子
聚合興	二	四	中街皮行胡同	郭海山	毡子

福盛一隆	同	東街	徐云閣	薛邁一	四千元	同十四年
海發東	同	鎭邊街	李云海	同上	三千元	同十年
長發祥	同	同	宋廣德	陶萬春	三千元	同十三年
福陞長	同	東街	陳起云	張連福	四千元	同九年
成記	同	富貴街	蔡老連	同上	六千元	光緒二十八年
福合慶	同	東街	買慶武	同上	五千元	民國十五年
廣發玉	同	西大街	湯老萬	同上	六千元	同四年
勝記	同	老税局子胡同	石玉亭	王兆年	六千元	光緒十五年
永發祥	同	柴草市	王榮九	同上	五千元	民國十四年
源昌慶	同	同	趙國臣	劉榮九	五千元	宣統二年
福合盛	同	同	董福廷	同上	一萬元	光緒二九年

三　羊毛加工業

當地には毛子の製造工廠十數戸あり、敷物として需要が多い、之等に使用する羊毛は主に秋毛で、一箇年の消費量は約四萬五千斤内外と稱さる。

毛子舖の主なるものを示せば次の如し。

店名	經營者	資本主	所在	資本金（現大洋）
義興隆	王殿陞	同上	老税局子胡同	二千元
四合永	王銘遠	合資	同	四千元

二月	―	―	―	―	―
三月	一,七三八	―	―	一,〇二三	―
四月	七五	―	―	九二四	―
五月	二三〇	三四	―	九六二	一九二
六月	二,九五八	―	三三四	四〇五	一,三三七
七月	二七,八九〇	一八二	―	二〇五	―
八月	八,〇八八	―	―	三一一	―
九月	九,八七三	一三〇	―	二二五	―
十月	四,七四六	一八五	―	三二四	―
十一月	一八六	―	―	一三六	―
十二月	二〇七	―	―	九二九	―
計	五五,九九一	五三二	三三四	六,七二〇	一,五二九

二　羊毛取扱ひ商及び取引慣習

羊毛の取扱ひなすものは皮店にして其主なるものは次の如し。

字號	營業科目	所在	資本主	經理	資本(現洋)	設立年
金陞隆	皮毛山貨店	萬豐街	李省三	同上	三千元	民國七年
永合長	同	吳公舖東	張大永	同上	四千元	同元年
福盛魁	同	同	李殿一魁	王振國	五千元	同十年
榮發長	同	同	李樹	同上	五千元	同四年

通遼は四洮線の西端に位置し、東部蒙古の牧羊地帯を背後に控へ羊毛の集散市場として最も著名地にして、年々本地に出廻る數量は約百萬斤餘である共の出廻期は春毛舊曆五月より九月秋毛八月末より十月に至る間に於て牛馬車により市場に搬入される、就中七、八、九 三箇月を以て出廻りて最盛期と爲す、昭和二年羊毛の發送數量を示せば次の如し

昭和二年通遼驛獸毛發送數量表（單位公斤）

月次	羊毛	駱駝毛	豚毛	馬尾	牛毛
一月	三六、八四八	—	—	五一八	—
二月	三三、五二八	—	—	—	—
三月	一、二〇四	—	四、〇三六	一、〇〇八	—
四月	四二四	—	五、八四〇	四三三	八五二
五月	二八	—	一、三四八	五七二	—
六月	二、五七二	六〇	六四二	六八九	六八八
七月	一九、七五五	八三四	—	—	—
八月	一五三、〇四五	八、八五〇	—	三三五	—
九月	九八、一五九	一七〇	—	六四〇	—
十月	四〇、七七一	四、三四五	—	—	—
十一月	五五、三四〇	—	—	二五一	—
十二月	二六、三九五	—	—	一三〇	—
計	四四九、〇四九	一四、二五九	一二、〇六五	四、四六六	一、五四〇

二　羊毛取扱商

德聚永	韓子臣	同上	老税局子胡同	二千元
世有德	王保惠	洮均亭	西大街	三千元
三合永	張振文	葉長泰	老税局子胡同	六千元
德順永	孟廣財	合資	萬豐街	四千元
東興久	石王山	同	東大街	五千元
增益長	賀子財	趙城	鎭邊街	五千元
裕發泰	孫林	合資	中市街	六千元
永興和	周遠明	范錫恩	北大街	四千元

昭和二年に於ける製品數量を示せば次の如し。

品名	羊毛消費高	數量
氈子	三萬九千斤	六千五百枚
氈襪子	二千五百斤	六千足
氈帽子	一千五百斤	五千個
計	四萬三千斤	

之等製品の約七割は滿鐵沿線及哈爾濱方面に輸送され其他は地方で消費せられる。

第八節　通遼

一　羊毛集散狀態

亘源長	同	北街	合資	朱鳴彩	三千元	同	十四年
巨隆長	同	瀑塘胡同	同	包品三	同	同	十五年
益源長	同	北大街	個人經營	芦興邦	二千五百元	同	十一年
合記	同	雲龍大街	同	吳成	四千元	同	十七年
慶盛長	同	西南大街	同	常惠風	六千元	同	十年
永合源	同	南大街	同	楊占一	三千元	同	十一年
天合福	同	西中街	合資	西雲峯	五千元	同	十年
永德會	同	同	個人經營	胡魁賓	同	同	十一年
福和裕	同	南街	同	梁彩華	三千元	同	十六年
玉德成	同	西街	合資	張耀山	二千五百元	同	十一年
福豐	同	北大街	同	張瑞臣	二千八百元	同	十六年

三　羊毛加工業

獸毛を原料とする家内工業に毛子、帽子、襪子の裁造工廠あり其使用する羊毛は一箇年約十五萬斤内外と稱せらる。

其の主なる毛子舖を擧ぐれば次の如し。

字號	主なる製品	所在	資本主	經理者	資本金
雙盛泉	毡子、帽子、襪子	東大街	合資	王景榮	現洋一萬元
萬泰永	毡子	同	同	許普堂	同三千元
同順福	毡子、帽子、襪子	同	同	張德財	同一萬元

通遼に於ける羊毛は主として外商が奥地にて買付して當地經由發送するものにして、通遼市場にて取引せらるゝものは極めて僅少である。

昭和二年外商買付の羊毛數量を示せば次の如し。

店名	國籍	斤量
瓦利洋行	(露商)	三十萬斤
西密德洋行	(英商)	七萬斤
普倫洋行	(同上)	八萬斤
計		四十五萬斤

支那商は主として通遼附近より出廻るものを取扱ふ其主なるものを示せば次の如し。

字號	營業科目	所在	資本主	經理者	資本金(現洋)	設立年
廣和祥	皮毛	南大街	合資	高尙德	二千五百元	民國十三年
隆興長	同	西街	同	趙佐臣	同	同七年
福合盛	同	中横街	同	任事一	六千元	同十二年
三合永	同	同	同	韓占一	四千元	同十五年
永合盛	同	中大街	同	楊惠豐	同	同九年
天增東	同	北大街	個人經營	孫恩普	八千元	同十年
福合興	同	西南街	同	高豐年	二千五百元	同十二年
義發泰	同	東北街	同	蔡明德	同	同十二年

二月	三、一二〇	—	—	—	一、四二八
三月	六〇四	—	—	—	一、八五七
四月	三、二七二	—	—	—	三、七二三
五月	六三	—	—	—	一、六九〇
六月	八、九八八	—	—	—	八七三
七月	四八、七四一	—	—	—	三一二
八月	四五、〇四四	—	—	—	—
九月	七〇、七四七	—	—	—	五八五
十月	三五、一四九	—	—	—	—
十一月	八五四	—	—	—	一九〇
十二月	三、九七七	—	—	—	九五〇
計合	二三〇、七二四				一五、二九九

二　羊毛取扱商

當地にて羊毛買付をなす外商は瓦利洋行、仁記洋行の外莊にして、其取扱ひ數量は前者十五萬斤後者二十五萬斤見當である。支那商側では專ら山貨店にて取扱ひをなす、其主なるものは次の如し。

支商

字號	營業	經營者	資本金	設立年
福合盛	山貨店	馮魁一	現洋一萬元	民國五年

徐氈子舖	氈子、襪子	東大街	合資	李白綿	現洋五千元
大德昌	同	西大街	高峻峰	李維新	同二千元
志榮永	同	電報局街	白海晏	白海晏	同二千元
同興永	氈子、帽子	同	合資	陳鴻亮	同三千元
劉氈子舖	同	同	董貴祥	崔惠軒	同不明

其一箇年間の產額は左の如し。

氈子　二萬枚　毛氈帽子　二萬個　氈襪子　二萬足

此の六割は滿鐵沿線及哈爾濱方面に仕向られ其他は此地方にて需要さる。

第九節　洮南

一　羊毛集散狀態

洮南は札來特、圖什業特、郭爾羅斯諸旗の獸毛皮集散市場である。春毛は六月より十月まで又秋毛は九月より十月迄の間に出廻り一箇年約四十五萬斤を算す。

昭和二年中の羊毛發送數量は次の如し。

昭和二年洮南獸毛發送數量表

月次	羊毛	駱駝毛	豚毛	牛毛	馬尾
一月	一五五	一	一	一	三、七〇二

永盛福	同	張景陽	同	四萬元	同	十六年
永發長	同	張鳴九	同	四萬元	同	十六年
福德祥	同	徐榮九	同	二萬元	同	十四年

三　羊毛加工業

羊毛を原料とする工業に毡子製造工廠がある、數年前迄は二、三の絨毯工廠ありしが經營困難の爲め最近閉店し、今は毡子、毡帽子、毡襪子のみ製造してゐる。

毡子製造工廠名次の如し。

字號	營業科目	所在	資本主	經理	資本金	設立年
成發長	毡子、帽子、襪子	福順街	李翠豐	趙作・善	現大洋五千元	民國十三年
衡興永	同	同	田久榮	田久榮	同一萬元	同十一年
福增合	毡子、襪子	同	平四橋	何老增	同三千元	同十二年
瑞陞永	同	同	趙老瑞	趙老瑞	同二千元	同二年
玉升合	同	同	林玉河	林玉河	同二千五百元	同十二年
玉增合	同	同	于瑞延	屑漢卿	同四千元	同十三年

廣發德山	貨店	張濟昌	現洋四千元	民國十六年
玉德魁	同	王振生	同　二千元	同　十年
同聚長	同	孫風鳴	同　一千元	同　十二年
天慶和	同	王成久	同　一千元	同　十四年
洮振興	同	王阜民	同　二千元	同　十一年
福合慶	同	曹繼五	同　二千五百元	同　十六年
同益興	同	范純陽	同　二千元	同　二年
大增合	同	王子彬	同　二千五百元	同　十二年
相一記	同	許相	同　二千五百元	同　十四年
永巨成	同	張老顯	同　二千元	同　十年
永和盛	同	楊老景	同　三千元	同　五年
永盛興	同	張景陽	同　二千元	同　十六年
德慶合	同	王萬發	同　二萬元	同　十六年
信記	同	劉希山	同　二萬元	同　十六年
永升德	同	劉福	同　二元	同　十六年

一九二五年	二、九六七、〇三〇	一九二七年	二、四四一、二〇五
一九二六年	一、八二八、二六〇	最近五箇年平均	二、三〇四、七二〇

二　羊毛取扱商

海拉爾に於ける羊毛取引商の主なるものを示せば次の如し。

外商側

店名	國籍	店名	國籍
ビーデルマン	英國	ワルシャフスキー	米國
チウスコンパニー	米國	ロベートシュミット	英國
トルヒンスモリヤンスキー	露國	カプラン	露國
アクチユウリン	同	プンゼンスキー	同
メイローイッチ	同		

支那側

店名	營業科目	店名	營業科目
長聚源	山貨店	大盛堂	山貨店
大和合	同	德發永	同
義發永	同	興記皮店	同

永慶合	毡子、襪子	富久街	傅志香	劉老振	現大洋三千元	民國　八年
杜毡舖	同	大北門街	杜志榮	杜志榮	同一千五百元	同　十年

以上の工廠にて羊毛消費數量は一箇年約八萬斤内外と見て大差ないであらう。昭和二年中の生産品數量を示せば次の如し。

毡子　一萬二千枚　毡帽子　一萬箇　毡襪子　四萬箇

第十節　海拉爾

一　羊毛集散狀態

海拉爾市場に集散する羊毛は年により一定せざれども約二百斤餘である。出廻期は六月より九月の期間にして多く牛車又は駱駝車により市場に搬入される。

海拉爾驛羊毛發送數量（單位斤）

一九一三年	七三七、四五一斤	一九二一年	一、〇四五、六八三斤
一九一四年	七三九、四四九	一九二二年	二、二八二、三一〇
一九一五年	一、三二三、九七二	一九二三年	二、〇二七、四八四
一九二〇年	一、二三〇、四一七	一九二四年	二、二六九、七八二

に轉賣する小商人に過ぎない、尙羊毛の出廻期に至れば天津其他より有力なる外商出張買付を爲すことは珍くない。

ホ　蒙古毛皮公司　蒙古皮毛公司は呼倫貝爾に於ける有力なる蒙古官吏の出資により設立されたもので通常皮毛公司と略稱してゐる。

羊毛及羊皮買付に當り常に官權を利用し殆んど强制的に一般商人に先ち割高に買上げ其代金は現金を支拂ふことなく決算期に物品を以て決濟する爲、一般蒙古人は甚だ之を喜ばず、彼等は多少割安にても現金賣渡しを希望し居るも已むを得ず賣却を餘儀なくせる實狀である。

然るに今年は蒙古官憲も從來の成績餘り效果を收め得ざりしに鑑み、其買付方針を變更し大に民衆的になり、可及的賣主の利便を計ることに努め其買付價額の三分の一を即時現金にて拂渡し、殘金は陰暦八月節季又は年末に地方官吏が責任を以て決濟することに改めた、之が爲め一般蒙古人の氣受好轉し爾來頗る圓滑なる取引が行はれるに至つた。

猶皮毛公司が外蒙「コーペラチーフ」と羊毛賣買契約を締結したのは民國十六年四月の事である。

民國十六年海拉爾に於ける外商筋羊毛買付數量を示せば次の如し。（單位布度）

取扱商人	數量（未洗滌羊毛）	取扱商人	數量（未洗滌羊毛）
ビーデルマン	五六七千斤	カフラン・ワルシヤノフ	六七五千斤
ローベート・シユウミツト	四三二	カルロウイツチ	五四〇
カーシン	一三五	ソビエツト商船隊	四〇五
計	二、七五四		

海拉爾滿洲里に介在し羊毛の買付に從事する外商の內、露商は常に支商と提携し原產者と直接の商取引關係を持し、他の追隨を許さない牢固たる地盤を有し頗る有利に活躍してゐる、英米の商人は僅かに支、露商人の手を通じて買付くる狀態にて、蒙古人と直接交易を爲す如きことなし。而し之等の外商は需要國と密接なる關係を持し、豐富なる資金を擁し不斷の努力をなし成績見るべきものあり。

皮毛公司

主なる外商の活躍狀態を示せば左の如し。

イ　カフラン、ワルシヤーフスキー商會　猶太系米商にして一九〇五年頃海拉爾に本店を創設し、專ら羊毛羊皮其他獸毛の買付及輸出を營業とし、且つ洗毛工場を有す、其後業務の發達に伴ひ現今は庫倫桑貝子等に支店を設け資本金も三千萬元と稱す。羊毛買付には多數の斡毛子を使用し其勢力侮る可らざるものがある。

ロ　ビーデルマン株式會社　猶太系英商にして倫敦に本店を有し天津、カムチヤツカ及印度等に支店を海拉爾、奉天桑貝子及上海に各出張所を有す。其取引は主として羊毛、羊皮其他の毛皮買付並に輸出である。海拉爾には民國十二、三年頃より居住し、常に支露仲買人十數名を自己の手先として使用して居る。

ハ　シユミツト商會　英商にして天津に本店を海拉爾、庫倫に支店を有す。專ら羊毛及毛皮類の買付及輸出を營業と爲す。

ニ　ブラウン商會　猶太系米商資本金十萬元普通米豐洋行と呼稱す。羊毛、毛皮類及羊腸の取引を營んでゐる哈爾濱、滿洲里等に支店を置き海拉爾には羊腸精製工場を有し、羊腸、牛腸等の輸出は殆んど獨占の狀態である。

以上列記した外商以外に毛及皮の取引を爲す外商尠くないが之等の多くは自己の買入れた商品を更に有力なる大手筋

品名	單位	正稅	附加稅	地方稅	計
絨長靴	百元に付	一一・〇〇	四・〇〇	三・〇〇	一八・〇〇
毡子	同	一一・〇〇	四・〇〇	三・〇〇	一八・〇〇

第十一節 其他

一 交城

北方包頭、西方楡林、南方順德の大集散市場あり、其中間の山西省の產毛は主として散抓毛にして、其大なる集散市場は交城である、出廻期は六月末より初り其の集散高は一箇年五千擔內外である。

羊毛取引は皮毛問屋の兼營にして其の主なるものは、

隆盛店　合興店　乾和店　萬川店

玉成店　永和店　永昌店

等にして萬川店最も大である。

當地に於ける羊毛取引には交城秤百斤(邦斤九十七斤)交城銅建にして問屋口錢は賣買雙方より三分を徵す。

二 順德

海拉爾にて毛子、絨長靴の原料として使用する羊毛は年額三十五萬斤内外にして、海拉爾及其附近に需要せらるゝものを製造するに止る。

三　羊毛加工業

民國十六年製品及消費數量表

名稱	羊毛消費高	製品高
毛子	二〇〇千斤	二萬五千枚
絨長靴	一六〇	四萬足
計	三六〇	

絨長靴は主に防寒用として達頼諾爾漁場及哈爾濱方面に仕向られ、毛子は海拉爾を中心とする地方に供給せられ、他に輸送する數量は極めて僅少である。

毛子及び絨長靴の海拉爾驛發送數量を示せば次の如し。

年次	（單位斤）	年次	（單位斤）
一九二一年	七五、四九二	一九二四年	三六、七二〇
一九二二年	七一、八七四	一九二五年	六八、〇九四
一九二三年	二八、九七一	平均	五六、二三〇

製品税金（現大洋建）

河南省東北部に於ける黃河南岸の地は山東省北部と共に、氣候及飼養狀態等の關係上纎維細長柔軟なる所謂河南寒毛の產地にして、就中許昌產品質第一に位し鄭州開封に於ける集散毛は彼に比し遜色あり。洛陽抓毛と稱するものは黃河北岸及甘肅省の產毛が洛陽に搬出せられたるものにして、品質區々で一定せざるも多くは纎維短少にして劣等品である、主なる產地を示せば次の如し。

開封寒羊毛	一、五〇〇擔	許昌寒羊毛	一、〇〇〇擔
洛陽抓毛	二、五〇〇擔	合計	五、〇〇〇擔

上記產毛は一半は天津、一半は漢口に移出せられる。河南羊毛の買付は總て皮店によつて行はる、其手持品を引取る場合には買手より三分の手數料を徵するを例とするも、先物契約にて買付資金の前拂ひをなしたる場合に在ては口錢は約定價格內に含まれて居る。

秤量は開封二十兩一斤の秤を用ひ、其百斤は邦斤百五斤前後にして、許昌洛陽秤百斤は邦斤約九十五斤に相當す。建値は洛陽は洛陽兩其他は銀元建にして受渡は自己の袋に詰め計量の上風袋を差引くのである。問屋の主なるものを示せば左の如し。

開封	星盛魁	白萬泰	鳴盛德	
許州	福盛店	德盛公	魁隆店	清盛和
	天順義	公茂仁	天盛義	
新鄭	廣泰昌			
辛店	廣泰和	廣泰源		

順德は直隷省南部に於ける羊毛集散市場である。

此地に集散する羊毛は殆ど散抓毛にして、直隷省西南部、山西省東南部及び河南省東北部地方の産出に係り、一括して順德散抓毛と稱せられ、其の品質二等品以下である。其集散高は秋毛をも加へて一萬擔內外で、出廻期は六月中旬より八月下旬迄である。

當地の羊毛問屋は三十以上を算し、何れも倉庫を具へて販子の搬入せる羊毛を保管し、賣買の仲介をなし又販子に金融を爲すことあり、重なる問屋を示せば次の如し。

萬順昌	德豐隆	永泰恒	德慶成
天慶西	廣盛恒	永盛店	廣益昌

右の內萬順店、德豐隆最も大にして前者は評判よし。

當地の問屋及販子の人氣は極めて陰險にして土砂の混入甚だしく、毫厘と雖も不當に利得を得んとし只一時の瞞著をなすに巧妙である、若し其の奸計に陷るものあらば、即ち眼力なきものゝ自業自得として之を輕侮冷笑して居る有様である、支那內地市場中買付最も困難なる所である。相場は順德十八兩大秤（邦斤約百十斤）公砝銀鋼建（天津行平九九五兩は公砝千兩に當る）とす、問屋口錢は賣買雙方より三分を徵收す代金の支拂は滙票により天津に於て決濟す、其の支拂は天津に於て引受後普通一週間拂である、故に買付羊毛は代金支拂以前に天津に到著し荷物を受入れたる後代金の支拂をなす場合往々あれども、信用なき買手に對しては代金の支拂確定せざる內は荷物の積出しを肯じない。

三　河南省

方市場に上場せず直接上海に搬出して賣却するもの多し。

當地より輸出せらるゝ羊毛は前掲の輸出統計表によれば二萬擔内外であるが大部分は漢口、重慶ものゝ仲繼である。

六　四　川　省

四川省の羊毛は約三萬擔餘の生産額を有し、大部分は重慶市場に集る、產地は西藏、川邊及び青海甘肅接壤地方にして地方集散市場としては打箭爐、松潘、理番、會理等にして岷江左岸に位する灌縣は河港にして、北部地方に於ける一大集散地である。

洛陽	元發張	忠義恒	
杞縣	復太祥		
蘭封	四合公		
鄭州	中盛魁	德順通	豫通祥
野鶴崗	李炳義		
歸德府	鼎聚久		

四　山東省

山東に於ける羊毛の產額は約百萬斤、其產地は山東鐵道沿線竝に西南部一帶の地にして沿線に在りては青州地方を第一とし淄川、博山地方之に亞ぎ周村、安邱方面亦名あり、西南部地方に在りては臨淸、東平、泰安、蒙陰及沂州の諸縣である。

羊毛出廻期は五月より十一月迄にして其の主なる市場は周村、濟南、青州、博山、德州、臨淸の諸地とし就中周村を以て第一と爲す。

五　上海

上海に出廻る羊毛は浙江產竝に四川產にして、後者は四川の山貨舖の搬出せるものであり、前者は羊毛商が奥地で蒐集し來れる羊毛を、新市鎭の如き地方集散市場に於ける羊毛公所に上場し上海の羊毛商に賣却するものである。近年地

費を充足して居たが、近年需要が激增して供給に對し均衡を失して來た、現狀では羊の頭數を增加する餘地は僅少である、茲に於て一頭當りの收毛量の增加を計るか、又は支那の如き未開拓の羊毛產地に期待する外ないのである。こゝに支那羊毛の重要性がある。

第二節　米國に於ける支那羊毛

米國は支那羊毛の最大の否寧ろ殆んど全部を消費する國である、故に支那羊毛が米國市場で如何なる地位を占めて居るかを明にすることは、外國市場に於ける支那羊毛の現狀を知ることである。

支那羊毛は米國に於てカーペット製造の原料として用ひらる。（單位千封度）

用途／年度	支那羊毛輸入總額	カーペット	其他	カーペット原料の總輸入額に對する百分率
一九二四年	六〇、四九〇	五八、九八五	一、五〇五	九七
一九二五年	六二、三一八	五七、五〇一	四、八一七	九二
一九二六年	三七、〇〇六	三六、四〇〇	六〇六	九八
一九二七年	四一、六七七	三七、四三八	四、二三九	九〇

米國の近年のカーペットウールの輸入年額は、一億一千八百萬封度乃至一億四千萬封度餘の間を上下し、一九二四年度に於て支那羊毛は其全輸入額の五〇％を占めて居たが、二五年度は四〇％、二六年及二七年の兩年度は二六％に減少せり。

之に依つて見ても米國のカーペット工業家が、支那羊毛の供給數量の不安定に、如何に脅威を感じて居るか思ひ半に

第七章　外國市場に於ける支那羊毛

第一節　世界の羊毛產額から見た支那羊毛の地位

世界の羊毛生產額は三十三億餘萬封度である、之を大陸別に見れば。（單位千封度）

濠洲	一、〇五七、三六〇	百分率	三〇
北米	三四八、八一〇	同	一〇
南米	五五二、七三六	同	一七
歐洲	八〇九、四一九	同	二五
亞細亞	二七五、七七二	同	八
亞弗利加	三三九、四〇〇	同	一〇
計	三、三九六、四九七		一〇〇

（一九二九年ウールレコード誌に據る）

支那羊毛生產額は約八千萬封度なるを以て、世界の總產額に對しては僅に二・三％餘を占むるに過ぎず、然も羊の飼養管理は幼稚なるを以て、近き將來に於ける產額の著增は期待することは出來ぬが、羊毛產地としては全然未開拓の地方なるを以て、今後牧畜方法が改良せられ羊種改良の徹底したる曉、其廣莫たる牧畜地帶は亞細亞の他の地方と共に、世界の羊毛供給地として重きをなすに至るは火を睹るより瞭である。殊に歐洲大戰までは每年の生產額は丁度世界の消

一九二五年	二、一八一、六四四	一六、七六二、六五一	脂付 洗上	一一八、九〇八、七七六 三九、〇六三、一〇八	三四、四八三、一〇四 一三、〇九三、二四一
一九二六年	二、五八八、七〇〇	一九、三三七、八三八	脂付 洗上	七七、〇〇二、四六〇 三八、五一九、七九二	一九、五一九、二八三 一〇、五八三、四〇二
一九二七年	二、三八一、二九〇	一八、九〇八、〇三七	脂付 洗上	九九、九四二、六三九 四四、三一三、八八六	二四、六一九、六六一 一三、八四九、九四五

米國に於けるカーペットウール仕出國別輸入表（單位一千封度）

國別＼年度	一九二七年	一九二六年	一九二五年	一九二四年
アルゼンチン	九、九〇九	六、七七四	四、六〇三	七、七一五
英領印度	二五、五六七	二二、〇三七	二九、一九三	一四、二三九
英領南アフリカ	一六九	七四	六七	二六九
チリー	二九	九	三〇	一七三
支那	三七、四三八	三六、四〇〇	五七、五〇一	五八、九八五
エジプト	三、四一一	二、五〇六	三、一五八	一、六二三
フランス	三、九〇二	一、二一二	九五七	九〇六
ドイツ	二、九二二	二、八五〇	二、四八七	一、六三九
ギリシヤ	四五	一〇	八二	二一二
ヘジヤツズ、アラビヤメソホタミヤ	—	二、四九九	三、一六三	一、四三九
アイスランドフアロエ島	二、〇六五	五〇	六二	—
イラク	四、一一九	—	—	—
アイルランド	一、七〇八	—	—	—
イタリー	四、六〇三	三、〇二四	二、八五〇	二、五五二

過ぐるものあるを知る、玆に於て彼は支那よりの供給減に備ふる爲、直接大小の原產地に手配し、一九二七年度支那よりの二六％に對し、印度一七％、英國の一六％、パレスタイン、シリヤ並にアルゼンチンの各七％、トルコ、伊太利、イラク、佛蘭西の各三％、エジプト、獨逸の各二％、其他アイスランド及びフエル群島、歐露、メソポタミヤ、波斯、葡萄牙、西班牙、瑞西、ウルグワイ、チリー、ギリシヤ等より各少量の輸入をなせるに、尙原料不足の爲最近に於ても各工場は其全能力の、僅に七割の作業をなしつゝある狀態である。

支那羊毛の輸入に年々顯著なる增減ある所以に就ては、前章に記したる處なるを以て此上詳記しないが、米國のカーペツト工業にとつては、支那羊毛は依然として最も重要なる資源であつて其供給の如何は最大の關心事である。

米國に於けるカーペツト及どカーペツトウール輸入數量價格表

年次	カーペツト 數量（平方碼）	カーペツト 價格（弗）	カーペツトウール 數量（封度）	カーペツトウール 價格（弗）
一九一三年	一、〇八五、四三一	四、八九五、九八九	一二一、一六八、〇九四	一五、八九〇、五七六
一九一八年	二五九、六三七	一、二九三、二〇〇	六九、二九一、八五八	二九、二五六、〇九四
一九一九年	三八四、八〇七	二、九九三、三三八	九六、九四八、三三四	三六、八九八、三六一
一九二〇年	一、一〇四、五六四	九、六四三、二七六	三五、八七〇、二〇七	一一、五六四、一〇四
一九二一年	八五〇、五七〇	五、五八六、五九七	九七、九〇〇、四九六	一一、四九九、一七五
一九二二年	一、九四七、一七九	一〇、三二一、九二七	一七三、〇三五、八三三	二九、二六七、一三四
一九二三年	二、一六二、一三三	一二、六二三、九六一	一三三、三九八、九一九	二六、三〇三、五四五
一九二四年	二、二一六、〇〇七	一三、八九三、一三四	脂付 一一一、六三三、九二一 洗上 二九、三三七、四三九	二六、五八五、二五九 七、五八九、四九九

フランス	三一・五	三三・一	三三・四	二七・〇	二六・一
パレスタイン	二七・九	二一・四	一	二八・五	二四・四

第三節　カーペット工業事情

米國のカーペット工業の旺盛なるは實に世界に冠たり、蓋し成金國だけに家屋の新築せらるゝもの多く、新しい家が出來れば我國で疊建具を必要とする如く敷物を要す、米國のカーペット工業は斯る必要と當局の助成策により、急激なる發達をなしたり。

一九二三年の國勢調査に基き商務省の發表する處によればカーペット製造高は、

一九二一年　五二、九〇五、〇〇〇平方碼　共價格　一〇〇、〇三八、〇〇〇弗
一九二三年　八一、二六八、〇〇〇平方碼　同　一九〇、四九五、〇〇〇弗

即ち一九一九年度に於けるカーペット製造額一億二千三百萬弗に比し、一九二一年度に於て一億萬弗に減じたるも、一九二三年度には著增して一億九千萬弗に達す、尤も此增加は價格の騰貴に負ふ處も少くない。現に一九二一年の一平方碼當り價格が一・八九弗なるに對し、一九二三年のそれは二・三五弗なるに見て明である、然し製造高の增加しつゝあることも前揭の數字により知ることが出來る。

又カーペット製造工場が一九一四年に九十七であつたものが、二一年には七十二に二三年には七十三工場となつて居る、工場數の減少は斯業の合同の結果によるものゝ如く、之に關し國勢調査は次の如き數字を示す。

パレスタインシリヤ	一〇、〇〇四	八、六九七	六、五四九	四、七五六
ペルシヤ	一、一八三	二、一〇一	二、二四四	一、八九六
ポルトガル	九九五	一、〇一四	二五四	四二六
歐露	二、六三四	一、八八〇	五二七	四〇
スペイン	一、三七四	一、四〇七	二、〇四一	七一五
スヰス	三七七	一、四六五	五一〇	六三
トルコ	四、七六六	二、〇五八	四、五三一	四、六七三
英國	二四、〇二二	一八、一九二	一五、二九〇	一四、六八九
ウルグワイ	四一	九六	一三五	二四
ユーゴースラビヤアルバニヤ	三五一	—	—	—
其他	三、〇五三	三、七一五	二、二一五	一、三三三
合計	一四四、六九八	一一八、〇七九	一三八、四六一	一一八、三七五

支那羊毛の相場は他の同種羊毛に比して安價で、アルゼンチン及びパレスタイン物に比すれば稍高値である、品種により相場は一々相違する譯で一概には云へぬが、之により大勢を知ることが出來る。(谷山氏に據る)　(單位一封度當り仙)

國別＼年度	一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年	平均
支那	仙 二一・八	仙 二七・六	仙 二五・八	仙 三三・五	仙 二四・五
英國	二六・〇	三一・〇	二六・九	二七・七	二八・八
印度	二四・四	三二・七	二八・七	二七・九	二九・七
アルゼンチン	二〇・八	二六・〇	二〇・九	三一・六	二三・〇
シリア	—	—	二八・〇	三一・二	三〇・四

ある、因に天津カーペットは標準ものにて米國に於て化學洗滌せしもの、百弗乃至二百弗にて賣買せらる。

米國政府はカーペット工業の保護につとめ、其原料に供せらるゝ羊毛の輸入に就ては政府は特別の便を計り、輸入の日より三箇年以内にカーペット製造に供せられたる時は輸入税を免ずるも、製品たるカーペットの輸入に對しては從價五十五％の輸入税を課す。支那羊毛相場が割高なるは實に米國の斯る保護關税政策に因るものである。

第四節　世界に於けるカーペットウール

カーペット原料に供せらるゝ羊毛は粗羊毛即ちコースウールにして、主として二十八番手より四十六番手迄の毛にして三十五番手位のものが最も適當とせらる。

カーペットウールの産地は概して山岳地帯又は氣候寒冷なる地方、竝に原始的に牧羊して羊種の改良につとめざる文化の程度の遲れたる地方にして、歐洲各國でも右の條件の内の一つにても有して居る地方に産する羊毛は皆之である、又亞細亞の全域南亞米利加の一部にもカーペットウールを産す。カーペットウールの産額は三億七八千萬封度にして、全羊毛産額の十分の一に相當す。

今主要カーペットウールの生産國及産額を表示すれば左の如くである。アンニユアル・ウール・レブユーによる

（單位千封度）

國名	羊毛生産量			
	一九〇三―一三年	一九二五年	一九二六年	一九二七年
アルゼンチン	三五八、六八八	三一二、四〇〇	三一四、八四〇	三〇〇、〇〇〇
支那	五〇、〇〇〇	七五、〇〇〇	七五、〇〇〇	七五、〇〇〇

種別＼年度	一九二一年	一九二三年
工場數	七二	七三
工場主	三一	二七
從業員	二四、〇六二人	三六、〇九九人

種別＼年度	一九二一年	一九二三年
原料費（燃料等をも含む）	五〇、二一八、一五四弗	九六、〇九六、四四四弗
製品總價格	一〇三、八八〇、五〇〇	一九七、四〇二、二八八
原料費と製品價格との差	五三、七六二、五六六	一〇一、五〇五、八四四

右の表によりて米國のカーペット工業は年々充實し益々隆昌を來しつゝあるを知る。

カーペット工場の七十三の内四十四工場即ち全數の五分の三はペンシルバニヤ州に、十工場がニューヨーク州に、十工場がマサチユセッツ州に、又七工場がニュージャーシー州に、又コンネチカット州ノースカロライナ各州に各々一工場あり。

即ち米國のカーペット工場は紐育を中心とする附近の諸州に散在せり。

谷山氏が或有力なる當業者より支那羊毛の用途につき聽取せる處によれば次の如し。

梳毛絲製カーペット、ウイルトン及びブラッセルカーペット	二〇％
紡毛絲カーペット、アラヂカーペット	三〇％
サクソンカーペット	五〇％
アキスミンスターカーペット	二〇％
タペストリーカーペット	一〇％

米國に於ける支那羊毛により製したるカーペットの價格は、横九呎縦十二呎の標準物にて普通三十弗乃至百五十弗で

與ふるを以て重用せらる。

Kandahar は良いカーペツトウールである、主として印度カーベツト原料として使用せらる、ベルジルタンの Kerat 羊毛は前者よりも毛が短く品質劣る。

Pao Pathan は類似品である。

Kashmir 毛は悪い羊毛に似て居る。

印度羊毛は白黄褐色等品位により格付せられ取引に便である、羊毛の輸出港はボンベイとカラチで、主としてリバプールに仕向けらる。一九二三年三月迄十二箇月間の輸出額は、五千三百萬封度に及ぶ。

ロ　亞細亞土耳古

中央亞細亞一帶の諸國に亙り產する羊は、支那及び印度の羊と同しぐ肥大尾の羊で、其重量は生體の四分の一乃至三分の一に相當し、北亞細亞から歐露に亙り居住する遊牧民の飼養する羊も皆此種のものである。未だ他の優良種の羊との雜種は出來て居らぬ。

亞細亞土耳古は最上種の各種カーペツトウールの產地である。

Angora 及び Smyrna 羊毛は普通洗滌せず精選をなさずして輸出せらるゝが、毛がよく成長し長く一〇%以上の色毛を混入せるも良い毛である、此毛は土耳古のカーペツト工場に於て大部分消化せらる、スミルナが本製造工業の中心地で、從業員七萬人に及び四萬五千臺の織機ありと云ふ。

土耳古のカーペツト工業につきては既に定評ある處にして、製品は主として英米に輸出せらる、最近スミルナから輸

伊太利	五五、〇〇〇	五七、〇〇〇	五五、八〇〇	五、〇〇〇
西班牙	七二、〇〇〇	八八、四六九	一〇五、七九二	二〇、〇〇〇
ルーマニア	一三、二二八	五四、九四〇	五七、〇〇〇	一〇、〇〇〇
ユーゴースラビヤ	二五、四四六	二八、〇〇〇	二八、七二七	一四、〇〇〇
南米	一六五、八八八	一八五、〇〇〇	一八〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
アルゼリヤ	三五、二二一	四六、一三七	三八、六四九	二〇、〇〇〇
モロッコ	一四、八五〇	三三、〇〇〇	三九、〇〇〇	二五、〇〇〇
露西亜	三八〇、〇〇〇	一九五、〇〇〇	一九五、〇〇〇	八〇、〇〇〇
印度	六〇、〇〇〇	七五、〇〇〇	七五、〇〇〇	四五、〇〇〇
波斯	一二、一四六	一三、〇〇〇	一八、〇〇〇	一八、〇〇〇
土耳古	一一八、〇〇〇	一二、五〇〇	一三、〇〇〇	一三、〇〇〇
計	一、〇〇一、七七九	八六三、〇四六	八八〇、九七〇	三六五、〇〇〇

今主なるカーペットウール産國に於て概況を記することにしよう。

イ　印　度

印度の羊は亞細亞一般の羊と同一種のものであつて、肥大尾で體軀は稍小である、ネパール羊は殊に小にして飼養は良好で毛も可良である、英國種を持つて來て改良種をつくることを企てたることあるも氣候に適せずして失敗せり。羊の頭數は二千九百萬頭に及ぶ。

所謂印度羊毛と稱せらるもの丶大部は、印度、西藏其他附近の諸國より集つたものである。二箇月毎にカルカッタのオークションに於て取引せらる、灰色の毛を含むを特色とす Foria は品質最も良いものである、良品は織物に彈力性を

ホ　波斯

羊毛は白と色物とに分類して普通洗滌したる上輸出せらる、Khorassan は最良品でカーペットウールとするよりも他の用途に供せらる。

色毛は悪いフエルトの原料に用ひらる、Bunder Abbas の二種の羊毛は Kurki より輸出せられ、又 Amrilsar は印度にカーペット原料として送らる。

Bushire 羊毛は南波斯産で Bussorah に類似せるも不潔で餘り良い毛ではない。

波斯のカーペット工業　毛織物、フエルト、カーペットの輸出額一九〇九―一九一〇年九十六萬九千磅にして、羊毛工業の中工地は Tabriz Hamadan Sultanabad fars Shiraz Ferman 等の諸地である。

カーペット工業は歐洲の市場に左右せらる。Kainat には八百臺のカーペット織機があり、毎年四萬磅の生産ありと稱せらる、在來の染料を使用することを奬勵し、化學染料を使用したるカレペットに對しては輸出税を課す。

ヘ　南米諸國

南米の諸國は大概羊種の改良に腐心しつゝあるも、アルゼンチン、チリー、ウルグワイ、ペルー等には毛の粗くして堅く死毛色毛を混ずるカーペットウールを産す。

ペルー産のものは歐洲市場で Lima と稱して取引せらる。

出せらるゝもの年額二十七萬六千磅乃至四十六磅に及ぶ。

ハ イ ラ ク

イラク羊毛は其集散地により左の四種に分つ。

(1) Awassi 羊毛　はチグリス、ユーフラチス兩河の間にある Mossoul に產す、色毛の含有量非常に多し、毛は洗滌して輸出せらるゝも單に流水に浸して絞るのみで、外面は奇麗であるが內面には少しも觸れて居ないことさへあり。

(2) Karadi 羊毛　は波斯の境界地方の山地より來るもので、前者よりも粗毛で長く兩者ともカーペツトウールとしてよし。

(3) Bussorah 羊毛　は同名の市にて荷造りせられたるものであるが、其產地は主として波斯である、此毛は柔で不整ひで不潔で良いカーペツトウールではない、主としてリバープルに輸出せらる。

(4) Bagdad 羊毛　の約一半は褐色、黑色又は灰色である、不良の毛織物又はカーペツトウールの製造に用ひらる。ヘジヤツズ、アラビヤ、パレスタイン、シリヤ及び附近一帶の諸國は總てカーペツトウールの產地である。

アフガニスタン

羊毛は脂付のまゝ分類をなさずして輸出せらる、隨つて目減が非常に大である、然しトルキスタン品よりも品質良し南部地方產のものは印度に、西部地方產は波斯に、北部地方は露西亞に輸出せらる。

リ　歐洲諸國

佛蘭西、獨逸、西班牙、葡萄牙の山地には所謂山地種の羊毛を産す。西班牙はメリノー羊の原産地であるが、改良が加へられぬ爲品質他國に劣り Pyrennean Coarse の如きは粗カーペットウールである。

ヌ　總括

カーペットウールの産地は地域に於て廣く羊の頭數に於て多し、最近のウールレコード誌の發表する處によれば、一九二六年の世界の羊の頭數は六億四千七百萬頭にして、内二億四千七百四十六萬四千頭は濠洲其他の牧畜地帶に、又八千百六十八萬八千頭は農業地帶に餘りの三億一千餘萬頭が、所謂カーペットウールを産する地帶に分布せりと云ふ。從來カーペットウール産地として知られし地方に於ても、近年露西亞の如き又南米諸國の如き鋭意羊種の改良につとめつゝあり、斯る狀態にてカーペットウールを産する地域は逐年縮少せらるべく、他方それに對する世界の需要は先に記する如く漸增の傾向あり。

然も印度及び中央亞細亞諸國、[illegible]アフリカ竝に南米産のカーペットウールの一半は英國に、近東諸國及び歐露のそれは歐洲の諸工業國の繩張りになつて居る、斯て米國は關税政策によつて支那及び南米の一部から漸く原料を仰いで居る狀態にて、支那羊毛が米國のカーペット工業にとつて、如何に重要なる地位を占めて居るかは知るべきである。

ト　露　西　亞

露西亞は面積が廣き割合に羊の頭數は少く、且つ地方により羊の種類も異り羊毛も雜多である。ドン河流域ウクライナ地方には稍よき羊毛を產し、殊にクリミヤ地方產の如き品質可良なるものあるも、概して下級品にして色毛を含み死毛多く一定したる格付がない、且つ先に海拉爾の洗滌羊毛の項に記するが如く洗滌方法不良なる爲に羊毛はフエルトして評價に不便である、唯値段が割安なる關係上安カーペツト製造の原料として用ひらる。

勞農政府は大規模の羊毛改良計畫の下に、年々數千頭のメリノー種を濠洲及び米國より輸入し、鋭意改良增殖に腐心しつゝあり、露西亞羊毛が面目一新するも遠き將來ではあるまい。

チ　英　國

英國には本國及び殖民地に多量のカーペツトウールを產し、カーペツト製造及びカーペツト絲の製造が古來盛んにして、殊にカーペツト絲は英國製品でなければならぬと稱せらるる程で、カーペツトウールの市場として重要なる地位を占む。

英本國產のものとしてはスコツトランドの山地に居る Black faced Heath Sheep は之にして此羊は牝牡共に巨大なる角を有し體軀は大にして頭部と脚部は黑毛である。

毛は其の名　Blackface を冠して取引せられ、粗くして堅く一頭より三封度乃至四封度を產し、色は灰色で褐色を帶び死毛を含み、下等の織物及びカーペツトの原料に供せらる。

を致し、輸入防遏の實を擧げると共に輸出の端緒を啓き、之に從つて原毛の輸入は著增し半製品の輸入は激減して我毛藏工業は一大躍進をなす。

昭和二年末に於ける本邦毛織機業場數は八百七十八、機臺數二萬九千四百二十五臺、職工數四萬八百八十六人、毛織物產額二億三千八百七十萬六千二百二十五圓、運轉錘數四十二萬六千四百十一錘、毛絲製產高一億一千八百十三萬圓、トップ生產額八千二百四十二萬圓にして、又新田氏により毛織物產額を加盟會社、愛知縣下と其他とに區分して見れば、（單位千圓）

	昭和二年	昭和三年
加盟會社	九九、三〇〇	一〇四、四〇〇
愛知縣下	六〇、七〇〇	六八、九〇〇
其他	七八、七〇〇	七八、七〇〇(概算)
計	二三八、七〇〇	二五二、〇〇〇

實に產額二億數千萬圓に達し、五百萬圓の輸出をなし、我毛織物業は歐洲諸國に比し日尚淺きに拘らず驚くべき進步をなしたるものと云ふべし。

原料羊毛は主として濠洲よりの輸入にして、昭和三年度の總輸入額一億八百四十三萬圓を算し、トップ輸入額三百四十二萬圓、又梳毛絲三千萬圓、紡毛絲五百五十萬圓にして、原料羊毛輸入は增加しつゝあるも、半加工品及び製品の輸入は減少の傾向を辿りつゝあり。尙毛織物の輸入は三千百二十一萬に及ぶ。

世界に於ける主要羊毛消費國（一九二五年）

第八章　日本に於ける毛織工業と支那羊毛

第一節　概　說

輓近我國に於ける毛織物の需要は年々急激なる增加を示しつゝあり、隨つて之が原料たる羊毛の需要も漸增し、昭和三年度に於ける內地羊毛消費高を全部脂付に換算せば、一箇年約一億五千萬封度に達する見込にして、一人當り消費量約三封度に當り、大正九年の一人當り消費高約一・八三封度に比すれば約六割の增加を示せり。然れども世界の羊毛消費高に比すれば、我國のそれは二・四%に過ぎず、又一九二五年の世界羊毛紡績錘數二千四百四十六萬錘に比すれば、我國のそれは五十萬錘卽ち二%にして實に微々たるものである、若し之を英國の六百六十七萬錘、獨逸の四百萬錘、佛蘭西の三百萬錘、米國の四百九十四萬錘に比すれば未だ同日の論でない。

我國に於ける毛織工業は政府が民營指導の意味を以て、各種の見本工業を起したるが、其一つに毛織業もあつて千住製絨所が設置せられしを嚆矢とす。然し一般的に發達せしは明治二十七八年以降の事に屬し、其間歐洲戰爭の爲輸入品の減少に刺戟せられ急激なる發展を見しも、平和の克復と共に再び輸入品の競爭を受けて不振に陷りしを以て、事業の整理緊縮を行ひ或は關稅の改正を行ひつゝ沈衰狀態のまゝ事業を繼續して居た、大正十五年四月トップ、毛絲、毛織物の關稅改正ありてより幾分好轉し、爾來一高一低の商況を辿りつゝ昭和三年に至りてより次第に順調に向ひ、輸入羅紗類は縞物柄物等を除き需要の增加に反して輸入は減少しつゝあり。此間に於ける當業者の努力は多とすべく、殊に愛知縣下に於ける分業的毛織工業の發達は目覺しく將來の發展刮目に値するものあるべし。他方大工業會社は大量生產に力

國別	紡績錘數	百分比	力織機臺數	百分比
	千本	%	千本	%
獨逸	四、〇〇〇・〇	一六・四	九一・〇	一九・六
英吉利	六、六七一・〇	二七・三	一二一・〇	二六・一
佛蘭西	三、一〇〇・〇	一二・七	五五・一	一一・九
伊太利	一、一五〇・〇	四・七	二〇・五	四・四
露西亞	四九一・〇	二・〇	一二・〇	二・六
其他歐洲諸國	三、一九三・〇	一三・〇	六五・八	一四・一
亞米利加	四、九四六・〇	二〇・〇	八五・〇	一八・三
日本	五〇〇・〇	二・〇	一四・〇	三・〇
其他	四一〇・〇	一・七	―	―
計	二四、四六一・〇	一〇〇・〇	四六四・四	一〇〇・〇

第二節　羊毛輸入狀態と支那羊毛

我國の緬羊總頭數は昭和四年一月現在にて一萬八千八百十四頭、羊毛產額昭和三年には脂付にて十二萬五千封度にして、年々增加しつゝあるも未だ僅少にして、我毛織工業は全部を海外より輸入する外なく、昭和二年羊毛輸入額は七千四百四十三萬斤、其價格九千十四萬圓にして、大正十五年の關稅改正により羊毛の輸入數量は著增せり。本邦に於ける支那羊毛の輸入の最も旺なりしは歐戰中にして、當時英國の羊毛管制の爲濠洲羊毛の輸入が減少したると、露西亞其の他よりの軍絨の註文ありたる等の爲支那羊毛の需要を喚起したるによる。邦商の支那羊毛界に於ける活

主要毛絲紡績國の毛絲輸出額表（一九二六年）

國名	千噸	%	國名	千噸	%
獨逸	一五八・七	一二・二	其他歐洲諸國	二一八・〇	一六・八
英吉利	一九八・二	一五・三	亞米利加合衆國	二七八・六	二一・四
佛蘭西	二四八・八	一九・二	日本	三一・六	二・四
伊太利	六三・四	四・九			
露西亞	一〇一・七	七・八	計	一、二九九・〇	一〇〇・〇

主要毛織物製造國の毛織物輸出額表（一九二五年）

國名	千噸	%	國名	千噸	%
獨逸	八・七〇	一一・九	其他歐洲諸國	一二・七〇	一七・四
英吉利	二一・五〇	二九・五	亞米利加合衆國	〇・〇四	〇・一
佛蘭西	一九・三〇	二六・四	日本	〇・一〇	〇・一
伊太利	〇・九〇	一・二			
白耳義	九・八〇	一三・四	計	七三・〇四	一〇〇・〇

世界に於ける毛絲紡績錘數及毛織物織機臺數（一九二五年）

國名	千噸	%	國名	千噸	%
獨逸	一三・〇	一〇・四	白耳義	二・七	二・二
英吉利	七一・八	五七・三	亞米利加合衆國	〇・二	〇・二
佛蘭西	二六・〇	二〇・七			
伊太利	一一・五	九・二	計	一二五・二	一〇〇・〇

（ハ） 相場が濠洲羊毛其他に比し割高である。

（ニ） 品位及び輸出が不定にして取扱上に不便と危險があること。

等が其主なる原因である。

日本に於ける支那羊毛輸入數量

年次	支那羊毛 數量（擔）	支那羊毛 價格（千円）	輸入羊毛總額 數量（擔）	輸入羊毛總額 價格（千円）
明治四十年	四一、七八四	一、七六九	一七〇、三八九	一四、三五三
同四十一年	一三、五二七	七三五	六九、一四四	六、八五〇
同四十二年	一一、七二〇	四六五	九九、六六二	九、〇九二
同四十三年	五、九一〇	二、一七八	一三一、六四五	一三、五二〇
同四十四年	一四、一二四	六五七	一一二、一九四	一一、二六三
同四十五年	一〇、〇一五	四七九	一六七、七一二	一六、三三四
大正二年	七、九九四	三二〇	一五七、九四八	一五、九九七
同三年	三四、七七二	一、三五九	九四、七六七	五、一八九
同四年	一〇一、三四九	四、六二一	三九四、〇〇七	二四、四〇〇
同五年	五八九	二八	三五、九八五	一、九九二
同六年	一九、〇七四	一、二〇〇	三五三、〇三一	三九、七八五
同七年	二四、七〇七	一、九六四	三六二、八四八	四九、一四一
同八年	九八、六四〇	八、〇七五	三八五、三二六	四七、五六七
同九年	三四、八一三	三、〇七二	五三三、五一二	一〇六、五〇五

動の旺んなりしも實に此時にして、有力なる邦商は支那羊毛の事情に精通せざるまゝ、品質の如何を顧慮せず競ふて買進みて尙相當の利益を收めたるが、一朝恐慌來るや相場は暴落し其の手持羊毛は品質劣等にして、多量の夾雜物を包含するを以て顧るものなく、久しく內地の倉庫に山積せられて、我毛織業者間に支那羊毛に對する極めて惡しき印象を殘したり。

實に大戰中支那羊毛の取扱ひは邦商獨占の舞臺たる觀あり、日本向輸出のみならず外國向輸出迄大いに手を廣げたものであるが、一度平和克復してより我關係巨商の倒産するもの多く、羊毛界に於ける我地位も亦昔日の不振に陷り、唯一某會社のみ外國貿易上に孤影を淋しく止めて居るが、之とても最早見るべきものなし。

(イ)　今日本邦で支那羊毛を用ふるは千住製絨所と毛布工業及び緞通工業である、前者は古くより毛布に用ひたるが大正八年以來服地にも使用することゝなりてより其消費量は增加し、我國の支那羊毛消費の大部分を占むるものである、然し近時支那羊毛使用につき、先に記したるが如き缺陷發見せられて以來其使用は好まれざる傾向あり、毛布の如きも劣等毛布にあらざれば之を用ふことを得ず、今日支那羊毛の使用せらるゝ範圍は極めて狹小である。

斯の如く斯界に於ける邦人の活動見るべきものなきは、(1)邦人は一般に畜產物に對して親し味を有せず、從つてそれに對し知識もなく興味なきに因る事多し。

我一流の某商の如き古來支那羊毛に就ては最も深く研究したものであるが、幹部及び關係市場の支店は更に興味を持たずしつくりした取引上の連絡もとれざる有樣である、斯ては支那の斯業界に發展を期するは木に據つて魚を求むるが如きである。

(ロ)　支那羊毛は現在の日本毛織工業の原料適にせず、又支那羊毛の好適せる製品の製造を別に企圖せることなし。

一　梳毛紡績

本邦毛織製品の大宗たるモスリン、セルヂス其他編物用毛絲の如き、纖維の平行せる毛絲を製造する梳毛紡績業は、主として纖維の細長なる新しき上等の羊毛を原料として使用す。

大正十五年四月の關税改正以來梳毛紡績機臺の増設又は新設せらるゝもの多く、昭和二年末には梳毛紡績用カード二百二十六臺、前紡機八十一列、精紡機四百九十四臺三十一萬千三百七十錘、リング百七十五臺四萬四千二百七十二錘に達せり。

梳毛絲の主なるものはモスリン絲、セル絲、サージ絲、手編絲、メリヤス用絲等にして、昭和二年度に於ける製造額四千九百六十三萬封度一億一千八百十三萬封度を算するも、尚之のみでは足らずして昭和二年度に四千三百萬圓、昭和三年度に三千百萬圓を輸入に仰ぎたる有樣である。

毛絲の生産額

大正十二年	大正十五年	昭和二年
三七、四五五、二六九封度	四七、〇五〇、四八〇封度	四九、六三七、四二三封度
九三、〇九七、五三二円	一二四、二二一、二九〇円	一一八、一三九、八八九円

梳毛絲輸入額表

大正十年	一三、三四八	六七四	二二五、九五七	一九、五四七
同十一年	三、四〇一	三六七	五〇五、九三三	三九、六二一
同十二年	九二五〇	八九三	四三三、三一四	五六、一九三
同十三年	一八、四二六	一、三四四	四四六、三五〇	六一、七五九
同十四年	一一、一九九	九六三	五二六、〇八八	八七、一八二
同十五年	八、九四〇	六八〇	五四七、九〇六	六八、〇一九
昭和二年	七、〇三一	四八〇	七四四、二九二	九〇、一四六
同三年			八〇六、七二七	一〇八、四三三

第三節　毛絲紡績業

近年愛知縣下に於ける毛織業の發達顯著にして、毛絲の需要增加して毛絲の輸入を煽り、昭和二年は前年に比し約六百封度の輸入增加を示したが、昭和三年後半期には豫て計畫中の、日本毛織株式會社の名古屋工場(毛絲專門)及び昭和毛絲紡績株式會社の工場出來し、他方モスリンの操短等の爲に東京モスリン紡績株式會社、東洋モスリン株式會社、共同毛織株式會社、中央毛絲株式會社等の諸社の紡績擴張或は增產計畫が行はれて、輸入は減少したるも漸く生產過多とならんとしつゝあり。

是等の毛絲工場の製品は概ね梳毛絲にし、紡績絲の製造は未だ見るべきものなし。以下梳毛絲紡績につきては概況を記し、支那羊毛の利用に關係あるべき紡毛絲紡績につき詳記することにしよう。

六十一臺となり他は休止せり、又ミユールも大正十三年に二百五臺八萬一千百六十錘なりしもの、昭和二年末には百七十二臺七万七百六十九錘に減ぜり、これ紡毛絲は値段の騰落甚しきと輸入紡毛絲製品の爲に被る打撃とに因る。紡毛絲は軍絨製造に缺ぐべからざるものにして非常時に發展するを例とす、現在產額約四百萬封度其價格五百五十萬圓なり。

その使用原料たる羊毛、反毛、ノイル、毛屑及び棉花等の消費量不明なるも、ノイルは約百三十万封度反毛及び屑毛は五百九十萬封度、棉花は百四十萬封度なりとす。尙紡毛絲の輸入額は昭和二年十五萬二千封度價格二十九萬七千圓なり。他の毛製品輸入が減少しつゝあるに、紡毛絲のそれのみが增加して居るは注意すべき現象である。

紡毛絲輸入額表

年別	紡毛絲（純毛） 數量	紡毛絲（純毛） 價格	毛綿織絲 數量	毛綿織絲 價格
大正十一年	斤 一〇、九五六	円 一九、〇八五	斤 四九、二八二	円 一二八、五八四
同十二年	九、五一九	一八、四九〇	一三、七七四	三八、五九六
同十三年	一三五、二二四	四七八、二七二	四五、三七四	九九、一〇一
同十四年	三四、五二八	一三三、六八四	四三、四三九	一五八、一八九
昭和元年	四九、一五五	一三二、四〇七	一六、三三八	三五、七三二
同二年	一一四、四三五	二九七、三六二	二六、一八五	六一、九四七
同三年	八四、五九九	一九五、八一一	—	—

年別	數量	價格
大正十一年	一二、〇六七、一八二斤	四八、四五二、三七八円
同十二年	一九、六一四、五七八	七三、八三七、一一一
同十三年	一五、五七九、三五七	六三、〇一二、〇六二
同十四年	一一、六二三、八四一	五五、九二三、一一六
昭和元年	九、一九三、七五二	三二、三五〇、〇八九
同二年	一三、六六九、四二五	四三、二五四、九六四
同三年	八、六六二、一〇三	三一、九一一、四三〇

二　紡毛紡績

紡毛絲は纖維が平行せざる絲にして、其原料は雜多にして上等の羊毛を使用することあるも、クロツスブレツド、屑毛、反毛を主とし、往々之に染色せる棉花を混合して紡績するもの多く、爲にカード及びミユールに於ける歩留り一様ならず、從つてこれが生産費は常に不同である、本邦では適當なる反毛及びノイル等を得ること容易ならず、紡毛紡績の最も苦心する處である。之に反し歐洲諸國では原料羊毛を得るに容易なるのみならず、所要の品質の反毛及びノイルヲ格安に得らるゝを有利とす。

本邦に於ける紡毛機(カード)は大正十三年百七十一臺なりしも、其後毛織業の不況の爲漸次減じて昭和二年末には百

前者が年々増加するに反し後者は減少の傾向あり。又毛織物製造に從事する職工數は昭和二年末に於て四萬八百八十三人、其內女工三萬三千七百人男工七千百八十三人である。

毛織物生產額表

大正十一年	一三六、四六七、五一九円	大正十四年	一八二、四八一、一一一円
同十二年	一八〇、四八四、一八二	昭和元年	二〇五、二五二、三六三
同十三年	二〇二、三九〇、二〇一	同二年	二三八、七〇六、二五二

毛織物工場數

年別	十臺未滿	十臺以上五十臺未滿	五十臺以上	計
大正十一年	三三〇	三三八	六六	七三四
同十二年	二九七	三八五	七六	七五八
同十三年	三四二	三五九	一〇〇	八〇一
同十四年	三七八	三二八	七二	七七八
昭和元年	四八七	三二八	五二	八六七
同二年	五二五	二九一	六二	八七八

毛織物機臺數

毛絲輸出額表

	擔	円
大正十一年	一,五九五	五一七,八六〇
同十二年	一,五〇二	五二九,七六三
同十三年	一,一九〇	四六八,五二四
同十四年	二,一五九	八〇六,五八八
昭和元年	一,七一四	五六七,一〇〇
同二年	二,二一八	六八五,九九二

第四節　毛織物業

我が毛織物の生産額は昭和二年二億三千八百七十萬圓にして、昭和元年の二億萬圓に比し約二割の増加である。

毛織物の種類はモスリン、和服セル、シャルーン、紺サージ、ヘーヤークロス、トルコチン、ヘル等の如き梳毛織物と、メルトン、スコッチ、フランネル、ホームスパン、毛布等の如き紡毛織物とあり。

工場數は昭和二年に於て八百七十八にして大正十四年の七百七十八に比し著しき増加である。其投下資本は新田直藏氏の推算によれば一億九千五百萬圓にして、此内加盟毛織會社一億三千萬圓、愛知縣下の毛織工業二千六百萬圓、其他の諸府縣に於ける毛織工業三千九百萬圓の割である。

又機臺數は昭和二年末二萬九千四百二十五臺にして、其内力織機二萬三千九十一臺、手織機二千四百二十臺にして、

於て本項では此點に就て主として記すことにしよう。

一 羅紗

所謂羅紗織物の内主として我國に於て製造せらるゝものはメルトンにして、脊廣地、外套地、トンビ地等の多物被服地に用ひられ、又陸海軍及び諸官公衙の用品にして、霜降又は無地のもの多く幅五十六吋一碼當りの重量百十匁乃至百二十五匁前後より二百匁に及ぶものあり。

斯業は歐洲戰亂の際歐米品の輸入杜絶したる爲大に活況を呈し、其生産額も著しき増加を呈したるも、大正九年の財界變動の打擊と輸入品の壓迫及び需要の減退の爲不況に陷りしが、大正十五年關税改正ありてより幾分輸入品の壓迫を減じて漸次採算有利となり、昭和三年は稍順調に終始し、輸入は需要の増加に反して年々減少しつゝあり。

羅紗生産額表

年別	數量	價額	年別	數量	價額
大正十一年	六、一七五、七五二碼	二〇、二〇八、五七四円	大正十四年	五、三七一、三一六碼	一六、三五九、九一一円
同十二年	五、七八一、九一九	一七、五八一、四八七	昭和元年	七、二一四、二二七	二〇、三四八、九九三
同十三年	六、八七七、〇九九	二〇、一七一、四五三	同二年	九、七一九、四九八	二七、〇八六、一九五

二 毛布其他

年別	力織機	手織機	計
大正十一年	一二、八一二臺	六、六四五臺	一八、四五七臺
同十二年	一四、一五八	六、八七三	二一、〇三一
同十三年	一九、四四七	五、九七九	二五、四二六
同十四年	一六、三三二	五、八〇二	二二、一三四
昭和元年	一六、二八八	三、二三九	一九、五二七
同二年	二七、三九一	二、四二〇	二九、四二五

毛織物職工數

年別	男	女	計
大正十一年	七、五六一人	三二、六六一人	四〇、二二二人
同十二年	八、〇三〇	三九、〇八四	四七、一一四
同十三年	九、四〇一	四三、三六一	五二、七六二
同十四年	七、六九四	三七、七六二	四五、四五六
昭和元年	六、一五〇	三〇、〇六九	三六、二一九
同二年	七、一八三	三三、七〇〇	四〇、八八三

元來支那羊毛は其品質の關係上、モスリン其他所謂薄物の製織には不適當にして、從來メルトン及び毛布等の大工業原料として用ひられ、其價値に就ては大體明にせられたり、唯小工業並にカーペット原料としては未知數である、茲に

我國に於ける緞通製造技術は天保二年肥前の鍋島及び泉州堺地方にて、支那絨毯に範をとつて製造せるもので、堺緞通、赤穗緞通、鍋島緞通及奈良緞通等古來其名を知られ夫々の特色あり、就中堺緞通は產額に於ても品質に於ても著しく他を凌駕し、緞通と云へば堺緞通を意味する觀あり、故にこゝでは主として堺緞通につき記すことにしよう。緞通は綿撚絲を經絲とし之に絹絲、人絹絲、毛絲、綿絲又は麻絲を横に編み込みて織上ぐるもので、其編込む絲の種類により品質價格に甚しき相違あり。(緞通とは支那名毯子「タンツ」より轉化せるものなり)

一 緞通の種類

イ 絹緞通、人絹緞通

絹絲又は人絹絲及びそれ等の屑物を以て植毛せるものにして、緞通の内の最優良品で値段も最も高價であるが、產額は多からず、註文によつて製造すること多く、概ね內地向にして輸出せらるゝことは稀である。

ロ 毛緞通

手編物用の毛絲、又は支部羊毛を主原料とするもの、及び牛馬毛を紡ぎたる毛絲を用ひたるものにして、毛の性質が緞通に最もよく適するを以て此製品は最も需要者に喜ばる、此內手編物用の毛絲を原料とするものは、觸りは柔軟で光澤に富み仕上後の外觀美なるも、彈力性に缺げ又卷縮性の爲に緞通の表面となる絲の切り口が揃はず、且つ値段が割高である爲特種の場合に用ひらる。

昭和二年に於ける毛布の生產額は百五萬枚價格五百五十萬圓にして、大阪、兵庫、愛知、東京、岐阜、和歌山の諸府縣に產す。

從來毛布原料には支那羊毛を用ひたるも、近年相場割高なるのみならず、一般の嗜好が硬くして死毛の見えるものを好まざる樣になりし爲、製造業者も殆んど支那羊毛を使用するものなきに至れり。

內地向の毛布は幅は五十四吋乃至五十六吋、長さは七十二吋にして、重量は五斤內外のもの多きも往々七斤乃至八斤に及ぶものあり、二枚續きのもの多し。輸出向のものは幅六十吋長さ八十吋乃至九十吋にして重量五封度內外である。普通品の市價は九圓にして上等品は二十圓前後なり、但し十圓乃至十三圓位のもの最も賣行きよし。

近年毛布の需要は年々增加の趨勢あり、產額の約六割は日本に於て消費せられ餘の四割は支那其他に輸出せらる。

毛布(肩膝掛を含む)生產額表

年別	數量	價額	年別	數量	價額
大正十一年	一、七六七、九三一枚	五、八〇二、八六四円	昭和元年	一、一七一、六五一枚	四、七二〇、九〇五円
同十二年	二、二七六、一二一	八、六〇五、〇五二		六五、七〇三碼	一〇七、九五九
同十三年	二、二五九、一四七	九、五五〇、六九三	昭和二年	一、〇四九、三〇八枚	五、五〇六、五〇〇
同十四年	一、八三二、九六三	七、四二四、二三九		一〇五、三七八碼	二〇五、六五三

第五節　緞通業

此外麻絲を緯に用ひ毛絲を植毛とせるものある。

へ　緞通の大さによる種類

以上は使用原料による種類であつたが、緞通は大きさにより一疊敷(三尺×六尺)二疊敷、三疊敷、四疊半敷、六疊敷八疊敷、十疊敷等あり、其他設備さへすれば何程大きいものでも製織することは出來るが、普通最も多く市場に出るものは三疊敷、四疊半敷、六疊敷、八疊敷のものである。

二　緞通の品質

緞通の品質は植毛に用ひたる絲の種類によりて大體定り、之に一尺幅間の經絲の數及び一尺長さ間の植毛の段數により決す。

經絲は一尺に付四十五本乃至百本にして、緯となる植毛は五十段乃至百段である、毛緞通絹緞通の如き高級品は此本數及び段數を多くして密に織上ぐるも、安價を尊ぶ綿緞通又は麻緞通の如きは之を極めて粗に仕上ぐるが常である。

最も普通に製織せらるゝ緞通は、經絲五十本内外のものなるを以て、普通緞通の品質は段數のみを呼んで之を表す。又取引上の單位は疊即ち幅三尺長さ六尺を標準とせるを以て、六尺の間の植毛の段數を云ふことあり、例へば羊毛緞通七十五段又は羊毛緞通四百五十段と稱すれば、羊毛絲を植毛とする緞通で曲尺一尺間の段數が七十五段あり、又之が六尺の間に四百五十段ある品質のものなることを云ひ表すものである。

緞通の圖案は品質には直接關係はないが、緞通の價値を左右する重要なる要素なるを以て、當業者の最も頭を用ふる

支那羊毛を原料とする絲は死毛あるも粗毛多く彈力強きを以て最も多く用ひらる、然し近時支那羊毛相場が高き爲、濠洲雜種羊毛三十八番手位のものを、之が代用に供する傾向が現れて來た。

牛馬毛絲は池田、和歌山附近の製革工場の副產物及び支那より輸入せるものを原料とせるものにして、安價なるを以て下等緞通の製造に供し、一時米國方面に盛んに輸出せられたるものであるが、米國に於ける輸入稅が上げられて以來此輸出は稀で、內地向のものに多少用ひらるゝ位のものである。

ハ　綿緞通

綿絲を以て編み込んだもので、其仕上りは毛緞通に比し光澤なきも、品質柔軟外觀美にして毛緞通に酷似し價格は低廉なるを以て歡迎せらる。唯彈力性なく塵埃を吸收し掃除の困難なる點に於て、毛緞通に比し劣り主として內地向である。

ニ　混綿緞通

紡毛絲と綿絲又は混綿毛絲を以て製織せるものにして、品質價格右兩者の中間にあり內地向とす。

ホ　麻緞通

麻袋を解いた絲又は黃麻屑絲を以て植毛とし、品質前數者に遜色あるは言を俟たざるも、彈力が綿緞通に優り價格低廉なる爲輸出向として製造せらる。

	數量		金額	
	昭和二年	昭和三年	昭和二年	昭和三年
內地向				
麻緞通	一一七疊	二一五疊	四〇八円	七五三円
綿緞通	一、一八八	一、七五一	七、四七三	一二、六七五
毛緞通	六、三五四	一四、〇六一	九五、三一〇	二三九、〇三七
絹緞通	一三九	五八五	一一、一二〇	四一、二〇〇
輸出向				
麻緞通	一、三三五	一、一二九	四、六七四	三、九五三
綿緞通	六四三	一、〇〇四	四、一八〇	六、五二五
毛緞通	三、六八〇	一、六五三	二八、四九九	二五、三一三
絹緞通	四一	二八	三、二八〇	一、九九〇
總計	一三、四九七	二〇、四二六	一五四、九四四	三三一、四四六

他のものは暫く之を措き毛緞通のみに就て見れば、奢侈稅實施の結果其產額は著增すべき理なるに拘らず、昭和二年度に內地向に於て僅の增加を見たるのみにて、輸出向には却て減少し御大典景氣も束間で累年不振に陷りつゝあり。

四　緞通製造關係業者及び其相互間の關係

毛絲紡績業者の手で製造せられたる毛絲は、問屋又は大工業家の手に買ひ取られ、染色業者により又は自家工場にて染色し、地方農家に出して絲繰せしめて製織に適する形に整へ、工場又は問屋は之を緞通需要者の註文又は自己の見込

處である。圖案の作製を專業とする者あるも、近年は緞通製造業者は概ね一流の百貨店に特別の關係を結び居るを以て、該百貨店所屬の意匠係に之を託する場合多く、從つて緞通の圖案は顯著なる進歩を呈し、邦人の嗜好にシックリ當嵌るものが出來る樣になつた。

三　緞通の產額

堺緞通の製織は明治二十年頃より急に發展し、大正五年頃迄は相當の輸出を見たるが米國に於ける輸入關稅率の引上げに致命傷を負ひ、加之加工費は嵩む一方であるに不拘、一般財界の不振は一層深刻の度を加へ、近年次第に萎微して當業者は他の有利なる製品の案出に腐心するの已むなきに至り、例へば樂々織、菊水織、三笠織、大和織、ピース織等の敷物の製造に移りつゝあり。

今近年の緞通產額を示せば、

年次	數量	金額	年次	數量	金額
大正十二年	五六、〇七七疊	一三一、八一七円	昭和元年	一八、三九九疊	一五二、九五〇円
同十三年	三四、八七九	八五、七〇九	同二年	一三、四九七	一五四、九四四
同十四年	二九、〇二九	六六、六〇九	同三年	二〇、四二六	三三一、四四六

即ち累年顯著なる減產をなし、昭和三年度に於て稍增加を見たるが、こは御大典の爲の特異の現象にして、現に當業者の觀測によれば昭和四年度は其半額にも及ばざるべしと、今製品の內容に就て內地向輸出向に分ち一瞥するに、

（ロ） 所要原料を相當の價格を以て織屋に賣り渡し、織上つたものを時價にて買ひ取り其差額を織屋に支拂ひ、始め交付したる原料に殘りあらば之を引取る方法である。

前者による時は往々賃織者に原料を取り込まるゝ危險あるを以て、之を防ぐ爲後者の方法によるが普通である。

尙價格の低廉なる經絲横絲は普通織方持とす。

八 染色業者

堺の辰吉の如き染色を事業とするものあるも、有力なる製織業者にありては自ら染色設備を有す。

一貫匁當りの染賃は次の如し。

絹絲	五圓	毛絲	一圓四十錢乃至一圓六十錢
綿絲	一圓	麻絲	一圓

二 緞通製織業者

堺の東南方の一里乃至二里半に亙る泉北郡及び南河内郡の郡境に跨る深井村、百舌鳥村、東百舌鳥村及大草村等の農村一帶は斯業の中心地である、工場數は七十を算し、今日之に從事する職工三百名に垂んとす、是等の工場の內先きに記する小谷芳太郎氏の如き五十人の職工を擁するもの、其他十名乃至十數名を使用する數戸を除きては、大抵は二名三名の職工にて其住居の一部又は納屋を利用して織機を据へ、農家の副業に製織に從事するもので特に工場を建設するもの尠し。

にて、緞通圖案に經絲の數及び植毛の段數及び厚さ等必要なる規格を示し、織屋に出して製織せしむるものである、斯て出來上り次第製品を問屋に持參し、問屋は之を輸出商及び附近の需要者に賣渡し或は大阪驛渡しにて他地に發送す。

イ　毛絲紡績業者

堺の緞通製織に供せらるゝ毛絲は概ね葛葉の德原毛絲紡績所の供給する處である、同工場は緞通毛絲の外、毛布絲、メリヤス絲、雜紗絲、スコッチ用絲、子供服地用絲等專ら紡毛絲を製造し此地方に於ける斯業界に重きをなす。

緞通毛絲の原料は主として支那羊毛にして先年は川口の支那商より仕入れたるが、近來彼等は羊毛の取扱ひより手を引きたる爲適當の仕入機關なく困つて居る模樣である。

近時支那羊毛が高値なる爲濠洲雜種毛三十八番手位のものを代用し反毛等を混紡す。

緞通用の羊毛絲は四番乃至六番手で、之を三本乃至五本合せて用ふ、相場は一貫目を建値とし目下八圓內外を唱ふ。

ロ　問　屋

問屋及び販賣業者は斯業の中心にして、有力なる問屋は大草村の小谷芳太郎氏の如き、今日此地方に於て最も盛大に緞通の製造をもなしつゝあり、此外に堺及び住吉に數戶あり。

彼等は自ら資本を投じて經絲及び横絲となる綿絲及び植毛する毛絲を購入し、染色を要するものは之を染色業者に廻して染色し、諸般の原料を調へ、意匠圖を添へて織場に送る、此場合兩者間の契約に左の二種あり。

（イ）一疊につき織賃何程と定めて賃織をなさしむるもの。

る。

斯の如く緞通の製織に從事する職工は概ね附近の子女で、最初の間は學校から歸つて來ては織機の前に座り手傳ふ程度で次第に技術に熟練し、漸く一人前になれば間もなく結婚の爲に仕事を去ると云ふ有様で、熟練工を永年に亙つて使へないこと、並に近年樂々織、大和織等毛緞通の製織よりも、就業時間短くして比較的收入多き仕事に職工を奪はるゝ傾向あり、緞通製造業者の最も苦痛とする處である。

五　緞通製織

イ　方　法

元來我國の緞通工業は支那から渡來したものであるから、其方法は彼と大體同樣である「支那絨毯」に詳記する積り故玆に省略す。

唯彼が植毛を鐵櫛を以て一々入念に打込むに比し、日本では單に箆で一段毎に一度打つのみであるから、締りが彼に比し弱く品質劣る。

ロ　採　算

羊毛緞通普通品(六十段五十五本)の一疊當り製織費を見るに、

金額	摘要

其他の設備としては極めて簡單のもので稍經費を要するものは織機にて、

一間半機	一臺製造費　四〇円
二間機	同　六〇
三間機	同　三〇〇
四間機	同　五〇〇

之とても近時据へたものなく概ね極めて古く設備したものである、又原料は殆んど問屋より供給せらるゝを以て、機屋が用意すべきものは極めて僅少にて足る。

ホ　職　工

緞通の製織には其準備としての絲繰り作業あり、この工程は織場で行ふことは稀で、附近の農家の主婦又は老婆が自家に持ち歸りて賃仕事として行はれ、羊毛絲一貫目につき三十錢にて一日の作業能力二貫目、又三洲絲は一貫目につき二十錢にて一日凡そ三貫目を仕上ぐることを得、其賃銀は一日約六十錢である。

織場にて製織に從事する熟練工は、年齢十六七歳より二十餘歳に至る結婚前の子女が其大部分を占め、一日の作業は幅九尺經絲の數六十本、植毛三十段(四寸乃至五寸位)の織上げを標準とし、一段の賃銀は三錢三厘である。勞働時間は工場では朝七時より午後五時迄で、其間正午から一時迄休むのみである、農家が副業的に製織して居る處では、冬季繁忙期には夜の九時十時、に至るが普通である。

斯て一日の收得金は一圓二十錢に及ぶことあるも、普通は九十錢位で十四、五歳位の未熟練工は四、五十錢程度であ

綴通輸出累年統計

年次	輸出總額		米國		英國	
	千方碼	千円	千方碼	千円	千方碼	千円
大正四年	五四〇	三〇四	五四	三〇	三四二	三〇三
同五年	五七三	四四五	九一	七五	三一一	二四五
同六年	四九八	三八一	一二四	一二四	二六六	一六三
同七年	—	一六	—	四五	—	—
同八年	—	三六一	—	二四四	—	—
同九年	—	七七六	—	五七〇	—	—
同十年	—	—	—	—	—	—
同十一年	一三〇	三〇六	八	二五	七〇	一三八
同十二年	二〇〇	三四六	七三	一〇八	—	—
同十三年	二七三	四六六	一八八	三〇八	—	—
同十四年	七九六	一,二一〇	七三三	一,〇六二	—	—
昭和元年	七二三	一,一一六	六七一	一,〇四三	—	—
同二年	三一	四二	八	一三	—	—

綴通輸入累年統計

年次	總額	支那	英	佛	獨	米
	千円	千円	千円	千円	千円	千円
大正四年	三六	五	三〇	—	—	—
同五年	二一〇	四	一〇〇	一	—	二

羊毛絲一貫目	八円・五〇	
羊毛絲染賃	一・三〇	自家染色の場合
經絲五十匁	・三〇	
樌絲三百五十匁	・九〇	
絲繰賃	・三〇	
製圖料	・五〇	一圖案にて一枚製織の場合
仕上料	・三〇	
織賃	六・三〇	
織物税	・九〇	

六　緞通の輸出入狀態

我緞通の輸出は米國に於ける需要狀態と其關税政策に左右せられつゝあるは、左記緞通輸出累年統計表を一覽すれば明である。

殊に昭和元年米國に於て國內のカーペット工業保護の爲、其輸入に對して五割五分の高率輸入關税を課せらるゝことゝなつてより、我緞通輸出は致命的の打擊を蒙り、引いて緞通工業は不振のドン底に沈淪せり。

他方緞通の輸入に對して我國は大正十五年正月より奢侈税實施の結果、我斯業は生氣を見るべく期待したるに拘らず何等の見るべき影響なきは注意すべき現象である。

者は緞通よりも有利なる他の製品の發明に有ゆる努力を傾注して、邦人の嗜好生活に適するものゝ製出に盡力しつゝあり、大正二年度の如き堺附近に於ける敷物類の製産高二百八十七萬五千圓に對し、所謂在來の諸緞通のそれは僅に三十餘萬圓にて、一割餘を占むるに過ぎずして年々衰微の跡あり、實に在來の緞通の如き幼稚にして我産業としても不適當なるものを固守するよりも、寧ろ手工に代るに機械を用ひ、日本及び東洋の諸國が年々歐米に仰ぎつゝある絨毯類を驅逐して、我製品を供給するが如き新生面を開拓するこそ、我當業者が今後進むべき途である。

第六節 毛織物の輸入狀態

一 毛織物輸入數量

		大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	昭和元年	昭和二年	和和三年
羅紗及セルヂス(毛製)一平米二百瓦以下	數量	二、二八六、二五〇方碼	二、九三四、五一九方碼	三、六九一、〇〇六方碼	四、九二八、四五二方碼	二、三六二、八六〇方碼	一、二〇三、三〇七方碼	一、一四五、八三九方碼
	價額	四、〇九〇、五〇三円	四、八八九、四六六円	五、四五七、五八八円	九、四五六、九七四円	三、八六二、六五二円	二、〇五七、一〇一円	二、一七六、六六九円
同 五百瓦以下	數量	八、六三四、一九〇	八、三七〇、六一三	一三、〇〇六、一七一	九、〇〇六、四八八	六、〇一〇、六四七	六、三八三、八三二	五、九九六、九四四
	價額	三三、四三九、九八三	一七、三三八、五五四	二六、九四一、三六九	二七、二三三、九八六	一四、八九五、二六二	一七、二九五、一四五	一六、〇一四、七四五
其他	數量	六三二、三七四	六〇六、三六一	一、〇一〇、六五二	三九八、六三四	二八五、三三三	四五三、四三一	三一三、二五二
	價額	二、〇六六、八九二	一、二九二、四〇七	三、一一八、七〇二	一、八〇三、三五四	一、一三四、四一三	二、〇三六、二四〇	一、三九八、七二二
羅紗及セルヂス(毛綿製)一平米二百瓦以下	數量	一、八四九、一九六	二、五〇八、九五一	三、六七八、〇三三	四、四四二、七二七	二、七四〇、二四一	二、六七一、六四六	三、九六七、〇八六
	價額	二、一七六、二八九	二、八一〇、〇五〇	三、八七〇、〇三七	六、〇〇七、五八七	二、九九三、七一五	二、七六三、六一一	三、八九一、六四七
同 五百瓦以下	數量	五、二九二、六一〇	六、一八四、一三四	六、七一七、八一三	四、〇八四、四七二	二、一四五、一六八	二、六七一、三三〇	二、九〇七、〇八七
	價額	八、二二七、〇〇一	八、三三五、三三五	八、八八三、二七三	六、八八〇、〇五六	三、二七八、一七六	三、五一六、七二〇	三、四八〇、二六八

大正六年	九八	六	八六	一	―	二
同七年	一六七	二九	一二四	―	―	二
同八年	二二五	一八	一七二	一〇	―	一三
同九年	三八九	三〇	三二〇	一	―	二五
同十年	―	―	―	―	―	―
同十一年	八〇一	二一三	一八六	一	四	二
同十二年	四二一	七〇	一五七	五	六	二七
同十三年	七五一	九一	六一八	一五	三	三
同十四年	一五九	三六	一〇〇	三	―	六
昭和元年	一七九	四〇	一二九	四	―	一
同二年	一七二	四六	二一	三	一	六

即ち昭和元年奢侈税率實施と、其後との間に何等輸入數量に認むべき變化なし、之に依つて觀れば我緞通の輸入は景氣の如何によりて増するものであつて、輸入税率の多少は何等關係する處でないことを知る。

七　總　括

凡そ支那から輸入した我緞通製造技術は、今日でも輸入せられた當時のまゝの極めて幼稚な手工業であつて、加工に要する工賃が其原價の大部分を占め、且つ原料の購入上に何等有利なる點なく、加之需要に於ても外國輸出の途は鎖され、我國民の生活様式は之を必要とする程でなく、價格が高きに過ぎて奢侈品たる域を脱することを得ざる等、何れの點から見ても有望なる將來を期待することは不可能である、斯る現狀を以て推移せば自滅の外なく、現に堺附近の當業

品を製織し、技術に於ても彼と遜色なく然も廉價なるものを製出して、市場に出す爲に舶來品は賣れなくなるが常である。(ロ)又毛織物の輸入には英國に註文を發してそれが到著する迄に普通六箇月を要するに拘らず、尾西地方では僅に一箇月內外で取引は完了し得るのである、卽ち國產品の取引に比し輸入の場合は、非常に大なる危險を負擔しなければならぬ、然も尾西の當業者協心努力して邦人の嗜好にしつくり適合した優秀なる製品を進んで造りつゝあり。斯の如くして從來輸入毛織物の重要なる部分を占めて居る、薄地柄物は最早尾西の敵ではないのである。

二　輸入毛織物の品種

大藏省統計により毛製品と毛綿製品との割合を見るに、

昭和三年毛織物の品種別輸入割合

品種別數量／重量別	毛製品(方碼)	千分比	毛綿製品(方碼)	千分比	計(方碼)	千分比
一平方米二百瓦以下	一、二四五、八三九	六〇	三、九六七、〇八六	二三四	五、一一三、九二五	二九四
同　五百瓦以下	五、九九六、九四四	三四五	二、九〇七、〇八七	一七〇	八、九〇四、〇三一	五一五
同　五百瓦以上	二一三、二五二	二五	三、〇〇八、九一一	一六六	三、三二三、一六三	一九一
計	七、四五六、〇三五	四三〇	九、八八三、〇八四	五七〇	一七、三三九、一一九	一、〇〇〇

右の表によれば純毛製品の四三〇‰に對して毛綿製品は五七〇‰にして、又薄地物二九四‰に對して七〇六‰は厚地物である。卽ち輸入毛織物の內容は上等品は極めて僅少にして、概ね棉花、反毛等を混じたる品質劣等のものであることを知る。

其他	數量	三、九三六、八〇六	五、〇二八、七七七	五、九九六、五六〇	二、九一六、二八〇	一、一四八、八六三	二、八九八、一五三	三、〇〇八、六六一
	價額	五、四五三、六四八	五、七五五、四〇六	七、八九八、九九九	四、八五四、二四一	一、八三九、四二七	三、九八二、七四一	三、三八一、九一二
アルパカ、オルレアン及ラストル類	數量	八九四、一三六	三三〇、〇〇四	七七七、六六四	三〇九、〇〇三	五一、七〇四	四二六、〇九七	―
	價額	一、〇三三、四五六	三四七、一〇三	八三二、六二六	三九七、四四〇	五九、八五四	四三九、五六五	―
天鵞絨及プラッシュ類(絹入及綿入とも)	數量	五三一、一八〇	三六七、九八一	六三六、四三七	一六、九三七	一七、九〇七	八、九七二	一六、五三八
	價額	一、九二八、五〇九	一、二八八、二五一	二、三五〇、〇四七	七〇、六八四	七四、八六九	四九、九六七	五一、五二三
其の他の毛織物(同上)	數量	―	―	―	―	―	―	―
	價額	二、五四七、四三〇	四、五四四、二〇三	二、三〇四、七〇六	七七、五四五	一、〇九五、九三一	二、五一九、五九三	三、八一七、六〇四
計	數量	―	―	―	―	―	―	―
	價額	四九、九五三、七〇一	四六、六〇〇、七五五	六一、六四七、三三七	五七、四八一、八六二	二九、二四四、二九九	三四、六六〇、六八三	三一、二二三、一七三

備考

羅紗セルヂス
- 二〇〇瓦以下　薄セル地以下のもの。
- 二〇〇瓦以上五〇〇瓦以下　各種服地コート地等。
- 五〇〇瓦以上　極厚地もの。

アルパカは毛綿二〇〇瓦以下

之によつて觀れば毛織物の輸入は近年顯著なる減少を呈しつゝあり、之實に尾西地方の毛織物が輸入品に代つて用ひらるゝに因るものにして、次に記する尾西地方に於ける毛織業の急速なる發達をなせし事情は之によりて更に瞭である。

今日毛織物殊に薄地の柄物の輸入には尾西地方の機業を度外視することは出來ない、卽ち(イ)毛織物の仕入れに當り地、組織、柄等の選擇の如何が生命であるに拘らず、輸入品が一度市場に出づるや、尾西方面の當業者は直ちに其模倣

本邦毛織物輸出年額は四、五百萬圓内外にして、昭和三年度は三百六十萬圓を算し全産額の一割位に相當するのみにして輸出は未だ見るべきものなし、種類は羅紗及びセルヂスを主とし殆んど尾西地方の製品にして、內地向のものと同一品種のもので單に在外の邦人の需要を充すもの、及び生産過剰品の販路を求むる程度に過ぎない、從つて仕向地も關東州を第一とし滿洲並に北支那之に亞ぎ、極めて局限せられたる一部の市場に過ぎない。取引も彼地に支店、取引店を有するもの少く、多くは大阪の川口商人の手を經て輸出せらるゝ狀態にて、何れの點から見ても我毛織物輸出上には考慮すべき幾多の問題あり、所詮將來の開拓に俟つべきものである。

毛織物輸出表

		大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	昭和元年	昭和二年	昭和三年
モスリン	數量	方碼 七九五、一七六	方碼 七九六、九三四	方碼 一、六五八、九四三	方碼 二、六四九、八三〇	方碼 二、一一七、一二九	方碼 二、〇六六、九四八	方碼 七四二、七六八
	價額	円 七四七、九三六	円 七八三、四九九	円 一、五九二、〇五九	円 二、七三九、一六一	円 二、〇六三、六〇〇	円 一、六二八、三五一	円 五三八、九九七
羅紗及セルヂス	數量	一一三、七〇二	一五五、〇九六	一三三、九五六	一八九、五二六	二〇五、〇九九	二七一、二九八	一、七五七、一三一
	價額	三八一、八七二	五六二、三〇一	三八三、二八〇	五〇三、四四四	六〇〇、二一八	六六六、九六〇	二、六一五、三四七
ブランケット（毛製及毛綿製）	數量	二、三九九	一、八八九	八六八	一、四五六	一、二六[illegible]	六六三	八二一
	價額	四七九、六四九	四三三、七一五	一九七、〇二二	一八三、四五一	二三〇、三一八	一三三、一一三	二六七、三三六
其他平織物	數量	—	—	—	—	—	—	—
	價額	二〇九、一五五	三一三、六七五	二六五、〇一一	二七二、九三六	二四七、九八一	二一四、三六六	一九六、三一一
計	數量	—	—	—	—	—	—	—
	價額	二、七二九、八八九	三、〇三七、一〇九	四、一八一、一三八	一、五三八、八〇四	五、四五四、五九九	五、〇〇一、五九九	三、六〇七、七八一

輸入羅紗類用途別一覽表

用途別	原料配合別	百分率
オーバー・コート地	純毛	八
	混綿	一三
	混反毛	三
	混綿反毛	四
	混綿	六
婦人オーバー・コート地	スコッチ	九
	スコッチ混綿	一五
	混反毛	一
婦人コート地	純毛	五
	混綿	六
帽絨	混反毛	五
	混綿	一
	スコッチ、ホームスパン	二
トンビ地	純毛	二
	混綿	一
背廣地	混綿	五
	混反毛	四
禮裝地	純毛	一
	混綿	九

右の表によればオーバー・コート地二八％、婦人オーバー・コート地三一％、婦人コート地一六％、帽絨三％、トンビ地三％、背廣服地九％、禮裝地一〇％にして、男女コート地のみにて約七五％を占む。

輸入毛織物の品位より見る時は二割は高級品にして、過半は下級品で三割内外が中等品である。之を要するに輸入毛織物は劣等品が大部分を占め優秀品僅少であることを知る。

三　毛織物の輸出狀態

縣下の毛織業は分業的に特異の發達をなし、東洋のブラッドフォードと稱せられ、毛織物生產額は全國諸府縣の首位を占め、尙其前途の發達を囑目せられ那邊迄伸ぶるか計り知るべからざる勢あり。

尾西地方の織物業は遠く三百四十餘年前後陽成天皇の御代、織田信長が尾張の淸州に城を築きたる頃に其端を發し、從來白木綿、納戸、絹綿交織物、瓦斯縞、久米縞、交織物、佐織、紺無地等を產したるが、舶來セルジスにヒントを得て、明治三十七年に至り着尺セル製織に成功を告げたるが毛織物業の嚆矢で、近年動力機織を使用するもの頓に增加し一般毛織服地、英ネル、セル袴地、コート地、セル服地等の產出夥しく、殊にセル地の如きは其產額全國第一位を占むる盛況である。

今日尾西地方に於ける毛織關係業者千六百數十餘戶を等し、其內製織に從事するもの千二百五十戶、之に毛絲を供給する名古屋方面の主なる商人九戶、原料や製品の染色を專業とするもの百八十戶、又織上げたる毛織物に加工して製品は高尙なる品と風味とを付與する整理業は五十六戶、之等各當業者の間の仲介に從事する問屋業、仲買業者が百四十二戶である、斯くて一箇年の生產額七千萬圓に垂んとす、最近數年間の毛織物の製產額を表示すれば、

愛知縣毛織物累年產額表

明治四十三年	一、三〇六、〇四三円	明治四十四年	一、六三八、三八三円
同四十五年	二、〇二七、七八七	大正二年	三、五三二、八三四
大正三年	四、〇四四、九八二	同四年	五、一九九、二九六
同五年	七、六〇六、二三一	同六年	一一、一五八、七三六
同七年	二三、四九三、三一六	同八年	四六、六七四、三一三
同九年	一八、八八三、九五七	同十年	三二、五三二、四〇三

四　總　括

我國の毛織工業は千住製絨所の紡毛織物に初つて漸次梳毛織物に進み、厚物から薄物に移りモスリンによつて其極に達し、更に近年の着尺セル地、洋服用セル地等の發達は輸入の薄物を殆んど防止し盡して正に輸出の域に入つて居る。唯厚地柄物は獨りとり殘されて依然外國よりの輸入に仰いで居る狀態であるが、愛知縣染織試驗場が設立せられて此方面の研究を進むるあり、尾西の毛織業が此方面をも開拓するは近き將來にありと思惟せらる。歐洲大戰に際し英政府の羊毛管制により我毛織工業は原料難に陷り、當時支那羊毛は我斯界に重きをなしたるが、平和克復と共に一般當業者は支那羊毛を棄て顧るものなく今日に至る。斯て我重要工業原料たる羊毛は遠く濠洲、南米等に仰ぎ、隣邦支那の富源は外人の跋扈に委して指を染むるものなきは我將來の爲實に寒心の外ない。

從來識者にして支那羊毛の利用を口にするものありしも、其特異の品質なることを忘れて不適當の方面に之を利用せんとのみつとめたり。宜しく支那羊毛でなければ出來ぬ製品、支那羊毛の最も好適する製品の原料として用ふることにつとむるこそ肝要である。恰もよし支那羊毛の使用に堪る厚地柄物の製織の機運は進みつゝあり、國民の覺醒と相俟つて此方面に利用の途を開拓すると共に、機械製カペット工業を起して內外の市場に其製品を供給することも、支那羊毛の利用途開拓我毛織工業の發達の爲必要にして意義あることである。

附　尾西地方に於ける毛織業

愛知縣下の毛織物業は縣の西部に位置する一宮市、中島郡、海部郡の一市二郡に亙り所謂尾西地方に盛んである。

要増加に順應して發達したる、分業的小工業組織が斯業に最も好適せること、並に同業組合の活動宜しきを得たるに負ふ處多し。

イ　分業的小工業組織

（イ）分業的なる爲め比較的小資本を以て起業することを得、綜合的大工業が設備費に巨大の資本を固定するに比し有利にて自然生産費も低廉となる。

（ロ）邦人の嗜好は特異にて縞物柄物は同一種の反物二反が最も適當にして、それより多くては販賣に困難を感ず、故に柄物縞物の製織には僅少の數量を織る毎に装置を代へなければならぬのであるが、大量生産を目標とする大工場にありては、斯る繁雑は到底堪へ得る處にあらずして、自然柄物は尾西地方の如き小工場に俟つ外はない。

（ハ）小工場が各戸思ひ〳〵に柄を工夫するを以て、一つの參考見本から各々基調の異りたる製品を得るも、大工場に於ては或特定の人の頭で考案せらるゝを以て變化に限度あり、從つて尾西地方では一般の需要により適合するものが出來る可能性あり。

斯の如く尾西の毛織業は大工業の大量生産に對し有利に存在する餘地あり、即ち今日の隆昌を見たる所以である。

ロ　尾西同業組合の活動

一ノ宮市を中心とする所謂尾西の毛織物組合は、組合員總數一千六百二十七人（昭和三年末現在）に及び、設立以來二十有餘年を經過し、共間組合員は協力一致粗製濫造を防止して品質の向上につとめ、時代の要求に伴ひ能率の増進を計

大正十一年	四二、九五七、三五三	大正十二年	四五、二〇九、八九六
同十三年	四九、八五二、一四一	同十四年	五二、四四六、三四〇
昭和元年	五七、六三二、八三四	昭和二年	六〇、七三四、一九八
同三年	六八、九八二、三八九		

實に縣下の毛織物産額は昭和三年度に於て我國全毛織物産額の三割を占む。今之を製品別に見れば

毛織物及其交織物生産高

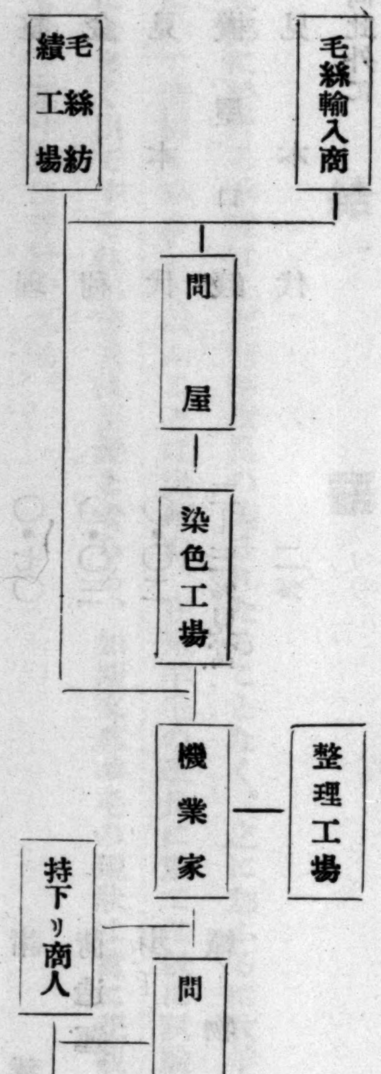
モスリン	一二、一〇一、九五一碼	六、四七九、五四二円
フランネル	二、〇一八、四五五	二、三六九、六五三
着尺セル地	二六、四八〇、五二四	三一、六四六、七二四
洋服用セル地	一〇、一四〇、二三六	二一、六五一、七〇一
ラシヤ	一、〇七七、八二八	四、二四七、一三三
毛布	二四四、五九四枚	一、五二一、七〇四
馬毛織物	一五七、七四一碼	五八、六四二
其他		一、八二五、五七八

之をに依つて觀れば尾西地方の織物は大體薄物にして、其生産力は既に國内の需要に過剩し、海外に販路を開拓する必要に迫られて居る有樣である、他面輸入厚物の防遏の爲に努力すべき機運も熟し、尾西の毛織業の現在及び將來は實に多望である。

尾西毛織物業發達の由來

尾西地方に於ける毛織物業が近年驚くべき急速の發展をなしたる原因を數ふれば種々あるべきも、我國の毛織物の需

毛絲が加工せられて商品となる迄には多くの商人の手を經なければならぬ、其徑路も方法も共時々の事情で變化し、一律に記することは出來ないが、今概況を圖示して大勢を示すことにしよう。



右各業者の間には仲介商人が居て相互の關係を圓滑ならしむ。

原料及び製品取扱　原料毛絲は從來輸入品を用ひ居たるが近年我紡績業勃興の結果、毛絲問屋は東京、名古屋地方、岐阜、大垣等の紡績工場より毛絲を買付機業家に賣却す。自己の計算にて製織せしむることあり、又有力なる問屋は自ら機業に投資し、獨特の製品所謂名義物の一手販賣をなし、顧客の吸收につとめ傍ら群小機業家の製品をも取扱つて居るのである。又有力なる機業家の中には問屋を經由せず京阪、東京方面の問屋と直取引を開始せるものあり、又俗に持下り商人と稱して、比較的資本の少き機業家の製品を買集めて、是を全國津々浦々に販賣するものあり。委託販賣制度の撤廢を促進し取引に堅實味を加へ、且つ機業家と消費者間の距離を短縮し販路の擴張に貢献する處ありたり。

整理業　毛織物は整理の如何により始めて製品の眞價が定るものである、尾西地方に於ける整理加工業の發達は他の産地の到底追隨を許さぬものあり。其今日に至る迄には優秀なる機械を輸入し、練熟せる技術員を招聘し多大の努力

り、或は廣く圖案を募集し、或は專門家を招聘して流行に魁するにつとめ、或は內外各地に視察員を派し販路の擴張を計る等、一々枚擧の遑あらず、今其事業の主なるものを記すれば、

（イ）製品檢査　本組合の重要なる事業にして、一定の規格に基き製品及び染色檢査を勵行して粗製品の防止と優秀品の指導啓發につとむ。

（ロ）意匠組織の硏究　內外の優秀サンプルの蒐集展示、新奇製品の組織解剖、或は優秀なる圖案家を招聘して圖案展示會の開催、流行意匠の講演會、染色技術の實習公開、視察員の派遣等。

（ハ）販路擴張政策　新奇製品の宣傳、各地博覽會、共進會に出品陳列、見本市の開催等。

（ニ）硏究團體への補助　組合員にして同種の品の製造に從事する同業者が一團となり、製品の向上發展を畫策する場合補助金奬勵金を交付して之を助成す。斯る硏究團體五十以上に及ぶ。

（ホ）染織試驗場の設置　最近組合の事業は更に一步を進め、縣立染織試驗場を共管下に設置する爲、其設立に要する費用十萬圓を組合が負擔して一ノ宮市外馬引に設立を見たり。

本試驗場には紡績、機織、圖案、色染の四課を置き、紡績課では殊に紡毛絲紡績につき硏究する豫定なりと云ふ、蓋し本邦に於ける唯一の試驗機關にして、最も必要にして意義ある計畫で、紡毛絲紡績並に厚物の製織に新紀元を劃するものであらう。

尙後に記する整理工業染色工業竝に販賣組織の發達は尾西の織物業の今日あるに貢獻する處尠からず。

ハ　製織組織及び採算

結　語

支那に於ける羊種は未だ何等改良の施されたることなく、之に加ふるに牧羊方法は粗放なるを以て、羊毛の品質は不良にして産額も亦多しと云ふことは出來ぬ、在來羊毛の改良に就ては既に試驗的には成功を收めたるも、未だ試驗場の外には多く出でずそれが普及は至難とせらる、如斯支那羊毛の現狀は實に悲觀の外なきも、之を以て直ちにその將來なきものと斷ずるは早計である。

滿洲より内外蒙古、青海、甘肅、新疆に連る廣袤數千里に亙る大平原は、砂質地若くは壤土にして、氣候寒冷なるも降雨降雪期共に連續せず、空氣は乾燥し、牧羊上忌むべき荊棘の地なく、疫病は稀にして偶々有るも其範圍狹小にして少しく注意する時は殆んど其害を蒙る憂なし、又猛獸の棲息を見ず、地方により稀に狼の出沒することあるも格別の被害を見ることなく、實に牧羊の好適地である。加之土人は古來遊牧を生業とし牧羊の術に長ず、唯羊毛の採取は牧羊の主目的にあらざるを以て羊毛につき今日迄何等意を用ひざりし迄である。

改良羊種を普及せんとするには先づ彼等の牧羊方法、牧羊採算等の基根的諸事情を明にして、其實情に適合し彼等の牧羊の目的とも合致せしむることを要す、從來是等の點を多く顧ざるは普及の實績が未だ擧らざる所以ではあるまいか、外蒙古の露領接壤地方に於て見るが如く牧羊方法を先づ能ふ限り集約的とするが如きも一例として參考すべき點である。斯て優良種羊の普及が徹底したる曉、現在の飼育頭數を以てしても優に一億五千萬斤の羊毛を産し、支那は羊毛供給上世界的に重要なる役割を演ずる譯である。

次に支那羊毛の取扱ひ其他取引方面に見るに幾多の缺陷が横はり居り、それが支那羊毛の價値を損傷すること鮮少で

を拂ひたるものにして、百萬圓以上の機械設備ある整理工場は十指に餘ると云ふ盛況である。

實に整理業は尾西の毛織物業の發達の礎を奠めたものである。

染色業　染色に於ても整理業に劣らぬ努力精進の結果より效を收め、大正十三年頃よりチーズ染機を据附くる工場あり、爾來單絲の染色研究次第に完成し、尚服地類の發達に伴ひて綿布の加工染色等非常に増加せり。組合は定款により指定染料、禁止染料を制定、染色の改善染法の改良を計り品質の向上につとめつゝあり。

今參考迄に尾西地方に於ける製織採算の一例をメルトン地に就て見るに、

原絲の時價　十二番紡毛絲一封度につき一圓十錢、一圓二十五錢、

仕上げ一碼につき

使用原絲	一・七〇円	製織	〇・二〇円
整理	〇・七〇	諸雜費	〇・二〇
金利	〇・〇三	荷造運賃諸掛	〇・〇五
見本代	〇・〇二	歩引	二%
機屋口錢	二―三%見當	織物問屋	一〇%見當
見本代	二%		

尚此外に

毛絲問屋口錢　一封につき　二―二・二錢見當　仲買口錢　一封に付一錢見當

昭和五年六月十日印刷
昭和五年六月十二日發行

編輯兼發行人　南滿洲鐵道株式會社臨時經濟調査委員會
野中時雄

印刷人　大連市東公園町二十一番地
吾妻力松

印刷所　大連市東公園町二十一番地
滿洲日報社印刷所

發行所　南滿洲鐵道株式會社

ない。夾雜物多く歩留り不定なる事、格付なき事、輸出數量に著しき增減あること等が其尤なるものである。玆に於て

（イ）用途にしつくり適合せる格付を造り、或は羊毛鑑定機關を置き斯界の第一人者を聘して、其檢定せる羊毛に對しては賣買受渡上の保證をなすが如き、又更に根本的に支那羊毛の品質鑑定につき、科學的根據を明にするが如き當然なすべき緊要事である。

（ロ）近年滿鐵方面に出廻る羊毛增加せしが、こは輸送の安全と運賃諸掛りの割安なるに因るものにして、此傾向を更に助長せしめ、輸出數量の安定又羊毛原價の大部分を占むる運賃諸掛の低減に資することを要す。

（ハ）羊毛輸出施設は一部外人が獨占して不當の利得をなしつゝあり實に遺憾である、之に對しては別に適當なる施設をなし、更に羊毛オークションの開設をなすが如きは前揭（イ）の達成と共に當然考慮すべき問題である。

今是等の諸點の實施に當りては緩急あり難易あるべきも、漸を追ふて適當に其實現を期するに於ては、支那羊毛の世界市場に於ける地位は向上し利用の途が更に開かるゝは期して俟つべきである。

我毛織工業は隣邦に產する支那羊毛を專ら外人の手に委し、之を原料として製織し得らるゝ毛織物を每年外國よりの輸入に仰いで居る有樣である。蓋し我斯界が支那羊毛を使用し得る迄に進んで居ない爲である。即ち紡毛絲紡績の諸原料竝に技術に就ての研究、又梳毛絲紡績用として適當なるコミングマシンによる死毛粗毛の除去についての試驗等先づなさなければならぬ處である、又機械織カーペットの如き當然研究すべきである。

之を要するに根本的には改良羊種の普及につき策すると共に、現下の問題としては羊毛の運送及び諸施設、諸取扱ひの完備と相俟つて輸出を有利に導き、世界市場に於ける支那羊毛の地位の向上につとめ、支那を利し我羊毛政策の確立を期することを要す。

正誤表

頁	行	正	誤
目次一三	八	天津の梱包業者及び其設備	天津の梱包業者其設備及び其設備
三	一四	Fat	Hat
一〇	一〇	羊毛の外國輸出	羊毛の外國の輸出
二七	八	大正十三年	大五十三年
四四	八	特性をよく具備	特性をより具備
四八	七	山西直隷の北部	山西直の隷北部
五〇	一	清明節前後にて	清明節前後こにて
六九	四	平行せず	平行せぜ
二四〇	一二	邦人が一般に	(1)邦人は一般に